# 気質と血液型

関係的人間学への試み

現代心理研究会

目黒宏次・目黒澄子

共著

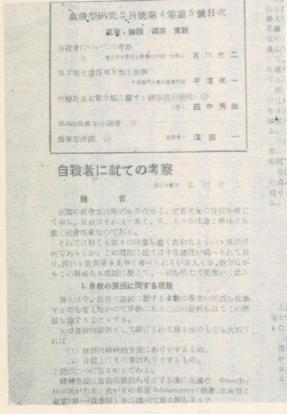
## [電子版]

- □ 本書は、目黒宏次・目黒澄子共著『気質と血液型 関係的人間学への試み』(1970 年7月30日発行、私家版)および添付リーフレット等を電子化し、編者注等を加えたものである。
- □ 本書では戦前の古い文献から多数の引用がなされている。引用箇所の数字その他のデータの正確性を原典にあたって確認することは不可能であったため、不正確なデータが含まれている可能性がある。本電子版を論文等に利用される際は、この点に留意されたい。
- □ 編者:吉田正友
- □ 本電子版のインターネット公開: 2020年11月
- □ 本電子版は編者のサイト「物理の旅の道すがら」<a href="http://naturalscience.world.coocan.jp/">http://naturalscience.world.coocan.jp/</a> に 掲載されている。

#### [口絵写真]



血液型座談会 古川竹二氏(右より二人目) (昭和8年)



血液型研究(目次) (昭和10年2月号)

喜歌劇「血液型」舞台 宝塚少女歌劇

## まえがき

古川竹二教授の「血液型と気質」の知識を戦前から持っていて、戦後私たちの協同研究 に持ち込んだのは、目黒澄子の方である。以来二十年近く、私の家を訪れる客人はもとよ り、御用ききの商人に至るまで、血液型と気質説の餌食にされて、人物研究の素材とされ たのである。あの人は何型らしい。こういう気質だからと、夢中になって話し合ったり、 又どうかすると、三月も半年も血液型と気質が話題にもならず忘れ去られたようになった りしながら、十数年を過した。あの人は何型らしいといった時あたり易い人とそうでない 人、何型らしいと思っても百%あてることはむずかしいということ、何度も何度も失敗し た末に、個人が相手の血液型を想定する場合、一定の法則があるような気がしてきた。つ まりある人がどういう気質をもっているという場合、その人を云々する批評者の血液型が 問題になるということを発見した。それから、私等の血液型は、古川竹二教授の血液型と 気質説から、人間関係学、或いは関係的人間学という学説の理論追究に進み、今日漸く仮 説として発表するところまで達した。発表までには、かなりの間があったので、Rh 胎児、 交通事故、輸血、血液不足に関連して、血液型の知識も一般化され、血液型に関する本も 二、三出た。もしかしたら他の「血液型と気質」が世に出るのではないかと注意もしてい たが、あれほど話題に機敏な週刊誌にも、「血液型と気質説」は、ほんのひとことも出な かった。一方、私たちが話す気質と血液型の理論に興味を持つ友人、学生たちは忘れずに、 そのあとの話を聞かせて下さいといった。こうしたことで多少自信を持ち、印刷に付した いと願ったのであるが、たまたま、出版・印刷会社の経営をしている親友の今井澄夫氏の 援助を得て、私家版として出版の運びになった。同氏に対して厚く謝意を表したい。なお、 研究の途中から、筆者の教え子で国立大学の学生S君が協力者として加わった。その研究 成果も併せて載せた次第である。

目黒 宏次

## 序

今日ほど西欧の合理主義が、科学において成功を示し、社会科学の分野において危機に 類しているときはないであろう。合理主義はその窮極の目標が、人間性の開発を指向して いるにもかかわらず、結果は同じ文化の名のもとに画一化し、かえって人間疎外をまねい たのである。そのたびに人類は新しい模索をつづけ、個我へ、生命の秘密へ肉迫するので ある。血液型と気質の相関の問題もまさにかようなものである。ひとは人と人との対応に おいて、共通の法則によって貫かれるのではないか、化学物質である血液体液が対人間関 係の変化において、どのように適応するのであるか、又その情報をどのようにしてうけと るのであるか、従来の人間行動への社会心理学的なアプローチに対し、一層核心にせまる ものをもっているのではないか、古川学説を継承し、更に大胆な仮説として提出したもの である。

東洋においては、ABO式の各血液型者はほぼ平均して存在し、西欧社会のAO型社会と 異なったアジア社会を形成する。このことも、異常なほどに東洋の問題に関心を向けはじ めた西欧の人々の注目をひくものであることを確信する。

㈱スリーライト社長 今井 澄夫

## 目 次

第一部 歴史編 ― 古川学説の紹介と批判	8
血液型の発見と気質との関連	Ģ
いろいろな気質説	10
古川氏の分類	12
血液型による気質分類	13
偶感・古川竹二	18
学説紹介	21
劣等児の血液型と気質との関係	21
<b>AB</b> 型の気質	24
O型・B型の積極的気質	25
B 型の気質	29
気質調査の動機とその二、三の経験	31
僧侶の血液型について	34
職業と血液型との関係	36
気の合った友人	37
古川学説への批判	4(
古川学説をどう考えるか	47
科学的傍証	51
集団の血液型	59
O型者の多い団体及び民族について	62
A型者の多い団体及び民族について	63
B型者の多い団体及び民族について	65
活動性指数による民族気質	68
第二部 理論編 ― 関係的人間学への試み	71
原論	71
はじめに	71
古川学説を克服して	73
各血液型の相関関係	75
血液型による人間関係の理論	70

各論			
1	. O型 86 2. A型 88	3. B型91	4. AB 型 93
男才	女の組合せに見る血液型気質		
(	①A と O の組合せ		
	イ.O男とA女の組合せ94 ロ	1. A 男と O 女の組合	せ95
(	②B と O の組合せ		
	イ.B男とO女の組合せ96 ロ	1. O 男と B 女の組合	せ97
(	③A と B の組合せ		
	イ.B男とA女の組合せ98 ロ	r. A 男と B 女の組合	せ99
(	④AB と O・A・B の組合せ		
再論			
方剂	法について		
おり	ぼえがき		
保旨	留の状態		
原具	則的な方面		
心된	理学のタームによる考察		
質	から量への転換		
古月	川学説の補遺		
第三	部 対話編		
	一答		
	顔をみただけで、ひとの血液型がわかりまっ		
2	古川学説とのちがいはどこですか		
3	気質と血液型は関係あるものでしょうか		
4	血液型をしらべればお互いの合性がわかりる		
5	職業の選択に血液型は関係がありますか		
6	気質と血液型の知識を得たとしても、どうと		
7	血液型による気質説は運命論になりませんな		
8	あの人は感じがいいといった場合、血液型と		
9	気質と血液型の関連は外国でも知られている		
10	気質と血液型を読めば気質説のエキスパー		
11	でぶとやせは気質と血液型の上でどういう原	虱にとりあつかいまっ	ナか

12	気質と血液型には興味を覚えます。しかし興味がつきてマンネリになるのではない
	でしょうか
13	「気質と血液型」と他の気質説や性格論との関係はどうですか
14	気質と血液型の上から理想像の求め方・与え方はどうですか
15	自分の子供たちに違いがあるのは血液型と関係がありますか
16	気質と血液型は手相・姓名判断と同じく占いの一種ではありませんか
17	文学書を読んでいて作者や登場人物の血液型を考えることがありますか
18	関係的人間学とはなんですか
19	血液型に関連して、職業の適性について触れたものがありますか
20	気質と血液型説はどんな効用がありますか
21	離婚に気質(血液型)は関係しますか
22	子供の気質と血液型の関係はどうですか
23	O型とB型とが合わないというのはどういう根拠からいわれたことですか
24	どんな血液型のひとが友人として適当ですか
25	中国人は何型ですか
26	血液型は変えられませんか
27	病気によってA型の人はかかりやすいとか、O型の人はかかりにくいということが
	ありますか
28	スポーツ選手には0型のひとが多いのですか
29	犯罪と血液型との関係についてデータはありませんか
30	自殺者はA型が多いといわれますが
31	娼妓にはどんな血液型のひとが多かったのですか
32	労働災害と血液型とは関係がありますか
対話	
付録	— 作家の血液型考察 [割愛]
資料	—「気質と血液型」文献抄
[:	奥付・箱・添付リーフレット]
[	著者写真]
[	編者注]
Γ	本書および著者に関するデータ]

## 第一部 歴史編

## 古川学説の紹介と批判



現在中年以上の人ならば、血液型と気質について、多少とも聞き知っているのではなかろうか。

「血液型と気質」このふしぎな関連性をとり上げたのは、東京女子高等師範学校(現在のお茶の水女子大学)教授、古川竹二氏である。

古川学説は、たちまち一世を風靡し、昭和のはじめ頃から昭和十年代まで、医学、教育、 民間に、大きな影響を与えたのである。血液型 A 型の人は秀才であるとか、O 型の人は、 努力型であるとかいうような憶説までふくめて、広く深く浸透したのである。今日でも、 古川学説の「血液型 A 型は、学者や教師に適するタイプである。O 型は軍人、政治家、B 型は実業家に向く」というようなことばを記憶している人は、案外多いのである。

日本における法医学の創始者の一人である、警察科学研究所長古畑種基博士編の『血液型の文献集』 (昭和十年発行)を見ると、多数の研究家が、医学、応用心理学の各方面において、業績を発表しているのである。たとえば、「腋臭 (ワキガ)は O型の人に独占的に多くはないか」高田蒔氏(血液型研究十七号昭和八年二月)、「馬の血液型」清水岩参郎、梶原友市郎氏(陸軍獣医団報二七四号昭和七年四月)、「娼妓の血液型」宮武恒雄、剣持民一郎両氏(皮膚科紀要十六巻四号昭和五年十月)、「犯罪者の血液型」速水寅一、萩章両氏(東京医事新誌二七七九号昭和七年六月)、「工場災害の生物学的研究特に血液型と工場災害並に性向との関係」平松真兵衛氏(労働科学研究九巻五号昭和七年一月)等々、血液型と気質、体質、病的素質とのあいだに関連性があるとする立場から、おびただしい研究が積み重ねられたのであった。

しかし、これほど広く、熱烈に人々の心をとらえた古川学説が、昭和十年を境にして、 学界から抹殺されたのは、どういうわけであろうか。

#### 【古川学説の抹殺】

古川竹二氏は、東大心理学科出身の少壮の学徒であった。かれは、身辺少数の人々の精密な観察を通して、当時ようやく知られるようになっていた血液型と気質との間に、明白な関連ならびに特徴があることを発見した。古川学説の発表はセンセーションをまきおこし、多数の追試者をみたのであるが、反対に、きわめて悪意ある頑冥固陋な学界によって古川学説は、淫祠邪教のたぐいと同列にあつかわれ、ついに学界から抹殺され、血液型と気質の知識も、理論的発展をとめられて、中年以上の人の記憶にわずかに残るというありさまになったのである。

古川氏の悲劇は、わが国の学界の無知と、学問的風土の貧困にあると考えたい。広い意味で明治以来今日にいたるまでの、戦争につきまとう暗い谷間の結果であったといってよかろう。戦後二十余年、戦争の傷あとはまだ本当の回復を見たというところまで行っていない。しかし、少なくとも戦前よりは学問的自由がいくらか保証されるようになったと信ずるがゆえに、われわれは先人が残した独創的な、日本人の創見にかかわる学問的業績を掘りおこすことを義務とも考え、また、先人に対する尊敬とも考えて、抹殺された古川学説を再検討し、再生の手続きを経て、再び心ある人々に提供しようとするのである。

#### 血液型の発見と気質との関連

#### 【血液型の発見】

血液型にいくつかの種類があることは、今日では誰でも知っている。血液型といわれる血液の種類の発見は、今世紀のはじめにさかのぼるもので、ドイツの医師カール・ランドスタイナー氏によるのである。古畑種基氏『血液型の話』(岩波新書)によると、ランドスタイナーは一九〇一年、二二人の健康人の血液を血球と血清とに分けてたがいにまぜあわせたところ、ある血清によって凝集される血球と凝集されない血球とがあることをみつけた。こうしてかれは、自分をも含めて、二二人の血液を、A・B・Cの三群に区別することに成功した。翌一九〇二年にはデカステロとスターリの両人によって、この三群の中のどれにもはいらない別の一群のあることが発見された。それが今日の分類でいう AB型で、これで A・B・O・ABの四型がさだまったのである。ランドスタイナーはこの後一九二七~八年に、その門弟とともに MN 式血液型を発見した。この功績によってかれは、一九三〇年度のノーベル医学生理学賞を与えられた。今日ではさらに数種類の血液型の分類が試みられ、血液学はますます奥深く探究を進められつつある。

#### 【血液型と気質との関連の発見者は日本人】

一方血液型と気質との関係は、古川竹二氏によって、昭和二年心理学研究に発表された ことからはじまるが、じつはそれより早く、「血液型と気質との関係に関心を持ち報告せ られたのは、長野の原来復博士と小林栄の両氏であった。ついで九州大学の高山正雄博士 と深町穂積博士が調査にもとづいて体質に関して論及するところがあった。また、平野林、 矢島登美太軍医らは、軍隊において、兵士の素質、成績、疾病などの関係について詳細に 報告せられ、これらの調査において、B 型兵士に優秀な者が多いことを指摘しておられる。 その後文学士古川竹二氏は気質と血液型を発表するにいたった」(金沢医科大学法医学教 室正木信夫「古川氏による気質型と血液型との関係について」東京医事新誌二八○七号昭 和七年十二月十七日号、原来復・小林栄「血液型の類属的構造について」医事新聞九五四 号大正五年七月、高山正雄「同種血球凝集素について」漸強医学会誌第十一大正十一年五 月、平野林・矢島登美太「人血球凝集反応について」軍医団雑誌第一五七号大正十五年七 月)。以上金沢医大正木信夫氏の一文を紹介したが、もし氏のいうように、血液型と気質 との関連が、すでに早く大正五年 (一九一六年) に注目提唱されたものとすれば、一九〇 一年ランドスタイナー氏の血液型発見から十五年、日本人学者によって、その応用面に関 心がもたれたことになる。このような、日本人の応用面への関心の蓄積があって、昭和二 年古川竹二氏の、「血液型と気質」学説の発表となるのである。

### いろいろな気質説

#### 【ヒポクラテスの分類】

古川氏の「血液型と気質」説の学問的根拠は、体液説ということになろう。古川氏自身は一言もそのことにふれていないけれども。体液説は最も古い学説で、ギリシアまでさかのぼる。ヒポクラテスによって代表されるギリシア医学は、次のようにいう。「人間の身体はその内部に血液と粘液と、黄および黒の胆汁をもっている。これらが人体の自然性であり、これらによって病苦を病みもし健康を得もする。いちばん健康を得るのは、これら相互の混合の割合と性能と量が調和を得、混合が十分であるばあいである」(ヒポクラテス『古い医術について』、岩波文庫)。体液の混合の度合によって、気質は決定されるとする。すなわち陽気な多血質、短気な黄胆汁質、陰気な黒胆汁質、鈍感な粘液質の四種の気質が、ギリシア以来今日まで、古典的な気質の分類として、一般に使用されてきたのである。

しかし、今日最も有力な気質の分類は、精神医学の分類を基礎にしたデルマ (A. Delma) およびボル (M. Boll) の分類、クレッチマーの分類、およびクレッチマーに類似している

が、ふつうの人間の統計から決定したシェルドン (W. H. Sheldon) の分類である。[Delma と Boll はフランスの性格心理学研究者。これらの人名の綴りの正否は確認できなかった。——編者]

#### 【デルマとボルの分類】

デルマとボルによると、先天的体質に関係のある精神病には<偏執病>(パラノイア)、 <道徳病>、<空話病>(ヒステリー)、<躁欝病>、<情動病>(精神衰弱、日本でい う<神経質>)の五種があるが、これに応じて五種の気質(かれは体質と呼ぶ)がある。 すなわち傲慢で欲ばりで自己中心的で他人を疑いやすく、また誇大的な<偏執体質>、反 社会的な行動をする<倒錯体質>、ウソをつき作り話をいう<空話体質>、活動的な時期 と不活動な時期の交代する<循環体質>、つまらないことに興奮しやすい神経質的な<情 動体質>である。

#### 【クレッチマーの分類】

クレッチマーは、内因性精神病である精神分裂病と躁欝病をもとにして、正常人の気質を分類し、これを<分裂質>、<躁欝質>とよんだが、その後テンカンについても、同じ考えを適用した。精神分裂病の病前にはとくべつの気質があること、この気質は精神分裂病者の家系のうちにもみられること、精神分裂病の示す特質はこの気質を拡大し誇張したと考えられることから結論されたものであって、躁欝病についてもテンカンについても大体同様のことが考えられるというのである。<分裂質>は内気で非社交的で、感情が過敏であるとともに鈍感、<躁欝質>は社交的であるいは快活であり、あるいは憂欝になる。<テンカン質>(粘液質)はきちょうめんで固く精神的テンポはのろいがときには爆発的な反応を示す。なおクレッチマーはこれらの気質と体型の間の関係を指摘した。分裂質、分裂病質、分裂病の者には<やせ型>(細長型・無気力型)が、躁欝質、躁欝病質、躁欝病の者には<肥り型>が、粘液質やテンカンの者には<筋骨型>が多いというのである。もちろんその傾向があるというだけである。

#### 【シェルドンの分類】

シェルドンは、生活をたのしみ社交的な<内臓(緊張)型>、積極的で大胆な<体組織(緊張)型>、非社交的で生理的に過敏な<脳(緊張)型>に気質をわけ、これらがそれぞれ内臓の発達している<内胚葉型>、筋骨の発育している<中胚葉型>、皮膚と神経のとくにすぐれている<外胚葉型>という体型に対応するものとみなした。」(岩波小辞典・心理学、宮城音弥編)。 以上の紹介によって知られるように、今日の代表的な気質説とされるクレッチマーおよびボルなどの分類は、精神病者の観察によって得られたものであっ

て、なぜそうであり、そうでなければならないのか、また、われわれはどの型にあてはまるのかなど、気質についての研究は、まだ一般化されるまでにいたっていないように思われる。これに反して、古川氏の気質の分類は、たとえ若干の問題はあっても、まさにどんぴしゃりであって、ヒポクラテスの四液説と同様に古典的な位置をもつものと確信するのである。

古川氏は心理学者として、「吾人はこの数年来気質の根拠を、今世紀における画期的発見の一つである人の血液型に求め、ほとんどあらゆる階級・年令の人々二千数百名につきできるかぎりの注意をもって調査研究を行なった結果、両者のあいだにきわめて密接な関係の存在することを知り得た」と報告している(血液型と気質・昭和七年)。

### 古川氏の分類

意志と感情の優劣を基礎とする分類

意志型	O型			
感情型	A型	B 型	AB 型	

#### クレッチマー氏の気質との比較

乖離気質	A型
躁欝気質	B型
両者の混合	AB 型

#### 活動性を基礎とする分類

能動型	O型	B型
受動型	A型	AB 型

#### ユンク氏の気質分類との比較

内向性	A型	AB 型
外向性	B型	O型

#### ディルタイ氏の分類との比較

感覚人	B型
英雄人	O型
思省人	A型

#### ヴント氏の気質分類との比較

粘液質	反応が弱くておそいもの	O型
胆汁質	反応が強くて早いもの	?
多血質	反応は弱いが早いもの	B型
憂欝質	反応は強いがおそいもの	A 型

## 血液型による気質分類

## 【O型の長所短所(古川説)】

## Ο型の長所

1	自信力が強いこと
2	意志強固であること
3	物に動じないこと
4	理知的で感情をおさえることが出来ること
5	精神力が旺盛なこと
6	決心の後迷わないこと
7	押しが強いこと

## Ο型の短所

1	強情頑固になりやすいこと
2	融和性に乏しいこと
3	謙譲心に乏しいこと
4	理知的で感情に動かされることが少ない結果、物事に対して
	冷静となり冷淡になりやすいこと
5	個人主義に傾きやすいこと

## 【A型の長所短所(古川説)】

### A型の長所

1	温順従順であること
2	事を行なうのに慎重細心であること
3	謙譲であること
4	反省的であること
5	感情的であること
6	同情心に富んでいること
7	犠牲心に富み融和的であること
8	しんみりしていること

## A型の短所

1	心配性であること
2	感情に動かされやすいこと
3	意志が強固でないこと
4	決断力に乏しいこと
5	自分をまげやすいこと
6	孤独で非社交的であること
7	内気で悲観的なこと
8	恥ずかしがりなこと

## 【B型の長所短所(古川説)】

## B 型の長所

1	淡白なこと
2	快活なこと
3	活動的であること
4	刺激に応じることが速いこと(敏感)
5	思い切りがよいこと
6	社交的で親切なこと
7	楽天的であること
8	にぎやかなこと

## B 型の短所

1	移り気なこと、あきっぽいこと
2	執着心が少ないこと
3	放胆で慎重さに欠けること
4	事をなすのに派手である結果、事実を誇張しやすいこと
5	事に当り動揺し、意志強固でないこと
6	多弁であること
7	出すぎること

#### 【AB型の長所短所(古川説)】

AB型(古川氏の説明を、便宜的に箇条書にしたものである)

#### AB 型の長所

1	感のはたらきが強く、よく気がつく
2	親切ていねいで融和的である
3	同情心に厚く、犠牲心に富んでいる
4	常に自己を反省する

#### AB 型の短所

1	AとBの気質がはたらくため、気分がむらである
2	家庭で小言が多い
3	心の中で煩悶する人が多い
4	短気で怒りやすい

#### 【気質の共通点と相違点】

- (一) O型者とB型者とは、活動様式が類似し、感情と意志との強弱はほとんど相反する。
- (二) O型者とA型者とは、活動様式も感情および意志も、ほとんど相反する。
- (三) A 型者と B 型者とは、活動様式がほとんど相反し、感情方面では相通ずる。
- (四) O型者、A(O)型者およびB(O)型者の三者は、意志の方面で相通ずる点がある。
- (五) AB 型者は、その活動様式において相反する A 型者と B 型者との混合型であるため、 気質の判断が外面上からは困難である。しかしこの両者には、感情方面で共通点があ るのでこの傾向はあきらかにうかがわれる。

以上の表示では、充分ではないので、古川氏およびその支持者、協力者たちの研究成果を紹介しながら、血液型と気質の深い関係に照明を当ててみたいと思う。

#### 【気質は非常に親しいものでなければわからない】

前にもふれたように、古川氏は、なぜ A 型者が消極的であるか、O 型者はなぜ自信力が強いのかということは説明していない。そこで、古川氏がどのようにして、血液型と気質に迫って行ったかをみてみよう。

「私があげました案(前記表)をもって批評する、すなわち、それをやってみたところが、どうしても血液型と合わなかった、そういう批評があります。私がこういうものを作りました事情は、気質というものは非常に親しいものでなければわかりませぬ。

家族、自分の子供、友人の持っております気質をぬき出して、それからこれを作りましたのであります。それで、それを当てはめる場合でも、親しいものに当てはめて、その人も本当にこれだと言っておるし、実際そうだということがこっちにもわかる。そういう親しい気質のわかったものに当てはめて血液型と気質を調べてみることが必要であります。知らない人にいくらやっても、本当かどうかわかりませぬ。よく知った人に当てはめてみるよりほかはない。答をします場合には、虚心坦懐に利害関係を離れて答えなければならぬ。また虚心垣懐だけではわからない。こっちもそう思っていたというように、両者一致したのを、血液型と気質を調べて親しい人で実験してもらいたい。親しくない人で実験してもらった場合に合わないといわれますのはこっちでは困る。非常に親しい人でやってもらいたい。そういう希望を持っているのであります。これは、いろんな事情で答える傾向が変ってくるからであります。騎兵にききますと A 型ということを自分で言うことを好まないようです。」(血液型研究昭和八年通巻二一号 「血液型と気質問題に対する諸家の批評に対して」)

#### 【西欧人と日本人の考え方/西欧人分析的/日本人直観的総合的】

気質の判定に当っては、慎重に、複数の判定者によって、親しい人だけで実験してもらいたいといっている。さらに、前記表の利用について、古川氏はこまかい注意をのべておられる。

「先刻申しましたように、気質的特徴をいいあらわした断片を五、六○もあげて、それにハイ・イイエを答えさせて、その数をとってどっちが多いかを見る。その問題をこしらえるには、内向外向説がもとになっている。内向的のことをあらわした気質の断片と、外向的の気質をあらわした断片を、半分半分にして、そのハイ・イイエを言わせる。そうしてこれを五、六○もあげる。これは今はやっておりますが、外国の学者がはじめたのを、そのままとって日本でも改良してやっている方があります。ところが、これで人の気質がわかるのであろうかということを、皆様お考えになって頂きたいと思いますが、こういうことを考えだしたのは西洋人であります。西洋人はものを分析的に見るふうがあります。なんでも物を分析します。ですから一々問題をあげて、ハイ・イイエをいわせる。ところが、西洋人の考え方と日本人の考え方とはちがっております。例を申しますとすぐお気づきと思いますが、日本人は物を全体として引っくるめて観察するふうがあります。あるいは人を見ます時に、たとえばこう言います。善とか悪とかいう。あの人はいい人だとか、困った人だとかいう。孟子は人の性は善なりといい、荀子は人の性は悪なりといいました。よく善とか悪とかいってし

まう。西洋人は一つ一つを数え上げます。日本人は、あの人はじつにいい人だといっ て、どんなにいい人かという内容はいわない。困った人だといっても、充分に内容は あげない。その内容は相手の人に直覚させるようにする。そういうように直覚的に総 合的に日本人は見る。それだから、われわれとしては、総合的に直覚的に見るように 問いを与えた方が考えやすいのであります。総合的に見るようにしてもらった方が気 質の判断がしやすい。そこで私はそういうことを考えて、気質的特徴を一々あげては おりますけれども、これは、数え上げた一々を考えさせるんでなく、全体に通じたも のとして、横に貫いたこういうような人として考えさせるのが一番わかりやすいと思 って、そういうふうにこしらえましたのであります。それで、一つ一つでなく全体と しての意味が出ておる。そういうわけでありますから、西洋人の案のごとく、あの人 は内向の答がいくらで外向の答がいくらである、内向の方が多いから内向型の人だ、 というのではなくて、全体としてこういうふうな人というように見たのであります。 それゆえ、西洋式のものでやりました結果を私の案のものに当てはめて見ることは、 まちがっている。第一成立がちがっているのですから、ちがったもの同士を比べると いうことになります。これとかれとは別物なのであります。それで、これによって得 た結果をかれに当てはめて見るから、どうも合わない。合わないのも道理、これは比 べるのがまちがっているのであります。実際われわれは、引っ込思案であるかどうか、 あるいは陽気かどうか、そんな一つずつの質問を与えられた時に、自分はどっちだろ うかと迷うことが多いのであります。ところが、陽気な人が持っている箇条をいくら でもあげて、また陰気な人のもっているものをいくらでもあげて、あなたはこっちで すかどっちですかという方がわかりやすい。こういうようにしないと判断が困難であ ると私は信じております。沢山の人につき当ってみて、とくに日本人に対してはそう いうようにする必要があると思うのであります。」(前掲書。傍点筆者) [原文傍点を 下線に変更――編者]

古川氏のいう血液と気質は、どのような関連のもとに、ちがった気質を発生させるかという点が依然として不明であるにしても、非常にこまかい配慮でもって、気質表を作成していることが想像される。ヨーロッパ人の分析的方法ではなく、直観的総合的把握を指向しておられる。このような方法の問題、理論の問題については、筆者の立論の段階であきらかにする予定なので、ここには割愛するが、昭和十年ごろ、古川学説が学界から抹殺されようとする最後の時期(やがて雑誌血液型研究も廃刊になるのである)に、古川氏の支持者の一人である東北帝大心理学出身の新進学徒田中秀雄氏が話している座談をみてみよう。

#### 【気質研究のマンネリズム】

「じつのことを申せば、私自身、この研究方法に行きづまりを痛感しました。ただ 一枚の質問用紙での自己診断ないし他者観察なりで、一個人の気質を判定することの 困難は今さら喋々するまでもありません。かかる研究方法のみによる限り、この問題 は永久に水かけ論に終始すると考えます。ではどうしたらよろしいか、私は、もっともっと古川先生の気質分類の特徴を、正確に記述することではないかと思うのです。

ありていに申しますれば、先生の学説をその著述から推察した場合と、実際に先生にお目にかかって、親しくお話をうかがった時とでは、かなり気質特徴がくいちがってきました。B型、O型気質において、とくにそうでした。これは、先生が教育者でおいでになるので、いろんな意味で気質の記述に遠慮なされ、そのために先生の分類特徴が、昔ながらの多血質とか粘液質とかの分類に似てしまい、一般の誤解を生むのではないでしょうか、私は先生が、先生のお考えになる特徴をありていにもっとこまかく記述された方がよいと思います。

岩波から『いきの構造』という本が出ております。九鬼周造さんがいわゆる「粋」 (いき)ということを解釈学的に取扱って、微にいり細にわたって記述してあります。 人間の気質の類例も、このぐらいこまかくいろいろの位相において、観察記述したら と思いました。私もそれ以後、一生懸命、小説を読みはじめました。性格方面より登場人物を考えてみ、いろいろの類型をつくり上げてみ、しかるのちそれを古川先生の血液型による分類と結びつけてみたいと考えております。」 (血液型研究昭和十年二月一日二月号通巻四一号)

血液型と気質の古川学説を信じない人はいうまでもなく、支持者にもあつい壁を感じさせた気質表に対して、もっとこまかい説明がほしかったとのべておられるが、古川氏の記述のなかに、ややそれに近いものがあるので、引用してみたい。

#### 「偶感」 東京女高師 古川竹二

#### 「西郷隆盛の気質

その人物においておそらくは空前絶後といわれている西郷南洲翁の血液型は何型であったろうか、というのは、気質と血液型との関係問題に興味と理解とを有している人々、とくに青年将校などがよく発せられる疑問である。南洲翁については、われわれがとくに敬慕している一人であり、翁に関する伝記随筆の類は大てい渉猟しているつもりであるが、翁の気質の一面をよくうかがうことが出来るつもりであるが、翁の

気質の一面を最もよくうかがうことが出来ると思われる資料の一つは、その遺訓集— 一弟子らにより集められた——の言葉であろう。

小説家はその作品中の人物のうち、自己と同じ類型の人を描写する場合に最も真に 迫るといわれている。従って読者もまた、該作家と同じ類型の人である場合、作中の その人物の言動に深い理解をし――好き嫌いでなく――感じることは、多くの人々の 経験するところである。以上の経験をもととして、南洲翁の血液型を推測して、われ われには、翁は偉大な A 型の人ではなかったろうかという気がする。というのは、翁 が弟子たちに話された言葉に、「あやまちを改むるには、みずからあやまてりと思わばそれにてよし。その事をば棄ててかえりみずして、ただちに一歩踏み出すべし。あ やまちを悔い、取りつくろわんとして心を苦しむるは、たとえば、茶碗を割り、その 破片を合わせ見るも同然にして詮なきなり。」「事に当り思慮の乏しきを憂うること なかれ。およそ思慮は、平常黙座静思の際においてすべし。有事の時にいたり、十に 八、九は履行せられるものなり。」

上のような訓言があるが、これらは A 型気質の人にとくに感銘を与えるところのものである。このように思いやりの深い優しい人情の機微をとらえた教えは、おそらく A 型的気質の人でなくては、思いつかないのではあるまいかと考える。南洲翁がただ偉大一方の人であり、したがってそういう人にありがちの粗雑な心の人であったならば、上のようなこまやかな感情は持たなかったであろう。自己の気質の短所に対する修養工夫が、翁をして上のような教えをなさしめたものではないかとわれわれには考えられる。もし翁が、大久保、伊藤のように意志が鉄のような人であったならば… あの威厳をもってして、征韓論に破れることはなかったのではあるまいか。しかたがないと思いあきらめて、郷里にしりぞいてしまわれたところに、われわれ A 型には充分共鳴が感じられる。(註、古川竹二は A 型)

#### 児玉源太郎の血液型

日露戦争を知っているわれわれが、深い信頼と畏敬の念で対したあの児玉源太郎大将は、B型の人ではなかったろうか。ある書物によれば、総司令官大山元帥の茫漠に対して児玉大将は、全身が神経そのものかと思われるほど敏感な人であったという。われわれの経験によれば、B型の人は一般に考えるよりも感じるという人が多いようである。後藤新平伯の述懐によれば、将軍は、事を報告するのに半分いえば、あとはわかってしまったということであり、また、長々しく報告などをしていると、結論からさきにいえと叱られるのが常であったという。慧敏無比のB型の人ではなかったかと思われる。

#### 秀吉の血液型

小学生たちの一番好きな英雄秀吉は何型の人であったろうかを考えてみる。秀吉は 快男子であったことは、だれでも認めるであろう。しかしまた一方面には、涙もろい 優しい一面があったことは、史家の伝えるところである。一説によれば朝鮮戦役を起 こしたのは、愛児の死に会い、悲嘆やるかたなく、その悲しみを慰めるためであった ともいう。 (藤岡作太郎国文学史) また、次のような事実も伝えられている。小田原 陣の時、秀吉の本陣で能を催していた。軍勢はその前を通る時、みな下馬して通る、 時に浮田秀家の家来花房助兵衛は馬で通ったのに下馬もせず、かぶともぬがずのさの さと通る。番人がみつけてとがめたのに、大声で「戦場にて能をして遊ぶような馬鹿 大将に下馬すべきか」と言いながら秀吉の方に向かって、つばをはいて通った。秀吉 は大いに怒り、秀家を呼び、しばり首にせよという。秀家がかしこまって退出し、一 丁ばかり行った時、秀吉は考えなおして秀家を呼びかえし、一旦の怒りでしばり首と は言ったけれども、剛直の士をそうもなるまい、切腹させよ、という。秀家がかしこ まって座を立ち、一、二丁も行った時、秀吉はまた案じなおして秀家を呼びかえし、 今天下に、我に向かってこのような大言をする者はほかにあるとも思えない、大剛の 士である。かかる士を殺すのは惜しいことである。助けて加増して使えといった。(菊 池寛読物選集四一六ページ)

以上のことから推察するに、秀吉は豪快な気質の反面に、反省的なまた感傷的なところもかなり持っていたと見ることができるようである。そう考えることが正しいならば、秀吉は、われわれが外面は B 型的で内面は A 型的な人々が多いとした AB 型の人ではなかったろうか。上杉謙信もまた AB である。(犯罪学雑誌二九巻二号昭和二十八年 [ママ] 四月)

このことはまた、遺伝の方からも考えられるようである。すなわちその子秀頼は温和な人物であって、勇猛豪気といったような人ではなかったらしいので、大体においてA型と見てよろしかろう。次に淀君については、乱脈の大阪城を一手にきりまわしたところから推して、おそらく O型の人ではなかったろうか。」(血液型研究一三号昭和七年十月)

### 学説紹介

次に、古川氏が血液型と気質の説を発表すると、たちまち一大センセーションをまきおこし、学界をにぎわすことになったが、研究者約三〇〇、論文約四〇〇のうちから、数編、支持者の分を紹介してみたい。

#### 【劣等児の血液型と気質との関係】

児童とくに、特殊児童は、典型的に気質を発現するものである。ここに血液型と気質に 関係づけたその研究事例をとりあげてみよう。

「いわゆる劣等児における血液型と気質との関係について」

岩手医学専門学校教授医学博士三宅徳三郎 助手橋本敏雄

「盛岡市仁王小学校において、いわゆる劣等児として特殊教育を施しているものについて調査したもので、これらの児童はクレペリンの精神発育制止症の分類に従えば、 病愚 (Imbezillität) ならびに愚鈍 (Debilität) に属するもので、白痴 (Idiotie) とみられるものは就学不能の関係上一名もなかった。その特殊学級人員二一名中二〇名について血液検査を行ない、そのうち知能指数により、精神発育制止症に属さないもの二名を除き一八名について、協同調査を行なったものである。この数は、全生徒一五九八名に対して一・一三%にあたり、その内男生徒は十一名で全男生徒の一・三一%、 女生徒は七名で全女生徒の〇・九二%にあたる。その血液型検査の結果は

O型 八名

A型 四名

B型 六名

**AB**型 ○名 である。 (中略)

その知能指数は、ビネー・シモン氏法の変法である鈴木治太郎氏 「テスト」によれば、最高 85、最低 45、平均 74.7 を示し、一八名中劣等児に属するものが十名、低能児に属するものは八名を数えている。

さらに各個人の気質と血液型との関係を調査する方法としては、便宜上古川氏の「各 血液型本来の気質の長所短所」という表を用いた。

そしてこの表と各個人の気質とが、どの程度まで合致するかを知るため、長期にわたってその日常生活を充分観察しておられる受持訓導佐藤哲郎氏にお願いして、各個人の長所短所が、前表の所属血液型のどの項目に該当するかを調査した。これらの被

験者においては、各個人の内省法によってその気質を知ることは不可能であるため、 最も公正な観察者として佐藤氏を煩わしたわけである。その結果を表示すれば次の通 りである。(註 長所短所の数字は古川氏の気質表「13~15 頁」の番号による)

#### O型

- a 男 12 才 知能 45 遅鈍であるが軽噪、移り気、幼稚。短所 3、5
- b 男 8 才 知能 84 とりたててなし。長所 2、短所 3、5
- c 女 12 才 知能 70 無気力、孤立的。短所 2、5
- d 女 9 才 知能 77 無気力、軽噪、不注意。 短所 1、2、3、5
- e 女 9 才 知能 84 無気力、意地悪、利己的。長所 1、短所 1、2、3、5
- f 女 10 才 知能 80 無気力、意地悪、軽噪。長所 1、短所 1、2、3、5
- g 男 10 才 知能 80 闘争的、強情、怠惰。短所 1、2、3、5
- h女11才 知能68 闘争的、不規律、意地悪、軽噪。短所1、2、3、5

#### A 型

- a 女 8 才 知能 71 不注意。長所 1、3、7、短所 1、3、4、5、6、7、8
- b 女 13 才 知能 82 取立ててなし。長所 1、3、7、短所 1、3、4、5、6、7、8
- c 男 10 才 知能 82 無気力、移り気。長所 1、3、7、短所 2、3、4、5、8
- d 女 10 才 知能 75 不規律、不注意、無気力、軽噪。長所 7、短所 2、3、4、5 B 型
  - a 男 11 才 知能 62 遅鈍、無気力、不注意。長所 1、短所 1、2、3、5
  - b 男 8 才 知能 75 怠惰、不規律。長所 2、7、短所 1、2、3、5
  - c 男 10 才 知能 66 無気力。長所 1、7、短所 1、2、5
  - d 男 9 才 知能 85 無気力。長所 1、2、7、短所 1、2、3、5、6
  - e 男 9 才 知能 77 無気力、移り気、憶病。長所 1、4、短所 1、2、3、6
  - f 男 9 才 知能 81 無気力。長所 1、2、3、7、短所 1、2、3、5、6、7

そして各個人の一般共通の気質として、軽噪、無気力であり、気移りがしやすく、 ものごとに対して不注意になりがちな傾向がある。また、趣味嗜好としては見るべき ものがなく、これは年齢にもよるであろうが、これら劣等児においては、そういう能 力の発生が比較的おそく、発育もまたわずかであるためであろう。

さらに、古川氏の気質表と比較するに、ほとんどすべての例において、その短所としてあげられる点に一致するものが多く、すなわち O 型者において最も広く共通する性質は個人主義に傾きやすい点すなわち利己的なる点で、全般にわたってそれが認められ、謙譲心に乏しいものは七名、融和性に乏しいもの六名、強情、頑固な性質を持つもの五名を数えているが、長所としてあげるべきものはほとんどない。しいて認め

られるものは、自信が強いもの二名、意志強固なもの一名をみるだけである。

A 型者においては、長所としては温和従順なもの三名、融和的なものは全部に見られ、謙譲心に富むもの三名であるが、同情心、犠牲心は全くみとめられない。すなわちこれらの長所も意志薄弱であるためであって、あるいは短所として見るべきものとも考えられる。短所として一致する点は、意思強固でないもの、決断力に乏しい性質、おのれをまげやすい点で、これは全部にみとめられ、恥しがりなもの三名、心配性なもの、孤独で非社交的なものならびに内気なものは、それぞれ二名である。

B 型者においては、長所としてみとめるべき点として、淡白なもの五名、快活らいらくなもの、楽天的なものそれぞれ三名、活動的なもの、刺激に応じることが速いものそれぞれ一名であり、短所としては移り気なこと、執着心の少ない点が全数にみとめられ、放胆にして慎重でないもの、事にあたって動揺しやすく意志強固でないものが二名、多弁なもの三名、出すぎるもの一名を示している。

以上を総括してみるに、O 型者は利己的で謙譲心、融和性に乏しく、強情頑固であり、A 型者は温和従順、融和性に富むも意志薄弱、決断力に乏しく、恥しがりである。また、B 型者は、淡白なるも移り気で執着心がなく、慎重さを欠き意志も強固でないという性質が共通しているものをみる。すなわち、いわゆる劣等児においては、長所よりも短所において共通するものが多いことを知る。そしてこれは、各個人の気質を、その示す血液型に特有な古川氏の気質表と比較した場合であって、むろんこの場合でも、他型と共通する性質を示すものも少なくない。わずらわしいので、とくにそれを列挙することは避けるが、たとえば B 型者に共通な移り気で執着心のない性質はほとんど全員にみられ、とくに A 型者においては相当の度合までみとめられるけれども、B 型者においてはその気質が一層明瞭で強度なるものがある。その他においても共通するものが多く、中でも A 型者と B 型者間においてそれがいちじるしい。しかしながら精細に調査すれば、これら被験者においても、A 型者は消極的であり、B 型者の積極的な点は充分みとめられる。以上のほか、比較的明瞭にその特異性を示すものは O 型者であって、強情頑固、他と争う傾向は、他型者にくらべてとくに強くあらわれている。

#### 結論

被験者数わずか一八名であるからして、今日確定的な結論をくだすことははばかるが、われわれは次のような諸項を主張するものである。

- (1) いわゆる劣等児においては、血液型から見た気質の長所は、個人の性質としてあらわれることが少なく、短所に属するものだけいちじるしくあらわれる。
  - (2) かれらにおいては、当然個人の長所となるべき性質も、反対に短所におちい

る傾向を認める。

(3) いわゆる劣等児の特殊教育においても、まず血液型により、先天的に存在する気質の長所を知ってとくに啓発するときは、意外の結果をもたらすことになるであるう。」(血液型研究十五巻昭和七年十二月一日)

私たちも、特殊学級および精薄児施設において実験を試みる予定であるが、このようなすぐれた業績が、生まれ、かつ、埋もれ去っていたという事実は、おどろくべきことである。とくに、AとBの共通点というような、注目すべき視点をも提供しているのである。

#### 【AB 型の気質】

次に、AB 型気質についてふれてみたい。AB 型気質については事例が少ないので、貴重なものである。

「血液型漫談」 医学博士 浅田 一

「血液型気質論に反対する人がよくいうのは、自分の血液型が Q 型だといわれると Q 型のようでもあり、A 型だといわれると A 型のようにも思えるというような人が多い から、はじめに血液型を言って聞かせるのははなはだ危険だという点である。しかし これらの人たちは内省力の鈍い人である。自省力の強い人では、けっして血液型を聞 かされたからといって、自分の気質に対する信念は動かされるものでない。ある時 I 氏から、唾液のついた紙片が送られてきた。検査してみると B 型であった。その旨通 知すると、どうも自分は B 型とは思えない、むしろ A 型と一致する。執着心のつよい こと、連想のおそいこと、非社交的であること、尻の重いこと、思索的哲学的である こと、数学を好むことなど、A 型式である。しかし兄弟はすべて B 型の傾向を示し、 大体楽天家ぞろいである。父は非常に苦労性で、A 型式で、神経質粘液質であり、母 は楽天家でB型かO型かと思われる。というようなことで、ご自分のB型であること に不服であった。なおこの人の自省されたところを伺うと、小学校時代から専門学校 時代にかけて、人前で話をすること、お使いに行ってかれこれと伝えることなど非常 にきらいであった。成績はほとんど首席で通した。情的には冷静の方で、熱狂するこ とはほとんどない。これは一方すべての事に冷淡で、ことに利己的な悪傾向さえ出て くる。内心は小心翼々でありながら、表面は意地を張り、頑固に、我を通すのが特徴 である。意志はきわめて強固で、ものごとに直ちにとびつかぬ代りに、一旦やりはじ めると徹底的にやりとげねば止めない。熟慮断行、不断の努力、といったような言葉

が座右の銘になっている。具体的な例として、過去十五年間日誌を一日も欠かしたこ とがない。勤務先も十二年間一日のごとく変らない。とにかく根気がよい。ものごと はあきらめにくい方であったが、あきらめないことによって心配の仕甲斐があるかど うかを考え、仕甲斐なしと考えると断然あきらめることに努力した結果、現今ではあ きらめのよい方に転向している。人の説には容易に動かされない。充分熟慮して自分 の信念と一致しない時は、これを捨てるかあるいは研究するというたちである。人の 評判は内心では相当気にかけつつ、表面は何のそのといった調子で、容易に他人に頭 を下げない。一旦決定してからしまったと思うことが時々ある。機転はきかない方、 細心で滅多に落度はしでかさない。きわめてきちょうめんで何事も組織的、計画的、 統一統制があるようにしないと気にいらぬ。どうにかなろう、できるところまで、と いった態度は排斥する。計画にもとづいて安心して一定の過程を辿るという行き方で ある。全然人前をつくろわぬでもないがどちらかといえば、ことさらにありのままを 見せておきながら、一種の淋しさや恥しさを感じる場合が少なくない。つじつまを合 わせることはきわめて不得意である。正真正銘謹直一本槍で、ありのままでも間違い ではないぞといったふうを好む。出しゃばらず出来ることならさし控えていたい。人 の世話を好まない。公共的なことより自分自身のことを重く見る。この点では名誉欲 が少ない。一般に不器用で無口で無愛想である。心で思っていてもお上手に聞こえる から止めようというふうで、あえて無愛想をすることがある。

こんなふうであるから、偶然指から出血したといって送られた紙上の血痕から調べると AB 型であった。その後さらに唾液をもう一度送ってもらって検査すると、やはり AB 型であった。一番はじめに送られた唾液は火で乾燥されたのだそうだ。とにかく AB 型であったので I 氏は非常に満足され、それならキッカリ自分の性質に合うと言ってよこされた。このように自己反省のよく出来る人は、たとえ血液型を告げても、それに動かされることはない。この人は AB 型とはいえ A 型式気質の勝った人である。もっとも AB 型には一般に A 型的気質が強くあらわれていることが多いものである。」(血液型研究第三二号昭和九年一月)

#### 【O型・B型の積極的気質】

次に、O型、B型の積極的気質の例について、下関市田中医院田中研一氏の報告があるので、それをのせよう。

「私は去る七月、ある小学校の職業指導上の参考の目的をもって、血液型検査の依頼 を受け、採血により検査を施行いたしました。この際、血液型と気質との関係につき、 興味のある一、二の事項を報告したいと思います。

最初に検査したのは、高等二学年男子生徒全部ですが、検査の前に受持教師から血液型に関する講話があって、検査希望者を募集したところ、九〇名中十一名を得ました。この第一希望者を第一日に、さらに第二希望者五〇名を第二日に、残り二九名を第三日に検査いたしました。その成績は次表の通りであります。

#### 第一表 男子生徒全部

O型27名	A型38名	B型20名	AB 型 5 名	計 90 名	$\frac{A}{-}=1.02$
30%	42.2%	22.2%	5.6%	100%	$\frac{-1.02}{P}$

#### 第二表 第一希望者

O型6名	A型2名	B型3名	AB型0名	計11名	$\frac{A}{-}$ =4.50
54.5%	18.2%	27.3%	0%	100%	$\frac{-}{P}$ =4.30

#### 第三表 第二希望者

O型12名	A型24名	B型10名	AB 型 4 名	計 50 名	A _0.78
24.0%	48.0%	20.0%	8.0%	100%	$\frac{-}{P} = 0.78$

#### 第四表 残全部

O型9名	A型12名	B型7名	AB型1名	計 29 名	$\frac{A}{-} = 1.23$
31.0%	41.4%	24.1%	35%	100%	$\frac{-}{P}$ =1.23

[表中の $\frac{A}{P}$ は「団体活動性指数」。「集団の血液型」(59 頁)を参照のこと――編者]

右の第二表すなわち第一希望者には O 型者がいちじるしく多数を占め五四・五%で、B 型者もまた多数二七・三%であるのに反して、A 型者は全学年平均において四二・二%の多数であるのにわずか一八・二%の希望者があるにすぎず、AB 型には皆無の状態である。これは古川氏がとなえられた O および B 型が積極的で精神力旺盛なるに反して、A および AB 型が消極的憶病である事実を物語っている。

第三表すなわち第二希望者においては、第二表と正反対の事実をあらわしている。 これは A および AB 型が第一希望者の勇気に促された結果か、または、教師や友人に 臆病であると見なされるのを恥じた結果か、大勢順応主義の結果かであるにちがいな く、これもよく A 型 AB 型の心情を示していると思う。O 型および B 型が減じている のは、A型および AB型の増加の結果であろうし、O型がいちじるしく減じているのは、自分のいやなことはどこまでも行なわないという頑固性を発揮した結果とも考えられる。第四表すなわち残全部の検査においては、各型ほとんど全体の平均%に近似するも、詳細に観察するときは、第二表の成績に反し矛盾しているようであるが、前述のように A および ABの正直性、O および B の不良方面の特性の反映と察し得るのであります。

#### 教師の血液型

次にこの検査のついでに、全校教師(欠勤中の数名を除き)三五名の検査成績は次表の通りである。

	0	A	В	AB	計	$\frac{A}{P}$
男子教員	4	11	5	4	24	0.60
女子教員	6	2	3	0	11	4.50
合 計	10	13	8	4	35	1.05
パーセント	22.6	37.1	22.9	11.4	100	

男教員は A 型者が多く、女教員に B 型 O 型が多いことは、すでに多数の報告があることで、本調査においてもまた、同様の事実を見る。

この検査において、A型者に養子が多いという話から、この三五人の方々を材料として結婚の状態を調査してみたら、気質問題上興味ある小統計を得たのであります。

笜_	_丰	更	粉	日
#	_ <i>_</i> ~	$\rightarrow$	72/V	

	О	A	В	AB
実数	4	11	5	4
未婚	1	1	0	0
既婚	3	10 (内、養子 6 人)	5 (内一人は養子に行ったが離婚)	4

男教員中 A 型既婚者十人中に養子六人の多数は異例に属し、偶然の事実であろうけれども、養子としては独立心の強い人や、事業家肌の人や、気性が荒らくすこしのことで癇癪を起こす人などでは勤まらず、忍耐力が強くて気の弱い、犠牲心に富んでいる A 型の人が最も適するように思われる。わずかの例で断言することはむずかしいが、本表中の B 型五人の既婚者中、一人養子に行った人があるけれども、離婚したという

事はこれを証明しているもののように思われる。なお多数の人について検査したならば、興味ある事実を発見されるであろう。

第二表	女教員	ı
弗—表	℧麨目	1

	О	A	В	AB
実数	6	2	3	0
未婚	25 才、28 才	25 才、28 才	26 才	0
既婚	23 才初婚、28 歳初婚、 35	0	2 (初婚 1、再婚 1)	0
	才(30才頃初婚で同棲一年			
	後離婚)、 41 才(38 才頃			
	初婚で同棲一ヶ月後離婚)			

女教員のように独立自活しやすい職業にあるものが結婚年齢のおくれがちとなるのは、自然まぬがれがたいことであって、独立心に富み自信力の強い O 型女教員が結婚年齢のおくれたことは想像できることであるが、第二表を見ても、O 型女教員に晩婚者が多いように思われます。

また、B型教員に再婚者を見るのは、B型男教員の中に、養子に行ったけれども離縁した者があるのと対照して、B型の気質をよく表現しているように思われます。

また、B 型婦人は、一旦破鏡の浮目をみても再婚するという気持があるのに反し、O 型婦人には、一旦離婚すれば寡婦となって自活の道を立てるという雄々しい気象、悪くいえば頑固な気質すなわち感情に支配されない理性的な特性をうかがうことができる。本例のほかに私は、O 型婦人の若後家さんを立て通している数例を、ただちに思い浮かべることが出来ます。俗に富士額で眉毛の濃いものは後家の相であるというが、私の婦人毛生状態と血液型との関係についての研究においても、O 型婦人の眉毛は一般に濃密硬毛で幅広く、かつ、長くつらなっている特性をもっております。

婦人のしっと心と血液型との関係についての私の観察では、A型が強く B型 O型は弱く性欲方面においても、O型婦人は自制心が強いように思われます。

これらの点から観察して、A型婦人は、夫が常在する職業にあるものは大いにその 貞淑ぶりを発輝するであろうし、B型およびO型婦人とくにO型婦人は、軍人ことに 海軍士官、船員、旅行がちの商人などの妻として、子女の教養、使用人の使役などに 卓越した主婦ぶりを発輝することと思われます。結婚問題と血液型との関係について、 その相性の点で研究の必要があると同時に、夫の職業的関係の上にも、血液型を考慮 する必要があると思います。」(血液型研究昭和七年十二月一日通巻十五号)

#### 【B型の気質】

古川氏の血液型と気質がいかに適確にとらえられたか、これらの記述によって、あますところなく知ることが出来ると思う。次の「B型血液型の気質について」東京長尾病院長医学博士長尾美知氏も、十年の観察によって得られたものである。

「私自身は、B型血液の所有者である。そして偶然と思われるけれども、私の家にはB型の血液をもっている人がかなり多く集まっている。したがって近頃、B型の血液をもっている人の気質をよく注意して考えるようになってきた。けれども従来B型血液型者の気質について、諸家の記載を見ると、全然一致しているというわけにはゆかない。今かりに長崎医科大学の浅田教授の記述を見ると、次のように出ている。すなわち

B型の美点

進取的、果断、社交的、気宇広大

B型の欠点

針小棒大、尻馬に乗りやすい、付和雷同、出しゃばりの傾向

また、慶応医科大学の前田教授の記述によると、B型の人は非常に活動的で、事に 当って果断であり、過ぎたことをくよくよしない。しかし、一面ことを誇大的にいう 傾向がある云々。

なおまた、東京女子高等師範学校の古川教授のあげているところを見ると、B型の人は気軽であっさりして、ものごとを長く気にせず、ものごとに執着することが少なく、快活によく話す。刺激がくればただちにそれに応ずる。ただちに感じる。気軽に人と交わる。人の世話などを心よくする。ものごとによく気がつく。事をなすに派手であると記載されてある。

さて、私の家にいる人で、子供および下級の使用人を除外して、主要な位置役目にある人の血液型を調べてみると、B型がその過半数 (全数八人中五人) に達している。それらの人々の気質をよくよく考えてみると、大体において、前記諸家の記載に一致しているように思われる。ただ私の見るところでは、B型血液者の気質には、前記諸家の記述のほかに、その欠点と見るべき側で、一、二追加したいと思われるところがある。それは、この型の人々には往々独断的で不従順なところがあり、また、とかく愛欲の念が強いように考えられるのである。独断的というのは、ものごとを自分の考えだけで決定断行して、あまり他の意見に耳を傾けないというような傾向をもっているのである。また、不従順は古川教授の記述にある通り、B型は元来感情型に属するものであるから、ものに激したような場合には、一層この特徴を発揮するように見え

## 30 第一部歷史編 学説紹介

るのである。愛憎の念が相当に強いのも、やはり感情にとらわれる結果である。

今かりに私の家人中B型の血液を有する人の気質について、諸家の記載を照合して、 これを評定してみると次のような表ができる。 (表中 ABCDE とあるのは、B型血液 を持つ者の符号である)

#### 美点と認むべきもの

	A♂	B♂	C♀	D♀	Е♀	総評
(1) 進取的 (浅田)	++	+	<u>±</u>	+	+	++
(2) 活動的(前田)	+	+	+	+	+	++
(3) 果断(浅田、前田)	++	+	+	+	+	++
(4) 社交的(浅田)	<u>±</u>	+	+	±	+	+
(5) 気宇広大(浅田)	+	+	<u>±</u>	±	+	+
(6) 気軽であっさり (古川)	<u>+</u>	<u>+</u>	+	+	+	+
(7) 物事を長く気にせず(古川、前田)	+	+	+	+	+	++
(8)物事に執着することが少ない(古川)	+	+	+	+	+	++
(9) 快活でよく話す(古川)	<u>+</u>	+	+	_	+	+
(10) 物事によく気がつく (古川)	+	+	+	+	++	++
(11) 人の世話などを心よくする(古川)	<u>±</u>	+	+	±	+	+
(12) 事をなすのに派手(古川)	土	±	+	±	+	±

この表によれば、(1)(2)(3)(7)(8)(10)は明瞭にみとめ得るけれども、(4)(5)(6)(9)(11)(12)は、さほど明瞭に言いかねるように思われる。

#### 欠点と認むべきもの

	A♂	$\mathbf{B}_{\circlearrowleft}^{\wedge}$	C♀	D♀	E♀	総評
(1) 針小棒大 (浅田)		+	<u>±</u>	_	+	<u>+</u>
(2) 誇大的(前田)	_	<u>+</u>	±	_	+	<u>±</u>
(3) 尻馬に乗りやすい (浅田)	_	+	+	_	<u>±</u>	<u>+</u>
(4) 付和雷同(浅田)	_	+	+	_	±	±
(5) 出しゃばり (浅田)	<u>+</u>	++	+	±	++	++
(6)刺激がくるとただちに応ずる(古川)	++	++	++	++	++	++
(7)独断的(長尾)	+	++	++	+	+	++

(8) 不従順(長尾)	+	+	+	+	+	++
(9) 愛憎の念強し(長尾)	土	+	+	+	+	++

#### 表中の略号

- ++はきわめて顕著
- +は中等度
- ±は多少その気味がある程度
- ーはこれをみとめないという意味

この表によれば、(5)~(9)は明瞭であるけれども、(1)~(4)は不明瞭のように思われる。

前記の二表を見て考えてみると、次のような結論を下し得るように思われる。すな わち B 型血液所有者(私の家にいる数名)の気質には、次のような特徴を一定度まで 顕著にみとめることができる。

- (一) その美点とみとめられるものでは、進取的、活動的、果断、ものごとを長く 気にせず、ものごとに執着することが少ない。ものごとによく気がつく。
- (二) その欠点と思われるものでは、刺激がくるとただちにこれに応ずる興奮性、 出しゃばる傾向、独断的、不従順、愛憎の念が強いなど。

なおまた、次のような気質は、さほど顕著でないかあるいは不明瞭であるように思 われる。

- (三) 美点と思われるものについては、社交的、気軽であっさり、快活でよく話す、 人の世話などを心よくする、気宇広大、事をなすのに派手など。
- (四)欠点と思われるものでは、針小棒大、誇大的、尻馬に乗りやすい、付和雷同など。

もちろんこれはきわめて少数の人についての調査事実であるから(もっとも各個人については十年以上の観察にもとづくものゆえ、相当確実性を有するものと思う)、これによってB型血液者の一般の気質を律するわけに行かないことは当然である。ただ自分の小経験を公表して参考に供したにすぎない。」(血液型研究昭和七年十月通巻十三号)

#### 【気質調査の動機とその二、三の経験】

補足的にしめくくりの意味で、熊本医大の西郷一恵氏の論文をあげたい。

「気質調査の動機ならびにその経験二、三」

「古川氏の血液型と精神現象に関する研究については、その大要を知り得た頃から、 かなりの興味を覚えつつあった。

ある日輸血施行前の血液型判定時に、医師一名、薬剤師一名、大学生一名、看護婦 二名に古川氏の標準気質表を示して、熟読内省させた後、どの型に該当するかを予想 想させたところ、各々AだOだなどと言った。そのうち薬剤師の人はAB型にちがい ないというので、私は、AB 型は百人中八、九人しかいないのだから当らないでしょ う、A型かB型かのどちらかに決められた方が当りますよというと、再び気質表を眺 めながら、私はやはり A 型でも B 型でもありません。その混合が私の気質です、もち ろん O 型の気質は少しもありませんという。そこで五人の血液を定めましたところ、 四名の者はもちろん、AB 型の者まで全部的中したことに感心したというよりも、ふ しぎに思いはじめましたのが、私の考えた調査法(社会生活に相当の試練と自覚を持 ち、内省批判が可能だと思われる年齢すなわち二十才以上の者に古川氏の標準気質表 を示し、まず内省された後、各人の性癖に該当する項目の下段に任意に線を引かせた 後、血液型を定めました。のち、血液型の決定された人の総数と線を引いた各頃目と の百分率の多寡をもって、その血液型と気質との関係を知り得ようと試みたもので、 これは逆にその人の思う性癖を知り得ることとなるのである)で調査をはじめる動機 となり、その後調査を続行して千人近くの人について調べました。その調査成績は、 別に原著として発表することにしましたが、私がそれらの人々を調査しているうちに 経験した二、三の雑感をここに述べることとします。

- (一) 当大学病院看護婦の血液型検定希望者の実験中、卒先して来る者の多くは B型 O型の者であったが、反対になかなかこれに応ぜず、無理に承諾検定したものはほとんど A型であった。
- (二) 私の知人で夜学などに通い、苦学生活を続けて中学を卒業したばかりの N 君は、かれが屈従を忍んだ結果か、遠慮深くおとなしいなどすなわち A 型だろうとかれを知るだれもが言う。私もまちがいないと思っていたが、標準気質表の各項中、自分の気質に合致していると思われる所の下に線を引かせると、B 型の欄にどしどし引いてゆく。ふしぎに思いながら血液型を調べたら、やはり B 型だった。

これは、個人差を無視して客観的に人の気質をうかがい知ろうと企てることの不当を如実に示し、私の実験計画に力を添えるものであった。

(三) 生化学教室で研究中の M 君にこの気質表を示したところ、かれは、この表で見ればぼくは A 型でなければならぬ。そして先日血縁の者に重症の患者があつたので、輸血の準備に血液型を検査したが B 型だといわれたという。そこで私が、君は A

型の定型的人物でこの気質表があてになるなら、おそらく B 型ではあるまい、何か君の記憶ちがいかまたは検査者の判定の誤りだろう、と言った。のち注意深く何回も検査してみたが、予想通り A 型であった。M 君は変な顔をして帰ったが、翌日記憶ちがいであることがわかった。そしてこの気質表と血液型はなかなか適中すると感心していた。

これらは、自己の内省と客観的に見た気質と古川氏の血液型による気質分類表とが一致したことを、記憶ちがいによりかえって強く証明された一例だと思う。

(四) 私が中学時代からよく交際していた K 君は、ただ今細菌学教室で研究している。その友人で同教室に研究中の T 君が(私に)、あなたは B 型の定型的人物だと(K 君が)言っていますが何型ですかと問いますので、私は、やはりご推察通り B 型だと言った後、逆に、それなら K 君は A 型の純粋型だと思いますがどうですかと言ったら、これまた適中した。 T 君と、ふしぎに合致すると話し合った末、 T 君が、ぼくの血液型をあててみよという。 T 君とは深い交際がなく表面だけしか知らないが、 K 君らのうわさを思い合わせて、たぶん O 型だろうと言ったら、これまた当っていた。

こんなふうになかなかよく適中しますが、中には当らないのも相当あるように思いました。その一例をあげると、だれもが B 型だと思い、ご本人も B 型だろうと言っていた予備の海軍軍医で現在門前市をなす繁栄ぶりの知人の医者は、判定の結果意外に O 型だったこともあります。

これらの相違は、各個人の境遇ならびに修養の結果を無視することができないと共 に、内分泌等の関係から精神的動揺がはなはだしく、したがって自己の気質を内省す ることに困難を感ずることも一つの原因でありましょう。

(五)なお興味ある一事は、かねて血液型 B 型と私共によって判定されていた某教授は、その血液型と気質がぼくの場合はよく適中しているし、なおぼくの知っている教授ないし知人も、第三者として見てよく適中していると言っておられましたが、約一年後同じ私共が何回検査しても O 型であった(経験浅い日の判定を誤りとせねばなるまい)。その後数日たってからの話に、B 型だといわれたときには気質もそのように思われたが、O 型だといわれてから、やはり O 型に類するように思われると言っておられました。

この教授はBO型の方で、B型あるいはO型の純粋型でないかも知れませんが、あらかじめ血液型と気質に関する常識ある人に、血液型を定めてのち適中するや否やを尋ねると大ていの人がなかなかよく適中すると言います。

そしてこれは私が調査する際充分警戒したところであります。

上にちょっと述べたように、血液型と気質に関して予備知識のある者が、血液型を

知ってその気質表を読む際、かりに O 型の人に熟読せしめると自分は O 型だという感じでこれを読み、そして各項を一一内省するうち、自己の過去における幾多の経験の中から、O 型の気質表の各項に該当する記憶の数々を呼びおこし、事実本性でもないものがその節最も大きなものとして誤認されることは、われわれがよく経験するところであるがゆえに、私はこれらの事の調査に際して、充分警戒しました。よってこの検査には、よく知っている第三者の見解も必要であろうが、まずあらかじめ血液型と気質に関する知識のないものであって、哲学者、思想家、宗教家あるいは豊富な体験を有する人で、自己省察能力のある人の告白による気質を根幹として検索すれば、労少なくして効多いことであろうし、本研究の進展上興味ある結果をもたらすのではなかろうか。

ともかく、血液型と気質に関する古川氏の論説には、首肯される点が多々あると思う。ある医者の会合の席上で血液型を調査したことがあるが、これらの人々はすでに血液型と気質との関係についての知識を有する人が多く、しかも血液型を判定された後に O 型といってはよろこび、B 型だ AB 型だといって悲観したような口ぶりをもらす人をたくさん見うけた。これらは理由ないことであろうが、このような傾向がずいぶんあるように思う。注意して蒙を啓くべきであると考える。そして個々の人物を血液型によって推測批判するのはもちろん面白からぬことであり、また、罪悪でもある。しかし日常われわれは、何県人は人間がわるい、何県人は親切だから安心して交際できるなどと平気で言っているようであるが、これらのことばを信じて各人の性格を憶測する罪悪よりも、血液型によって憶測する罪悪の方が罪は軽いと思う。」(犯罪学雑誌昭和七年一月五巻三号)

#### 【僧侶の血液型について】

次に多少興味的になるが、血液型はあらゆる面に応用されるという意味で、九州医学専 門学校助手、川畑是辰氏の、「僧侶の血液型について」という論文を紹介したい。

「…まだ僧侶の血液型について調査された文献がなく、俗界を去って仏に仕え、一般世人と異なる境地にある僧侶なるがゆえに、その気質に関しても俗人と異なる所が多く、その血液型検定を試みることは、あるいは血液型の気質的関係を察知するのに興味あることと思うのである。

すなわちわれわれは先般久留米市における九州に誇る大禅寺である梅林の僧堂を 訪い、その僧侶四三名について血液型を検定し、その気質的関係を調べることができ たので、ここにその結果を発表し、諸家の参考に供しようとするものである。

#### 検査方法

直接被検者の耳たぶから採血して検定し、その気質的関係については、とくに気質表などを配付せず、各人仏前に内省して得たありのままの気質を記載してもらったものである。

一定の気質表を配布することによって各人の意向を限定するよりも、このようにした方が一般的気質の概念を察知する上に便であるからである。もちろん多数の人員についての検査に当っては、このようなことは到底できないことである。

#### 検定成績

総員	43 名	
Ο型	14名	32.5%
A型	22名	51.5%
B 型	3名	7.0%
AB 型	4名	9.3%

すなわち、百分比において見るに、O型AB型には大して変化は見られないが、とくに注目に価するのは、A型においていちじるしく増加し、B型においてはいちじるしく減少していることで、B型などはAB型よりも減少しているほどである。

このような結果は、われわれがすでに検査前から予想していたことであって、いやしくも僧侶として隠遁生活を送る以上、活動的で放胆、動揺しやすく意志強固でない B 型的気質は全く不適当で、いわゆる A 型的の内省的にして温厚従順なる気質を必要とすることは当然である。

もちろん、家庭の事情なども影響し、代々僧侶であって生まれながらにして僧籍に あるものも多く、こうしたことも考慮のうちに入れねばならぬ。しかしながら、僧侶 の子必ずしも僧侶ならず、各々その気質に適合している道を選び進み得るわけである。

また、団体性指数 $\frac{A}{P}$ を見ると、わずかに $\bigcirc$ ・六五であって、はるかに少ない数を示

し、きわめて消極的にあらわれているのである。これもまた数項の理由によりうなずかれるのである。次に各人について調査した気質と血液型との関係を、ごく概括的に簡単に述べてみるに、O型十四名にあっては、その中十一名において意志強固、強情であって、利己心に富む点ほとんど相共通し、二名においては意志薄弱、内気、従順なる気質を有し、あと一名においては放胆乱雑であって、楽天的、移り気なる性質を有している。

A型者二二名では、そのすべてすなわちほとんど一○○%において、内省的、温厚 従順、感動的で心配性であることに一致し、その中の数名にあっては、意志強固、一 面頑固という気質を兼備する者もある。

B型者三名にあっては、三名とも放胆、淡白、移り気で執着心の少ないことが共通している。このB型者二名にあっては、われわれがすでにその血液型検定中とくに感知したところであって、僧侶に似合わぬ多弁饒舌、いささか出しゃばりの感をいだいたものであった。

AB 型者四名にあっては、うち一名は決断力が乏しく、内気悲観的な気質をもち、他の三名にあっては、前述の A、B 両型の気質の混合したような不定の気質をもつもののようである。

すなわち各四型を通じ、古川氏の唱えられるような気質的関係と一部共通するところを見たのである。」 (血液型研究昭和八年四月一日一九号)

#### 【職業と血液型との関係】

血液型によって、職業を選択することはない。しかし、選択された職業者の血液型を分類してみると、そこに、職業と血液型の関係をみることができる。次にあげた論文もその一つである。

「職業と血液型との関係」 千葉医科大学精神病学教室 医学士 久能 太郎

「本邦においてはじめて、古川教授によって提唱された「気質と血液型」の問題は、以来幾多の研究者によって、追試、論議されたが、あるいはこれを是認し、あるいはこれを否定して、今日未だ定説を得るに到らない有様である。著者もまたこの問題に対し相当の興味をいだいている者であるが、はたして同教授が主張するように、気質と血液型とのあいだに一定の関係があるものとすれば、職業と血液型とのあいだにも、なんらかの特殊な関係が成立しないだろうか? なぜなら、一体われわれが各自の職業を選定するに当っては自己の性格、気質、能力、趣味などを考慮に入れるのが大多数であると思うからである。

著者はこういう観点に立って、試みに千葉県下の二〇才以上の男子五三九名について血液型と職業とを調査したところ、次の表に示すような成績を得たのである。しかし、何分例数が少ないので、職業の種別はきわめて大胆に、四つに分けてみた。すなわち、

第一群 いわゆる知識階級一般で、たとえば官公吏、銀行会社員、政治家、文士、

画家、医師、弁護士、教師、僧侶などを含む。

第二群 主として商業に従事している者。

第三群 主として肉体労働によって生計を立てる者で、農民漁民階級を代表とする。

第四群 肉体労働と同時に多少技術的労働をも兼ねる者で、たとえば職人、職工、大工左官、かじ屋、理髪師、たたみ職、巡査、運転手などを含む。

	0	型	٨	型	D	型	AB 型		被験者	生化学的
	О	至	A	至	B 型		AB 型		総数	人種係数
1	29 人	23.36%	46 人	41.82%	27 人	24.55%	8人	7.27%	110 人	1.54
2	29	32.22	32	35.56	19	21.11	10	11.11	90	1.45
3	96	32.32	99	33.33	68	22.90	34	11.45	297	1.30
4	10	23.81	15	35.71	13	30.95	4	9.53	42	1.12
	164	30.43	192	35.62	127	23.56	56	10.39	539	1.36

[上表中および次の段落中の「生化学的人種係数」については172頁の「編者注1」参照]

いまこの表にあらわれた数字と、安井学士が千葉県下健康者一〇〇〇名について血液型を検査して得た成績すなわち O 型三〇・〇〇%、A 型三八・六〇%、B 型二二・〇〇%、AB 型九・四〇%、生物化学的人種係数一・五三とを比較してみると、第一群では A、B 型が共に増加し、従って O、AB 型が共に減少している。第二群ではこれと反対に、O、AB 型が増加し、A、B 型が減少している。第三群では O、AB、B の順位で増加し、ひとり A 型のみがかなりの減少を示している。第四群では B 型が断然優勢で、AB 型はほとんど増加しないが、O、A 型ことに O 型の減少が目につく。

この成績から推して考えてみると、職業と血液型とのあいだになんらかの特異性が存在しているようにも考えられるし、さらに転じて、前に述べたように、職業と気質、趣味などが密接な関係ありとする仮定がゆるされるならば、古川教授の主張するように、気質と血液型との間にも一定の関係が成立するものらしく思われる。」(血液型研究昭和八年三月十八号)

### 【気の合った友人】

次に、私の立場および理論から、多少問題があるように思うのであるが、取り残すのは ちょっと惜しいところがあるので、「渡辺氏の"気の合った友人と本人の血液"を読んで 行なった余の追試成績」台湾総督府台南医院 長瀬誠氏を紹介したい。

「古川竹二氏が昭和二年心理学研究第二輯において、血液型と気質の相関問題に関

する系統的研究を発表せられて以来、本問題は非常な興味を以て迎えられ、あまたの 追試者によりますます発達の道程を辿りつつあるのであるが、ことに昭和二年石川氏 の発表せられた研究業績は、その最たるものである。

これら血液型と気質に関する研究を総合するに、気質の判定を内省法によるか、客観的評価法によるか、ないしは体型により性格を観察すべきかと、いろいろ意見の相違はあるが、ともかく血液型と気質の相関関係の存在することは、等しく承認しているものと考えてさしつかえないようである。このように血液型と気質の間に一定の関係が成立するとすれば、われわれの日常の交際において、いわゆる気の合う友人や気の合わぬ友人があるがこのような場合、気の合う友人と本人の血液型、あるいは、気の合わぬ友人と本人の血液型のあいだに、なんらかの血液型的対照関係が存在することは考え得るべきことである。この問題に関する研究はまだ多くの業績がなく、ただ、昭和七年十月血液型研究第十三号に、渡辺道義氏の研究を見いだしうるのみである。

氏の報告によれば、中等学校の調査において、一校では、同型のものが最もよく気が合い、B型の者は同型のものに次いで AB型と気が合い、AB型の者は同型の者についで B型と気が合うというような成績を得たに反し、他の一校の調査においては、なんらこれらの特色をあらわさなかったと報じている。

氏の研究においてはなぜ二校の成績が一致しなかったかというに、元来気の合う友人ということがらが、はなはだしく漠然としているためだと思われる。すなわち、友人の性格を客観的に観察するにあたり、もしその友人が相当の年齢の者である時は、固有の血液型の示す先天的気質は後天的気質によって覆われ去る可能性が多くあるに反し、二〇才前後までの者であれば、先天的気質が比較的そのままあらわれ、幼時はほとんど純粋な先天的気質だけがあらわれているからである。

ゆえに実験にあたり、ただ自分の好きな友人を記載させた場合と、長期の交際によって本当に気の合う友人であると考えた者を記載させた場合とは、はなはだしく異った成績を得ることは、論のないところである。じつに厳密にいえば、前者の場合は比較的後天的の気質によって友人を判断しやすく、後者の場合は、性格の根幹をなしている先天的気質によって友人を判断するからである。また、中等学校の学生などを試験に供する場合には、英雄や豪傑を崇拝するような気分で強い者、学業の優秀な者、あるいは女学生であれば美しい者というように、美を好む心と気の合うということがらとを混同することがはなはだ多いと考えられる。

それゆえ本研究にあたっては、まず以上のようなことをあらかじめよく被験者に理解させた上で、本当に気の合う友人を記載させることが最も重要なことがらである。 私らの研究に当っても、これらの事を充分理解させたのち気の合う友人を記載するよ うに、充分の注意を払ったのである。供試者が十八才前後の者であるから、後天的気質によって先天的気質が覆われていることも比較的少ないし、また、長年学窓で共に暮らしているため、相互の性格も充分理解しあっているものと考えられる。

なおここに合性と称するのは、気が合うことを示すものであって、古来、木火土金 水によって判断したいわゆる合性とはなんら関係ないことをあきらかにしておく。

第1表(人)

	О	A	В	AB	計
О	73	65	23	12	173
A	53	44	22	8	127
В	22	26	15	5	68
AB	11	6	7	1	25
計	159	141	67	26	393

第2表(%)

	О	A	В	AB
О	42.19	37.57	13.29	6.93
A	41.73	34.64	17.32	6.29
В	32.35	38.23	22.05	7.35
AB	44.00	24.00	28.00	4.00
計	40.40	35.87	17.04	6.92

実験総数は三九三名の台南第一高等女学校であって、実験に当ってはすでに述べて 来た諸項に注意して、気の合った友人を記載させた。なお血液型の判定には「アボテスト」を使用し、普通の方法に従ってこれを実施した。

すなわち、第一表に示すように、O型総数一五九名の中でO型と気の合う者七三名を筆頭に、次がA型の五三名、B型の二二名、AB型の十一名となる。

A型総数一四一名中O型と気の合う者六五名を筆頭に、次にA型四四名、B型二六名、AB型六名の順序になる。

B型総数六七名中O型と気の合う者二三名を筆頭に、次がA型の二二名、B型の十五名、AB型の七名となる。

AB型総数二六名中O型と気の合う者十二名を筆頭に、次がA型の八名、B型の五名、AB型の一名となる。

すなわち各型とも実数のみから見るときは、O型と気の合う者が最も多く、次が A型 B型であり、AB型と気の合う者が最も少ないことになる。

次に第二表について説明すれば、O型の友人と気の合う者はO型が四二・一九%の最多数を占め、次がA型の三七・五七%、B型の十三・二九%、AB型の六・九三%である。

**A**型の友人と気の合う者は**O**型の四一・七三%を最高に、次が**A**型の三四・六四%、**B**型の一七・三二%、**AB**型の六・二九%である。

B型の友人と気の合う者はA型の三八・二三%を最高として、次がO型の三二・三

五%、B型の二二・ $\bigcirc$ 五%、AB型の七・三五%である。

AB型の友人と気の合う者はO型の四四%を最高にして、B型の二八%、A型の二四%、AB型の四%となる。」(血液型研究昭和八年二月十七号)

以上ながながと引用したが、昭和二年古川学説が発表されて以来、血液型と気質に関係あるものだけでも、文献四〇〇、研究者三〇〇を数える。その中から、今日でも文献として充分使用できるものを、十編ほど集めて紹介したものである。

しかし、じつをいえば、反対派も多く、反対派の理論もさることながら、古川学説のもっているマイナス面もあるわけであって、その辺のことを詳述しながら、古川学説に対する私なりの批判を加えて第一部を終りたい。くれぐれもことわっておきたいが、この段階の記述は、私の理論ではなく、古川説をできるだけそのまま祖述したものである。

# 古川学説への批判

古川学説については、すでにのべた通りであるので、くりかえすことは必要ないものと思う。しかし、古川氏は、昭和二年雑誌「心理学研究」(岩波書店)に発表した最初の論文に、気質診断表(別表)をつくり、軍人、女高師生等千数百名に実施し、その後血液型検査を実施して、その確率八〇%としたのである。気質診断表については前章のように、古川氏の弁明もあり、内向性外向性、適性、意志気質等、数多くの検査表があり、古川氏の気質診断表がとくに否定されるべき理由はないのである。ただ、他の検査表と異なり、誤解、非難、ついに抹殺の悲運に会ったのは、気質診断表によって検査を実施したあと、血液型を検査し、確率が八〇%以上としたことにあったのではないかと思う。なぜかといえば、気質判断と血液型検査は、血液型が心理学的に判断できるという予見を含むものとされ、さらに、人間の運命すべてを判断するものとまでされたきらいがあったように思われるからである。

たとえば、大阪に、大阪血液研究所の名をかたって、人をだまし歩く野師の出現をみたといわれるし、東京では、「"日本橋白木屋の地下で堂々と血液型判断屋が店を張り、中川鑑識法という名で大風呂敷を拡げているということである。ぼくは旧臘来病床に静養しているので採血の機会もないが、某友人の話では、血液など使わないで、唾からしらべよったよ"とのことだから、ますます不審に思っている。こんなのが雇用関係や婚姻相性までわかると言って、大衆を欺瞞するのだから、まじめに研究している者はどれほど迷惑するかしれない。本誌上で論じられている血液型の諸説は皆まじめな研究や経験にもとづいてなされているのであるから、これを香具師の射利的なヨタと混同してもらっては迷惑千

万である。」(血液型研究昭和十年二月号通巻四一号東京女子医大浅田一氏)

## 【反対論の論拠】

血液型と気質は、八卦や手相見と同じように扱われたということである。学界において も、反対者は、血液型と気質の古川氏の真剣な意図を理解しないばかりか、八卦や手相と 同一視して、次のようにのべるのである。日本学術協会報告九巻四号、「血液型と気質の 相関性を排す」長崎医科大学教授 医学博士 吉田寛一氏の講演をきいてみると、

「…なぜならば、血液型と気質の問題は私がしばしば言っているように、ひとり単に学問上の興味のみの問題ではなくて、社会上に重大なる影響をもつ新しい事象であるからである。すなわち、血液型と気質とのあいだに密接な関係があるという説によって、人物の採用、入学試験、個性検査、職業適性、結婚、犯罪等に応用せられ、あるいは応用されんとする機運がさかんに醸成されつつあるのである。ことにこの問題は、比較的広くかつ容易に社会大衆の興味に投じた為に、説の真否を考慮する前に、まずうのみにされた結果、現時の世相に大なる衝動と不安と宿命を与えつつあるのである。」

という。同じ長崎医科大学教授勝矢信司博士は、「血液型により気質は分類せられ得るものなりや」と題して、古川学説を批判している。

## 【反対論の論拠/勝矢氏】

「この古川説は、信頼すべきものなりやいなやという事を充分に考慮吟味することなくして各所に演説布説されたがために、この説が一般的に広まるにいたった。その結果、店員の採用に血液型を応用しようとする人があらわれ、立派な人格素養を有する人が、持って生まれた血液型にわざわいされて、不幸な運命を辿るものあり、血液型が児童教育の参考に資せられんために、可憐な児童がむやみに血液の採取を受けあるいは教育不要論という極端な叫び声さえ聞くにいたった。

私は最初血液型と気質説のあらわれた時、社会はこれを笑殺して相手にせぬものと考えていたが、まじない療法が世の中にあとを絶たぬと同様に、この妄説が、肩書付きの学者にまでかつがれるにいたるや、燎原の火のごとくますます拡大しあるいは教育者までも盲信せんとし、これに疑惑をはさむ有識社会の人々があっても、血液型と気質説が学説としてどの程度に信頼すべきものなるかを知らず、また、非難せんとする人があっても、まっ正面から攻撃非難するのにちゅうちょするという有様になった

ので私は人道上のため血液型と気質説を批判せんとするにいたったのである。」(犯罪学雑誌七巻二号昭和八年三月)

血液型と気質説は、まじない療法のたぐいと同じにされ、この妄説を撲滅するために、象牙の塔を出たというのである。今日の時点で考えれば、笑止千万として黙殺できるであろうが、現実に古川学説が抹殺され、氏が失意の晩年を送られたことを思えば、空おそろしいものを感じる。勝矢博士の記事は、新聞にも記載されたものらしく、古川教授の反論があるので、次に紹介したい。

「長崎医科大学勝矢信司博士は、福岡日日新聞一月中旬号に、"血液型により気質は分類せられ得るものなりや"と題する長論を投じ、われわれが年来主張している血液型と気質との関係問題に対し、冷笑冷罵をもってせられた。

元来博士が同文を草せられた動機は、"最初血液型と気質説があらわれたとき、社会はこれを笑殺して相手にせぬものと考えておられた"そうであるが、意外にも"この妄説が肩書付きの学者にまでかつがれ"たために、ますます拡大して行くことを憂えられ、"大げさにいえば象牙の塔を出て社会人道上のために憤起したという気持でこの説を批評するにいたられた"ためであるという。

いかにもわれわれが六、七年前本実験の結果を発表した当時は、無識者はもちろん、博士のいわゆる肩書付きの学者のうちにも、これを冷笑罵倒した人があったが、しかし年を経るにしたがい、われわれに賛成する人が出るようになったのである。

勝矢博士は、"学界において論議し、一般学者の肯定するところとなってからはじめてこれを世俗に発表すべきが、学者として当然踏むべき道だと考える"と難ぜられているが、古来学者によって世俗に発表された学説で、一般の学者が肯定するところとなってからされたものが果していくらあったろうか。ことに昔から偏狭の人の多い学界において、一つの学説が発表後五年や十年で肯定されることがほとんど望まれないことは、多くの実例が物語っている。

ついでながら、血液型によって人の気質がうかがわれるといっても、博士が引用されたような教育無用とはならない。メンタルテストがわが国に入って来た時分、これで知能がわかるなら、教育は無用になろうと非難する人々があった。しかし、それが一般に普及されるにいたった今日においても、教育は無用にならないのみか、かえってその利用によって大いにその価値を発揮している。気質の場合もまたこれと同様であって、なんらかの根拠によって人の気質がうかがわれるとしても、教育が無用とはならない。知能も気質も人の素質(Anlage)である。素質を知ることが教育を無用な

らしめるとする人は、いま一度落着いて考えて頂きたい。動植物の世界に遺伝の現象があることは、厳然たる事実である。しかし遺伝が悪いから教育は不要であり、訓練は無能であるという人があろうか。ここに、教育ということの存在の理由も必要も生ずることは、教育学者のひとしくみとめるところである。」(昭和八年三月十七日 医学時報二〇一四号昭和八年四月一日)

## 【反対論の論拠/吉田氏】

古川学説を直接批判するものも、必ずしも妥当な批判ではないように思われるものが多い。すなわち、古川氏が作成した気質診断表にもとづいて、自己判定をさせ、その後血液を検査して、当たる率が古川氏のとなえるような確率をもっているか否かを追試したものである。この種の調査報告は数十編にのぼるが、煩さにすぎるので、さきに学術協会(今日の学術会議)において講演した吉田寛一氏の一節を紹介するにとどめたい。

「余はまず古川氏説の追試を行なうつもりで、O型のみについての調査をしてみると、大変におもむきが異なっていて、その成績には一定した結果が出ないのである。このことは昭和五年十月三重県医学大会においてのべ、昭和六年三、四、五月の優生学誌上に発表しておいたのである。これがおそらく血液型と気質との説に対する最初の反対意見であったと思う。

しかし O 型のみの成績では充分でないという反対もあったので、各型についての調査を行なってみると、これも本年三月岡山における法医学会において発表しておいたように、古川氏の第三案の四項目一致を標準として計算してみると、九二○名の中で、O型の一致が三三%、A型で五二%、B型が四○%ということになって、いずれもはなはだしく低い一致率しか得られないのである。これらの事実から推してみると、血液型と気質の相関説には、大なる疑問をいだかざるを得なくなったのである。」

「古川氏と同じように、最も近いところよりはじめるつもりで、私の兄、姉の二家を最初に調査した。一方の家族では父 AB、母 O、子供四人 BBBA となっているが、その気質から古川説に照らしてみると、二人の B と一人の A とはいずれも全く A 型気質で、B の一人は全く B 型気質に一致している。すなわち、半ば一致し半ば不一致である。

他方の家族では、両親共 O 型で、三人の子供はむろん全部 O 型である。しかるに、気質からすれば、長子と末子が A 型気質で、中子が B 型気質であるから、この例では全部古川説に一致しないことになる。」

「以上、余の検査した範囲において類推してみるに、血液型と気質とのあいだには、

古川氏一派の唱導せられるような密接な相関関係はごうも存在しないのである。一般 大衆がいたずらに説の興味に魅せられて、吟味する前にただちに応用せんとする傾向 あることは、まことに社会上重大なる誤謬であると思うのである。」(昭和九年十月 日本学術協会報告九巻四号、「血液型と気質の相関説を排す」)

## 【古川氏の反論】

古川氏の反論は、この論文に対してかどうかは不明であるが、次のようなものがある。

「ある所で、たくさんやってみたが三○%しか一致しなかったと言って批評をうけ たこともあります。ところがそれはどうして行なわれたかということを見ますと、気 質表を先生などに読ませまして、それをもととしてこの生徒はAとかBとか判断して おいて、実験してみたところが三○%しか合わなかった。それで、どうもこの関係は あやしいとかいう、そういう批評がございます。ところが、私どもはそんなに簡単に 考えて実行されては困るのであります。その困るわけをあげてみますと、医学書を見 ますと赤痢はこんなもの、腸チフスはこんな徴候ということがはっきり書いてありま す。それでも、その本を読んだだけでは実際に当って判断がつきません。本を読んだ だけで判断がつくようになれば、医学校は一年か二年でよろしいことになりましょう。 しかるに実際に当っては、四年間も勉強してそれで卒業してもまだ足らないので、何 年か実施をやって、そうしてはじめて本当のお医者さんになれる。かように、何年も 練習しなければ本当にわかるものではない。しかるに、気質だけが簡単にわかると考 えるのは、それはまことに無理であります。いかによく読んでみたところで、実際は 幾度も幾度も当ってみなければ本当に会得できないことは、医学と同様であります。 法医学者が先年論争をされまして、首をくくって死んだのを鑑定して、ある法医学の 大家は殺してから首をつらせたと鑑定し、他のある法医学の大家は自分で首をくくっ たものであると主張されたのであります。元来自分で首をくくったのはどんな徴候を あらわしているかということは、法医学の本には明瞭に書いてあります。ところが実 際問題がおこってきますと、法医学の大家の間に左と右と分かれて、一人は自分で縊 死した、一人は殺してからつり下げたと主張し、裁判官もどちらを取るべきかわから ず、とうとう被告は無罪になったということであります。そんなに何十年も鑑定をし、 何百人について観察してきた大学者でさえ、そういうように意見がわかれたのであり ます。さらにもっと適切な例を申しますと、今のは身体に徴候のある場合でありまし たが、気質は精神的方面ですから、この方から適切な例を申しますと、裁判所では精 神の診断を精神病学者に依頼しますが、一方の大学の方ともう一つの大学の方と、二

人診断が大いにちがうことがあります。精神病学を専門にやっている人でも、このように意見のちがうことがよくありまして、裁判官は困るということであります。そうしますと上に申しましたように、身体を見ることさえ、専門家のあいだに意見がちがうのでありますから、精神を見るのは、なおむずかしいはずであります。それで、気質表に書いたものを先生に一ぺん見せただけで子供の気質を判断させて、そうして合うとか合わないとかいうのは、どうも真剣なやりかたではないのであります。」(血液型研究二二号昭和八年七月一日)

次に、ふたたび賛成側にもどって、古川学説を忠実に実施して結果として賛成の意見を 表明された、名古屋鉄道病院病理検査室岩田武氏の「古川氏"血液型と気質"説の批判」 を紹介してみよう。

「古川氏の提唱されている血液型と気質は、賛否相半ばして、定説とは認められていないが、世の中からは非常に興味をもって迎えられている。私もまた以前からこれに興味を持ち追試している一人であるが、最初のうちはその一致率が二〇~四〇%ぐらいを前後していたが、最近の検査による成績は次第に一致率が高くなり、あらためて、心血を注いで研究された古川氏に対し敬意を表する次第である。

なぜ、最初に行なった成績が不良であったかというと、まず何ごとも知らない被験者に内省表を示し、自己の型を予想させたことが最大の原因であったと思う。中には非常に興味をもってわれわれの仕事に対し援助をしてくれる被験者もあったが、その多くは深い考えもなく、その場かぎりの責任のがれ式の解答であった。こんな人々の成績は、たとえ何万何億あったとしても、正しい成績ではない。この点において私は、血液型を予想して一致率を出すには、これに対してとくに興味をもつ者を被験者として選ぶか、あるいはまた験者自身、被験者の気質を充分に知っている者でなければだめだと思う。今回私は、年齢一八才から三八才までの某病院看護婦四九名について、血液型の検査をなし、その予想との一致率を報告しようと思う。

看護婦四九名の血液型瀕度表

	O型	A 型	B 型	AB 型
定数	17	19	7	6
百分率%	34.7	38.8	14.3	12.2

この検査前に、四九名中気質を予想できる者四六名(あとの三人は最近就職した者

であって予想をゆるさない)を選び、まず私自身がかれらの血液型を予想し、なお、 その予想が外観的になるのをおもんばかり、かれらと絶えず行動を共にしている看護 婦代表者(かの女もまた血液型と気質型に多大の興味を持っている者である)と相談 し、練りに練って私の予想に修正をほどこした結果が、次のような成績になった。

	O型	A 型	B 型	AB 型	一致率		
O型15名	13	2	0	0	86.7%		
A型19名	1	18	0	0	94.7%		
B型7名	4	1	1	1	14.3%		
AB型5名	0	3	1	1	20.0%		
計 46 名	一致 33名 71.7%						
	不一致	不一致 13名					

血液型とその予想への一致率

上表によるごとく、私の予想型と血液型の一致率は、七一・七%という高率を得た。 A 型は九四・七%の高率一致率を得た。O 型がこれに次ぎ、AB 型 B 型は低下して、 最下位の B 型の一致率はわずかに一四・三%であった。

O型の不一致二例は、共に AO の両気質を併有しているように感じられたが、いくぶん A を多分に含むとの考察のもとに A と予想したのである。この場合この二例を A または O と予想すれば、一致率はいくぶん上昇するわけである。

A型の不一致一例は、外観的には O型のように見えたが、往々Aの特徴たる"シンミリしている"ところを見受けた。検査後なるほどと感じた。また、本人にも血液型を示して内省せしめたところ、一致していると答えた。

B型の不一致六例のうち O型と予想した四例は、血液型検査後なるほどとうなずける点があり、また、A と予想した一例は、この B型気質なるものを全然欠き、検査の誤りではないかと再検したほど A 型的なものであった。残りの AB 型と予想した一例は、常に B の特徴を発揮するが、往々にして A 型的の特徴を示すので AB 型と予想したが、被験者は永らく病床にあったものであるゆえ、気分にいくらかの転換をみたのかも知れない。

AB 型の不一致四例、A と予想した三例中二例は、検査後うなずくことができたけれども残る一例は全く A 型的に見え、なお B と予想した一例は、徹底的に B 型気質のみ具わる者であった。上述のように、B 型 AB 型においては一致率が非常に低い。これは、日本婦人古来の習性として、貞淑、温順、謙譲であることを美点として賛えた

がために、快活、活動的、社交的なる B 型または AB 型気質を排斥した結果、B または AB 型の気質のあらわれている者は、つとめて貞淑らしく温順らしくしようとしたためではあるまいか。しかしその B 型六名中、かれらの望んでいるごとく A 型と見える者はわずかに一名にすぎない。婦人としては強きにすぎると言われる O 型気質と見られる者が四名という多数になっている。かれらの心の内としては A 型的気質に見られたいであろうが、他人には O 型としか見えないというのはおもしろい事実である。B を隠蔽しようという努力は、いたずらに多弁を無口に変化させているにすぎない。これに反して AB 型の不一致四名中三名までは、かれらの望み通り A と見られている。これらは、O と B が能動的、A と AB が受動的であると言われる古川氏の説を如実に裏書きしているようである。

以上の成績は偶然ではない。その後私の知人についてこれを行ないつつあるが、これ以上の好成績を示しているような次第である。例数が出来たらまた報告したいと思っている。

これらによって私の感じたことは、人の血液型を予想するには、験者自身が被験者とある程度の交際がなければむずかしいということである。とくに婦人のB型AB型者のごときは、はでな気質が隠蔽されるから慎重を要する。また、一時に多数の予想をするなどは大いに注意を要する。その点、数百名の小学生を検査し一致率の低いのをもって、古川氏説を否定攻撃するのは誤りであると思う。なんとなれば、児童の気質は、隠蔽されやすいというよりも、その児童に気質を内省させても、児童自身この気質説に興味を持たないものが、真剣に解答するかいなかは疑わしいからである。これはまた、児童の親たちにも言えることである。また、教師自身児童の気質が確実に判定できるかどうか、特徴の発見しにくい児童においては不安である。」(血液型研究昭和九年十二月一日三九号)

# 古川学説をどう考えるか

ふつう気質の問題を扱っていて、O型の人は、味方にすれば心強いし、敵にすればなかなか手ごわいなどといって話をするとき、大体は古川説で間に合うのではないかと思っている。

たとえば、A型の婦人が、ぱりっとしたおしゃれをするのに対し、O型は、どことなく 堅実な現実的な配慮を感じたり、B型は、ひかえ気味な中間色的な形をとったりする場合、 A型、O型、B型の差異は、かなり明確に表現されているのではないかと思われる。ただ 学問として真理であるために、Mなしに、A型はすべておしゃれでなければならないし、 O 型は堅実でなければならないし、B 型は地味でおしゃれを好まないように見受けられる のでなければならないわけで、もしそうでなければ、A型はおしゃれ、O型は堅実、B型 は地味ということは、真理として通用しないことになる。この辺から、古川説に対する漠 然とした不安と不信が出てくるのではないかと思う。 もちろん Α 型はおしゃれだなどと古 川氏は言わなかったけれども。そこで、古川氏の理論にもどって、〇型の長所自信力強い こと、といったとき、0型の鼻柱の強いことは、確かにそういえる一面がある。しかし、 自信力が強いことと言った場合は、いかなる場合でも、いかなる時でも、自信力強く判断 し行動しなければならない。しかし、そのように考えると、果たして、自信力強いという ことがいえるかどうかあやうくなってくるのである。Ο型の人が、敵弾をくぐる時にいか に臆病であるか知っているし、あるいは一人でものを考えている時に、いかに焦慮するか を考えると、O型の人の自信力強いことという長所はあやしくなる。単にそれだけではな く、A 型といえども自信力強いこともあり、B 型といえども、自信力強いこともあり得べ きで、その辺から、問題はやや複雑になってくる。つまり、自信がないと見える人であっ ても、よく才能をのばしてやると、思わぬ自信を発揮することもあるし、それぞれの人が それぞれの場所に、自信をもつということがいえるのである。いいかえれば、O型にはO 型の自信が、A 型には A 型の自信が、B 型には B 型の自信が、AB 型には AB 型の自信が あるということになるのである。にもかかわらず、私は、古川説について、根本的に、反 対ではないし、**O**型は自信力強いことでなんらさしつかえないと考えている。なぜならば、 O型、A型、B型、AB型のそれぞれの自信力を認めた上で、なおかつ、O型の自信力強い ことという特徴は、常識的に顕著であると信ずるからである。

## 【古川説は常識的規準からの徴表】

またたとえば、A型は秀才だという。秀才だという意味では、同様の理論を用いれば、A型の秀才、O型の秀才、B型の秀才、AB型の秀才とあるわけである。私の観察した範囲のものでしかないが、A型の秀才のある場合では、ただじっと、本をみている。声もたてないし、書きもしない。すると、本人の言うところでは、頭の黒板に、本のページの文字がそのままえがきとられるのだというのである。これに対してO型の秀才は、これも一例でしかないが、ねじりはちまきをして、大変な努力を重ねて勉強し、秀才の名を保っている。努力の結果としかいいようのないものを持っている。これに対して、B型の秀才は、時によって成績にむらがあって、なんとなくつかみどころがない。安心しているとどかんと穴をあける。それで、全然見込みがないかと思うと、一人だけ満点をとって、けろりとしているといったありさまである。こういう秀才を並べてみると、われわれは、やはり A型の秀才を秀才としたい気持になるのである。つまり古川氏の気質論は、日本における一

般的・常識的水準から割り出した徴表としての、気質のタイプ・特徴ということになるであろう。

私たちが、古川氏に対してお気の毒に思うことは、血液型と気質との関連づけが、前にもふれたように、気質調査表と血液型判定が、あたるとかあたらぬとかいう論議に終始し、その論議にしても、心ある者の慎重な追試によれば、確率八、九〇%に達する例もあるのであるが、無責任な追試者の手にかかって、確率四〇%……とされ、これぐらいの数字ならば出たらめに気質調査表に記入しても、その程度のパーセンテージを得ることができるとして、気質調査表による血液型判定が否定され、これと同時に、気質と血液型の関係までもなんの理由もなく抹殺され、戦後の研究に三十年の重大な空白をもたらすことになったのである。もしその時点で、謙虚に血液型と気質との研究を地道につづけておったならば世界の学界に貢献すべきおどろくべき研究が持たれたであろうにと、惜しまれてならない。

今後、およばずながら、私どもの研究が開始されるであろうが、それは、多くの生理学者、生化学者、人類学者、心理学者、動物学者、物理学者、コンピューターの協力を得なければ果たし得ないほどの、生命の根源の問題を包括しているのである。にもかかわらず事、志と異なり、婦人はA型であることをよろこび、O型B型であることを恥じるというような誤った一般化が行なわれ、また、八卦や姓名判断、手相などと同一視されることとなったのである。こうなっては、もはや古川氏にお気の毒というよりは、当時の日本における学問の水準の低さを嘆くよりほかはないのである。

これについて思うことは、将来、気質調査表をさらに綿密に研究してゆけば、百%的中するものが得られるものと信ずるが、いま私たちは、真理追求の方法としては、この問題を一時保留したいと思うのである。なぜならば、気質調査表その他で調査をするのは、なんのためであろうか? それによって、気質や適性や傾向や不適応などが判断できるからである。では血液型と気質の場合はどうか。血液型を知るために、気質調査表を使用する必要がどこにあろう。もしそうした労力をさくことができるなら、そのエネルギーを、もっと本質的なことに、すなわち、血液型と気質との関連の科学的根拠の追求に集中すべきであろう。

血液型を調べるのに、調査表を用いるべきではなく、血液を検査すべきである。つまり血液を検査して、A型、B型、O型、AB型を判定すればよいのである。その点で、A型はこう、O型はこう、B型はこうと観察帰納すればよいのではないかと思うのである。人間の行動は、単なる気質だけで表現されるものではなく、慣習的なものもあれば、人格的なものもある。したがって、A型気質の人が、次の瞬間 O型気質を模倣した行動をとった場合、A型気質を予測することは不可能である。たとえ A型が順応力がある、温厚であると

いっても、いつでも順応力が発揮されるわけではないし、温厚であるわけもない。フロイトの学説が、日本においても、いかがわしい性を売物にするものだと一般化されて、今世紀のはじめから第二次大戦後まで、フロイトをかえりみるものがなかった。そのフロイトが、現に、その著書でいましめているように、血液型と気質も、後言的科学であって、予言的科学(そういうものはありえないが)ではないということである。もちろん動物の発生の知識を得れば、ホタルがやがて卵を苔に生み、その卵からかえった幼虫は、カワニナを食しながら成長してゆき、やがて越冬して三月ごろサナギとなって地中で休眠するといった知識をホタルの卵に適用することができるであろう。だから、A型気質のものはこうこうだと、判断できるものをもつことを、否定するものではない。しかし、前にも述べたように、人間の行動のパターンには、単に気質だけではなく、民族的なものも慣習的なものも、人格的なものも、性格的なものもある。そのどれであるかは、結果として、後言的科学として、観察帰納することが妥当である。とくに気質論については、一般に予言的要素をもつがゆえに、慎重に取扱わなければならない。けっして悪用して邪道におちいるようなことがあってはならないのである。

終りに、以上紹介した古川学説に対する賛否両論とやや視点を異にした二つの論文があるので、これを収録して論評を加えておきたい。まず、「血液型と気質」についての古川学説に反対した岡山県庄内小学校訓導、守安直孝氏の「血液型による気質類型説について」の引用からはじめることにする。

「A の気質と B の気質が異なる場合、その"気質が異なる"ということの内容は、 あくまで量的差別と解釈するものであって、共通なる人性が偶然的事実として、個性 への顕現の様式が異なるだけであると論者は思惟する。個人差なるものは決して質的 差別でないことは、デルタイも説くところである。

要するに、吾人の世界に存在するものであって、質的に区別し得るものは一つとしてないと思考する。我々の思索において明瞭に質的に載然たるような、物心の対立も、質的二元論として許容し得ないのである。ベルグソンはこの点において、独得の純粋持続の緊張弛緩の度より説明しているが、かれの説もやはり、程度の差、量的差別相に立っている。論者はけっして実在そのものをすべて、ベルグソン流に解釈しようとは考えないが、しかし我々は、質的差別としての二元論が、絶えず量的差別相の導入により、一元論の建説に努力されしかも説明されんとしてきた過去数千年の思索の歴史をかえりみることができる。要するに論者は、情景の個人差を、"質的か量的かは大問題なり"として全然投げていない。それはあくまで量的差別なることを信じてい

るものである。質的差別そのものは、量そのものがなんらかの条件により、とくに加工着色された一つの様相にすぎない。ゆえに A の気質と B の気質が異なるというも、それはひっきょう同質なる人性の顕現の様相において異なるも、その真相においては共通なる実在である。」(犯罪学雑誌 7 巻 4 号昭和八年七月)

「血液型と気質」との関連を排し、A型気質、B型気質、O型気質、AB型気質の差異は本質的なものではなく、量的差別のあらわれ方が異なるだけであるとのべている。しかし、量的差別というものは、もしそれが遺伝的に固定し、A型気質因子、B型気質因子、O型、AB型気質因子として区別されたとしたら、それは質的差異と称してもさしつかえないのではあるまいか。まして、A型、B型、O型、AB型の化学式が証明されて、A型、B型、O型、AB型の本質的差異があきらかとなった場合、量的差異を持ち出す必要はなかろう。

古畑博士の『血液型の話』一二四ページによると、「クロストリジウム・テルチアムの出す A 型分解酵素は、水溶性の A 型物質と A 型血球についている A 型物質を分解するほかに、MN 抗原をも分解する作用があって、A 型血球にこの酵素が作用すると、A 型血球は一転して O 型血球になってしまう。同様に、クロストリジウム・マエバシの出す酵素は、水溶性の B 型質と B 型血球の B 型質を分解して、これを OH 物質に転換する。だから B 型血球は O 型血球に変ってしまう」といわれている。この点に関連して古畑博士は、化学的に、「すべての血液型の基準となるものは、O 型質であって、造血器官でまず O 型の基礎となるものがつくられ、さらにそのうえに、A 型質の基本となるものが付加されると A 型になるし、また、O 型の基質ができているうえに B 型質の決定群がつくと B 型血球になるものと考える」といわれる(一四三ページ)。筆者も戦時中、面白い経験をしたことがある。B 型である自分の反社会的、没常識的な性格に愛想をつかして、座禅にこり、カユに玉子の白味だけをかけ、塩分も制限して半年ほどたつと、われながらおどろくほど、無感覚の客観的世界が眼前に展開したように思えた。つまり、A 型 B 型 AB 型因子は、ある栄養状態その他の特殊の条件において、O 型に近似して行くのではないかと考えているのである。

# 科学的傍証

さて、本論にもどして、体液説の観点から血液型と気質との関係は証明できるかについてのべてみたい。私たちの研究は、古川学説を承継して、古川教授と同じく、身辺のきわめて少数の人の精細な観察を通して、血液型と気質の関連の事実をみとめ、理論化したもので、科学的証明は今後の研究に待つが、傍証として古い資料の中に興味あるものがある

ので、紹介してみたい。これは、山口県立豊浦中学校生徒について行なった植物神経緊張型および血液型の検査成績と、これと気質および学業成績との関係についての論文である。

「昭和二年、古川氏によりはじめて気質と血液型との関係について、興味ある研究が発表せられた。以来この問題が、医学者、一部の教育者に対して、多大の興味をそそったもののようで、すでに今日においては、これに関する幾多の業績が発表せられている。しかしながらまた一部の学者らは、血液型の四型をもって人の性能、気質をおしはかるがごときは危険であるとして、多少これに反対するようになった。余らは、本問題を危険として葬り去る前に、すべからく、なお幾多の研究を行なって、実際上に、古川氏説の当否を検討せねばならない。著者の一人田上は、十年前から「アッシュネル」反応によって、植物神経の緊張型を分類し、これをもって各人の体質を判断しているが、その緊張形態を同じくすることによって、各個性のうえにいちじるしい共通点が存在することを感知するにいたったのである。そこで余らは、血液型とこの田上式植物神経緊張型とについて比較研究を行なうときは、必然的になんらかの新事実を見出せるだろうということを察知するにいたったので、まずこれを豊浦中学校生徒について、実施することにした。

調査方法 (1) 血液型に対する調査方法としては、吉田博士の簡便法に従って、生徒の唾液を取ってこれを実施することにした。(2) 植物神経緊張型の検査に対しては、田上式分類(日本内分泌学会雑誌7巻8号参照)に従い田上式植物神経機能検査器を用いて、これを実施することにした。

植物神経緊張型による気質の観察 「エッピンゲル」及び「ヘッス」の二氏は、早くから、個性を薬効学上によって分類し、これを迷走神経緊張型、及び、交感神経緊張型の二種に区別した。田上は十年前から「ホルモン」療法を行なうにあたって、個人性の確立を期するためには、ぜひともこの説に従わなければ、到底完璧を期すことができないことを悟るようになったのである。しかしながら、各人に対して、毎回薬効学的の検査を行うことは非常に不快なことで、また、危険性もすくなくないのを知った為に、もっぱら、「アッシュネル」反応によって、その分類を行なおうとして、ひたすらこれに精励した結果、ついにこれを実現するに至ったのである。田上式分類は交感神経緊張型に一致する者を第一型とし、副交感神経緊張型に相当する者を第二型とした。そして、第一型と第二型の両者を混合交錯するものを第三型とよぶことにした。田上の観察及び、実験的研究の結果によれば、第一ないし第三型等の植物神経緊張型なるものは、生体内における各分泌腺の機能状態の総和を植物神経を通じて現わしたものであって、すなわち、その人の内臓その他諸器官の個性的作用を示すもの

にほかならないのである。他面、感情と「ホルモン」との間に、密接な関係があることは、周知の事実である。それ故長年月の観察によって、次第にこの型特有の気質態度等が共通的に同一型に於いて現われることを察知するに至ったのである。

- (イ)第一型に特有な身体的特徴、並びにその気質 (1)顔色は一般に良好であって、多くは多少の紅味を帯びる。(2)身体各部の均衝はきわめて良好であって、また、筋肉の発育良好、(3)姿勢はまっすぐであって、多少背伸的で、前屈的状態を示さない。(4)一般に健康度が高く、感冒等にかかることはまれである。もしこれにかかることがあっても、ただちに直るというのが普通である。(5)行動は敏活で、常に家にこもることを好まない。(6)快活で多弁、時としてうそもつく。(7)物事を苦にせず、何事にも元気を出すが、従って同情心も多くはない。(8)あきらめも早いが、怒ることも早いと同時に、わがままも行なう。また、事を決するのに躊躇しない。(9)多少表裏ある行動をとることがあるが、多くの場合はそれを悟られないように上手にやる。(10)性欲等のような欲望に対する統御は多少困難である。従って平素の言行を裏切るようなこともある。(11)何事にも努力を要する学問の分野では、数学的にのびることができるようであるが、文章方面にはのびないようである。(12)老年に及んで中風症に犯される者が多い。
- (ロ)第二型に特有な身体的特徴並びにその気質 (1)顔色蒼白又は蒼黒く、紅味が少ない。(2)身体は比較的大きくて、筋肉の発育は不良。(3)姿勢はわずかに前屈的で、一見健康不良に見え、体操等の成績は良好でない。(4)一般に健康度底く、容易に感冒その他の疾病に犯される。(5)行動は敏活を欠き、容易に疲労し、静居を好み、万事「おとなしい」態度をとる。(6)沈うつで無口であるが、うそをついたり言いすぎたりすることは少ないようである。(7)同情心にあつくて感じやすい方であるが、進んで事にあたる勇気に乏しい。(8)あきらめが悪い方で、苦痛になる事柄等に際し、意志の転換ができないようである。(9)物事に表裏なく正直であるが、その割に「テキパキ」しないため、上の人の気に入らないことが多いようである。(10)引込思案で事を決するのに躊躇することが多く、また、気が弱いためにすぐに立腹するような事も少ない。(11)性欲等のような欲望に対して比較的辛棒できるようである。従って高徳の僧侶や徳望のある教育家等に成り得るようである。(12)学問の方では数学的にのびないが、文学方面にはのびるようである。
- (ハ) 第三型に特有な身体的表徴並びにその気質。第三型は第一型及び第二型に特有な部分を多種多様な状態で混合交錯している者であって、その表徴はとうてい概括することができない。しかしながら実際においては、植物神経緊張の程度が第一型方面に多分に傾斜しているような時には、第一型に特有な表徴を具備するようである。

これに反して、第二型に多く接近する時は、第二型の表徴を多量に現わすようである。 しかし、どちらも旗じるしがはっきりしないので、観察が容易でない。それだけ特徴 が少ないのである。

(1)各型に対する概括的意見。血液型は生涯を通じて不変であるといわれているが、 この植物神経緊張型は不変ではない。年令の推移、疾病・環境の変化及び気候等によ っていろんな変化を示すものである。そして各型共に、これは血液型とちがって量的 関係がいちじるしい。第一型でも、程度の軽い者は元気の程度が比較的少なくて、よ ほど第二型の方に接近するし、これに反してその程度の強い者は、元気旺盛で、意気 当たるべからざる者がある。第二型の者でも、その程度の軽いものは第一型に接近し た気質を示すが、その程度の強い者は、いよいよ元気に乏しくて益々重厚を加えるの である。従って健康度も益々低下を示すものである。普通の状態では、第一型から第 二型や第三型に変化させるようなことは、「ホルモン」療法を行なわない限り起らな いが、肉体及び精神上に及ぼす劇甚な影響、例えば重病・事業失敗・失恋等のような 極端な悲境に陥っている場合においては、一時的に第一型の人も第二型に転化してい るのを見受ける。これに反して、極端な怒りに全身を戦慄させた場合、又は他人と直 接喧嘩斗争する際等には、第二型の人であっても、第一型の状態を示するものである。 年令によってこれを観察してみると、哺乳時代は第二型の量的関係を多分に示すが、 進むに従って第一型の量的関係を増加し、青壮年期、いわゆる生殖期間においては、 これが頂点に達するのも、老年に至るに従い、再び第二型の量的関係を、漸次増加す るものである。内分泌による性格への影響として、もし田上氏の研究に誤りがなけれ ば、たしかにその通りであろうと思われる。なお血液型との関連をのべておられるの で煩さではあるが引用をつづけたい。

本表において特に注目に値いするのは A 型において著しく第一型が少なくして、第二型が甚しく多数であるという事実である。第二型も共に「おとなしいことを思う時、この符合は偶然でない」……中略……

_		・皿は土こ	・血は上と他の下陸宗派上との房外、000名で流いて行いたの侯重次順」								
		第一	-型	第二型		第三型		合 計			
	О	27.72%	78 人	39.15%	110 人	33.10%	93 人	40.96%	281 人		
	A	18.18	44	52.48	127	29.34	71	35.29	242		
	В	26.80	26	34.02	33	38.97	38	14.13	97		
	AB	25.75	17	36.36	24	37.88	25	9.62	66		
	総計	24.05	165	42.98	294	33.09	227	100	686		

「血液型と植物神経緊張型との関係、686名に就いて行いたる検査成績」

「古川氏によって説かれた血液型による気質観察基準に合致しない者に対する卑見」

はじめ古川氏が女高師その他の女生徒二○才前後の者四五○名に就いて行われた成 績においても、基準に合致しない者として O 型に十七・二%、A 型に二三・六%、B 型に四二・六%、AB型に十七・一%をあげておられる。その後、発表せられた諸家の 成績においては、常にこれ以上の不合致をみるようである。今回我々の行なった成績 においてもまた、実にその通りである。ここにおいてわれわれは、何故このような多 数の不合致を来すかを極めたいと考えて、まず植物神経緊張型によって現われた気質 と、血液型によって示された気質とを、生徒各個について照合してみたのである。然 るにその結果はきわめて複雑であって、到底数字を以って現わし得なかったが、また、 きわめて愉快な結果に到達した。即ちその成績は結局次のような結果に帰着したので ある(1) Q型で植物神経緊張型の第一型の者にあっては、大多数が古川氏の基準を遺 憾なく表示するか、或いはそれ以上であって、同氏のい組全部を表示する者もみられ る。(2) O型で植物神経緊張型の第二型の者にあっては、古川氏の基準と合致する者 もかなりあるが、合致しない者も多い。(3) Q型で植物神経緊張型の第二型であって、 その程度が極端に強い者にあっては、かえって植物神経緊張型の第一型と同様の表示 をなすものがある。(4) O型で植物神経緊張型の第三型の者にあっては多少まちまち ではあるが、大体において古川氏の基準に合致するようである。(5) A 型で植物神経 緊張型の第一型の者にあっては、むしろ O 型らしい表示をなす者が多い。(6)A 型 で植物神経緊張型の第二型の者にあっては、古川氏の基準に合致する者が多い。そし て、A 型にはこれが最も多数である。(7)A 型で植物神経緊張型の第三型の者にあっ てはまちまちであるが、大体古川氏の基準に合致するようである。(8) B型で植物神 経緊張型の第一型の者にあっては、古川氏の基準以上であって、万事きわめて積極的 であって、同氏のい組全部を表示する者が多い。(9) B型で植物神経緊張型の第二型 の者にあっては古川氏の基準に合致する者が多いがまた、O型と区別し難いようであ る。(10) B 型で植物神経緊張型の第三型の者にあっては、大体古川氏の基準に近い ようである。(11) AB型で植物神経緊張型の第一型の者にあっては、B型又はO型 同様の者が多い。(12)AB 型で植物神経緊張型の第二型の者においては、A 型の者 に近いようである。(13) AB 型で植物神経緊張型の第三型の者にあっては、大体古 川氏の基準に合致するようである。

総括的考察 豊浦中学校における生徒総数六八八名について行なった血液型検査成績をみると、各型における割合は、古川氏による日本人の割合に比較すれば、O型において僅かに増加し、B型及びAB型において少し減少しているのがわかる。もっと

も唾液から検査する場合は、精密な検査をしても O 型が一○%増加し、これに相当する数だけ他型、ことに A 型及び B 型が滅少しているのである。

植物神経緊張型による区分においては、第二型が最も多く、第三型がこれに次ぎ、第一型が最も少数である。これを血液型の各型と比較するとき、最も消極的の代表者としてみなされつつある A 型においては、植物神経緊張型の第一型が目立って少なく(十八・十八%)その第二型が抜群の数(五二・四八%)を示すことは、まことに興味深いことである。これらの点に関して、充分な考慮をした結果われわれは本来、内分泌系統と血液型の四型との間に、その発生の根元において頗る密接な因果関係が存在しなければならないと、思うのである。

血液型と営業成績との関係においては、我々の検査範囲では AB 型が最も良好であることを認める。次は O 型にして B 型は第三位を占め、A 型が最後位を保っている。ただしこれはたまたまこのような関係にあるときだけであって、これが恒常的関係とは認められない。

植物神経緊張型と学業成績とを比較すると、優等生においては第一型が首位を占めるが、全体として見れば第二型の方が良好である。第三型においては優等生が全く欠如している。そして劣等生は最も多い。

古川氏が血液型の異なるに従って、気質に特徴のあることを、卓越した炯眼で看破せられ、氏独特の創見を立てられたのは誠に敬服に堪えない次第であるが、実際問題として血液型と気質の調査に関わると、氏の基準通りに直ちにうなづけるものもかなりあるが、また全然予見が的中しないことに驚かされることもたびたびである。ここにおいて我々は、植物神経緊張型と血液型とを同一人について照合する必要があることを痛感した結果、これを実施することになったのであるが、遠慮なく言わせてもらえば、今迄多少窮屈な観察において、視界がこれによって急にひらけ、広々としたように思われるのである。

いままでの方法である血液型の四型で各人の気質を判断することは、人間とその気質を同種類に大別するようなもので、この複雑きわまりない人類を判断することとしては、多少、不足のように思われるのであるが、今回我々が提唱する植物神経緊張型でこれに結合させる時は、その表面上に現われる観察形態もすなわち倍加して十二型となるのである。そしてこの植物神経緊張型は各型における、その強弱の程度、はなはだ多種多様である為に、仔細にこれを調査する時は著しく複雑なものとなるのである。すなわち植物神経緊張型も人間の気質を観察する時において、血液型と共に重要なものであると信じて疑わない次第である。」(血液型研究昭和七年七月~九月 10号~12号、長崎医科大学法医学教室田上中次、田中研一、山口県豊浦中学校教諭武田

## 義昌)

同じA型でも頭のきれる権謀術策に長じる行動派の人もいるし、温和で美人という以外に個性のないお嬢さんもいる。O型の人でも抜けめのないO型から、人の好いO型まである。どうかすると、O型とA型・A型とB型・B型とO型の違いよりも、同じ型の間の違いの方が大きいのではないかと思われる場合もある。仔細に観察すると、どのO型も、どのA型も、それぞれの型の特徴を持ち合わせているのであるが、あまりにも同じ型の間で差異のあることを知ると、なんらかの形でこの問題を解決しなければならなくなる。各型をさらに細く分類することについては後述するが、ここでは先学の諸氏によって神経生理学の立場から血液型と自律神経系との関連についての報告を得たことは、血液型と気質との関連の学問的研究の面から考えても、将来の希望を得たものといわなければならない。このような貴重な研究が、すでに三十五年前になされていたことを考えると、あえて煩をいとわず紹介せざるを得なかった。

資料 交感神経系と副交感神経系。自律神経系は植物神経系や生命神経系とも呼ばれ、動物神経系と運動神経系によって体外環境の刺激を受けて、その興奮を中枢に伝え、さらに中枢から興奮を骨格筋に伝えて、これへの適応にはたらくのに対して、内臓や血管に分布してその平滑筋の伸縮をつかさどり、あるいは腺の分泌機能を調節して体内環境、原始的生命の維持に働く。

この自律神経系はさらに交感神経系(sympathetic nervous system)と 副交感神経系(parasympathetic n. s.)に分けられ、表 1 [次頁] にみる ように、たとえば交感神経が血管を収縮させて血圧を高めるように働 けば、副交感神経は血管壁を弛緩させて血圧を下げるといったように 拮抗的に働き、その両系統が緊密に連携して釣合いを保って働くこと によって内臓や血管の機能が円滑にいとなまれる。重松毅著『性格形 成の基礎構造』、誠信書房(四七~四八頁)



表 1 (+促進作用、-抑制作用)

交感神経系		器官		副交感神経系
瞳孔が大きくなる		瞳孔		瞳孔が小さくなる
	+	散大筋	_	
	-	括約筋	+	
眼球突出	+	眼窩筋	_	眼球陥没
分泌抑制	-	腺一般	+	分泌亢進
アドレナリンの分泌亢進	+	副腎	_	アドレナリンの分泌抑制
分泌亢進(少量の濃い汗、平常の		汗腺	+	分泌亢進(多量の薄い汗、運動
汗、冷汗)		1 DK	T	時の汗)
ひどくなると鳥はだ	+	立毛筋	_	
鼓動が速くなる	+	心臓	_	鼓動が遅くなる
収縮(貧血)	+	血管	_	拡張 (充血)
運動抑制/亢進 → 消化管内の食	_	消化管	+	運動亢進/抑制 → 消化器内の
物を抑留し排便を妨げる		刊几日	1	食物の輸送及び排便を行う
	+	消化管におけ	_	
	'	る括約筋		
抑制	_	呼吸器の筋	+	亢 進
抑制	_	輸尿管	+	運動亢進
排尿を妨げる	{-	膀胱収縮筋	+}	   排尿を行う
12611/10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	{+	括約筋	-}	DENN G 11 )
促進	+	子宮筋	_	抑 制
抑 制	_	勃起	+	促進
促進	+	射精	_	抑制

# 集団の血液型

古川氏は個人の気質を血液型との関連のもとで追求したばかりでなく、集団の気質の問題をもとり上げている。気質の違いは職業の選択にも傾向を生じ、民族気質はその国の民族性の形成にも影響を与える。したがって、集団の気質の問題は、会社の組織構成人事管理にも関係し、また民族気質は外交の機微にも触れ、種々な応用面をもっているのである。次は古川竹二氏の「血液型と団体気質」の紹介である。(『血液型と民族性』所収昭和八年共立杜)

「人種気質に就いて考察したものは少い。そのなかでユングが気質を外向性・内向性とに大別して、これをヨーロッパの三大人種に適用している。「北欧人種は内向的であり、地中海人種は外向的であり、アルプス人種はその中間に位する。」(Jung: Analytic Psychology)

この問題について京都帝国大学医学部助教授金関丈夫博士が詳論されている(生理学研究第六巻第九号昭和四年九月)。博士は団体活動性指数  $\frac{A}{P}$  すなわち  $\frac{O+B}{A+AB}$  をユ

説と比較している。 [二、三の字句を補った――編者]

人種	О	A	В	AB	$\frac{A}{P}$	人数
北欧人種	36.1%	47.8%	10.5%	5.5%	0.899	1565 人
アルプス人種	40.0	40.8	11.5	4.4	1.151	9788
地中海人種	48.9	33.8	12.1	4.9	1.567	1457

右表を見る時、興味あることは $\frac{A}{P}$ の値の順序である。この値が一・〇より高くなるほど積極性すなわち、外向的であることを意味し、一・〇より低くなるほど受動的すなわち、内向的であることを意味する。

北欧人種ではこの値が○・八九九であるから、外向的な人より内向的の人が多いことを意味している。次に地下海人種はこの値が一・五七六であるから、内向的な人よ

り外向的な人の方が、かなり多いことを示している。アルプス人種は指数一・一五一であって、北欧人種と地中海人種との中間に位置している。すなわち、ユング氏の人種気質と血液型を主とする気質観とは全く一致している。

## O型が多い団体について

今ここに、ある団体があり、その団体における血液型四型の頻度がわが国民におけるそれと大いに趣を異にしてい、かつその頻度が該団体の示す性質と特異の関係を有しているならば、団体気質の考察に興味ある問題を提供することになるわけである。まず O 型者数において特徴ある実例二三をあげて問題解決の資料としよう。

	О	A	В	AB	人数	調査者
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297	医家女二氏
陸大出身者	52.9	29.4	14.7	2.9	34	古川氏
野球選手	44.8	30.7	19.6	4.9	261	石津氏

陸大出身者は大将より大尉まで五○人の実験を快諾された方々、野球選手は昭和七年四月大阪毎日新聞主催の下における甲子園において行われた第九回全国選抜中等学校野球大会に出場した二十校の本選手百八十名中の百七八名と予備選手合計二六一名における調査である。(四月二○日大阪毎日新聞所載)

右表のうち陸軍大学出身の方々の血液型の頻度についてみる時、わが日本人の平均と比較して読者が直ちに注意をひかれるのは、O型者の多いことであろう。これは何故であろうか? 知っているように陸軍大学は高等な指揮官及びその幕僚を養成する所とされ、その入学試験は学術と人物との両方面より厳重な詮衡が行われることになっている。すなわち、各師団の青年将校中から受験資格者として数百名を選抜し、まずそれらの人々に対し学科試験を行い、そのうちから約百名を第一次の合格者とし、第二次試験としてそれらの人々に対し厳密な人物試験を行なう。そしてこの場合第二次の学科試験において優秀な成績をとった人でも人物試験において、試験官の質問に対する自己の答えに自信がなく、他に雷同右左するような人は不合格を免がれない。かつこういう人は決して珍らしくないのである。このような選抜事情からおしはかる時は修養練達の者を別として、その生来の気質としては前述の O型者の持つ気質は、かなり有利であろうということは誰にも想像できることである。陸軍大学出身の方々の中にわが国において三一・〇パーセントにすぎない O型者が五三パーセントに達していることは誠に偶然でないように思われるのである。

次は野球選手の血液型であるが、この場合においても精神力の旺盛な O 型者が四四・八%に達し、わが国の平均よりも遥かに多数である。これに反して温和な受動的な気質である A 型者が大いに減っていることは闘志に燃えつつ、なお冷静沈着に活動しなければならない野球選手において、やはり必然の現象ではないかと思うのである。さらに O 型者の特徴を持つ団体として一二の例を附加するならば、次表は某女子高等教育の学校における同じ専門の同一学年の状況が適切であろう。この学校は人数の都合上二組に分かれているのであるが、その二組における血液型の分布は左のようであった。

	O型	A	В	AB	人数
一の組	26.2	52.6	21.1	0	19
二の組	42.9	47.6	0	9.5	20

右の両組の組風の特徴は「一の組はクラスの相談の時などによく融和し、ただちに議がまとまるのが常であるが、二の組の方は、議が容易にまとまらず、二の組の生徒等自身が大いに困却している。」という実情である。今、前表両組の血液型の頻度をみると、一の組は O 型者が二六・二%であり、二の組は四二・九%であって、遥かに一の組よりも多数である。すなわち二の組にはクラスの半数に近い O 型者がいる。これが二の組において議が容易にまとまらない最も重要な原因であり、また一の組に O 型者が少なく、A 型者が多いことはこのクラスがよく融和一致する傾向があることの重要な原因であると考えてよいであろう。次の左表はやはり組風の違った二組の血液型の比較である。

	O型	A	В	AB	人数
甲組	31.6	36.8	21.1	10.5	19
乙組	47.4	5.3	42.2	5.3	15

右二組は血液型四型共に、はなはだしい頻度の相異を示している。すなわち O 型者 と B 型者とにおいて、乙組は甲組よりも断然多数であるのに対して A 型者と AB 型者 とにおいては乙組の方が遥かに多数である。そして乙組において、特に著しい現象は O 型者が四七・四%であり、ほとんど全員の半数に達しているということである。

このようにこれらの両組における血液型の配分があまりに、はなはだしい差異を示していたので、その組風にも相違があるであろうと考え、右の事情を全然話さないで

両組の共通の学科である体育の教授に対し「両組の組風は似ているか否か」を質問した。同教授は「実に違っている。甲組の方は従順でクラスがよくまとまり、よく私のいいつけを守ってくれるが、同じことを同じように命ずるのに乙組の方はなかなかきかなくて実に困っている。どうしたわけだろうか。」と言下に両組を比較して答えた。これらの両組の気質がこのようであるということは、前掲の気風表と両組におけるこれらの気質者の分布とを比較すれば直ちにわかることである。

そうしたなら同じ人的集団のひとつであると考えられる民族における場合はどうであろうか。民族性の因子のうち後天的に民族性に影響を与えると考えられる地理的・歴史的・その他の因子を除いた該民族本来の気質、我々のいわゆる民族気質があり、これを述べるには該民族特有の血液四型の頻度でもって、することが出来ると考えられる。はたしてこれが可能であるかを前述した順序によって、O型者が多い民族について、試してみることにする。

## 【O型者の多い団体・民族】

第一: 0型者の多い団体及び民族について

最もO型の多い民族は英国人である。わが国のそれと比較すれば左の通りである。

	О	A	В	AB	人数
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297
英国人	51.4	34.8	9.8	3.9	3899

右表を見れば明白であるように、英国人には O型の者がはなはだ多数であり、五一・四%すなわち国民の半数をこえている。 O型者がこのように多いということは、理智的であり、意志的であって容易に感情に駈られない人が最も多いということになる。一般に英国人は冷静であり、沈着であると評せられ、事にあたっても騒がないといわれる最も重要な原因がここにあると考えることは、かなり妥当であると思うのである。英国人に比較すると、わが国民は O型者数は、はるかに少なく三一・○%すなわち百人中約三○人にすぎないのである。そして感情型に一括することが出来るとした O型の外の三型者のうち、殊に事に当って敏感であり、じっとしていられない B型者では、我々日本人は二一・二%であるのに対し、英国人はわずかにその半数に足りない少数である。また外面的に B型に類似している AB型においても、日本人は英国人の二倍以上に達している。一国の選良の集まりである筈のわが国、衆議員諸氏が議場において実に騒然たるものが多いと言われるのに反し、英国の議場はまことに、静粛で

あると聴くのは、議員諸氏の教養の差ではなく、人それ自身にその原因があると考えられる。

	О	A	В	AB	人数
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297
台湾蕃人	41.2	29.7	21.5	7.5	2216

右表をみると日本人の血液型の頻度と台湾蕃人のそれとの間には興味ある相異が現われている。すなわち日本人には三一・○%にすぎない O 型者が台湾人には一○・二%多い四一・二%の O 型者がいる。これによってみれば台湾人中には日本人におけるよりも、はるかに多数の精神力が旺盛なキカン気な人がいることを示している。これに対し温和従順である A 型者数は日本人に比べて大いに減少している。これらの事情から台湾植民後三十年に及んでもなお霧社事件のような問題が生じた原因は為政者や教育者の努力の不足ではなく、台湾人自身の多数の中に宿っている剛毅な精神を挙げることが出来ると考えるのである。さらに松葉農学博士等の馬匹の血液型についての研究によれば、馬匹の血液型にも四種あり、そのうち O 型に属する馬匹は咬癖蹴癖があり、一般に悍威が強いとある(中央獣医会雑誌昭和四年十二月号)のを見てもその事情を知ることができるようである。

### 【A型者の多い団体・民族】

第二: A型者の多い団体及び民族について

A型者の多い団体をここに二、三あげてみよう。

	О	A	В	AB	人数	
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297	
初等教育者	24.4	43.9	19.9	2.8	221	古川
" "	32.1	50.0	9.5	8.3	84	大田
帝大教育学科学生	28.6	52.4	9.5	9.5	21	古川

右表をみると、負わされる義務が最も重くしかも報いられる所が最も少ない、きわめて地味な小学生の教育を楽しんでいる諸賢には、気質表から推察できるように A型者が大きに多数である。孤児達に対する限りない愛と慈しみとを持ち、教師の範を千

万に垂れ、その墓碑銘には Alles für Andere, für sich Nichts. (Everything for others, nothing for himself.) と誌されているペスタロッチの生い立ちとその人生とを味う人は、おそらく彼が我々のいわゆる A 型気質の人であったことを疑う人はないであろう。もし彼が O 型気質の人であったならば学校の経営もあのようには失敗しなかったであろう。また彼の人生もあのような悲惨には終らなかったであろう。

次は某帝国大学における教育学専攻者に対する調査であるが、この団体においても やはり A 型者が多数であった。この場合は調査人員が少数にすぎないのであるが、一 期に四ないしは五名の卒業生しか出ないのであるから、少いとは云えないのである。

以上から教育という地味な仕事を天職としてこれをたのしみ、ここに自己の世界を 見出そうとする人々は、その気質上より推して A 型者が多いであろうということは、 まことに自然であろう。

次に高良武久博士及び長谷川虎雄学士は人によって神経質症候を著しく現わしやすい者とそうでない者とがあることを想定し、そして神経質の内省を調査したところ、彼等の多くが、いわゆる内向的性格者であることがわかった。したがって、すなわちこの内向的性格者がある境遇に出会った時、特に神経質症候を現わしやすいということが当然推知されるであろう。

それ故に両氏は神経質的性格を生物学的にもさらに深く理解する為に種々のテストを試み、その一手段として愚者の血液型をも検査し、我々の所説を裏書きしている結果を得て、「神経質の性格的素質」と題し、これを報告せられている。(日本神経学会昭和七年四月及び神経質昭和七年五月号)その結果を表示すると左記のようである。

	О	A	В	AB	人数
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297
神経衰弱病者	9.0	50.0	23.0	18.0	100

右をみると、内向的である A 型者は神経衰弱病者百名中五十名に達し、内省において A 型的である AB 型者は、わが国の平均の二倍にもなっている。これに対して O 型者においては、わずか九名で、わが国の平均の三分の一にも足りない。したがって A 型的気質を持っている人を合計すれば(A 型と AB 型者を合計すれば)七〇%の多数に上るわけである。内向的性格者が神経衰弱症と密接である関係を有しているということが明白に現われている。

世界の強国中A型者の最も多いのはドイツ人である。

	О	A	В	AB	人数
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297
ドイツ人	38.4	44.4	12.6	4.6	17982

前表のようにドイツ人においては O 型者も A 型者も日本人より多数である。したがって意志型者数において日本人は大いにドイツ人に及ばないと同時に、A 型者すなわち受動的保守的な人においても、また大いにドイツ人に劣っていることを示している。そうしたならばドイツ人の民族気質は、わが国のそれと、比較すれば右のような気質が大いに現われなければならないことになる。どうであろうか。ドイツ人が勤勉であり忍耐強いことは世界に定評があり、このことはドイツ人の忠実な言葉があるのをみてもわかることである。

## 【B型者の多い団体・民族】

第三: B型者が多い団体及び民族

	О	A	В	AB	人数
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297
騎兵将校	37.3	32.0	25.3	5.3	75
某高商生徒	28.3	31.0	26.9	13.8	145
右高商生徒の内	21.5	21.2	21.2	16.1	02
中学出身	21.5	31.2	31.3	16.1	93

騎兵将校には一般に快活磊落な人が多いといわれるが、前表に見るように O 型者と B 型者すなわち我々が能動型としている気質者がわが国の割合よりもかなり多い。そして、A 型者と AB 型者は、その反対におおいに少ない。「肥馬に跨り駒の蹄に敵を蹂躙する」という捷快な戦に憧れながら騎兵科を選んだ人が多いであろうということは、想像にかたくないことであるが、このことは又騎兵操典草案を読むとき明らかに推察できることでもある。すなわち「騎兵は高脆かつ鋭敏にして忍耐力に富み、体力強健にして武技に熟練し、攻撃の令が一度下れば、敵兵の多寡、敵火の強弱地形の難易を顧みず、勇躍奮進して敵を圧倒殲滅する勇気なかるべからず。」或いは又「独断専行は騎兵に欠くべからざる要件である。もし騎兵は遠く友軍を離れて行動し、また、その戦斗経過は通常迅速で変化きわまりないものでなければならない。為さざると遅疑することは騎兵の最も戒むべきものである。両者はその方法を誤るものよりも、そ

の害はもっとはなはだしいのである。」とあるように騎兵である人が要求させられている精神は皆、積極的、進歩的な気魄である。騎兵将校に O 型者と並んで B 型者が日本人の割合よりも多いことの理由は明らかにわかっていただけたと思う。

次は某直轄高等商業学校生徒一四五名について、我々が実験をした結果である。この場合にもB型者及び外面的にB型的であるAB型者が、わが国の割合よりもかなり多いのである。実業界の人々は一般に陰鬱ではなく、闊達であり、またその仕事は一般に派手であることは、地味な教育社会の人々やその仕事とは、大いにその趣を異にしているが、この活動的であり派手な方面を選んだ学生等には、はたしてB型者が多かったのであった。さらに、我々は右の生徒一四五名のうち中学出身者が九三名(他は商業出身)いることを知ったのでそれらの人々、すなわち自己の自由意志によって、高等商業学校を選んだ者が多いと考えられる。これらの人々の血液型を調査した結果、前表のようになった。この場合は全体よりも一層B型及びAB型者の割合が多いことは、まことに興味ある事実ではないだろうか。

次にその気質を考える時、恐らく誰も一考するであろうと思えるルンペン群について、その血液型を調査し、松村、木下両氏が報告されたのが次表である。 (東京医事新誌昭和七年二月六日)

	О	A	В	AB	人数
ルンペン	20.9	29.9	28.8	20.4	1191

ルンペンにはB型者とAB型者とが大いにわが国の割合に比べて多いということは、予想できることであり、またこの結果は、はなはだ注目に値すると考えるのである。昭和七年春、東京某職業紹介所において催されたルンペン座談会の新聞をみると、彼らには明日明年の計を思うことに興味を持たず、今日を愉快に送ることで満足する者が多く、彼らに貯蓄を奨励しようとした試みは失敗に終わったということであった。ルンペン達には正業について地味な生活に転ずる人が少ないと云われるのは、彼らの多くが持っている生来の気質の結果であると考えることが出来るようである。すなわち、彼らがルンペン生活を楽しむかに見えるのは、その自然の性に従っているからであるということが出来るであろう。

ここに老婆心ながら一言しておきたいことは、このようにルンペンに B 型者が多いと云うと B 型者のうちには不快感を抱く人があるかも知れないが、それは理由のないことである。単に B 型者が物事に淡白であり、執着心に欠けるという気質の例を挙げたにすぎないのである。

	О	A	В	AB	人数
英国人	51.4	34.8	9.8	3.9	3899
中国人	32.6	31.4	27.3	8.7	4428
インド人	31.3	19.0	41.2	8.5	1000
ジプシー	34.2	21.2	38.9	5.8	385

次にB型者の多い民族においては、どうであろうか。

民族気質の比較を、わかりやすくするために、英国人における血液型の割合を掲げたのであるが、今これと中国人における割合とを対照すると、その差があまりに大であることが、読者には直ちに気付かれるであろう。すなわち、B型者は中国人の場合二七・三%であり、英国人の約三倍に及んでいる。B型者は一般に派手な気質であり、その修養がない人においては、事実を誇張する傾向がある。我々の研究によっても、他の研究者の報告によっても会社商店等の宣伝部員にこの型の人が多いことは、共通の興味ある現象である。

このような気質的特徴から考えて、かつての日中戦争における中国側の宣伝が、まことに妙で到底わが国など及ぶべくもなかったことも、その最も重要な原因の一つは、中国人にB型者の多い結果であることを挙げてもよいであろう。前表の数字は諸氏の報告を我々が平均して得たものであるが、もし地方的に見るならば、中国における山東省においては、B型者が三六・八%であり、山西省においては実に四七・五%に達している。服部宇之吉博士はその著『中国の国民性と思想』において「中国には古来謡言が盛んであったことは周礼に造言の刑というのがあったのをみてもわかる。」と述べておられるのをみても、この事情がわかると思うのである。また中国の文学には他に類をみないような誇張的な形容詞が発達していることも、B型者の多いことと因果関係があるのではないだろうか。

次にB型者の多い民族は、インド人とその分派とされているジプシーである。インド人が感覚的であり、ものに感じやすい性質を特徴とすることはマクドウガル (McDougall) などもこれを述べているが、我々は興味ある例を左に掲げてこれを考えてみようと思う。

それはサンスクリット文化全盛時代の文学書に現われたインド婦人の美醜を階級的 に区別した一文である。 (詩人コカ著ラチラ・ハスヤの一節、高杉新一郎博士訳)

第一級ロチウム (蓮花)

これに属する女性の歩む姿は白鳥の如く、皮膚には黄金色を呈して白檀の香を放ち、

又麝香を含み昆虫を誘うこと花の如し。眉は弦月の如く、感情に応じて動くこと軽く、 眼は羚羊のその如く温和にして、瞳は夜の如く暗く而も暗夜の星の輝きありて、背に 朱を点ず。……胸はビルマの果実の如く、又金盃を伏せたる如し、腰は湾曲性に富み て蛇の如く立って舞うや、四肢の円滑なる運動は肉感的誘惑を超越して唯純美の至境 に遊ばしむるのみ。彼女は好んで宮廷にこもり、天に仕えて絶対に従順なり。又バラ モン教の教典を信仰する念、頗る篤く……

#### 第二級シトリニ

性質快活にて髪長く、恰も蛇の如く、声は撫するが如く柔らかにして、下肢は芭蕉の幹の如く丸し。歩行は喜悦せる象の如く快楽を好む……

#### 第三級ハスチン

頭髪豊潤にして光輝あり、其眼付は愛の神カカマをして恋に陥らしめ、セキレイを して三舎を避けしむ。体は黄金の如く美しく、耳には種々の宝玉を垂れ、衣服は花に 飾らる。性頗る快楽を好む……

## 第四級サンキン

頭髪は上に湾縮して圧平となり、顔は情に応じて形を崩し易く、体は豚の如く、皮膚にば魚類の香あり、性怒り易く争を好む……

このように右の四種があげられているが、もし、その叙述を基としてその血液型と 対照するならば左のようになるであろう。

第一級ロチウム --- A型

第二級シトリニ —— B型

第三級ハスチン —— B型

第四級サンキン ―― 0型

すなわち、「性快活にして快楽を好む」婦人がインドに多いことを察することができる。

最後にジプシーであるが、ジプジーの生活という言葉が誰にも連想させるように、 過去に悩まず行末を憂えず、一定の場所に固定することを好まない極めて愉快な民族 であることは、余りにもよく知られていることであり、特に説明する必要もないであ ろう。

### 【活動性指数による民族気質】

三 団体(活動)性指数 $\frac{A}{P}$ の値による民族気質

民族気質は各民族に配分されている血液型の状態によって知ることができたのであ

るが、さらに他の側面、すなわち各血液型者の活動性を基として考察した我々のいわゆる団体性指数  $\frac{A}{P}$  すなわち  $\frac{O+B}{A+AB} = \frac{Active}{Passive}$  の値によって、民族的気質を試みることとする。

今この $\frac{A}{P}$ の値によって、前にあげた諸団体を一括表示すると次のようになる。

	n <del>   </del>	陸大 野球 初等 ″	"	教育科	神経衰	騎兵	高商		
団体	日本人	出身者	選手	教育者		学生	弱病者	将校	生徒
$\frac{A}{P}$	1.09	2.09	1.81	0.80	0.71	0.62	0.47	1.67	1.23

上表で明らかであるように、団体の性質上、どのようにしても受動的団体であろうと考えられない陸軍大学出身者、野球選手、騎兵将校及び高商生徒等の団体指数は、ひとつの例外もなくー・〇以上であり、すなわち能動的団体であることを示しており、これに対して、いかにも温和で受動的な団体であると考えられている教育者や、神経衰弱にかかった人にあっては、指数が、いずれもー・〇以下で、特に神経衰弱にかかった人では指数がわずかに〇・四七に過ぎないことは、真に興味深い現象であり実社会の種々な方面に利用できることを暗示している。なお、この $\frac{A}{P}$ の値については、岩波海軍軍医少佐も海軍兵学校全生徒によって組織されている十六ヶ分隊の種々な作業の成績について詳細に検討されている。(犯罪学雑誌昭和七年五月号)

次に民族においてはどうであろうか。我々の案であるこの $\frac{A}{P}$ は、前述のようにO型者とB型者とを、おおまかに観て能動型とし、A型者とAB型者とを受動型として一括し、これらの両者の比を求めることを意味している。大別すると右のようであるけれども、各血液型者の気質表において明らかであるように、同じ能動型といってもO型者の気質とB型者のそれとの間には、可なりの相違があり、またA型者とAB型者との間においても、同様である。それ故に、民族気質を詳細に比較するには、各型者について考察しなければならないのであるが、民族の活動性は大体ADD0値によって知ることができると考えるのである。

(1)世界の強国といわれている国においては、指数はことごとく一・○以上である。

# 70 第一部歴史編 集団の血液型

すなわち、能動的民族であることになる。 (日本一・○九、フランス一・一六、ロシアー・二七、イギリス一・五六)

(2) 指数が一・六以上の民族には、よく統一された民族がひとつもない。(アラブー・六七、フィリピン二・三三、ジプシー二・七二)

このことはある団体や民族に O 型者や B 型者があまりにも多いと、かえって統制が 困難になるということを物語っている。」

#### 理論編 第二部

# 関係的人間学への試み



#### 論 原

# はじめに

## 【気質と血液型は仮説である】

「血液型が違うことによって、ひとはそれぞれ異なった気質をもつ。同一の血液型者間 においては共通の気質をもつ」といった古川学説は仮説である。同様に、私共の気質と血 液型説も仮説である。古川竹二教授は事明の理として、血液型と気質との関連をのべるだ けで、学問的に証明することはなかった。私共もまた、現在の段階で仮説をのべる外の手 段をもたない。ただ私共の仮説は、古川学説の発展として、気質と血液型との関連の終局 的証明を、心理学の分野から生理学の、あるいは生物化学の分野においたことである。も ちろん証明への手続きは一つとしてとられていない。仮説として理論構成を試みたもので ある。

古川説は賛成者からも反対者からも、おおくの誤解をいだかれた。その一つは気質説を 絶対的なものとしてうけとったことである。相手の血液型を知ることは人間としてのわく を知ることであり、又一方その人と自分との関係を知る基本的知識の一つであるにもかか わらず、O型が積極的であるというと、あたかも O型者の全部が積極的性格をもっている かのように解釈することである。後天的に形成せられる人格 (パーソナリティー) 性格 (キ ャラクター)その他階級、趣味、スポーツ、職業等と並んで、気質もひとの行動を規定す る要件の一つにすぎない。

### 【気質とは何か】

「哲学辞典」によれば「気質という概念は性格や知能と並列的なものとしても、性格の 下部構造の意味でも使用される。前者では主として、感情的行動を左右する人格の一側面 と考えられることが多い。つまり気質は遺伝的な先天的な要因に基づくものであるという ことができる。」(岩波書店 哲学辞典)

気質は現代心理学によれば人格(パーソナリティー)の一側面の性格(キャラクター)

の下部構造と規定される。

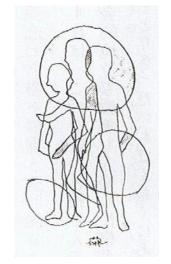
今ここに会社の社長さんがいるとすれば、この会社の社長さんの気質をたぐるため、われれは外側から、容貌も服装も社会的地位も教養も人格も性格もすべて、とりさってもらわねばならない。そうしてすべてをとりさったいちばんおくにあるもの、それを気質と名付けたい。それは生命の情報の形式である。しかし気質は根元的な生命力の上にのみあるのではなく、後天的に形成せられるすべてのものの上に、大きな影を投げかけるものである。

くりかえすと、気質は次の如く定義される。人間の生活行動を決定するもののうちで、 先天的なものである。男女の区別はもっとも重要な条件である。人種や歴史的に獲得され た民族性も同様である。また後天的に形成せられた階級や教養や性格や人格も同様である。 しかし、私共が気質といった場合には、そのひとが意識しようがしまいが、先天的にもっ ている行動の形式、対象の選択を含めて、そのひと特有の人間関係の形式といいたい。遺 伝的に人間の行動を規定する気質は、従って、事実の上からも、私共の哲学的立場からも 普遍的なキャラクターやパーソナリティー以上により本質的なものと考えているというこ とである。

一般に性格(キャラクター)や人格(パーソナリティー)は後天的に形成せられるものとしてもっとも人間的なものであり、普遍的であるとされる。一方気質はいわば、日影者のようになくもがなと考えられ、音楽の素質があるといった場合にはほめられ、虚弱な体質といった場合には嘆かれるといった偶然の因子として扱われていはしないだろうか、或いは成功者や英雄の一面として、気質はエピソードをそえるものでしかないのであろうか、気質はこのように、あるときは人生の成功、不成功の価値判断の前に立たされ、またあるときは没価値的に扱われることに対し、私共は深い疑問をいだきつづけるのである。気質はよし、人生の条件における功罪に従って、価値評価をうけるにしてもより本質的なものをもちあわせていないだろうか、いなむしろ、学問が普遍的なものを指向すればするほど

特殊を、個を顕現する気質を評価しなければならないのではなかろうか。

尚蛇足であるが、ひとの行動を規定するタームをあげてみよう。 本能、性質、習慣、慣行、学習、流行、モラル、儀礼、パターン 等…… 気質はそれらすべての行間の行動の底にあるきわめて流 動的な傾向若しくは形式と考えているのであって、並列するもの ではない。



# 古川学説を克服して

## 【関係的人間学としての血液型と気質説】

私共の気質説は古川説とは全く異なる。古川説では A 型、B 型、O 型、AB 型の長所短所を数項目ずつあげて、各タイプの絶対的基準をおいた。私共の気質説はこれと異なり、絶対的基準をおかず、かわって、各タイプ間の相対的関係をもってした。O 型と A 型、A型と B 型、O 型と B 型、AB型と三型との間にどういう関係があるかということを追究した。その結果、これらの間に必ず一定の法則があることを知ったのである。又その関係は年令や男女差や国籍等によって変化するものでないことも発見した。従って、古川説とは全く異なるといっているのであって、その意味は、古川説はニュートンの力学のように、古典的に通用する場所があり、私共の説とかかわりなく存在し得るということである。同様に、先に紹介したユンクの外向性内向性であろうとクレッチマーのやせ型、肥り型の分類であろうとデルとボルの精神病の五体質の分類であろうと、私共の気質説と矛盾するところがないばかりでなく、かえって相協力するものであるというのである。

#### 【探究の過程】

何故、気質と血液型との間にこのような関係があるのか、どうしてこのようなことを思 いついたかを告白すると、私共が二年程前[「二十年程前」か?――編者]、古川説を中心 に、ひとを分類して、人間理解に役立てていたが、すぐマンネリズムに陥り、又壁にぶつ かって発展できなかった。先にのべたように、O型は意志が強いといったところで、家族 愛などにかかわると、意志が強いなどとは義理でもいえないような場面に出くわす。そう すると、意志が強いという特徴を動植物の分類の標識の如く、使用することはできなくな る。そこで止むを得ず、物見高いは江戸のつねといっても、O 型の野次馬根性、B 型の野 次馬根性、A 型の野次馬根性というように、それぞれ、野次馬根性の表現が異なると考え た。この考えは、今尚変っていない。しかし、A 型の好奇心はどういう風にあらわれ、B 型の好奇心はどう、0型の好奇心はどのようにということまでは、現在明白に言えない。 こうして、堂々めぐりをしながら十数年を経たであろうか、その間にひとつの発想が、私 共の間に育まれてきたのである。それは、戦後上映されたティズニーの映画「沙漠は生き ている」の動物たちに見られる自然の摂理であった。弱い動物は強い動物の餌食にされな がら、強い動物もまた自然の摂理に従わなければならないというあれであった。人間相互 間にもこういう力関係があるのではないかと考えたのであった。私共のひとりはB型であ った。B型は日本では疎外されるのではないかと漠然と思っているが、具体的には、いつ も O 型に敗北するという経験をもっていた。私共のもう一人は A 型で、かれは O 型をい つもくみやすい相手であると感じていた。一方 B 型にとって、A 型は苦手ではなかった。 反対に、A 型にとって B 型は扱いにくい相手であった。こんな経験をつみかさねているうちに、A 型とか B 型とか O 型とかという絶対的な基準はなく、対象に対して、反応がことなる相対的関係があるだけではないかと考えたのであった。

こうした立場から観察してみると、色々なことがわかってきた。例えば一人の人物について、ある人は善良な人間というのに対し、他の人はその人を欲張りの腹黒い人というような、全く反対の言葉がでてくる場合、客観的な利害関係から来る評価を除去しても、その人に対する気質のちがい、血液型のちがいによるものがあることを知ったのである。恋人と恋人の場合にも、性別に関係なく、血液型の差異によって、一方は積極的、他方は消極的というような関係が生じることを知った。しかし、この場合、積極的なり、消極的なりという気質は絶対的なものではなく、対象によって同じ人が全く反対の立場に立つこともあり、さらにいえば、A型とO型とB型の間には一つの循環関係があって、絶対の優越者はないということである。こうして、私共の関係的人間学は、血液型のABO式を基準として、生物その他の科学の理論を採用して、古川説を克服したと思っているのである。勿論、科学的に証明するまでには至っていないけれども、心理学的に、仮説として土台はできあがったと確信しているのである。

### 【古川説とのちがい】

私共は古川説との違いを次のように考えている。一方は血液型による気質の発現を絶対的なものとしてとらえており、他は血液型による気質の発現を流動的なものとしてとらえているということである。それは、丁度、地球上に静止している人間を、静止している、どこからも力が加わっていないといえると同時に、この人間は、実は地球と共に動いているように、気質は絶対的なものと同時に、流動的なものである。古川説と私共の仮説との関係はこのようなものではないか、もちろん、古川説の絶対的基準は、きわめて不満足なものである。従って、古川説を無条件に承認することができないのであるが、将来、必ず古川説は完成されるものと信じている。完成された古川説はどんなものであるかというと、推察ではあるが次のようなものであろう。A型は消極的だとか順応性に富んでいる、決断力に欠けているといったような標語によるものではなく、外界の事物に対する血液型各型の視覚、聴覚、触覚等の反応、感情・意志・感覚測定による科学的データによって、純粋な絶対的基準が得られるのではないかと考えている。従って、A型は消極的、順応性に富むといった標語はいちばん最後に得られるものである。何故、血液型の組成の差異により、異なった基準が得られるのかという生理学上の学理が究明されなければならない。……いささか、先の長い研究である。私共の関係的人間学に対する究明も、全く同様の手続きで

ある。しかし、その場合実験は、一般に興味のうすいものになるであろうし、いつのことになるか見当もつかないので、仮説ではあるが、とりあえず心理学の分野で発表することにしたのである。この仮説的原理は、これからの記述によって読者にも納得ゆくはずであるが、現実に我々の生ける人間関係に応用してみると、確実に実証できるもので、極めて多彩多方面の成果を上げることができるのである。したがって、今の段階に於てこれを発表することは、有益でもあり、また、志ある人の支持を得て、将来の科学的探究を期待するという意味を持っているのである。

# 各血液型の相関関係

#### 【職場の人物批評】

数人のものが集まって、上役の噂をする。つとめの帰り一杯ひっかけながら、毎日のようにくりひろげられる話の一例である。第一、上役をO型と仮定しよう。B型「あいつは自分の栄達しか頭にないんだ。そとまわりばかりしていて、上級官庁の御機嫌をとっているじゃないか」B型「いや、親分肌というのかな、話は信用できんが頼母しいところあるな」A型「別にどうということないじゃないか、単純な人間なんだよ」A型「いゃ困るよ、仕事の本質を理解できないのだからね」AB型「いいじゃないですか、馬鹿なんですよ、俺の計画にはいつも予算をだすよ」

第二、上役を B 型と仮定しよう。O 型「融通がきかないんだよ、無能だ、くびだよ」O 型「人間が馬鹿正直だから、やりやすいよ」A 型「ほんとかい、こうかつだよ」A 型「仕事のことはよく知っているな、頑固だけれでも」AB 型「少々いい加減じゃないですか、もっとやることはやって欲しい」

第三、上役を A 型と仮定しよう。B 型「すじは通っているね」B 型「いや保守的で駄目だ」O 型「頼母しいね」O 型「いや、あれはあれしかできないんだ」AB 型「そうね、気が弱いみたい」

こうした人物批評が、日本の職場のいたるところで、ほとんど ひっきりなしにつづけられているのではないだろうか、終りのな い話のように、くりかえしくりかえし、むしかえされている。一 体、われわれはなんのために話をするのであろうか。誰かが言っ ているように、相手を知るために話をするのだ。だから、相手を 知ることができれば、話をする必要はない。しかし、実際は一生 かかっても相手を知りつくすことができないために、とことんま で話をして、夜が明けて、それでもまだ話が残っているという工



合である。人間というものは、本来そういうものなのであろうと思う。もちろん話という ものはすべてこのような人間理解のための話ばかりではない。例えば「ここで一挙に設備 投資すべきか」「隠忍自重すべきか」というような経済政策の対話もあろうし、「実存主 義と共産主義とは結びつくと思いますか」というような哲学の話もあろう。少なくとも気 質をこえた普遍的世界であると人々は信じるであろうが、私共は、実はそうは考えていな い。例えば「社長の今度のやり方は気にくわない。」「課長の見通しの甘さったら、あり やお先まっくらだ」といった批評のなかには、会社の経営に対する見解の相違だけではな く、自己主張も含めて、社長なり課長との人間関係を明瞭に示していると私共は考えてい る。いつもおかしく思うことは、第三者を批評しているとき、語り手は相手に、第三者に ついての批評を納得して貰えると思って話をする。しかし、語り手と第三者の関係と、相 手と第三者の関係はおおむね違っているのがふつうではないか、例えばシェクスピヤのロ メオとジュリエットのように、親同士はけんかしていても、子供同士は仲良しである。利 害関係を子供は知らないというだけでなく、気質のちがいがあるのではないかと思うので ある。例えば、夫婦の間で、夫はあの家主は強欲だというのに対して、妻は家主は几帳面 の人だといった場合、夫と家主との関係と、妻と家主との関係の差は、気質からくるもの があるにちがいないと考えているのである。

#### 【内在する相対関係】

ひとは人格をもっているから、そうやたらと他人に対して、態度をかえることはない。しかし、よくみると、同じ人が相手によって、親しげに話あったり、話をするたびに緊張を感じたり、圧迫や萎縮を感じたり、反対に高圧的にでたりすることを観察することができる。こういうことは特別の支障のない限り、学問の対象にならないし、心の迷いかなにのように取扱われる。けれども、果たしてそうであろうか、セールスをして歩く場合など、非常に話やすい人とそうでない人との区別が、おのずからわかってくるのではないかと思う。そうした場合、話やすいとか、苦手というのは、一般的な人づきあいのいい人、悪い人という基準とは別箇に、セールス・マンの気質と客との気質との関係にその理由がかくされていると思うのである。更に、話やすい人、苦手といった差異は、気質を主とする人間関係というだけではなく、実際に自動車を無理をさせても買わせてしまうという成果の底に、力関係が内在していると考えたのである。気質なんてと一笑にふされそうなものであるが、気質こそ、最終的に人間関係を決定するきめてであるとさえ思うのである。

気質に関連して、世間にはおかしなことが沢山ある。例えば、B型がA型を「融通がきかない」といった場合、この言葉はA型に対するB型のある関係を示す言葉であるが、A型はB型の要求に対し、どうすることもできないのである。よく角力や野球の解説をきい

ていると、選手の批評をしている。そのなかには、足の位置が悪いとか出足がおそいとか 訓練によって、なおる種類もあるが、弱気だから強気になれというようなことは、持って 生まれてきた素質であるからどうにもならない。そういうことがままあるように思うので ある。この場合、私共のいいたいことは「融通がきかない」気質を克服して「融通のきく」 人間になることが、生きてゆく至上命令の一つで、後天的に、キャラクターとして形成す る努力がいるというのなら別であるが、若しそれほどのことがなければ「融通がきかない」 という言葉はA型にとってなんにも関係のない言葉であるということである。B型にとっ てはこうした A型は不満であろうけれども、それほど重大な支障はない。しかし、次の場 合は事情がことなる。O 型が A 型を批評する。「筋々といっているが、現実はこう変って いるんだ。だから現実に即して手を打つべきだ」といったとき、前と同様 A 型としては、 どうしようもない気質の転換を求められているのである。それ故、A 型は一歩もゆずれな い。けれど、A型とO型との関係は、気質の上で主導権をA型がにぎる関係にある。とい うことは A 型が O 型を支配しているということである。別のことばでいえば O 型は A 型 のやり方に従わされてきたということである。それ故、そういう内在的な事実を知らない で、A 型は O 型に圧力をかけては困るというのである。先日、古文書調査で農村に行った とき、昔の惣名主のおじいさんに会った。彼は酒屋や百姓がきらいでつとめにでたといっ た。生活の支えはおばあさんが店にでてきりもりしてきたのだった。私共はおばあさんに、 おじいさんには苦労したでしょうといった。おばあさんからはすぐ苦労話がでた。おじい さんは A 型、おばあさんは O 型であったが、A 型と O 型との関係はどういうものか知ら ず、ただ男は勝手なことをし、女は家をささえるものとして忍従の世界に生きてきたので あった。しかも、O型のおばあさんが経済的に生活を支えることを強いられたのである。

A型とB型との場合はB型がアクティブでA型がパシィブに対応するから、B型にとってA型が融通がきかないとみえても、B型に対する影響は消極的で、協力関係に不協和音が加わるというだけですむけれども、B型の見通しの甘さとか慎重さの欠如のために、物事が失敗に帰する場合、A型はどうしてもその被害を受け、常に後始末をする立場に追いやられるから、当然の事として相手の気質の転換を迫ることになる。ひるがえって、A型とO型との関係において、A型が筋々といって現実に対する機敏な判断を欠くということは、O型に対して重大な影響をもつということである。この関係は力関係であると考えているから、若しO型がA型に対して、その要求を通すためには苦しいねばり強いたたかいを試みなければならない。A型がB型に対して、また、B型がO型に対しても同様のことがいえる。

ひとは本源的ないみにおいて、一個の生命である。生命であるが故に、生命の維持、拡大、保全のためにそれぞれの機能を発揮せしめるということができる。従って生命は独立

した存在であり独立の機関である。しかし、飢餓におそわれて、食物を手に入れる場合でも、実は人間社会において、なんらかの対象なしには存在しない。あるいは競争者としてあるいは協力者として、ひとは他者と関係する。あるときは優者として、あるときは劣者として、さまざまの対応をもつ。そうしたひととひととの対応には後天的な要素を除去すれば、根源的に純粋に生物学的原則が働くのではないかと推論したのである。

ドイツの心理学者で精神科医であったフロイト (一八五六~一九三九) はひとの本能に 嘱目し、本能のエネルギーのみが唯一絶対のものとしたのである。パーソナリティーという後天的に形成せられるものすらも、そのエネルギーは本能よりもたらされたものである と考えた。十九世紀の物理学の業績のなかに、輝かしい成果をもったヘルムホルツのエネルギー保存の法則を、彼の恩師、ドイツのすぐれた生理学者ブリュッケはこれを人体に適用し、フロイトは更にこの力動的学説を人間の心に適用したのである。

# 【生化学的根拠】

筆者らが血液型と気質との関連において達し得た結論は、生物学・生物化学の法則の心理学への適用ということであった。血液は化学的分子式によって表現される純然たる化学物質である。この化学物質である血液が、人間の行動や環境の変化、人間関係における位置の差異によって、どのように対応し変化するのか、これは生理学との関連において究明され得るものであると信じたのである。最近の学説によれば生物はエネルギーと物質と情報よりなるといわれる。気質がひととの対応によって異なるのは、異なる血液がもっている情報によるものと考えられる。血液型は単に血液のみではなく、唾液や汗やその他すべての体液にあらわれるもので、感覚、感情、思考、判断等において、一定の反応法則をもつものではないかと思考した。例えば、配偶者を選択する場合、学歴とか財産とか現実的なものによって決定されるにしても、もっと基本的には、生物学的な選択がはたらくのではないだろうか、配偶者としてあの人はいや、この人ならばといったとき、あの人とこの人との差は(学歴や財産等は別にして)、もっと自然性に根ざすものではないだろうか、うまくいった組合せを、精神分析によって、その組合せの妥当性を証明できるであろうが、私共は血液型による分析によって、基本的な関係を、一層科学的に証明し得ると考えたのである。

# 血液型による人間関係の理論

## 【具体例による展開】

それでは、血液型の相違によって、人間関係をどんな風に理論づけられるであろうか、 先にのべた事例にたち戻ってみよう。事例は第一より第三例まで、上役をO型、B型、A型とし、それに直属の下役として異なった型を配した。下役にO型、B型、A型それぞれ 二例ずつあるのは、一は支持する側より他は反対の立場から書いたものであるが、作為的 につくったものであるから、適切でないところがあるかも知れない。

大体、どんな関係が上役に対して、異ったタイプの下役から出てくるかというと、上役 O 型に対して、B 型の批評はきびしく「あいつは自分の栄達しか頭にないんだ。そとまわりばかりしていて、上級官庁の御機嫌をとってるじゃないか」と、上役 O 型の自己本位な点を見抜いている。これに対して、B 型は上役 O 型に頼っているという関係で、「いや、親分肌というか、話しは大風呂敷だが、部下の面倒をみてくれるからな」ということになる。下役 A 型の O 型に対する態度は基本的には無害とみる場合と、あれでは困ると思う場合の二通りある。 A 型「別にどうということないじゃないか、単純な人間なんだよ」下役 A 型からすれば、O 型はやりやすい相手ということができる。しかし、下役 A 型が積極的に仕事でもしようと思う時、上役 O 型は頭が悪いのではないかと思われる。 A 型「いゃ、困るよ、仕事の本質を理解できないのだからね。建物ばかりたてて、魂をいれることを知らないからね」と。 AB 型の O 型に対する批評は、もっときびしく、無視に近い。 AB 型「いいじゃないですか、馬鹿なんですよ、俺の計画にはいつも予算をだすよ」と。

第二の上役を B 型とした場合を考えてみよう。下役 O 型の上役 B 型に対する対応は馬鹿にしきったものといえることが多い。O 型「融通がきかないんだよ。無能だ、くびだよ」に現われるように。O 型は B 型のわくをこえて、活動領域をもとうとするから、自然にこういう評価がでてくる。一方それ程上役 B 型と接触がなければ、O 型はのんびりつとめている筈で O 型「人間が馬鹿正直だから、やりやすいよ」ということになる。しかし、これは B 型と O 型との関係で、B 型と A 型との関係となると、がらりと変ってくる。O 型には無能に、馬鹿正直にみえる B 型も A 型には「ほんとかい、こうかつだよ」となる。A 型からすれば、B 型の妥協性、優柔不断、日和見は、こうかつな油断のならないものに見えてくる。上役 B 型と人間的接触が強くなければ、仕事だけの上の場合には A 型「仕事のことはよく知っているな、頑固だけれども」として、うけいれることになる。AB 型の上役 B 型に対する批評は B 型自身も知っている痛いところをついている。AB 型「少々いい加減じゃないですか、もっとやることはやって欲しい」と。

第三の上役 A型にした場合、日本にはもっとも多い例であるので、ことばも選びやすか

ったが、 $\mathbf{B}$ 型「すじは通っているね」では、下役  $\mathbf{B}$ 型が上役  $\mathbf{A}$ 型を一応うけいれた発言である。 $\mathbf{B}$ 型「いや保守的で駄目だ」は上役  $\mathbf{A}$ 型に愛想をつかしているといったところだ。反対に  $\mathbf{O}$ 型の上役  $\mathbf{A}$ 型に対する態度は、 $\mathbf{O}$ 型「頼母しいね」という  $\mathbf{A}$ 型を買いかぶる関係であり、 $\mathbf{O}$ 型「いやいくらいってもわからないんだ」は上役  $\mathbf{A}$ 型に、かなり不満をもっている関係である。 $\mathbf{A}\mathbf{B}$ 型の批評は他の型と比較すると一番温和である。「そうね、気が弱いみたい」

くりかえしてのべると、後一例の上役 O型に対する B型の態度は、大体従順である。しかし批判した場合きびしい。反対に、O型から B型をみた場合、従順に見えるから、いろいろ仕事をいいつけやすいし、叱言もいう。けれど、O型が考えている程に、B型は心から従順なのではない。O型と B型との関係で、そうなるのであって、従順という背後には O型が B型に無形の心理的圧力を加えているという事実があるからであって、B型としては、そういわれた通りに従いにくいことがしばしばある。次に上役 O型に対して下役 A型の関係は、大体において居心地のよい状態といえるだろう。O型の上役が特にどうということがなければ A型は腕をある程度発揮できるだろう。D型の上役がぼろでもだそうものなら下役の A型から、逆にたしなめられるといった按配だ。若しD型の上役が、成積でもあげようと思って、ノルマでも課そうものなら、D2型の下役は、D2型のやり口を、黙って見過しておき、まとめて、辞表を叩きつけて、辞めていくという形をとることが多い。上役 D2型の方は、D3 型を頼りにしたいが、思うように動かせなくやりにくい D4 型が多い筈である。上役 D3 型との関係は、D4 型のやり手に委せきることになるが、D5 型が失敗したときは損害をもろにかぶることになる。

上役 B型に対して、下役 O型の対応は、O型の上役に対する下役 A型の対応に等しい。 上役 B型がただ上役の椅子に座っているだけならば、O型は気楽に、自分のやり方でやっている筈である。上役 B型が B型のやり方でやろうとしたりすると、O型は不機嫌になり、仲間を集めて、B型をおとしいれるようなことを往々にしてしがちである。上役 O型に対して、下役 A型が我慢して従い、不満をためておいて最後に仕末をつける力関係と同じであるが、形式は全く異なる。上役 B型に対する下役 AB型の対応は、A型に準ずる。しかし、A型に対してよりも不信の念が強い。上役 B型から AB型をみると、神経がよくはたらき実行力に富むように見える。

上役 A 型に対する下役 O 型の対応は、上役 O 型に対する B 型、上役 B 型に対する A 型の対応と共通する。下役 O 型は上役 A 型を頼りにする。その限り下役 O 型は上役 A 型に従順である。しかし下役 O 型は上役 A 型のエゴイズムと依怙贔屓を感ずると抗議もし抵抗もする。上役 O 型に対する B 型の批判、上役 B 型に対する A 型の抗議に比較して、O 型のそれはよく議論もし、よくねばるのが特徴である。それだけに陰にこもらないともいう

こともできる。上役 A 型に対する下役 B 型の態度は、上役 A 型がどうということもなければ、上役 A 型の寛容性に安住して、羽根をのばしているが、上役 A 型がそのやり方をおしつけると、下役 B 型はいたたまれずに逃げだすか、沈黙を守るという形をとる。上役 A 型と下役 AB 型との関係は上役 A 型は下役 AB 型をしっかりした人物と考え、かつ下役 AB 型は上役 A 型を尊敬するから利害などの他の不一致がなければ協調しやすいようである。

# 【循環論】

上役と下役という社会的関係は、力関係である。こうした力関係と共に、血液型の型と型との関係のなかに、もう一つの力関係が存在するのである。この型と型との関係は生物学的な人間関係で生物の世界に見られる弱肉強食の原理に比較することができる。私共が現在到達した理論をここでのべるならば、A型はO型に対し、強者として立ち、O型はB型に対し強者として、B型はA型に対して強者として立つということである。更に興味あることは、この生物学的な強弱関係は、循環論となって、もとにもどるということである。A型はO型に強者として君臨するけれども、B型に弱者として従い、B型はA型に強者として君臨するけれどもO型に弱く、O型はB型に強者として君臨するけれどもA型には弱いという風に、循環的に完結している。

血液型の原理はきわめてかんたんで、そのためにかえって読者に多大の疑問をいだかせるかも知れない。しかし、今日私共が絶えず疑問をだしながら、検討を重ねてきた範囲では、確信を深めこそすれ、これを裏切る事例はなかった。例えば、こういうことがあった。最近の事、A型の女生徒が私共の一人B型を訪れた。B型の言う通り、A型は素直に従う筈であったのに、頑としてうけつけなかった。実はA型の女生徒は母親O型を尊敬し、同一化しているものだから、B型はA型の背後に母親O型と対峙していたのであった。細かい事例について、のちにのべる機会はあると思うが千変万化である。大筋は変ることはないと信じている。読者には、周密な観察でもって、確かめ、ともに理論の発展に協力して欲しいものである。

循環論に関連して、なぜ人間に血液型の類型があり、更に種々の血液型の発展の可能性があるかということは、ここでは生物学的に考える以外に方法はないように思われる。ゾウリ虫は分裂によって繁殖を行う。しかし分裂による繁殖がある限界に達すると、ゾウリ虫は雌雄による生殖作用によって、個体の生命の再生をはかるということである。同じ血液型による婚姻より異型の血液型の混血がすぐれていることはいうまでもない。人間が他の動物に比して、血液型自身が複雑であり、更に ABO 式についてだけいっても四型(或いは六型・十型)をもつことは種の保存の上から考えられるべきことであろう。

循環論に関連してもう一つのべたいことがある。われわれは仏教の因縁という言葉によ

って、循環論を知っている。勿論、仏教の循環論によって、血液型と気質の理論をつくり あげたのではなく、全く体験と観察を通して得た発見であると思っているが、血液型と気 質説を、最初に注目したのは日本の医師であったように、東洋人独得の観察があるのかも 知れない。それはともかく、このような単純な事実が(理論的に追究すれば非常に複雑) 科学に長足の進歩を遂げた今日、専門家でもない私共によって発見されたというのは、む しろ不思議というべきであろう。東洋人には西洋人が二千年かかって漸く到達した科学を 一瞬のうちにおいこす直観力があるのかも知れない。

血液型の型間の強弱の関係は年令、性別、国籍を問わない。一切を貫徹する自然法則である。しかし人間は生物学的自然法則によってのみ行動しているのではない。人間は社会的動物として、社会的関係のなかに存在している。それだけでなく、歴史的、民族的伝統のなかに深く入りこんでいる。それ故 A 型が生物学的に、O 型に対して強者として対するといったところで、A 型が筋骨たくましくて、O 型はやせて小さいということではない。むしろ、先天的なものは後天的な社会的力関係に対して本質的なものであるけれども、後天的な力関係がとりあえず、前面におしだされ、その上で本質的なものが作用するということである。

## 【疑問に答える】

ABO型による気質の分類は性別とよく以ているように思う。男性とか女性の区別を、だれも運命論として否定する人はないし、また、その生理的な差異を否定することもない。 ABO型による気質も、男女の差のように、はっきりと顔をみせるものである。顔をみせるばかりでなく、決定的にその能力を顕わすものである。多くの読者は、人間を類別し、先天的なものに、軌範を求めることに対して、人間の発展性を妨げるものとして反対し、猛烈な非難をあびせるかも知れない。しかし、私共は人格(パーソナリティー)と性格(キャラクター)というものを、気質と関連せしめながらも、全く異なった後天的に形成せられるものと把握している。哲学辞典によると性格は人格の一側面と考えたり、或いは気質、体質等の先天的な傾向、形質を含んだものとして、広義に解釈せられているが、私共にいわせれば性格にしろ、人格にしろ、性別、気質、体質その他遺伝子を母胎として、後天的につくり上げられたものであるから、気質との関連を求めるにやぶさかでない。従来の定義においては、先天的なものと後天的なものとの区別が混乱しているように思えるのは、先天的なものの把握が不充分なところからきているからだと思う。

#### 【人間関係の先天的次元/フロイトとの比較】

ヒステリー患者を扱い、患者の発作の原因に、なんらかの抑圧が加わっているとして、

無意識の世界を明らかにして精神分析をはじめたフロイトは、ひとの本能の姿をみて、絶望したといわれる。日本人の多くの人のように、人の性は善なるものとは考えなかったのである。医者として、心理学者として、冷厳なる事実に立ち向ったのである。それ故にこそ、フロイトは後天的に形成せられるパーソナリティーに、本能に向けたと同じ比重をかけて、その健全な発達を期待しなければならなかったのである。私共は、フロイトとは全く反対に世界の平和とか、無私の愛とか献身とかヒューマニズムとかいった人間に対する絶大な確信のもとに、返答される人間の努力に対するアンチテーゼとして、生物の営みに、冷静な観察を訴えたいのである。ひとは生物として、弱肉強食の世界に血なまぐさい本能の姿をさらけだしていることを思い知るべきである。私共は勿論、後天的に形成せられた性格も人格も否定している訳ではない。血液型と気質はそれらと全く別箇の次元に立つのである。

フロイトの精神分析は私共の興味深い対象の一つである。例えば数学の試験となると、卒倒する女生徒があった。英語と国語はいい成積であるのに数学は男生徒についてゆけなかった。数学はしかしやりたくないといっては非難せられるので、必ず卒倒の発作を起すのであった。分裂症の患者があった。親に会って話をきいているうちに、実は夫婦の間に意志の疎通がなくてと告白した。私にはその言葉ですべてが解ったのである。また、ある奥さんがうつ病にかかった。本人は病院にいれられた。旦那さんは子供をかかえて大変だった。大いに同情された。しかし奥さんのうつ病の責任は旦那さんと奥さんとの関係にあることを私共は推察できた。フロイトは精神分析に際し、相手との関係に触れながら、本人だけのメカニズムにメスをいれている。私共の立場からは、例えば分裂症やそううつ症は遺伝的なものであるとしても、その発病にあたっては人間関係が大きく作用すると考えているのである。それ故、うつ病の奥さんは、相手をかえて結婚の自由があるならば、新しい主人をそううつ病に(多少の素質があれば)させることができるのである。

血液型のもつ人間関係は決定的である。従って気質と血液型の知識は両刀の刃である。 悪用の例を書くこともできるのである。丁度、原子力が世界の破壊にも、人類の偉大なエネルギー資源にも使うことが出来るように。どちらを選ぶべきかは、論をまたないであろう。

#### 【終りに再び】

私共は、心理学に人間関係を導入し、人間関係には血液型の(生物化学的な)強弱の関係が存在すると言ったが、もう一度古川説との関係について指摘しておきたい。古川説では、O型は積極的、A型は消極的と規定される。しかしO型と A型との関係は、A型が生物学的に強者の関係に立つ。即ち O型は A型に対して積極的でなく、かえって A型が O

筆者の一人B型は、O型の家庭で育ったので、自分自身を、りょうけんがせまく、頑固で小心でどこからみても頼り甲斐がない人間であると思っている。しかし配偶者のA型からみると、交際が広く、顔を売っているようにみえるのだから不思議である。A型の人に頼られて、就職の世話をしたり、家探しをしたりすると、自分ながら、世間の人はどう思うだろうかと考えたりする。O型は亦A型を頼母しく思い、頼みの綱としてA型に頼るのであるが、B型から見れば、A型が世話好きであるなど考えることもできない。O型との関係においてでてくる対応でしかない。何故こうなるのが、そのメカニズムについては一切わからない。今は事実をのべるだけで証明の段階に到っていないのである。

強弱関係は生物的なものであるから、強者は絶対の優位をもって対するのが普通である。例えば、よく自分のことを自慢気にしゃべる O型がいる。A型は黙って、O型のしゃべるのをきいている。いい加減きいてから A型は O型に「それがあなたの自慢なのね」という。それで O型はペチャンコになる。A型は O型を寛大にあつかうこともおさえることも自由自在なのである。相手の出方に対応する余裕をもっているからである。これに反して弱者が強者に対して戦いをいどむことは非常にむずかしいというのが原則である。例えばドイツの O型が A型に対しての対応の例をあげると、スターリングラード攻防戦最後のドイツ軍の一将校 O型がいう「部下は飢えている。かこみを究破して退却すべきだ。このままでは飢えて死ぬ外ない」と。将軍 A型の答はこうである「ヒットラー総統閣下はスターリングラードの占領をのぞんでおられる。ヒットラーは奇蹟をおこして必ず援軍をおくるといっている。退却しようとするお前はヒットラーへの反逆者だ」。O型の一将校の正しい判断は、一顧も与えられず、A型の命令、法律、軍規という厚い壁でさえぎられるのである。

もう一つの例をあげてみよう。最近(昭和四十四年四月)新聞紙上を賑わした川崎の私立男子高校(ミッションスクール)生徒の首切り事件がある。筆者の手にしたデータは、新聞等に公表されたものに限定されるが、それでもなお事件の根源的な所に、血液型による気質の相関関係を摘出することができるのである。二人のクラスメート(A型とB型)が散歩に出る。B型はいたずら好きで活発、当日もA型の目の前で土堤を何度も上ったり下ったりしてはしゃいでいる。その姿をじっと見ているうち、A型の心に激しい憎悪の感情が盛り上がってくる。B型が前に立って歩く、A型はそのうしろから、突然ジャックナイフでB型を刺す、滅多切りにナイフを振っているうち、A型の憎悪は倍加し、徹底的な

殺意まで膨脹してゆく。B型は現実的にも精神的にも全く無防備で、予感も予期もなく、もちろんこの突発事の意味などもわからない。だからかれは、ただ"痛い!痛い"を連発するだけである。その対応の姿自身が、A型をたじろがせるどころか、かえって憎悪をあおり、相手の生(動き)を完全に止めさせる首の切断まで行くのである。人々は殺害者Aの行動を、狂気と解釈しようとした。しかしかれは事件の前後並びにその殺害の時の状況をはっきりと自覚しており、人格の破壊の形跡は全然見られない。またある人々は、フランス映画"太陽がいっぱい"からの連想で、同性愛という説も持ち出した。しかしAははっきりと、自分の心に起こった憎悪の感情を動機として提出している。社会の暴力的傾向の影響と指定する人もある。それは確かに一般的にいえるであろう。しかしこの事件そのものの核心に触れることはできない。ミッションスクールの内部にひそむ暗黒面かのようにストレートに宗教批判と結びつける人もある。しかしそれをこの犯罪の原因とするのは、ほとんど空想的な創作といってよい。

読者は、ここで、A型気質とB型気質の相関関係(力関係)をもう一度正確に思い出して貰いたいのである。BとAの場合、Bは強者であり、Aは弱者である。この二者が客観的に協力関係にあっても、また、敵対関係にあっても、その原則は変らない。

かの二人の高校生(AとB)は、中学時代から同じミッションスクールで、比較的少人 数のクラスの恵まれた環境の中で生活して来た。かれらは公立学校の生徒よりもはるかに 外の社会から守られているが、同時に、クラス内部の接触は密接である。A と B は気の合 った友だちというよりは、クラス内でそうした接触を持つ関係にあった。この場合、積極 的に A に近づいて行くのは B である。B は A に対してよく"悪ふざけ"をしたと新聞に 書いてあった。悪ふざけは、悪いにはちがいないがやはりふざけすなわち冗談である。そ れはひんしゅくを買うこともあるが、合法的であって犯罪とすることはできない。だから 弱者であるAからすれば、決定的な抵抗あるいは排除をする手がかりが得られないのであ る。しかしA型の生徒にとって、絶えずくりかえされるこの悪ふざけは、自分の人格に対 する侮辱であり、憎悪の対象であるが、弱者なるがゆえにかれは我慢を重ねる。一方B型 の方は、自分の行為が A の心にそのような作用を起しているなどとは夢にも思われない。 Bはただ面白いからいたずらをし、からかうのである。そして自分が面白いということは、 相手を好もしいものとして選ぶことと極めて近いのである。同時にかれ(B)は自由であ り、客観的には第三者に自分の優越性をあらわすという心理的効果もあるわけである。A 型にとって、相手の B 型が自分にこれほどの侮辱と苦しみを加えながら、次の瞬間には何 事もなかったように、親しい友人かのように散歩に誘う (当日散歩に誘ったのは被害者 B であったと新聞に報ぜられている)ということ自身が、怒りと憎しみを起こすのである。 事件の当日、被害者 B は加害者 A の辞書に毛虫をのせるというちょっとした例の悪ふざけ をし、第三者のクラスメートからたしなめられている。実にささいな事柄であるが、第三者が介入したというその場面は、A型のプライドへの打撃と常日頃の憎悪を強烈に浮彫りさせたであろう。

この場合、悲劇を知っているのは A 型だけであって、かれは最後までその悲劇を避けたいという倫理感を持っている。しかし避けられなかった。こうして弱者である A 型は犯罪という致命的な代償によって B 型を倒さざるを得なかったということになる。

この事件について筆者は最後に、現実的な二つの点に注意しておこう。二人の高校生は、 十五才という自我の形成初期の動揺しやすい時期にあったということ、もう一つは、空間 的に二人が離れ得る環境になかったということである。

# 各論

――この項は、それ自体、相対性をもっている。なぜなら、記述には必然的に記述者の血液型が影響しており、読者の側でも、読者自身の血液型によって受取りかたのニュアンスがちがってくるからである。

# 1. 0型

#### 【〇型気質の特徴】

あなたの血液型は何かときかれた場合、A型は正直にA型と答える。B型はB型であることを恥じて、答えを回避しようとすることがある。O型は全然でたらめをいうことが多い(いずれも日本人の場合である)。少なくともO型は何故そんなことをきくのかと反問する。O型は自分の気質が俎上にのせられることを非常にきらう。気質と血液型との関係を認めることを拒否する。その理由は、気質と血液型との関連を、科学的真実とはうけとらず、一つの感情論と判断するから、それが客観的常識となるまで非受容の態度を固守しようとする。O型が自分の気質を俎上にのせられることをきらうというのは(そのくせ非常に、関心があることは最近いくつかの例でわかった)情感の面で強い劣等感を持っているのでO型自身の自己判断とちがった価値尺度の適用を極力避けようとする。このことは一方では、O型が他人の毀誉褒貶に対して自己の所信を貫いて目的を貫徹する強固な意志の所有者とみられる理由でもある。O型は他のA型B型等に対して、たとえばA型の直観的な観念の把握に対して、論理的な積み重ねによって把握しようと努力することになる。A型が一瞬にして到達した理念の世界を、O型は幾十倍の努力によって、そのものの本質でなく、外面的把握に終る結果となる。あるA型の学生に、コーリン・ウィルソン(多分

○型だろう)の『アウトサイダー』をすすめたら、ちっともおもしろくなかったといった。直観的に常識の本質をみきわめ、アウトサイダーの道を歩むものにとって、その真実の道を、論理の世界で肉迫しても本質に遠いと感じたからであろう。○型の特徴の最も著しいものは精神的模倣性にあるが、○型の最も苦手な直観的情念的創造性を補うものとして、この模倣性は○型の最大の武器となる。ローマ人(証明はないが○型と推定する)の科学的知識は大変低かったといわれる。水道やコロッセウムの大土木工事の如きものも、最小限の科学的知識によったものでしかなかったということである。その最小限の知識すらすべてオリエント・ギリシアから得たものであるという。しかしローマ人がそれらの先在文化をうけいれる仕方にはおどろくべきものがあった。ランケがいったように、「すべての古代の歴史は一つの湖に流れこむように、ローマ史のなかに流れこみ、再びそこから流れだす」 — ○型のもつ精神的模倣性はその現実的支配力の政策によって、古代地中海世界の統一という大事業をなしとげたということである。

○型の基本的精神構造の特徴は世界をその客観性において把握するというところにある。日本の女性は、男性や子供に奉仕するものであるという伝統的な社会的歴史的条件というようなものが存在した場合には、○型の男性と女性は、その伝統を好悪によってではなく、客観的条件としてうけいれるのである。従って日本の○型の男性女性は、最も常識的な世界に立っているといえるかも知れない。勿論○型の男性と女性は常識をぬけでることが出来ないというのではない。すぐれた人物は○型であれ、A型であれ、他の型であれ、自己の枠をこえることができる。その場合、○型は直観的にではなく、理論的つみかさねによって達し得た結論によって、常識をこえるのである。しかしこうした○型はまれで、われわれが出合う人には、例えばそれまでリベラリストであった人物が転機によって、社会主義イデオロギーを獲得した場合でも、他の型からみると、いかにも形式論理的に、社会主義イデオロギーをうけとっているように見えるのである。かれは社会主義イデオロギーを

日本の O 型の場合、全体としてその特徴が積極的にあらわれていないので、ここでは取扱いにくい。鼻柱の強い、陽気で向うみずのロシア人の O 型は別として、イギリス人の堂々たる自信、七つの海を支配した貫録、アメリカの世界政策は O 型の典型ということができるであろう。イギリスやアメリカの文化が O 型文化という規定はないが、統計によればドイツを除く西欧諸国とアメリカは O 型が多数を占めている。また、カントやベートーヴェン(多分 O 型だろうと思う)の努力のつみかさねを思うとき、O 型の創造性というものは、われわれ日本人のもつ直観的創造力ではなく、石垣をつむような努力の結晶であることに気がつく。

O型の能力を十二分に発揮しうる場所はなんといっても、現実的な場所である。たとえ

ば O 型の代議士の選挙民に対する愛想のよさ、派閥的結びつき、親分子分関係など、日本の O 型が魚が水を得たように生き生きする場所である。しかし精神的な迫力に乏しいため、理論の面では、必ずしも切れるというわけではなく、御都合主義のうけうりや大言壮語が多く、唯その抱擁力によって多くの人をひきつける。

このタイプには案外ノイローゼや変質者をみることが多い。一般通念からすれば、自殺者の多いA型や詐偽師の多いB型とちがって、O型は、社会的矛盾を自己の死や心理的ごまかし等によって処理することが少ないから、現実に敗北することはあり得ないかのように想像され勝ちであるが、運命の力は現実の能力をこえるのが普通である。それで、O型は自己保全のために、他の型よりも強く、劣等感や秘密をもつことになる。

A型やB型はドストエフスキーの地下生活者の手記にあるように、敗者となっても、そのため殺されることがあっても、精神的優越を確保しつつ、相手をあわれむことができるのであるが、O型は精神的な面では、他の型に比して弱いので、一旦、現実の生活に自信を失うと、きわめて根治しにくいノイローゼになることが多い。根治しにくいというのは感情による飛躍、論理による説得、信頼関係(日本では家庭的な)をきずくのに、他の型に比して時間がかかるという意味である。アメリカの映画や小説にしばしば出てくる変質者の特徴は、きわめて現実的な原理をふまえているということである。それが常人とちがうのは、ある一点で、たとえば利己主義とか物質主義とか権力主義とかに固執する点にある。他の行動原則はなんら法則的に、慣習的に、通有観念から外れないので狂者ではない。これが他の型、A型やB型だったら、今でもロシアでは、山林に入って中世の隠者のように修行する修道者がいるそうであるが、社会ときりはなされている理想をもっている点で、O型のそれとはっきり区別がつく。

# 2. A 型

#### 【A 型気質の特徴】

あなたの血液型は何かときかれた場合、正直にA型と答えるタイプである。しかも気質と血液型という問題に対して、例外なしに興味と関心を示し、心に深くしまいこんで人間観察の武器として利用する。一口にいえば、このタイプは、器に従う水のようなところがある。それ自身、勿論個性をもっているが、環境に従ってどのようにも、自己を枉げて対応する順応性をもっている。A型は会議などで自己の見解を勇気をもって発言できる。しかしその会議で反対の意見が優勢になる場合、自己の説を特に固持しなければならないものでない限り、反対者に譲歩しても、後になってブツブツ不満をのべるということはない。A型は服装とか日常の生活とかにおいて、新しい流行をとりいれて時代におくれることは

ない。O型、B型が生活面でどこか古いものを残しているところがあるのに、A型は整っているようである。筆者の一人(B型)はいつもA型を評して、A型はいちばんおしゃれだというが、まさにその通りで、この型はまず時代の尖端を行くといってよい。A型を動かすものは感情である。たとえば色の好み、音に対する感覚、美と調和、生活のリズム、友人のよびかけや厚意、そうしたものがA型を美しくもし、あるいは意地悪くも、しっと深くもするのである。外国人からみれば、日本人はいい意味のヒロイズムの要素があるという。そればA型のもっている犠性的な行動を指すもののように思われる。利害打算をこえて、感情に訴えて、親のためなり、全体の幸福のために献身するのがその例である。日本人は熱し易く、さめやすいというのは、まさにこのA的な気質からくるものといってよいであろう。残念ながら、その感情の背後には理念の一貫性と意志の優越性がないからさめるわけである。A型はその順応性にもかかわらず、保守的な思考の持ち主であるように思う。O型のそれは、通有観念にしばられてあらわれる保守性であるが、A型の場合はその気質のもっている消極性、慎重性からくる保守性である。A型のその気質があらわれるのは権力の座にある場合に顕著である。A型の夫とO型の妻の家庭にみられる閉鎖性もこれである。容易にその保守性を破ることはできない。

古川氏が O 型を英雄人、B 型を感覚人としているのに対して、A 型を思省人と分類して いる。A型の精神的傾向は、職業の選択においてもこうした特徴がよくあらわれ、決して 物質的な配慮を第一にするようなことはしない。適性や能力を十二分に考慮する。<br/>
の型の ように、現実の利害打算によって職業を選択するようなことはなく、自分の好む職業であ るならば未知の世界にとびこむ勇気をもっている。もちろんその職業は正当な物質的報酬 を約束するものでなければ生活できないが、A 型にとっては、職業のもっている精神的要 素が評価される。例えば女店員であっても、その店の環境とか客種とか、そういうものが 彼女の美意識にマッチしていることを必要とする。A型はよく学者タイプといわれ、教育 者や研究者に最も多いタイプである。研究者といわれる人には自らの世界に生き、その世 界だけは何人にもゆずらない確信のある世界である。もし A 型のこの世界が失われるか、 あるいは他人から侵されるとき、A型はその本質を失うことを意味する。A型にはどんな ことがあってもゆずり得ない魂のよりどころがあるように思う。こういうわけで、A 型が 確信をもって職業を選択する場合には、研究者のような職業がもっとも適当だといえる。 しかし研究者のすべてが A型ではないし、A型者のすべてが研究者ではあり得ない。商人 にも政治家にもありうる。B 型の商人が愛想よく客をそらさず応対するのに対して、A 型 の商人はとりすますことが多く、客の意を迎えることが不充分で取引のチャンスを逃がす ことが多い。下町風の客の顔をみて愛想をいいながら上手に品物をすすめるという役はA 型にとって、最も苦手である。A 型がもし商売をするならば、きちんと店を整頓して、シ ョウウィンドウをきれいに飾りつける専門店のようなものとか、デパートの各部門の責任者のようなものが比較的適しているといえよう。A型のもっているメンタリティは対人関係における几帳面さと責任感であるから、以上のようなことになるのである。

A型のメンタリティについて、もう少し触れてみたい。高良武久・長谷川虎雄両氏の報告「神経質の性格的素質」(日本神経学会昭和七年四月及び神経質昭和七年五月号)に次のような統計があげられている。

	О	A	В	AB	人数
日本人	31.0	38.2	21.2	9.6	20297
神経衰弱患者	9.0	50.0	23.0	18.0	100

右の中で、A型の神経衰弱(ノイローゼ)患者は五○%に達しており、AB型のそれは日 本人平均の二倍になっている。調査年代が古いので現在のことはいえない。しかし、昭和 初年の頃、A 型に神経衰弱(ノイローゼ)患者が多かったというのは、A 型が内省的傾向 を有し、日本の家族制度や暗い戦争の谷間のなかで、心身共に影響をうけ、行動をおこす 自信がなくなったところに原因があったものと思われる。世間の常識に妥協すればよいの であるが、A 型は純粋に自分の感情を守りつづけるから、本当に常識と妥協することは困 難であるといわねばならない。その結果、自信を失って卑下に陥ることもあるが、反対に 高漫になることもある。しかし、精神的世界をもっているので、A 型の神経衰弱(ノイロ ーゼ)患者には精神分析療法あるいはカウンセリングの効果は大きいわけである。自殺者 もまた、A型が同じような原理でもっとも多い。近松の心中にみられる義理と人情のから みあい、死んで一分の名をたてるという主人公たちの行為は、それによって封建社会の暴 圧に一筋の救いを投げかけたわけであるが、これも非常にA型的な抵抗といえるであろう。 A 型は職場などで素直で従順であるといわれるが、それは決して平気で同調しているとい うことでなく、一つ一つの苦情をいわないだけのことである。よく A 型はまとめておかえ しをするということをいうが、A型は感情の高揚を伴わなければ行動を起こさないという ことである。理知的要素の上に、ながい間の感情の集積が伴うから、そうなった場合、い かなる常識手段もこれをとめることができない。しかしふつうには、日本人はたとえば芭 蕉などでも、ギリギリの限界に身をおいて、自己を守るところに特徴があると考えられる。 その限界すら守ることができなくなると、A 型は自己に迫った危機感を自殺という行動で もって解決する。こう書きながら、筆者は透谷や芥川、有島、太宰の悲劇的結末を思い浮 べる。かれらは時代に先がけて、黒い影をいち早くかぎわけたのである。彼らの血液型を、 私はみな A 型だと思っている。 [現在、太宰治は AB 型であることが確認されている。—編者]

# 3. B型

## 【B型気質の特徴】

気質と血液型について、多少知識をもっている B 型は、あなたの血液型はなにかときか れた場合、B 型と答えるのをいやがる傾向がある。どちらかといえば A 型と答えたがる。 このこたえの中にB型のすべてがふくまれている。B型は日本では数の上でいちばん少な い(AB 型は特殊だから除く)、従って B 型は日本では理解されないタイプということに なる。その劣等感によって、B型であることをいわないか、A型でありたいと願うかする のである。B 型のもつ要素のもっとも本質的なものは、極端な主観主義であるということ である。必ずしも適切といえないかも知れないが、体験した一例をあげてみよう。ある学 校で、生徒の実習指導に出張した教師があった。出張長期にわたって費用は多額になった。 学校は多額の出張費を払ったあとで、長期の出張は遠慮して欲しいといった。これに対し てその教師は(実は B型であるが)、長期の出張は実習指導に止むを得ぬ措置であるから 来年もやりたい。但し費用は実費の半額でよいといった。学校側は半額というのは困る。 出張をゆるしてその半額だけ支払うことはできない。他の教師との釣合いもあるしといっ た。教師は自分はなにも金が欲しいのではない。生徒実習のため全部やりたいのだといっ た。最後に学校側は、「あなたは金が欲しいのだろう。出張出張といって」ときめつけた。 ここにある例は多少解説しなければならないが、A 型と B 型との会話と考えてもらいたい。 A 型はものごとを判断する場合、慎重であるから、いろいろな点を考えて決定をくだすわ けである。これに対してB型は全く無欲ないささか子供っぽい純粋な気持から、金も要ら ないといって奉仕を申し出ているのである。しかし A 型にとって、そうした B 型の行為は 不可解でなにか裏のある陰険さを感じたり、あるいは物質的な執心や野心を感じたりする。 (念のために。O型がこうした B型の対象者になった場合、O型は B型の申し出るまま存 分に奉仕させてはばかるところがない。B 型は正真正銘物質的でないし、また野心的でも ない)。はっきりしていることは極めて主観的であるということである。B 型の行動の原 理には、なにか衝動的な志向性のないものが感じられる。A型やO型の児童生徒の指導に あたっては、こちらの予期した期待をかけることができる。ところがB型の児童生徒には、 驚天動地の結果をみることがあるから、一本の方針でもって指導することは不可能である ように思われる。具体的な例をあげてみると、筆者らの子供の例であるが、小学校でテス トによい成績を得たので安心していると、ドカンと穴をあけて0点に近い答案をもってき たり、それではといって中位の所に標準をおいておくと、バカにいい成績をとってきたり、 母親にはこの子は、一体どういうふうに理解してよいか、指導の方針がたたないといって 嘆かせるという工合であった。B 型の指導は本人が、欲をもって勉強した場合にはこの限 りではないけれども、目的をつかむことができない場合には他人のいいなりになってみたり、あとで他人のいいなりになったことに気がついて突然自分で行動をおこしたり、他人からみると突然と思える行動をすることがある。従って B 型の指導には忍耐づよい保護と行きとどいた配慮が必要である。

B型の気質といえば、すぐニヒリズムということばが浮んでくる。ニヒリズムという用 語はツルゲーネフの『父と子』にはじめて現われることばである。一八六○年代のロシア の知識階級の一典型として、バザーロフという若い医学生が赤痢患者の救護に献身して、 みずから感染し、自己をかえりみないで死の最後まで確かな意識で、自分の治療は敢えて 行わないで死んでゆく姿をニヒリズムとしてとらえたものである。ツァー時代の圧制下に 生まれたこのことばは、積極的に自己献身の姿勢を示す政治的な用語である。一般にニヒ リズムといった場合、例えばナポレオン戦争時に首都のモスクワに火を放って一時遷都し たというやり方に見られるように、自己の肉体、あるいは自分の誇りなどをやすやすと捨 て、てんとして恥じない姿を指し、これが B型の気質にいちばんよくあてはまるように思 われる。B型の特質の一つは執着心のないことであろう。B型とはいえ、専門の職業もも ち、あるいは家や土地の財産をもつこともあり、そうした職業や財産を失うことをのぞむ はずはない。しかしなにかの場合、B型はきわめて移り気に捨てることがある(その場合、 他人には判断に苦しむささいな理由しか見出せない)。 0 型だったら最後まで頑張りとお して、職業や財産や権利を守り通すのであるが、B型は職業や財産どころか、生命すらも やすやすとかえりみることがない。魯迅の小説『阿 Q 正伝』の主人公は典型的な B 型と筆 者らは考えている。理由については今はのべないが、阿Qが何を考え、何を考えなかった か、つまり Ο型 Α型が考えることを考えず、Ο型 Α型が考えないものを阿 Q は考えるの である。こうみてくると B 型は社会的にいちばん無知なものとして映ってくるかも知れな い。勿論 O 型の無知、A 型の無知があり、B 型だけが無知であるということはないけれど も、B型は本能的な感覚の鋭さで正邪や好悪や危険を感じとって自己の保全を行なうよう に思われる。人間関係の中では、B 型は子供のようにだまされやすいし、敵の策略などに 対して全く無防備で、そのために身をほろぼす場合もおこる。反対に災害のような事故に あたつて、巧みに逃げだし得る場合には B 型は非常にすばやいように見えることもある。 また B 型は直観的であり、自己の感覚のおもむくままに行動するから活動的であり、快活 であり刺激に応じることに敏感であり、よくものごとに気がつく。しかし感覚というもの は変りやすいものであるから、状況の変化によって、違った態度をとることがおこりうる。 例えば孔子のことばに、人によって教えを説くとある。B 型はこのタイプで、決して同じ ことばを人にくりかえさない。一人一人に対してある人には黒といいある人には白という。 これをそのことばだけとってみると、B 型の論理には普遍性がなく支離滅裂となるから、

きわめて矛盾の多いものと判断される。B 型からいわせれば状況に応じて黒といい白というのであって、黒と白とが問題ではなくて、黒といい白という状況の変化に重心がおかれるのである。しかしこうした B 型の論理は A 型と O 型の多い日本ではうけいれられがたいのである。このように B 型が疎外されている現状から、B 型は自分が B 型であると素直に答えたがらないことになる。

# 4. AB 型

# 【AB 型気質の特徴】

女子高校生のクラスに思い切った行動をすることで目につく生徒がいた。その生徒は一 口でいえば頓狂な子であった。なにかのとき筆者はその子が AB 型であることを知ってな るほどと思ったことがあった。日本ではAB型は約七%[正しくは「約九%」——編者]で五 ○人クラスの現在の学級編成では三、四名「四、五名」程度の割合で在籍することになる。 A型やO型はわれわれの身辺に多いので、なんとなくそれ相当に対応して疑問も感じるこ とがないが、この人は多分A型だろうと(無意識の場合も含めて)思って話しあってみる と、なかなかよく気がついたり、果断機敏な行動をとるので、おやと思うことがある。ま たその反対に、この人はあまり服装などにしゃれ気がないので B 型かと思ってつきあって いると(無意識の場合も含めて) 案外すじを通す所があって、これは B 型の性格でないと 思いなおす。こういう人が時たまいるものである。一般に AB 型は外観上は B 型であると 古川氏はのべているように、例外はあるがコントラストの強い不調和な服装によって特徴 づけられる。即ち一面には B 型の特徴をもち快活で、決断に富み、機をみるに敏なること はB型にまさるとも劣らない。しかし一方ではA型の気質をもち合わせているから、外観 行動の上では B 型であるが、 思考形態としては A 型の特徴をもつ、 事をなすに慎重細心客 観的な判断力、感動性、犠性心どれをとってみても A 型と同様の特質をもっている。とこ ろが AB 型の特徴というべきものはこの A 型と B 型の気質が同一人格の中に並存している ということである。従ってある場合には B 型の性質表現をとり、ある場合には A 型の性格 表現をもち、AB 型自身においても人格の統一を欠き、気分がむらで家庭での叱言が多く、 心中煩悶する人が多いという。こういう風に AB 型は人格的に不統一なところがあるので あるが、実際生活においては公務員であれば能吏であり、銀行員であれば頭がきれ、事業 家であれば辣腕家であり、芸術家であれば天才的であり、行動特徴として手腕家としてあ らわれる。この点は他のどの型にも増して卓越したところであるが、総合的に判断して、 残念な点は成功性の少ないことである。A型なり O型なり B型では長所もある代りに欠点 もあって、こちらが相手の長所をみとめる代りに、相手の欠点をみて安心もできるのであ る。一方 AB 型はぎりぎりの最後のところで腰くだけになり、自己の主張をまげて妥協することがあるので、かえって O・A・B 型が自己を枉げずに頑張るのが目立つのである。勿論 AB 型自身他人の絶対的信頼をかちうるなどということを夢にも考えていないのであるが、それにしても、非常に有能なタイプでありながら成功しないのは、そのやりすぎとぐらつきという矛盾した人格の不統一にあるのではないかと思う。東郷平八郎は AB 型であるが、勿論この人を失敗者であるといっているのではない。一般的に AB 型の特徴を外部から観察したところを述べているだけである。



# 男女の組合せに見る血液型的気質

近代法の概念には、離婚成立の条件として性格の不一致は数えあげられてはいない。性格の不一致ということはあり得ないと考えられているものと思う。人間である以上、意志の疎通ができないことはあり得ないという前提に立っている。たとえ意志の疎通が絶えたとしても、それが離婚の原因となるにはあまりにも単純すぎるというのかも知れない。しかし東洋においては、性格の不一致ということはそれ自身重要な必要条件として、意志の疎通を拒否するほどの力をもって、われわれの前に君臨しているのではないだろうか、勿論性格の不一致プラス $\alpha$ という必要にして十分なる条件の成立によってのみ離婚が認められるべきものとしても、そこには西欧の概念で説明できない事情が存在しているのではないかと思う。

相性ということばは意志の疎通のできる人と人とはどういう組合せかということである。一方どういう人とどういう人は意志の疎通ができないかということでもある。気質と血液型を相性という観点にてらしあわせるとどういうことになるか説明してみたい。日本で一番多いのはAOの結びつきである。何故なら日本人の血液型はAOが多いからである。

### A と 0 の組合せ

### イ. 0 男と A 女の組合せ

O が男子で A が女子の場合、二組ばかり OA 型のカップルの見合をさせたことがある。 筆者の目には明らかに女子 A が男子 O に関心を向けたことを知った。結婚はお互に条件が整わねばならないから中々面倒なところがある。二組とも男性は消極的であったが他の問題がなかったためか、なんとかまとまった。しかしリードをとったのは、終始女子 A であ

った。日本の男性本位の社会では、普通Aの女性は寛容と従順でもってO男に対するので、 典型的な家父長家族ができ上るのであるが、最近はよほど変ってきているのではないだろ うか。Ο 型は物質的、形式的、常識的な行動をとるから、デートにでもさそうときは、や れドライブやれボーリング、やれ音楽会とひっぱりまわすことになる。A 型は必ずしも本 意ではなくもっと精神的なたのしみを心にもっているのであるが、O 男に従ってついてゆ く。○男のなすがままにさせておく。これが家族をもったあとは、○男は麻雀や会社のつ きあいと称して文字通り外出することが多い。A 女はそうした O 男を、自己を裏切らない 限り認めておいてせっせと O 男の働き蜂的役割に依存する。筆者にいわせれば A 女は O 男にもっと精神的な教育を与えるべきであるのに、現在の小成に甘んじている人が多いよ うに思われる。 しかしもし A 女に精神性とか教育からくる同等性がある場合、O 男と A 女 の関係は O 男が常識的な男権を強調すれば悲劇をまねく危険性が大きい。そこまでならな くとも、O 男が子供を甘やかしかわいがり、A 女が子供をきびしくしつけるというケース が多い。この場合教育について O 男と A 女がもっと話し合う必要があるのであるが、どち らかというと 0 男の方が教育について安易に考えるところに原因がある。一方 0 男の父親 が酒飲みでどうしようもないまま O 男 A 女の夫婦関係がかたまってしまった場合がある。 この場合には A 女の方に問題があるのであって、A 女は謙虚に O 男の要求なり希望なり理 想をくみとらなければならない。

#### ロ. A 男と 0 女の組合せ

相性として最もよいタイプの一つである。A 男は端正で几張面、一芸の道に秀でるとか秀才の道を歩むとか一本の筋が通っているようにみえる。O 女にとっては自分の内助の分野がはっきりして献身の欲求を満足させるによい対象にみえる。A 男も O 女も仕事の分担を区別する方だから、外で働く男性と家庭のきりもりをする女性の秩序が守られているので割合円満の場合が多い。この場合は(A 女 O 男の場合と違って)A 男はレクリエーションなどはおっくうだから、O 女は不満をもって、A 男に働きかけて旅行をしたり、観劇したりするようなことになりやすい。A 男と O 女の関係がうまくいっていないような場合には O 女は家をあけたり異性との交際などかなり発展をする。A 男は本質的に消極的だから日本の場合には封建的な男女関係に矛盾を感じないでいられるので、O 女からすれば不満も多い。さらに A 男は必ずしも物質的に成功するとはいえないから、現実的物質的な O 女にとってはそういう不満もおこるわけである。O 女が A 男の性格を補って PTA 会や婦人グループで積極的に活動を行なって、いわゆる婦人活動家となる場合もあるが中途半端におわることが多い。O 女が A 男に対して精神的依存性をすてきれないことと、A 男が O 女を甘やかして気慰み的なものにさせてしまうからである。しかし A 男に愛想をつかして独

立した O 女は、会社の社長となったりバーの経営者になったり、女の世界に活躍する女性のうち O 女の占めるパーセンテージは非常に高いように思われる。しかし一般にそうなった場合でも O 女の生活は地味で質素である。パーティーとか誕生日とかひとを招待するような場合には派手なふるまい方をするが。ところで O 女は女性として、必ずしも家庭的なタイプではない。従って食事や身のまわりの生活のようなことも手を省くことが多い。お忽菜などもその辺のデパートから買ってきて平気である。知人の芸能人(A型)が何回か奥さんをかえて、どの奥さんも料理は下手だったといったが、奥さんはいつも O 女であった。また、農家で目をはなしたすきに子供がやかんをひっくりかえして、足に大やけどをさせた例を知っているが、O 女には家庭的なことに、細心さがないように思われる。O 女はそういう風であるから、家庭では A 男が細心に子供に注意をはらうことになる。反対に A 男が O 女に期待をもたないような場合、A 男は酒をのんだり趣味の世界へ没頭してゆく。但し O 女の妻が駄目な女だからといって離婚するようなことはあまりない。

# ② B と 0 の組合せ

## イ. B 男と 0 女の組合せ

このタイプの組合せは鈴木医学博士の「結婚と優生学」の中で、夫婦不和の家庭が多い としてとりあげられたものである。しかもこの組合せは日本では案外多いのではないかと 思われる。B 男と O 女の不和はごくつまらないことからおこる。これは他の型の例である が、ある大学のA型の老教授が死んだ日のことであった。老教授は久しぶりにきげんよく 目をさました病室で、朝の茶を飲んで「いいお茶だ」「お前も一杯どうか」といったとき O 女は「私は顔を洗ってからあとで頂きます」と答えた。「お前はいつもそういう奴だ」 と、そのときばかりは気色ばんだのであったが、A男とO女の関係はそれで終るのである。 ところが B 男と O 女の関係は違ってくる。これもある夫婦の例である。その夫婦は日夜夫 婦げんかが絶えず、近所で評判の家であった。B 男はお茶がすきで、冬は一日中火を切ら したことがなかった。O女はお茶をのまず、お湯が熱かろうがぬるかろうがかまわなかっ た。繊細なセンスのもち合せはなかった。だから、食後にぬるいさめたお茶を湯のみにつ いで平気でいる。B男はさらにお茶を要求する。O女は「お湯がありません」といともか んたんに答える。B 男には O 女の無味乾燥なムードのないやり方が気にくわない。こうし て、夫婦げんかの末、冬には一日中火種が消えないということになったのである。<br/>
O 女は いった。「主人は一日中お湯がわいていなければ気がすまないのですよ」と変人扱いにし た。O女にはB男がなにを要求していたか理解できないのである。O女にはB男が欠点は あっても、別に不満もないのである。従って不和もないのである。B 男には O 女に対して、

不満も不和もあるというものである。にもかかわらず、B 男 O 女の組合せが案外多いと思われる理由について考えてみよう。これも一例であるが、結核で永らく療養生活をしていた B 男の友人があった。彼には音楽の教師をして献身してくれた O 女があって、今は実業界に活躍することになったのであるが、こうした活動的な O 女の助けを必要とするいう条件がある場合 B 男 O 女の人間的結びつきが成立し、B 男 O 女の組合せが永続するということができる。また他の例で、B 男は医者であるが内省的で複雑な保険関係の事務折衝を全部 O 女にまかせることによって存続している夫婦を知っている。B 男 O 女はともに積極的であるから、積極的な面で協力一致できるのであるが、二人が一たん積極的な共通の場をはなれて自分自身にかえったとき、B 男は精神の世界へ、O 女は常識的な質素な世界にもどるから、共通の場は失われてくるということになる。

### ロ.0 男とB女の組合せ

O型とB型の共通点は前述のように、現実的な積極性にあるから、B女の協力によって O型は充分にその能力を発揮することができる。新婚の夫をアメリカに留学させて、数年 間不便をしのぎながら内助の功を果たした夫人があった。この場合 O 男、A 女であったな ら、多分アメリカ留学は実現できなかったのではなかったかと思われる。A 女はいうだろ う。「私を一人にしておいて、私をどうしてくれるの」と。そういわれたら Ο 男は困りき ってしまうし、A女がそれ以上駄々をこねたら留学は断念する以外方法がなくなるだろう。 たとえもし A 女が気紛れに許したとしても、O 男は A 女を手放してゆくことに非常な不安 を感じるはずである。これに反して O 男 B 女の B 女は、一切自己にふりかかる犠性を屁 とも思わないでこれに協力するのである。Ο 男の夫は帰国後大学に籍をおき、活躍をして いる。O 男はひとの集まるところが好きで、男性としてはもっとも男性的でないかと思う。 B 女は家庭的で女性としてはもっとも女性的でないかと思う。だから、日本の家父長制社 会では O 型は十分翼をのばして、心おきなくそとで活動しているように思う。家庭におけ る摩擦も外見的には非常に少ないように思われる。しかし立ち入って O 男 B 女の関係を見 てゆくと、O男のB女に対する不満のようなものを観察することができる。これも先程示 した夫婦の例であるが、隣家に不幸があった。O男はB女におくやみに行くようにいいお いて朝家を出た。帰って、おくやみに行ったかときくといっていないという。O 男はあき れてしまう。B 女はうまくおくやみがいえないからとかなんとかいうが、O 男からすれば いいわけにならないのである。O 男は社会的通念を大事にするから、なにをおいても果た すべきことと考えているのに、B 女がこのように反社会的行為をなんの抵抗もなくやるの にびっくりしてしまう。B 女はどちらかというと縁の下の力持ちのようなかげの協力者に なることが多いので、流行やおしゃれのことはよく知っていても自分は派手に着飾ったり

しないのが普通である。O 男からすればもっときれいにしてくれたらという不満をもつ。一方 B 女からすれば O 男の話というのは人を笑わせるような馬鹿げた話をするが、うちとけて親密な打ち明け話をすることが非常に少ないから、大抵は新婚当初のO 男の告白を後生大事に守る外はない。B 女はしたがって精神的ないみで O 男の世界観には不満である。しかしB 女がもっとも女性的であるといういみでO 男に反抗して離婚まで至る例は少ないはずである。反対にO 男は B 女に不満があってもなくても勝手なことをしてはばからないから離婚も少ないといえる。B 女にしてみればO 男が外でなにをしているのか皆目見当がつかないのである。子供はB 女が世話をする限りにおいては、けがをさせたりするようなことはまずないように思う。けれども規律とか端正とか厳格さなどに欠けるので、子供の訓練とか規律とかはうまくゆかない。O 男が反対に積極的に子供の教育にのりだすと、B 女との間にかなり摩擦がおきる。特に子供がB 型の場合はO 型のしつけは大きな誤りを犯す場合があるから注意を要する。

最後に O 男は女性の側からみて、結婚にまでもちこむことのもっともむずかしい対象である。O 男は容易に感情に動かされない。従って結婚の条件をもっともよく考える。地位、財産、容貌、気力、家格……反対に、B 女は女性の中でもっとも目立たない存在である。男性に好意を示すとしたら、A 女 O 女につづいて最後になるタイプである。こういう具合であるから O 男 B 女の組合せには、以上のような条件やハンディが克服されることをいみしている。一般には O 男の両親に B 型がいなければ B 女との結婚にふみ切るには勇気がいる。反対に B 女は両親に O 型がいなければ、O 型との結婚にふみきれない。従って O 男とB女との結びつきは特に他の条件がなければ以上のような結びつきということになる。

#### ③ A と B の組合せ

#### イ. B 男と A 女の組合せ

B 男の持っている要素は快活で活動的で抱擁性に富み、その限りにおいて現実的であるから、A 女は B 男の夫に絶対的な信頼をおく。しかし B 男の非常識性、行動や思想における論理の飛躍は応々にして、突然くびになったり、事件をおこしたり、運命の変転をおこすことが多い。A 女は思わぬ事件に驚天動地して B 男に絶対に信頼をおけないことを思い知らされる。B 男はひょうひょうとして A 女の攻撃をかわすが、A 女がもっている几帳面と形式論理は B 男のごまかしとあいまいを追究する。そのバランスがくずれると破綻がおこる。破綻は B 男の場合 A 女からの逃避という形で行なわれる。しかし逃避は A 女の攻撃を避けたのであって見捨てたのではないから、元にもどるつもりでいるが、A 女は見捨てられたと受けとるから破局に陥る。このように B 男 A 女は現実の生活の破綻をもとにし

てくずれ去ることが多い。この理由として B 男 A 女の精神性をみることができる。B 男 A 女は現実的生活をはなれてお喋りさせておけばこれ程永続する組合せはないのではないかと思われるが、現実の生活に立ち向うと、どちらもそう現実的物質的ではなく、生活のためのたたかいに傷つくのである。しかしながら、ある引退した会社の社長さんを知っているが、その会社の人事はもっぱら奥さんがにぎっているという評判であった。奥さんに頼みこむとうまくいくという話であった。勿論この組合せの場合奥さんが進物をうけとって、人事を左右しているのではなく、奥さんを納得させるような人事の相談なら、B 男の社長の夫に通じるということであるが、A 女の精神的助力を B 男がうけいれるということである。B 男 A 女の組合せには他の型の結びつきよりも精神的紐帯が感じられるように思う。A 女は O 男と結婚すれば物質的に世俗的に幸福であるが、しかしより精神的関係においては B 男 A 女はお互い啓発するものがあるように思う。

家庭生活はA女のあたたかい家庭的ないたわりがゆきとどいてしっとりしたさわやかさがある。A 男 O 女の家庭の一族主義的なエゴイズムは全く見られない。子供もA 女が注意深く育て(この場合O 男 A 女と同じ)、B 男がよい方向を与えるので順調である。

#### ロ. A 男と B 女の組合せ

この組合せは案外少ないのではないかと思う。なぜなら、A 男の両親に B 型がいなければ、A 男はそうやすやすと B 女と結ばれることはないと思うからであるが、A 男からすれば O 女、AB 女、B 女の三タイプから選択の自由があり、O 女、AB 女、B 女を並べれば B 女は O 女 AB 女に劣って見えるはずだからである。従って A 男が B 女を特に選んだとするならば、A 男からみて、その B 女は生活力のある頼り甲斐のある女性として見えたはずである。筆者は A 男の公務員が商売をはじめたのを知っているが、B 女の影響だなとそのとき思ったものである。A 男はこの組合せで、A 型の気質にプラスした B 型の要素によって、機敏に、社交的に、柔軟な積極的な性格を加えるように思う。しかし B 女は案外しっかり A 男をおさえるから浮気でもしようものならすぐかぎつかれてしまう。

### ④ AB と 0、A、B との組合せ

# AB 男女と 0 男女、A 男女 B 男女と AB 男女

事例が少ないので、くわしくのべることができない。知人に AB 型の女性がいたから気質と血液型の知識を与えて、自分の体験を話してもらった。すると AB 型の男性がやっぱり一番気が合うといった。同じ型同士ではふつう魅力も少なく、関心もないが、AB 型同士の場合にはお互いの間の嫌悪感が少ないのかも知れない。しかし AB 型は最も数の少な

い型であるから、AB 型の異性をみつけるということは必ずしも容易でないので、A 型もしくは B 型、O 型を選ぶことになる。AB 男と A 女の家庭を知っているが A 女はつつましく、家庭をきりもりしままごとのように見えた。いい組合せに見えた。AB 男と B 女の例を知らないので今回は割愛しなければならない。案外 B 女は苦労しているのではないかと思う。AB 男と O 女の組合せは興味がある。AB 男はやり手であるが人間的な暖か味が少ない。しかし O 女からみると AB 男は几帳面であるから頼母しく思うと同時に、AB 男の手腕積極性にすっかり魅せられてしまう。また AB 男のもつ精神的動揺は O 女のもつ寛容

性抱擁性母性的感情を刺激するので一層離れ難くする。こうしてO女は AB 男と関係をもったが最後、とことんまで献身と犠性をつづけて悔いないということになる。一方 AB 型からすればO女に対する態度はきびしいの一語につきる。その理由は AB 男のもつ B 的要素によるものである。B 男はO女に対してそのような態度をあらわすことができない。それは B 男が現実面でO女に負うことが多いからである。AB 男の B 的要素によって支えられているから、一層きびしい A 的要素になるのである。物質的要素からみると A 型も B 型も現実的物質的でないから、O型のそれに依存することになる。O女は AB 男に物質的面で献身することになる。



# 再 論

各論は相対性を持ちながら一応固定した各血液型の気質的特徴を捉え、人間関係を夫婦の組合せに限定して取上げてみた。しかし人間関係はなにも夫婦に止らず、友達の間でも、親子でも、同僚でも、あるいは集団対集団でも、大きくは国家間の関係でも、同じ理論が適用できるのである。そこまで行けばさらに量と質の問題にも発展できる。ここでは本論、各論で触れ得なかったところを、再論という形で展開してみたいと思う。

# 方法について

#### 【血液型気質と自然法則】

近代科学がそうであるように、気質と血液型との関連も帰納的なものである。古川氏は 絶対的なタイプとして、血液型 A 型者には A 型気質、B 型者には B 型気質を、O 型者に は O 型気質、AB 型者には AB 型気質を指定した。筆者は古川説に対して深い敬意を表しながらも古川氏の絶対的基準に疑問を持ち、血液型気質は流動的なものであって、型と型との関係によって変化するのではないかと考えたのである。そして同一人物に対する他人の評価のちがいなどを分析し、型者間には生物の自然法則と同じ、強弱の関係の存在することを発見したのである。この関係を知ったあとは演繹的に心理学のターム即ち攻撃、逃避、支配、服従といった面に適用してゆき、さらに生物化学、物理学等の理論を利用して理論を発展させたのである。現在のところしかし仮説であって、証明についてはしばらく時をかして貰わねばならない。

# おぼえがき

血液型による人間関係には一定の法則がありそうだと考えてからは演繹的に生物化学や物理学の原則を適用していった。次の事実はそうした間に思い浮んだものであるが、かきとめておきたい。O型がA型に反撃する場合に勇気がいるとのべた。同様にB型がO型に対して反撃する場合、A型がB型に反撃する場合、その反対の場合よりも脈拍や感情の興奮は大きいものと思っているのである。そうしたとき筆者らの観察によると、どうも、相手にくってかかろうとする感情を持続できないように思われる。A型からO型、B型からA型、O型からB型へ攻撃をかける場合には、なんの興奮もともなわないから、まことにひややかに相手に打撃を与えることができる。又O型はA型に近づくとなにかと安心感があって頼りにしてしまう。同様にA型はB型の世界に入るとそういう気持になるし、B型はO型のそばにいると大舟にのった気になる。脈拍が安定し、感情の興奮がしずまるのではないかと思う。いずれこうした問題は科学の場で明らかにされると思うがかきとめておきたい。

# 保留の状態

# 【血液型気質の発現は、保留の状態で人間関係の中に存在する】

化学なり物理なりはある場のなかで、物質もしくは物体が運動し、変化し反応をおこすところに成立する。気質と血液型の関連も人と人が法則に従って分離、集散、結合することによって成立する。しかしこの場合人と人との関係は必ずしもつねに生じているものではない。ラッシュの電車におしこまれた乗客同士の間に、個人的にこのような人間関係が存在しているとは思えないし、マス・プロ大学の講義に、学生個人間になんらかの関係があるとは信じられない。集団的には種々の反応を示すであろうが(その場合、集団の気質

を血液型との関連においてとらえることはできる)。しかし何かのきっかけで、となりの 学生同士で話しはじめて意気投合し人間関係が生じることもありうる。とすると人間とい うものは、他の物質なり物体と同じように、空間のなかに、人間社会の場のなかで、関係 が保留されているということである。

# 原則的な方面

## 【血液型と意志の疎通】

『人を説得する方法』とかいう実用主義のアメリカ人の書いた小型本を立ちよみした。するとその本の最初に、その人の類型を第一印象で見ぬくことが必要だとしているのでこれにはおどろいた。人を説得する方法を考えだしたというなら、誰にでもあてはまるものでなければなるまい。直観によって人を見抜けというのだったら、東洋人はいつでも、それを行なっているといいたい。西欧では両親がA型かO型だから、自分の片親に違ったタイプがあっては、全く知らないタイプではない[この箇所文意不明瞭——編者]。それ故、西欧では思想芸術といった普遍的なものを指向し、後天的なものを重視することになる。日本では自分の家に、両親兄弟にないタイプがあるから、友達の間でも学校でも社会にでてからでも、意志の疎通のはかり得ない対象が存在するということになる。人はさまざまともすきずきとも、不可解ということになる。日本では人間の性格とか人相とか運命とかに対する関心が強くはたらく理由である。このことは日本の社会の後進性に由来することもあるだろう。

# 【血液型気質と後天的性質】

気質は変化ない。気質だけでなく、先天的な素質体質は変化するものではない。しかし、ひとはひととして学習し人格を形成してゆくのであるから、気質や素質体質を鍛練し磨きあげ、性格、人格、才能をつくりあげてゆくのである。三宅・橋本両氏が精神薄弱児においては長所よりも欠点の現われることが多いとのべられているように、気質の顕現はその上に形成された後天的な諸性質によって目立たくなったり飾りをつけるのである。例えば男性とか女性というような先天的な体質でも、それをもとに性格や人格をつくりあげるようなものである。もし男性が乱暴に、女性がいやらしいまで女性の性質をだしたらひんしゅくを買わずにいられないものと思う。

#### 【血液型気質と血液型の種類】

ある女子大生に気質と血液型の話をしたら、彼女は早速大学へ行って心理学の時間に気

質と血液型との関連について質問した。すると教授は、人間はひとりひとり違うから、関連を見出すことはできないと答えたそうである。古畑種基博士は昭和四一年八月二日のNHKの「朝の訪問」の時間に「血液型の種類は五十九億ある」とのべられた。世界の人口よりも多い数字である。博士は将来血液型紋を指紋のようにとることができるだろうといわれた。血液型学の進歩は止まるところを知らない感がある。しかし、私共は学界の現在までの結論とは別に、気質の分類として ABO 式で差支えないと考えている。昭和初頭古川学説の段階で複雑極まりない人間の気質を ABO 式の四種にわけるのは単純すぎるという非難があった。果して単純すぎるであろうか? 医学界では ABO 式を AA、AO、OO、BB、BO、ABの六種にわけてきた。今日筆者らは十種類に分類できるのではないかと考えている。いまもし ABO 式による十種類の気質があるとして、これを、男女に組み合わせると、たちどころに一七〇種の組合せができる。さらに両親のそれと子供のそれを組み合わすことになると数千の組合せとなり、その組合せの結合、分離、攻撃、防御、支配、服従等のジャンルによる観察例を用意すると、単に ABO 式と簡単にいうことのできないほど複雑な組合せとなり、電子計算機を駆使して漸くこれを説きあかすことができるということになろう。

#### 【血液型気質の後天的影響】

両親の血液型が必要であるというのは、ABO 式の四種のタイプを補充するための素朴な 法であるが、あるときこういうことがあった。 筆者にはどうみても A 型と思える O 型の人 があった。はじめ彼は AB 型だといったのでなおさら困ったのである。よくきいてみると、 母兄二人が A 型で、引揚げ後苦労して今日に至るまで母との関係が特に深いことがわかっ た。彼自身は O 型で、よく観察してみると、O 型の特徴がうかがわれるが、後天的に形成 されたキャラクター、パーソナリティーの上に母親の影響がいちじるしく現われており、 彼自身が母親に対する同一化が強いように思われた。こうした場合、母親の血液型を知る ことによって、彼が AO 型の O 型であることを知ることができるのである。彼の家は母親 の教育を中心に成り立っているので、A型的なパーソナリティーが形成されたということ だと思う。同時に夫婦の血液型も心要な知識である。その家の主人なり奥さんなりを知る ために、夫婦は親子と同じように後天的に影響をうけ合う或いは与え合う場であるからで ある。筆者の一人はO型とB型の親を持つB型である。多分BOだろうと思う。筆者のも う一人は A 型と B 型の間の A 型である。従って O 型と B 型の家庭に育ったにぎやかな世 界を A型B型の間の A型は知らないので、理解し合うのに相当困難を感じている。筆者B 型についていえば、O型とB型の両親からはたいへん消極的な人間になったと思われてい る。つまり、外形的に A 型の配偶者の影響をうけているのである。考えてみると今迄多か ったO型との交際もずっと少なくなったように思う。

## 【老人の気質】

老人の気質はわかりにくい。老成という言葉があるように、若いときよくおこしたかんしゃくや短気もめったに爆発することはなくなり、おっちょこちょいといわれた人も行動が緩慢になると共に破目を外すことは少なくなり、一寸見には子供や若い人とちがい人格円熟の感を深くする。勿論人間の気質というものはそう簡単に消滅するものではないから、注意深く観察をつづければ、若い時の癖と共に血液型を判別し得るいくつかの特徴をつかむのに、それ程苦心は要しない。しかし一般的には老人の気質の特徴を見出すことはむずかしい。言ってみれば、永い人生経験を通じて円熟した人間関係をもつことができるようになり、感情の起伏や競争その他の相剋が少なくなり自己をあらわすことが稀になるからである。

### 【他人の血液型を評価する場合の原則】

岩波書店発行の雑誌昭和八年の「心理学研究」に、京大心理学研究室の読書会の記事が のっている。四方哲太郎氏は「ダウニーの意志気質検査に依って表われた次男型、末子型、 独り子型に就いて」の発表の中で、次男は意志強く、独り子は根気がなく、末子は独り子 と同じとのべたあと、「血液型 A 型又は AB 型は他人を O 又は B 型と評価し、O 又は B型のものは他人を A 又は AB 型に評価し易い傾向がある」とのべている。筆者らの人間関 係組合せによる男女の類別の研究に当り、血液型のちがいによって、他人の気質に対する 評価が変るのではないかと考えていた頃、貴重な記事と思って読んだ一つであった。同じ 問題を考えてみたい。ひとはつねに自我の拡大を志向するものであるから、血液型との関 連でのべるならば、ひとは対象を同型と考えるのではないかと思う。 A 型者は相手を A 型 に、B 型者は相手を B 型に、O 型者は相手を O 型に、はじめはそう考えるのではないか。 しかし相手はどうも自分とは同じでないと感じるから、また、ひとはつねに相手を征服支 配しようとしているから、相手を支配しやすい型と考えるのではないかと思う。A型は相 手を O 型に、B 型は相手を A 型に、O 型は相手を B 型に。しかも興味のあることは、支 配されたくないから、相手が強の関係にあるタイプとはどうしても思いたくないのではな いかということである。即ち、最初ひとは同型に、次に相手にしやすいタイプではないか と思ってみて、相手にしにくいタイプとはなかなか考えつかないということである。A型 者ならば相手をA型と考え、どうもA型らしくないと思うとO型に考え、相手にしにく い B 型とは考えにくいということである。同様に O 型者ははじめ相手を O 型に、次に B 型に考え、A型とは考えたくない心理がはたらく。B型ははじめB型、次にA型、最後に

O型。但し子供のように自我が確立せず、母親なり父親を同一化する場合は、以上の原則がくずれ、親の血液型と同じということになる。つまり、相手をどうみるかということに関して、共通の原則があるのではないかと思われたことである。

# 心理学のタームによる考察

# 【逃避】

逃避というのは心理学のタームである。相手より精神的な圧力をうけた場合、逃避とい う形式で精神的圧迫からのがれるメカニズムである。従って当然、一般的原則ということ ができる。しかし、気質と血液型の観点から観察すると、逃避と自殺のメカニズムには、 裏腹の関係があって、人と人との間に一般的に通用する原則ではないのではないかと思わ れるのである。というのは逃避についていえば、精神的圧力を加える人と逃避する人との 間に一定の関係があるように思われるのである。例えば、O型とB型との間において、O 型は強者の地位にあって、自分の秘密をしゃべらない。B 型は何かのときに気が付いて追 究する。 O 型は追究されて苦しくなると逃げだす。 同様に A 型は O 型から追究されると逃 げだす。B型はA型に追究されると逃げる。逃げるのはまだ余裕があるからである。逃げ られなくなるといなおることもある。反対に、強者から圧力を加えられた場合、逃げるな どというなまやさしい方法はあり得ない。揮身の力をふりむけて反撃できればいいであろ うが、その力さえないときは自ら破滅のなかにおちこむか、自殺という形で抵抗するかで ある。従って筆者の立場からいえば自殺という一般的現象すらも、一定の人間関係がその 背後に存在するのではないかと推論しているのである。一例であるが、ある不甲斐のない B型の父親が秀才の息子を旧制高校に入れた。学資が足らないので親戚の医者から学資を 出してもらった。そこの白痴に近い娘と結婚する条件であった。息子の方は医者になった ものの、実母は家出し、芸者上りの義母から多額の生命保険をかけられ、若い生命を自ら 断って果てた。日本の家族制度からぬけでることができなかった悲劇であるが、不甲斐な いB型の父親に対するA型のせめてもの抵抗であった。

### 【酷薄】

酷薄という感じをどのような関係でうけとるか考えてみよう。夫婦とか親子とか友人同士の近い間柄の場合である。例えば A 型が O 型にどんなにつらい役割を与えても、O 型は A 型の精神主義をおしつけられて、人間はこういうものだと考えるが、反対に、A 型は O 型からそれほどのことをされなくとも、酷薄という形でうけとることが多い。O 型が B 型に、A 型が O 型に愛情をもっていて、それが裏切られたと感じた場合であ

る。そうした場合、O型はA型に、B型はO型に、A型はB型に対して、なんの未練も愛着もなくきれいさっぱりと捨てきることができる。それは、丁度、子供が親を捨ててゆくのに似ている。親はなんて薄情な子供だろうと嘆くのである。

#### 【模倣と選択】

模倣についても考えることがありそうに思う。O型は B型が本質的に追究したところを表面的に模倣するのではないだろうか、同様に B型は A型が興味をもったことに対し関心を示すのではないか、同様に A型は O型が到達した結論に。この場合反対側からみると、きわめて皮相的に模倣するように見える。それぞれ方法がちがうからである。筆者 (B型)が地方の高校の教師をしていた頃、有名人の某女史 (O型)と座談会に出席するたびに、話をしているうちにいつの間にか、某女史が筆者の談話の筋を奪って話してゆくのを、いつも変な気持でうけとったことを思い出す。最近こんなことも考えるようになった。筆者の歴史の試験に満点をとった生徒が何人かあった。いずれも O型であった。つまり O型が B型から学ぼうとする場合、きわめてすぐれた理解力を示すのではないか、模倣学習という精神活動においても、人間関係を契機として能力が発揮されたりされなかったりするのではあるまいか、A型が O型に、O型が B型に、B型が A型に注ぐ眼は真剣なものがあるように思う。

一方、O型がA型に対する場合、A型がB型に、B型がO型に対する場合、前記の場合と違って、良いものを肯定的に受け入れようとするように思われる。柄でもないものを模倣するのではなくて、自分に必要なものだけを選択し、特に緊張はないように思う。

#### 【弱肉強食の関係】

A型がB型に対する場合、O型がA型に、B型がO型に対する場合の系列と、B型がA型に対する場合、A型がO型に、O型がB型に対する場合の系列とは、微妙なちがいがある。筆者はこのちがいを、生物学的な弱肉強食的な関係であると考えているのであるが、A型がO型を、O型がB型を、B型がA型をみる関係には強者の余裕があり、自分の都合のよいように利用しようとするエゴイズムがはたらくように思うのに対し、O型がA型を、A型がB型を、B型がO型をみる眼には弱者の従順さと尊敬があるように思う。例えば、O型はB型に対して、B型はA型に対して、A型はO型に対して関心を示す場合、その関心をおもてに出さない。小さな親切をするとか、イソギンチャクのように触角をひらひらさせて相手をいざなっているように思う。これに対して、A型はB型がみじめでいるとたすけたくなる。B型はO型が孤独でいるとなぐさめたくなる。O型はA型が困っていると力を貸したくなる。その気持は素直でうそいつわりがない。それなのに相手は、ちょっと

でもすきを見せたとたん入りこんできて、あとでしまったと思うようなことになる。

他の例をのべてみたい。強者の側に立つ O 型、A 型、B 型はどうしても自己本位になる。 従って、強者の側にある O 型が B 型に、A 型が O 型に、B 型が A 型に謙虚に教えを乞うことが出来るならば、強者の側にある O 型、A 型、B 型は精神的に人格的に高められる。 しかしジャンルがちがうので弱者側の B 型 O 型 A 型のいう通りの系路を取ることはなかなか困難ではないかと思う。これに反して現実面では A 型は B 型の、O 型は A 型の、B 型は O 型の指導に服した方が成功するように思う。精神的な面ではその反対である。

#### 【同型の場合】

同型の場合、O型とO型、B型とB型、A型とA型は一般的にいって対立のないおだやかな関係が成立する。日本では同型は少ないのではないかと思っているが、古畑種基氏の『血液型の話』の資料によって計算すると、一九一一年、ハイデルベルヒ大学の職員七二家族中、同型の組合せは二二組で三○%に達する。(フォン=ゾンゲルン、ヒルシュフェルド両氏調査)。日本では一九二五年金沢医科大学古畑、市田、岸各氏の調査によると同型一○○家族中二八家族で二八%、ドイツの三○%、日本の二八%は年代もちがい調査例も一例ずつであるからなんともいえないが、ヨーロッパでは日本よりも多いのではないかと思っている。同型の組合せについて、例として適当でないかも知れないが、ゾラの小説「嘆きのテレーズ」を紹介してみよう。亭主を殺した妻と男が、亡霊に悩まされ、かつての情熱も消えて、今は自らを窮地においこんだ相手を殺そうとしてすきをうかがっているとき、相手も同じく手刀をしのばせていることを知り、相さしちがえて心中する場面がある。同じ型の場合は同じことを考え、同じ行動をとる。知人の夫婦からきいたことだが、夫婦げんかは最初に文句をいいだした方が勝ちだということであった。

よく、母親と娘がぴったりいきを合せている姿をみかけることがある。筆者にはこうした親娘の一体化の条件に同一血液気質型が存在しているのではないかと思う。

同型間の場合の力関係は異型間の場合とちがって、そこに存在するのは自然法則だけである。

### 【扱いにくいタイプ】

異型者間の場合は先にのべたように、年令、国籍、身分、男女等の差別はない。例えば扱いにくいタイプという点からみてみると、O型にとってA型、B型にとってO型、A型にとってB型が扱いにくい。その場合、年令、地位の上下は関係ない。よく母親で沢山の子供のうちに、意のままにならぬ子供のいることがある。或いは教師にとって扱いにくい生徒がいる。工場などでも職長を小馬鹿にする工員の存在するのはそうした実例である。

#### 【ひやかしの関係】

ひやかしの関係をみると、一般に O 型をひやかすのは B 型、A 型をひやかすのは O 型、B 型をひやかすのは A 型である。これは血液型を判断する材料にもなるほど、確かな関係である。しかしこのひやかしはあまりユーモアにならない。反対に A 型が O 型を、B 型が A 型を、O 型が B 型をひやかす場合は、積極的な姿勢が必要であるが、A 型からひやかされると O 型はおこる。おこるから一層ひやかしがきいてくる。テレビの漫才(二人)の組合せに、この関係を応用してみると、非常にはっきりする。煩わしくなるので、ここには、A と O の例だけを取上げてみよう。A は体格がよく髪もふさふさしている。O は小男でハゲ頭である。この二人の漫才は、いつも A が O のハゲ頭をひやかし、貧相さをひやかす。すると O はかんかんになって怒る。いつも O は A にひっかけられて怒る役割である。その関係が視聴者を笑わせるのである。逆に、O が A をひやかすという関係の漫才もある。この場合は、O が A の悪事を暴露するという形をとる。ひやかすという関係の漫才もあるこの場合は、O が A の悪事を暴露するという形をとる。ひやかすというよりは、攻撃して相手をへこますという姿勢である。しかし内心、A の方は何を言われても頭にくるということがなく、余裕を保っている。そのために、そこにある種のおかしみがかもし出されるのである。 [173 頁の編者注 2 参照]

## 【異型者間の微妙な関係/(友人と敵)】

異型者間の微妙なニュアンスについて。友人同士は普通異型者が多い。そうした友人がよく家に遊びにくるといった場合、友人の血液型と同じタイプの人が、家族のなかにあることが多い。友人同士は異なっているが、その家には片方の友人と同じ血液型がいて、居心地のいい共通の感情を感じるからであろう。

同様のことだが、敵をもったと意識した場合、その相手が配偶者と同じタイプであることに気付くであろう。子供なら両親のうちの一方と……。つまりよく分かっているから、敵にもなるのだと思う。しかし相手が必ずそうだということではない。敵という意識をもっていないこともあるし……。

#### 【(三者関係)】

もう一つ微妙な関係であるが、会議や論争の場で A 型と O 型が対立したとする。そのとき B 型はどういう反応を示すかということである。利害関係やイデオロギーその他が加わると別であるが、自然感情として B 型は O 型に助太刀したくなるのである。平生 B 型は O 型に支配され、従わされていて、このときこそ O 型をやっつけるチャンスであるはずなのに、実際は B 型は O 型をたすけたくなるのである。同様に A 型と B 型が論争していると O 型は A 型の肩をもち、B 型と O 型が論争していると A 型は B 型に肩をもつのであ

る。その結果相手は予期せぬ敵を見出しまごつくということになる。

疎外の問題を考えてみると O 型と A 型が意見が一致した場合 B 型が疎外され、A 型と B 型が共通の場をもったときは O 型が疎外され、O 型と B 型との組合せには A 型が疎外されるということになる。家庭でいうと、O 型 A 型の家庭には B 型は訪問しにくいし、O 型 B 型の家庭には A 型は一度訪問しても二度と行く気にならないし、A 型 B 型の家庭には O 型は窮屈な思いをすることになる。

## 質から量への転換

## 【二つの血液型気質の共通点】

気質と血液型は単に質の関係でなく、量の問題であることに気が付かれるものと思う。 A型から O型をみるとある面では馬鹿じゃなかろうかと思うことがある。頭がかたいのである。B型も O型には閉口する。一方 B型が常軌を逸するようなことがあると、O型は法理論でとっちめる。A型はそうした B型を支離滅裂だと非難する。とすると或る型に対して、他の二者は共通の立場をもつことができるのではないか。古川氏がすでに A型 B型の共通点、O型 B型の共通点、O型 A型の相違点としてのべたものである[15 頁参照]。A型 B型の比較で古川氏は、活動様式において相反し、感情方面において相通ずるとのべているが、筆者の観察では、O型に対して A型 B型の共通点は精神的な面であろうかと思う。O型が物質的にでてくるのを笑ったり或いは感心したりするという風である。A型と O型の B型に対する共通点は計画の実施、規則の解釈、秩序の維持とかいう常識的な判断の場所ではないかと思う。B型の急激な或いは突飛な或いは気粉れな行動の形式に対する批判として A型 O型の共通点がでてくるように思う。B型と O型は A型の消極性と保守性に対して、現実的な方針をうちだすという形ででてくるように思う。

#### 【民族気質】

更に量と質の問題に関連して、古川氏は「血液型と民族性」で触れているように、民族 気質にまでひろげている。O型の多い民族としてイギリスを、B型の多い民族として中国 を、A型の多い民族として日本をあげている。しかしこれでは、世界の多くの国々の民族 気質を充分に説明できないので、筆者らは日本を AOB型、インドを BO型、ロシアを OB型、イギリスを OA型、ドイツを AO型という風に関係的にとらえることにした。これに よって民族性の核心にアプローチできると信じている。

日本の外交は保守的である。日本民族の構成(AOB型)の A型のもつ保守性に基づくからである。イギリスの現実外交は OA型の O型の現実性に基づく。ロシアの手のひらを

かえすような政変はOB型の世界のO型とB型の角逐として把握すればよく分るというものだ。イギリスがドイツ政策で飼犬に手をかまれる破目におちいるのもイギリスのOA型のO型に対するドイツのAO型のA型の生物学的な強者の関係として理解できるであろう。日本人には中国の文化革命は全く理解できないのだろうと思う。又ロシアのB型も非常にはげしい気性であることを知るべきである。

日本の文学の伝統といった方がよいか、或いは古代の政治史のなかにといったらよいか、B型の要素がかなりあるのではないかと筆者らは考えている。日本ではB型は数的に一番少なく疎外される立場にあるが、支配的位置にあるA型をかなりチェックする要素になっているのではあるまいか。筆者らにはこんなことを想像したいように思う。日本人のベースはA型(湖南型)が支配的であったろうと思われる。それは非漢民族文化に直接つながることが証明されている。しかし古代の政治史の主力は O型、B型ではなかったろうか。古代天皇制の世界や摂関政治にはA型の感じがとぼしい。枕草子や愚管抄の表現は O型の論理の世界でも A型の感情の世界でもないように思われる。古代には A型は民衆のなかに沈んでいて、A型が次第に歴史の表面にでてくるのは鎌倉以後ではないか。なお古畑氏によると秀吉は AB型、また、藤原三代の中にも AB型がおり、上杉謙信も AB型(医科歯科大学報告)であるという。してみれば、戦国時代の有名な武将には AB型が割合に多く、これは、この戦乱の時代が AB型の活動に適していたのではなかったかと想像される。

短調の音楽はくらい音楽といってもA型のくらさとB型のくらさでは比較にならないちがいがあるように思われる。シューベルトのすくいのないくらさはドイツの AO型の A型のくらさである。これに対してチャイコフスキーの悲愴交響曲のように表面上悲しみを現わしているけれども、底の方に一種の快活さとはなやかさをもっているのはロシア人のOB型のB型のモメントである。日本の歌舞妓の世界はA型の世界である。O型は長調の音楽を、A型B型は短調の音楽をつくる。日本人はうれしいときでも軍歌のようなものでも短調の方がぴったりするらしい。旧一高寮歌"ああ玉杯に花うけて"(長調)を旧制高校生は短調でうたう。民族気質は音楽の上にもきれいにあらわれるものである。

#### 【数量による変化】

つづいて量と質の問題に関して、A型はO型に対して強者として対するとのべた。ところが A型一人に対してO型が二人の場合、力関係が変わってくる。O型が二人協力して A型にあたるときには、A型は負けはしまいが、ある程度チェックされることになる。B型一人に対してA型二人、O型一人に対してB型二人も同様である。

次の場合は今の所、説明がつかない。AB 型と A 型の場合、A 型は AB 型に対して生物学的に強者の関係にあるようだ。これは原則 B 型対 A 型の関係に反する。同様に AB 型と

B型の場合、AB型はB型に対して生物学的に強者の関係にある。これもまた A型対 B型の原則に反する。

量と質の問題に関連して、B型はO型に対して生物学的な弱者の関係にある。又O型は A型に対して同様の立場にある。だから B型とO型はそうした場合弱者の立場として共通 の利害に立っているかというとそうはゆかない。何故なら共通の弱者をはなれてB型とO型との基本的原則に戻るからである。

## 古川学説の補遺

- A型 相手の立場になるとよくいうが、A型だけが相手の気持ちになるということではない。O型でもB型でもそれができる。唯ジャンルがちがうように思う。即ちO型は相手の客観的立場がよくわかるようだし、B型は相手の感覚がよくわかるようだし、A型は相手の感情がよくわかるという風に。そのうちA型の相手の気持ちがわかるというのが、なんといっても目にうつるから、A型が相手の立場になるといわれるのである。
- O型 味方にすれば頼母しく敵にすれば手剛い。
- ○型 悪党であっても目的を果す物欲につながる。[「果す」は「果す。」か?――編者]
- B型 日本では盲動するだけで何も得られない。欲がないから。
- B型 ツィゴイネルワイゼン、はなやかである。ジプシーの音楽、ジプシー=インド人 =B型。
- A型 電気ガスの使い方あらい。
- B型 校正照合などいやがる。
- O型 炊事などいやがる。 [巻末の編者注3参照]





# 第三部 対話編

I 一問一答

Ⅱ 対話

# 一問一答



## 1 顔をみただけで、ひとの血液型がわかりますか。

顔をみただけで、ひとの血液型を判断することは非常に困難です。何故ならばわれわれはつねに我にとらわれて生活しています。ひとは当然、外観からも行動からも気質を含めた個性を表現している筈ですから、それを客観的に判断すれば、大体誤りなく判断できることになります。しかし実際は虚心坦懐に判断することは難しく、筆者は外観で判断することを断念しています。てっきり A 型だと思った人が B 型だったり、O 型だったりして、重大な誤りを犯すことがしばしばあるからです。B 型である筆者自身、相手を A 型とみる傾向を克服できないからでもあります。なにも顔をみて血液型を判断しなくとも、相手の血液型を知りたければ血液なり唾液なり髪の毛なりで判定すればよいのですから……。しかしわれわれ素人に顔をみて血液型を判断するのを禁止すべき理由はありません。相手の血液型を想像することに興味をもつ方はあてるたのしみを捨てる必要はないと思います。良く相手の血液型をあてる方がありますし、ある医者も血液型の検査をする前に一〇〇%見当がつくといっています。いつかは外観からも血液型各型の特徴が明らかにされることと思います。日本では A 型があてやすいように思います。 A 型の人は几張面あるいは清潔な感じ、女の方ならおしゃれな感じでいかにも神経質な風ですからいちばん A 型の特徴をだしていると思います。

#### 2 古川説とのちがいはどこですか。

筆者は古川説を本質的ないみで否定してはいません。古川氏はたしかに A 型 B 型 O 型 AB 型をよく知っていたように思います。晩年古川教授はおそらく自己の信念を失わず 悶々のうちに余生をおくったことと思います。同情に耐えません。ただ古川教授がよく A 型 B 型 O 型 AB 型を知っていることと、そのことを学問的に説明することのあいだに若干 のずれがあったのではないかと思います。そのすきを偏狭な学界の狭量さのために、つけ こまれることになったものと思います。筆者の説も古川説も同様の欠陥をもっています。

血液型が違うことによって気質まで異なるという事実を納得してもらうまでの手続きが十分ではないからです。従って筆者の説も学界で抹殺しようと思えば朝飯前でしょう。しかし将来は古川説も A型の特徴はこう、B型はこうという風に科学的に絶対基準がつくられるものと思います。筆者の説は古川説とちがい絶対基準をおかず、ひとが相手によって態度をかえる点に着目し、A型が O型に対する場合、B型が O型に対する場合又その反対の場合でも共通の原則(情報処理)が行なわれているのではないか。生物学の方でニワトリのつつきの順位制(Peck order)というのがあります。実験によると十二羽のニワトリ中の A は他の十一羽のニワトリをつつき、B は A につつかれ他の十羽をつつくという法則です。筆者の原則は、(ニワトリでは最後の一羽はつつかれ通しですけど)人間の間では完結するもので、A は O をつつくけれども B にはつつかれる。B は又 O につつかれるという風になっているのです。つつかれるということばは適当でないでしょうが生物学的法則がはたらくというのです。

## 3 気質と血液型は関係あるものでしょうか。

筆者はあると信じて仮説を提出しているのです。同じ人間だから泣いたり笑ったり、ヨーロッパ人であろうと日本人であろうと色恋は同じです。しかし涙の流し方には種々のバリエーションが考えられはしませんか。涙腺を刺激するから涙がでる。涙がでるから悲しくなる。どんな涙腺の刺激によって涙を流すかは、同じ人間だから共通だというのでなく、個々の人間によって差異があるのではないか。涙を女の武器としているような人と、涙を流すかわりに笑みをみせようとする人とは生理学的に随分ちがったはたらきをしていると思います。筆者の確信はこのように、人間の器官として同じであってもその営む生理学的作用は後天的なものは別として遺伝的によるものと考えます。血液型は遺伝子によって決定せられた因子の一つです。しかも血液型は、単に血液だけでなく唾液でも髪の毛でもその他の体液すべてを決定しているのです。このように、A型、B型、O型、AB型によって生理作用を営んでいる血液その他が、人間行動の形式になんら関係がないというのは、いささか単純すぎるのではないでしょうか。勿論これだけで気質と血液型との関連の証明にはなりません。現在病気との関連が多少認められていますけれども、将来もっと明白になってゆくものと信じます。

#### 4 血液型をしらべればお互いの合性がわかりますか。

合性と筆者が言った場合を説明しなければなりません。ひとは誰でも異性を選択する場合に親に似た異性を探し求めることになります。従って筆者が合性といった場合、相手はお互いに親と同じ血液型の異性ということになります。但し両親は夫婦円満という条件が

なければなりません。何故ならば両親の間柄に不協和があったとすれば、子供は親と同じ血液型の異性に対して、親に対すると同じような忌避感をもつことがあるからです。しかし、お互いに親と同じ血液型の相手をえらぶといい、例えば、A型、O型が相性がいいといっても、A  $\cdot$  O 型の両親をもつ A 若しくは O ではなく、AB 型の両親をもつ A と B  $\cdot$  O 型の両親をもつ O との間には、かなりの不協和がある筈だからです。

日本では一般に A型と O型の組合せが多いようです。従って両親が  $A \cdot O$ 型、お互いが A型と O型であれば血液型の上からは申分ない組合せだと思います。又日本では O型と B型は合性は悪いということになっています。しかし前述のように円満な仲の  $B \cdot O$ 型の両親をもつ O型と B型の組合せなら合性は悪いということはありません。

## 5 職業の選択に血液型は関係がありますか。

結果的にみて関係があると筆者は考えています。子供が成長して学校を選択し最後に職業につくまでには複雑な過程があるように思います。子供の希望だけでなく、子供の属する階級を含めて親との関係が深いように思えます。例えば先祖代々の家業を継ぐ場合、今日では家督を継ぐ義務を持たないのですから、次男でも末子でも或いは娘でもいいわけです。そのように兄弟の誰かがついでいる場合、一定の法則があるように思います。確かなことはいえませんが親〇一子〇、親 A一子 A、親 B一子 B という形ではないかと思っています。子供の職業の選択がはたらく場合はむしろ日本では特別な場合ではないかと思います。例えば家の商売がいやで自分はつとめ人になるとか、つとめ人はいやで兄弟で一人だけ独立の事業家になったとか、結果として、古川氏が指摘するように A 型者は大学教授、裁判官、公務員、僧侶に多く、〇 型者はスポーツマン、芸能人、政治家、組合活動家、B 型者は実業人という結果がでてくるのだと思います。日本人の職業と血液型との関連ということになりますから。結論を導きだすことは容易ではありません。

#### 6 気質と血液型の知識を得たとしても、どうということはないのではありませんか。

まことにごもっともです。われわれは生きるために呼吸をする。空気中の酸素を摂取しているということを知らなくともわれわれの心臓が鼓動をうつ限り生きつづけるでありましょう。しかし高山に上って、高山病にかかったときに酸素が稀薄になって酸素の不足によるものだということを知っておれば、適切な手当をすることができましょう。同様に気質と血液型の知識を持とうと持つまいと、ひとは対者に対し原則に従った行動をとっている筈です。しかし、人間は互いに誤解したり嫉妬反目をおこしがちです。そうしたとき気質と血液型の知識は何故そういう人間関係がおこるかという事情をはっきりつかむことが出来ると思います。それが人間関係を解決するものではありません。しかし事実の正確な

認識こそ解決の第一歩であるからです。

## 7 血液型による気質説は運命論になりませんか。

古川説が発表されたとき、世人にはA型はこうB型はこうと規定されるのであるならば学校の必要もあるまいと云ったということである。古川説を万能とみた人たちである。その裏には宿命論がひそんでいるように思われる。今日このような素朴な人たちはいまいと思いますが、念のためにお答えしておきたい。気質説には多分に予言的な場所があります。そのいみで運命論に利用されるところがないとはいえません。例えばA・O型の両親をもつA型の娘さんにあなたはO型の男性と結婚するでしょうということができます。そしてA型の娘さんがそれを運命としてうけいれるならば宿命論ということになりましょう。しかし、このことは、気質説でA型とかO型とかいうことばを使うだけで、この原則自身は心理学の原則にすぎません。気質説だけの原則というものはありません。気質説は先天的に変らないものとしてとりあげます。それは丁度男とか女とかいう自然性と同じです。男とか女とかということによって、宿命論をいいだす人はないと思います。宿命論をもっている人はおそらくなにをもってきても運命論をつくり上げる人だと思います。気質説は先天性について触れていますけれども、後天的につくり上げる人格・性格・職業等について否定したことは一度もありません。

## 8 あの人は感じがいい人といった場合、血液型と関係がありますか。

このような現象的な質問には責任あるお答えはできないのです。抽象的にお答えしますと、ある場合とない場合の二通りが考えられます。一つは人格として感じのいい人の場合であり他は、アバタもエクボ式の特定の人に対してもつ感じのいい人という関係です。前者の場合は後天的につくりあげられた人格であるから、どんな人に対しても好感を与えずにはおきません。血液型は全く関係ありません。しかし後者の場合、ある人が感じがいい人といっても、別な人からすれば感じがいいとはいえないかも知れません。即ちその人にとって感じのいい人ということになります。そうしたとき筆者は当人の血液型と相手の血液型を調べることができれば、当人が感じがいいという人はつねに一定であることを発見できると思います。勿論一つのタイプだけにとどまりません。

#### 9 気質と血液型との関連は外国でも知られていますか。

古川竹二教授の著作のなかに、ドイツの心理学雑誌に発表した文献名が二篇みられます (資料参照)。従って一九三〇年代以降、外国の心理学者の目にふれたことは確かであり ます。けれど外国の雑誌に発表されたというだけで外国の学者にどの程度関心をもたれた か明らかでありません。特に古川竹二教授の気質説は質問法によって気質(血液型)を判定する性格検査の一種として発表されましたから、気質と血液型の関連の問題にまで外国の学者の関心をかうところまでゆかなかったのではないかと思います。或いは未発表の外国人学者との間の往復書簡のようなものがあるかも知れません。気質と血液型との関連はいち早く大正年代に日本人学者によってとりあげられたもので、独創的なものだと信じておりますから、本書の要約を同時に作成し、アメリカ、ソビエト、ヨーロッパの学界に紹介する予定です。

## 10 気質と血液型を読めば気質説のエキスパートになれますか。

なれません。「……に強くなる本」というのがあります。広告はその本をよむとたちどころに……に強くなるかのように錯覚をおこさせます。筆者はこれは読者を魔術にかけているものだと思っています。読者の心ある人は「……に強くなる本」を一度読んだ位で、……に強くなる筈はないこと位分りますが、買わなきゃ……に強くならないのではないかと思わせるところに魔術の魔術たる理由があるのです。「気質と血液型」は科学で真実です。しかし真実というものを真実としてみることは一般にはかなりむずかしいことではないかと思います。何故なら人間は利害関係にあまりにも結びついており、感情で判断したり、レッテルや肩書に弱かったり、真実とにせものの区別をすることができにくいのが普通ですから、「気質と血液型」を読んで人間理解に達するのは実は相当困難ではなかろうかと思っています。本書はしかし、理論的に問題をとりあげることを教えていますから、その気になれば新しい観察をふやすこともできると思います。医者の卵がインターンとなり、数々の失敗をしたあげく名医になるように、謙虚な追究が必要です。一たん興味を持てば、人間関係の観察からくめどもつきぬ叡知の泉をくみとることができましょう。

## 11 でぶとやせは気質と血液型の上でどういう風にとりあつかいますか。

ふとっている人はからだに似合わず神経のこまかいところがあるのではないでしょうか。また、やせている人は一見神経質そうに見えますが案外図太いところがありませんか。 心理学の方でもクレッチマーはやせ型分裂病気質、肥満型躁うつ病気質と分類していますから、でぶとやせの特徴が学問的にも認められていることになります。血液型学の方でも A 型は肥満、O 型はやせ型、B 型は中年になると肥満型となるというような報告があるようです。

12 気質と血液型には興味を覚えます。しかし興味がつきてマンネリになるのではないでしょうか。

昭和九年頃雑誌「血液型研究」にはありありとマンネリズムに苦しむ編集者の苦心がみえていたように思います。東北大心理学科出身の田中秀雄氏なども、マンネリを打開するために方法論を検討せねばならないとのべております。やがて雑誌は廃刊、気質説自体学界から抹殺されてしまうのであります。マンネリズムは方法論が確立されていないところにおこります。気質と血液型はその関連を研究するための生理学の分野における研究、動物実験、精薄児間におけるソシオグラムの作成とその考察、社会学的な夫婦の組合せの調査、職場における人間関係の観察等、科学としての方法論を充分に持ちうるのではないかと思っています。しかし一般には興味でつなぐ限りはマンネリに陥ることもやむを得ないことかも知れない。筆者らも二十年にわたって研究をつんだのではなく、熱中して毎日毎日論じ合ったかと思うと、しばらく忘れてしまったかのように止んでいて、又突然誰かの話題を中心に新しい観察を加えるという風でありました。その間何回かかべにぶつかって低迷もしたわけで、マンネリ自身も一つの壁と考え、それを克服することによって、新しい研究がはじまるものだと思います。人間に対するつきることのない興味を気質説は秘めていると確信しております。

## 13 「気質と血液型」と他の気質説や性格論との関係はどうですか。

気質と血液型との関連は学界においてまだ認められておりません。将来もし気質と血液型との関連が科学的に証明され、学界から認められたあかつきには、数多くの気質説のなかで独自なものになると思います。気質説の代表ともいわれるクレッチマーのやせ型(分裂病質)、肥り型(躁欝病質)、筋骨型(てんかん)というような分類も血液型との関連が或いは存在するかも知れませんし、もし関連が存在するとしたら互いに研究協力し合うことができるものと思います。又古川説を補うために、筆者は性格学の一つであるユンクの内向性外向性或いはフロイトの精神分析のタームをしばしば援用しておりますが、気質と血液型でもって複雑な社会のなかで生きる人間の行動をすべて表現できるわけでありませんので、どしどし利用したいと思います。一方ユンクの内向性外向性というような分類は単純をまぬがれず、もっと深い根拠を追究しなければならないと考えます。人間は理解するために分類することをやめるわけにゆきません。今後とも数多くの性格の本が、分類が現われるでありましょうが、気質と血液型は全く独自でありますから、どの気質説・性格論とも協力できるものと信じます。

#### 14 気質と血液型の上から理想像の求め方・与え方はどうですか。

常々おかしいと思うことがあります。子供は学校や家庭で立派な人になるよう教育されます。そして親や教師からシュヴァイツァーや野口英世やらエディソンやらアムンゼンの

ような理想像をおしつけられます。子供は沢山の伝記を読んでそのうちから自分に合う理想像を選択しなければなりません。筆者にはこのような理想像の与え方は間違いではないかと思うのです。どこが間違いでしょうか。子供は大人たちから沢山の美しい言葉によって育てられます。言葉は真理です。誰にでも通じます。しかし育てられる子供は個であって、決して一般的存在ではないのです。子供が A 型であるならばその子供は B 型でも O 型でもないのです。B 型の子は O 型でも A 型でもないのです。A 型の子に O 型の理想像をおしつけても(O 型を知るため与える以外は)それを自分の理想像とするわけにゆきません。子供はやむを得ず沢山の伝記をよんで、自己の理想像にあう人物を探すでしょうが、大変無駄な努力をするというものです。O 型には O 型の、A 型には A 型の理想像を与えることができれば、自我の成長の上からも余計な道草をくわなくともすむというものです。特に、西欧の伝記のなかに B 型のすぐれた人物の伝記は全くといってもいいほどありません。中国・インド・ソビエト・ユダヤ・日本で見出す以外はないでしょう。世界の名著・ガンジー『自叙伝』(中央公論社)はいい本です。ガンジーが B 型だったかどうかは知りません。しかし B 型の世界がえがかれていることはたしかです。

## 15 自分の子供たちに違いがあるのは血液型と関係がありますか。

子供たちに違いがあるのは先天的なものばかりではありません、性質とか個性といったように後天的に顕現されるものもあります。例えば長男は長男のおのずからなる気位が備わりますし、末っ子はどうしようもない甘えん坊になるというわけです。しかし筆者は先天的なものを重んじる立場から、子供たちの違いは血液型の違いに基づくのではないかと考えています。親がどういういみで兄弟に違いがあると思ったかその動機が確かめられなければならないが、一つの例をのべてみたい。最近の話であったが、"上の子は無事に育ったのに下の子は、学校の成績が急に下った。どうもわからないところがある"と相談に来られた。よくきいてみると、上の子は O型、下の子は B型、母親は O型であった。母親からすれば上の子は同じ型であるから、育てるのに意志の疎通で苦しむことはなかった。ところが、下の子の B型はそうはゆかない。特に B型には波があるから、成績が下ったり上ったりして、成績が下っても O型の母親からすれば、本人はちっとも気にしない平気でいるように見えて、どうも上の子とは違う。わからないということになったようです。この子は B型だからこうなのだといいましたら、よく分りましたと帰ってゆかれました。

#### 16 気質と血液型は手相・姓名判断と同じく占いの一種ではありませんか。

手相と姓名判断というものを筆者は知りませんので、それとの比較はできません。そこで気質と血液型は占いの一種かどうかたしかめてみましょう。占いは手相とか姓名とか骨

相によって、過去を判断し未来を予測するものだと思います。気質と血液型もある程度、過去を判断し、未来を予測することができます。しかしその判断と予測は女性が女性であり、男性が男性の特徴をもつといったもので、占いのように東の方から吉が訪れるとか不吉を避けるために西に難を避けたがいいというようなことは、到底予測することはできない。占いの一種といわれる手相は、手相により過去を判断し未来を予測する。気質と血液型は血液型によって、その人とある人との関係を判断する。手相といい血液型といい、基準とするものの不確かさは、今のところ科学的に証明されていないので同じであるか、気質と血液型を占いの一種と考えるかどうかは、読者の観察にまちたい。占いを信じるような不透明さをもつものには、どんなことでも占いに利用されるでしょう。古川説のはやった昭和のはじめ頃に、それが占いのようにとり扱われたのも無理のないところです。

## 17 文学書を読んでいて作者や登場人物の血液型を考えることがありますか。

本屋で立ち読みした文学論のなかに、その著者が作品をえがくとき主人公の血液型を設定するという箇所があった。すべての作家が古川説を知っておりそのようなことをするとは思われないが、作家がすぐれていればいるほど作品の主人公の個性やタイプ、ひいては作家自身の傾向を明白に現わすものである。

トルストイは O 型だったと思います。『カザック』のなかに恋に燃えない冷静な将校をえがいていますが、この主人公はトルストイ自身だと思います。ゲーテやカントも O 型だと思います。カントは作家ではないが会合がすきで毎日客と共に座談を楽しんでおりました。日本にきたショーロホフも O 型だと思います。『静かなるドン』のなかにえがかれている主人公は、B 型だと思います。白軍のカザックのこの将校は全く偶然に革命戦争にまきこまれ、村に戻っても絶えず革命派委員からマークされ、再び反革命の軍隊に戻って、最後にはとらえられて殺されてゆく光景を暖かい同情の目をもってえがいています。日本だったら、暖かく同情をもってえがくことはないでしょう。ドストエフスキーは何型だったかわかりませんが B 型の世界をよく表現しています(『白痴』のように)。魯迅は A 型だったと思いますが、中国に多い B 型を、この B 型が無知から目ざめる時が来ればとの思いで『阿 Q 正伝』をえがいています。B 型に対する目がきびしいのは作者が A 型だったからではないかと思います。 [175 頁の編者注 4 参照]

#### 18 関係的人間学とはなんですか。

こういう学問用語はないと思います。筆者の造語です。古川教授はその著「血液型と気質」において、A型は温厚従順、O型は意志強固、B型は淡白という風に血液型にはそれぞれ本来の気質をもっていると説明しました。しかし筆者はそれだけに止まらず、ひとは

相手によって行動が変化するのに気付き、これに血液型を適用してみました。すると O 型が A 型に対するときと、B 型、AB 型に対する時とは異なり、そこに一定の法則があることを知りました。

今日社会学では人間社会をゲマインシャフト・ゲゼルシャフト或いは一次社会・二次社会・基礎社会・派生社会というように分類をし、家族における人間関係、都市農村の人間関係を学問的に規定しています。即ち社会学は一種の人間関係学といえるでしょう。またアメリカの心理学では、人間の行動のメカニズムを追求した結果、家族や学校ひいては社会生活においてどのように適応するかを研究しているように思われます。

筆者らは人と人との関係を直接対象とします。親子とか、夫婦とか、友人とか或いは集団の人間関係とかそのなかに、嫌悪、愛着、期待、幻滅、支配、服従、集散、離合、といった生物学的、生理学的な作用が個体のなかに営まれるのではないかと仮定し、血液型との関連の上から人間関係をみようとしているのです。

## 19 血液型に関連して、職業の適性について触れたものがありますか。

変った資料を一つ御紹介いたしましょう。

「鉄道職員血液型の一研究」 行橋鉄道治療所、鉄道医、村田鳳策氏

「近時血液型に関する研究が盛んに行なわれるに従って、その応用範囲も各方面にわたり、医学上のみの問題ではなくなったようである。鉄道職員と血液型とがなんらかの交渉がありはせぬかと考えて、次の二項目について調査をしたのですが、未だ広い範囲について行なったのではなく、ただ当所近方の場所に勤務する少数の職員について行ったのであるから、これをもって十分とは申されないが多少の関係があるとは思われますので、ここに報告申します。(一)行橋駅及附近の鉄道職員における血液型の分布状態(二)同鉄道職員の血液型と疲労との関係 但し疲労というもただ体重の減少度を調査したのみである。即ち各職の出勤時の体重と勤務終了時の体重とを比較したのである。

駅、車掌所員は O 型 A 型ほとんど同数、B 型 AB 型ほとんど同数、保線区員は O 型多く B 型も他に比し多い。技工には B 型多く A 型少ない。

右の表によると一勤務における体重の減少率は駅にては $A \cdot B \cdot O \cdot AB$ 、機関庫にては $B \cdot O \cdot A$ 、保線区にては $O \cdot A \cdot B \cdot AB$ 、車掌所にては $A \cdot AB \cdot O \cdot B$  の順序である。しかし、体重の減り方と職の関係を古川氏気質論を参考に考察すると、その方面の職務の適否との間に密接な関係が認められるように考えられる。

# (一) 鉄道職員における血液型の分布状態

	行橋馬	沢駅員	中津駅駅員		総計 (駅員)	
血液型	検査人員	百分率	検査人員	百分率	検査人員	百分率
O型	27 人	40%	12 人	34%	39 人	37.1%
A型	22 人	33%	18 人	47%	40 人	38.1%
B型	8人	12%	5 人	13%	13 人	11.4%
AB 型	10 人	15%	3 人	7%	13 人	11.4%
計	67 人		38 人		105 人	

	後藤寺伽	呆線区員	中津保線区員		総計 (保線区員)	
血液型	検査人員	百分率	検査人員	百分率	検査人員	百分率
O型	37 人	40 %	45 人	38.0%	82 人	38.8%
A型	32 人	34.4%	41 人	34.8%	73 人	34.6%
B 型	21 人	22.6%	26 人	22.0%	47 人	22.2%
AB 型	3 人	3.2%	6人	5.0%	9人	4.3%
計	94 人		118 人		212 人	

	行橋機	関庫員	行橋車掌所車掌		
血液型	検査人員	百分率	検査人員	百分率	
O型	59 人	51.0%	21 人	46.6%	
A型	36 人	31.0%	21 人	46.6%	
B型	16 人	14.0%	1人	2.2%	
AB 型	5 人	4.0%	2 人	4.4%	
計	116人		45 人		

	行橋機関	関庫技工	大里機関庫技工		総計(機関庫技工)	
血液型	検査人員	百分率	検査人員	百分率	検査人員	百分率
O型	6人	60%	9人	53%	15 人	55%
A型	1人	10%	3 人	17%	4 人	15%
B 型	3 人	30%	5 人	30%	8 人	30%
AB 型	0 人	0%	0 人	0%	0 人	0%
計	10 人		17 人		27 人	

(-)	血液型と疲労との	D関係を休重減 (	所粉で表わすり	ナケの通りである	[瓩 - ka]
( <u> </u>	黒似笙と波力とり	ノ渕がと 半里佩り	ル山奴 し衣4ノり こ	. 生い皿りてめる	$_{\circ}$ $

	行橋馬	沢駅員	保線区員		大里機関庫乗務員	
血液和	<b>炒</b> 木 1	一人平均		一人平均	<b>炒</b> 木   目	一人平均
血液型	検査人員	体重減	検査人員	体重減	検査人員	体重減
O型	23 人	0.55kg	5 人	1.16 kg	6人	1.15 kg
A型	22 人	0.66 kg	3 人	0.83 kg	10 人	1.13 kg
B型	8人	0.59 kg	2 人	0.30 kg	6人	1.53 kg
AB 型	9人	0.15 kg	1人	1.00 kg	0人	_
計	62 人	0.53 kg	11 人	0.89 kg	22 人	1.25 kg

	行橋機関	関庫技工	行橋機関庫炭水手		門司車掌所車掌	
血液型	検査人員	一人平均	検査人員	一人平均	検査人員	一人平均
皿似生	快重八貝	体重減	快重八貝	体重減	快重八貝	体重減
O型	6人	0.25 kg	7人	0.66 kg	15 人	0.73 kg
A型	1人	0.30 kg	6人	0.62 kg	11 人	0.93 kg
B型	3 人	0.53 kg	1人	1.30 kg	4 人	0.44 kg
AB 型	0人	_	0 人	_	2 人	0.94 kg
計	10 人	0.34 kg	14 人	0.73 kg	32 人	0.78 kg

その当否はにわかに断定しがたいところであろうが概観して疲労の最も少ない型 が最も適当しておるのであるまいかと思われる。

適性検査ということは相当早くからいわれているところであり、適材適所は最も望ましいことであるが、血液型の研究はこうした方面に応用の範囲をひろげることが出来又休養ということについても血液型が考慮の一部をなす必要のあるものではあるまいか。」(血液型研究昭和七年一〇月通巻十三号一四三頁~一四四頁)

## 20 気質と血液型説はどんな効用がありますか。

一言でいえば気質について相手を知るという効用だけだと思います。それ以上の効用はありません。気質は男性とか女性とか性質というように、最も基本的な因子です。その上に、まえにものべましたように後天的に形成せられる沢山の飾りものが身につけられます。従ってわれわれは着飾った普遍的世界で、或いは仏教を説いたり、実存主義を論じたりすることができます。そしてそれで社会が、人間関係が平和に運営されてゆくならばいいの

ですが、この世界にはいかに多くの相剋が、不和が、競争が、謀略がうずまいていることでしょう。筆者はこうした人間の本能をみてゆくために、気質説をふまえてゆくべきであると主張しているのです。気質説は単に個人間における征服、支配、服従、反抗の関係ばかりでなく、民族における傾向にも触れるもので、外交折衝にも応用できるものである。相手の気質を知ることによって、紛争が解決するものではないが、少なくとも問題がどこにあるか、何故そうなるのか、問題の解決にはどういう方法があるかを知ることができるのである。

#### 21 離婚に気質(血液型)は関係しますか。

離婚にはさまざまな原因があります。わが国によくある姑と嫁との関係、農村にみられる家族制度の重圧の問題、都市にままあるギャンブル狂の夫、アル中の夫といった問題、想像もできないような人間関係をみることができます。従って離婚のすべてが気質(血液型)に関係していると考えていません。しかし結果から判断すれば、姑と嫁との関係が悪く離婚した場合を考えてみると、そこに必ず嫁と姑の気質の問題が内在していることを発見できるものと思う。けれど、こうした組合せの嫁と姑が必ず離婚するとは限らないので、気質は離婚の必須条件で、他に十分条件が存在したと考えなければならない。一方、嫁と姑の問題に深入りすることになるが、姑にいびられて離婚した嫁であっても、実は気質の関係が変われば姑をいじめる嫁になり得るということである。そう何回も結婚しなおすことは許されるものではないが、事実再婚によって幸福を得た女性のなかにはそうした例があります。

## 22 子供の気質と血液型の関係はどうですか。

古川教授は子供の気質は大人より鮮明に現われるといっています。子供の血液型を調査するために、古川教授は特別にカードをつくっています。次のものがそれです。当時はカードによって自己判断をくだし、さらに血液型を検査しその蓋然率をたしかめるという所に重点がおかれておりましたから、このようなカードが考案されたものでありましょう。現在は血液型は検査すればよいものであり、このような気質検査カードは不用と考えます。



姓名 年令

次のものを読んで全体として自分に一番当って居ると思う組に○をつけよ。

- 一 若しその他の組にも特に当って居る事項があったら、その事項の上に○をつけよ。
- 二 自分の組のうちに特に当って居ない事項があったらその上に×をつけよ。

		意志が強い方
		落付いている方
G 6		精神力が強い方
Gr. O	)	きかぬ気の方
		感情に駆られない方
		おとなし相でも自信が強い方
		内気な方
		おとなしい方
Gr. A		用心深い方
Gr. A	)	取越苦労をする方
		反省的な方
		深く感動する方
		あっさりしている方
		気軽な方
Gr. B		物事を長くは気にしない方
Gr. b	)	快活にしてよく談ずる方
		活動的な方
		刺戟が来ると直ぐに之に反応する方 (敏感)

## 23 0型とB型とが合わないというのはどういう根拠からいわれたことですか。

鈴木医学士の「血液型と気質」に記載されているものと思われます。筆者の保存している大阪血液型研究所の血液型応用説明書のなかに、O型とB型は合わぬ、子供は優秀とあるだけで、理由については明らかでありません。筆者の観察ではB型は陽気で社交好きで、よく気がつきますが、O型がたとえ自分は社交的でないといった場合でも、人前にでると堂々とし度胸があるのに対し、B型は人前に出ることをいやがるようです。O型は人前では多々弁ずるという気質なのに、家庭では大変陰気で神経質です。この辺のところに、O型とB型とが合わないといわれた理由があるのではないかと思います。家庭生活のデリケートな面では、水と油のような不一致があるようです。従ってO型とB型が結び合うため

には、両者の共通点である積極性を生かして共通の目的に向って遭進することが大切のように思います。

## 24 どんな血液型のひとが友人として適当ですか。

友人という定義がむずかしく、厳格に規定すればどういうことになりますか。――友人を軽いいみで考えてみましょう。ふつう日本で友人を選ぶ場合に言いうることは、自分の血液型とちがう片親のタイプを選ぶということである。但し注意しなければならないことは両者共、片親の血液型は片親と同じという条件をみたさなければならないということです。なぜならば、日本ではA型B型O型は比較的バランスをとっている。従ってA型O型、A型B型、O型B型の組合せが西欧よりも平均している。その場合他の箇所でも触れたように、A型O型の組合せにはB型は疎外される。A型B型の組合せにはO型、B型O型の組合せにはA型が疎外される。それゆえA型O型の子供O型と、B型O型の子供B型が友人関係を結んでも、A型O型の子供O型にはB型は親しみがうすいということになる。A型O型の子供のO型は同じ組合せの子供A型を選ぶのが一番自然である。しかも未知のタイプは新しい生命をもっているのであるからして、あえて勇気をふるって、友人関係を結ぶことができれば、未知のタイプから大きな力を与えられると思います。

#### 25 中国人は何型ですか。

中国人を理解する上でわれわれは広西 [「華南」か?――編者]の人間と華北の人間を区別してつきあいます。南方の人は米をくい、北の人は麦をくうから違うのだといったりしましたが、南の人は確かに日本人と気質も似ているのに対し、北の人は肌合いの違うものを感じます。しかし東北の人たちは華北に行くとよく同化して生活していました。血液型の上から説明すると、南の人間はアメリカのオッテンバーグの分類で湖南型に入り、わが日本人も同じグループに入ることが確かめられています。これに対して北の人間はインド=満州型に属し、B型38%、O型30%、A型19%とB型が非常に多く、湖南型のA型39%といれちがっていることがわかります。さて中国の歴史にみられる民族的気質ともいわれるべきものはなにかといいますと、筆者はBO型の北の人のタイプが主導権をにぎってきたと考えています。現在の中国の文化大革命、紅衛兵の運動というものを、その是非は別として日本人には理解できないにちがいありません。なぜならBO型の世界を日本人は知らないからです。中国人はまたAO型のヒットラーのナチス・ドイツを理解することはできないものと思います。

## 26 血液型は変えられませんか。

戦時中、血液型検査を受けたことのある人は戦後うけた検査と異っている経験をもち合わせの人が多くいるようです。そのため血液型は変わるのではないかという人が案外います。血液型にはまだ未知の世界が沢山あるでしょうが、古畑博士は『血液型の話』でA型とO型の二つの血液型を持っている人の例をのべています。Rh 因子をもつ幼児と抗Rh 抗体をもつ母親との間における新生児溶血性疾患について、しばしば新聞をにぎわせていますが、この場合の輸血も血液型を変えるというものではないようです。

# 27 病気によって A 型の人はかかりやすいとか、0 型の人はかかりにくいということがありますか。

一九六七年、太平洋学術会議の名誉会長に推された古畑種基博士は NHK の「朝の訪問」の水野アナウンサーの質問に答えて「血液型は病気と関係がある。例えば O 型の人はガンにかかりやすい。潰瘍の人には B 型が多い。……」とのべた。(同様のことは血液型学・医学書院にも記載)。そこで血液型と病気との関係を考えてみると、筆者には感慨深いものがある。それは昭和二年古川氏が気質と血液型との関連を岩波の心理学研究に発表して以来、多くの医学者や教育者が追跡調査に当った。特に病気との関連、心理学の方では、児童生徒と知能との関係が中心であった。その結果どちらも明白なことがいえなかった。約三○○人の医学者・心理学者・教育者とで約四○○篇の論文はなんらの成果を残すことなく、無に帰したものである。

しかし、今日、漠然とながら、病気との関連が唱えられることを考えれば、先人の研究が、陽の目をみはじめたことでもあり今後の研究に明るい希望がうかがわれる。

## 28 スポーツ選手には 0型のひとが多いのですか。

スポーツ選手にはO型のひとが多いという事実は古川竹二氏及びその追試者が熱心に証明したものの一つでした。スポーツではありませんが昔の高等女学校や東京女高師(現お茶の水大)でもO型の女子の占める割合の多いことを指摘されておりますし、女優といわれた人々にも「A型が割合に少なく、O型が多いのは面白い」(血液型研究四五〇頁)とありますし、そのなかに現在も活躍している田村秋子(O型)、浪波千栄子(O型)がおります。このように、O型の女子はそれ相当の意志の強さをもってこそ、世間の悪罵に立ち向うことができたというのです。

スポーツ選手については野球、柔剣道、庭球、水泳選手の調査があります。特に第十八回全国甲子園野球試合全選手の調査をみてみましょう。「第十八回全国中等学校優勝野球大会に出場の六六〇校の代表である二二校選手全員二一三名の血液型の頻度は、O型四

三・二%、A型三四・三%、B型一七・八%、AB型四・七%であります。唾液から血液型を検査するときにときとしてO型の%が多少多くなることがありますが、其の誤差ありとしてそれを控除しても尚断然O型が多いのであります」(血液型研究昭和七年十月十三号一四頁)。「技能の優劣は勿論勝敗を決する一の重要なる条件であるが、この現象を古川説に従って気質上から観察するときは斗志に燃えつつなお冷静沈着を要する野球の競技においてかくの如くO型者が多数であることは、一面血液型と気質に関する古川説を裏書するものではなかろうかと考えられます」(同上一三九頁)。まことにグランド上数万人の観衆の注視のなかで度胸よく投球する投手にふさわしく、これは自殺者とはちがって各人の意志によって選抜されたものであって、職業の選択と同じである。

## 29 犯罪と血液型との関係についてデータはありませんか。

犯罪と血液型は確かに興味のある問題です。多数の学者が血液型との関連を追究したのも当然だといえましょう。しかし私共の立場からすれば犯罪は他のなにものにもまして、慎重に、精密に扱わなければならないと考えています。気質と血液型研究には計量的方法を用いることができます。しかし犯罪には多くの場合対人関係を予想しなければなりません。単独犯であってもこれを起訴する警察検察との人間関係、判決を与える裁判官との人間関係、犯人がこれまで経験したきた環境における人間関係、共犯であれば犯人同士の人間関係、被害者と関係があればその人間関係、示談その他犯罪にまでならなかった多くの事件の人間関係は、計量的方法によって得られるものでないことは明白です。従って次の材料も表面的な観察で相当問題があるのではないかと思います。日赤香川病院の藤沢秀圃氏「犯罪者の血液型」の引用文献には興味あるものがある。

「一九二四年 F. Schutg と E. Wöhlisch 両氏は犯罪者百三八名の血液型を検し、これをキール大学の職員学生等一九六名の血液型と比較対照し、犯罪者において特に A型少なしと記載した。」(血液型研究第一巻 8 号八〇頁)

「一九二六年 M. Gundel 氏は精神病者に B 型多きを見て犯罪者にも亦 B 型多かるべしとの推察の下に犯罪者八八四名とシュレスヴィヒホルスタイン州の北方人八六六二名の血液型を比較対照し、犯罪者においては一般に刑期の軽きものに多く、重罪犯人累犯者には特に B 型多きことを報告した。」(同上)

「一九二八年 A. Foerster 氏はミロンスター刑務所の収容者三七一名を検したるに、前記諸氏の述べたる如く B型の増加を認めず、血液型群と犯罪者の間には特定の関係なしと唱えた。」(同上)

ドイツでは犯罪者に B 型者が特に多いとのべている。同時に反対の見解もある。もし、ドイツにおいて B 型者の犯罪者が多いという事実が確認される場合のこの事実をどのように解釈するかについて私共は古川説の絶対説をとらず、その民族の血液型者間の関係に理由を求めるのである。本論において筆者はヨーロッパの B 型者は八%、A型 O 型各四〇%のなかにあって、B 型者は A 型もしくは O 型に同一化して日本ほど問題はないと書いたが、このような記事をみると、ヨーロッパでも B 型は疎外されていることが想像される。疎外されている事実と犯罪がどう結びつくかは簡単に説明しにくいが、筆者は B 型の犯罪がその割合より多いという背後には O 型及び A 型から理解されない結果犯罪を構成する割合が多くなるのではないかと考える。なぜなら犯罪自身人為的なものであるからである。

日本ではどうかというと「一九二九年、石橋無事氏は新潟刑務所収容者四六七名と新潟学園収容児三三名計五百名についてその血液型群を調査し、新潟人の血液型群比率と比較し、O型において増加し、A型及びB型において多少減じた。なお累犯者習慣性犯罪者において一層 O型は増加し比較的知能的犯罪者においてはA型多く、無智的暴力犯にO型多きことを認めている」(同上)。また、一九三〇年秋吉良文氏はN刑務所六五〇名を調査し全く同様の結果を報告している。しかし前沢秀圃氏はこれらの説に反対である。

筆者が思うに、もしO型がその占める割合よりも多数の犯罪者を出しているというのが事実とするならば、その理由を A型との関係に見出す以外はないように思われる。なぜなら日本の O型は A型におさえつけられており、いきおい O型が才能を発揮できないことも多く、大風呂敷をひろげたり、あくどい稼ぎをしたり、自ら足をすくう結果となるのではないかと思っている。O型より少ない B型はどうかというと、東京のルンペンには B型が多いと古川氏が指摘したように、B型は東洋のもう一つの顔ニヒリズムの世界をもっているので、犯罪からすくわれるといえるだろう。AB型については血液型の関係で疎外をうけることはない。

最後に前沢秀圃氏は血液型と犯罪の関連は特にないとのべながらも、知的犯罪にはA型、無知的暴力犯罪にはB型、セッ盗にはO型が多いとのべている(同上八九頁)。また、入所前の職業として遊び人職工等にはA型が多く、インテリ階級にはO型が多く、商売人にはB型が多いとのべている(同上十一号三三頁)。

他の文献については未見であるが、A型は知能犯、B型は詐欺、O型は粗暴犯、AB型は惨虐な犯罪をおかす傾向があるということをきいたことがある。

#### 30 自殺者は A 型に多いといわれますが……。

古川竹二氏は雑誌血液型研究第四巻五号・六号・九号「自殺者についての考察」のなかでA型者に自殺者が多いことを指摘された。

A型者になぜ自殺するものが多いかについて「A型者の気質が内気で苦労性であり感じ易い傾向が強く悲観的な人はその悲境を突破する気力を失い、その苦痛を逃れるために、自己を亡ぼしてしまうというようになりやすいのである」とのべている。古川氏はさらに「意志型の O型者は神経症にかかることも少なく自殺も少ない。多血質に近い B型者は神経症まではなるが自殺まで行く人は少ない」とのべている。

血液型研究 436 頁第 6 表

	О	A	В	AB	$\frac{A}{P}$	人数
日本人	31.0%	38.2%	21.2%	9.6%	1.09	20297 人
神経症患者	19.8%	44.6%	22.5%	13.1%	0.73	298 人

団体活動性指数 $\frac{A}{P} = \frac{O+B}{A+AB}$ 

## 血液型研究 436 頁第7表

	О	A	В	AB	$\frac{A}{P}$	人数
日本人	31.0%	38.2%	21.2%	9.6%	1.09	20297 人
自殺者	17.5%	70.0%	10.0%	2.5%	0.38	
実 数	7人	28 人	4 人	1人		40 人

## 血液型研究 438 頁第9表(自殺者数は100万人中の数である。)

人種	種族	自殺 者数	О	A	В	AB	人数
ゲルマン	スカンジナ ヴィア	128 人	39.9%	43.7%	11.5%	4.9%	3635 人
7) 10 4 5	アングロサ クソン	70	44.1	37.5	9.8	4.8	16000
ケルトロマン	フランス 北イタリー	116	44.8	42.0	10.6	2.6	2007
スラヴ	ロシア	42	34.6	38.4	21.3	5.7	2117
ウラル アルタイ	ハンガリー	52	36.9	37.2	21.3	14.7	38

古川氏はさらにヨーロッパ諸国の自殺について考察をすすめている。自殺者数の特に多いスカンジナヴィアやフランス、北イタリア等にはA型者が他より多く、A型者の比較的少ないアングロサクソン・ロシア・ハンガリー等には自殺者もまた減少している。のみならず、さらに興味深く感じられるのは、同じゲルマン人種に属する二民族において、A型者が一〇%も多いスカンジナヴィアには自殺者もまた、A型者の少ないアングロサクソンはよりはるかに増加していることである。ヨーロッパの自殺者の血液型が判明しないので、はっきりしたことはいえないが、A型者の多い国に自殺者が、その血液型分布率以上に多いのではないかと推察しておられる。つまりわれわれは古川説に従って、自殺者の大部分はA型者であるということができる。しかし古川氏は「自殺者はその悲境を突破する気力を失い苦痛を逃れるために自己を亡ぼしてしまう」といっているが、自殺は弱者のできることではなく、自殺によって自己を主張しているのであって、もしそうでなければ、日本やスウェーデンのように、A型者の多い民族即ちA型者が優越している民族に自殺の多い理由を説明することができない。

中国やインドではB型者の自殺者は相対的に多いのではないかと思う。但し、B型の自 殺の仕方はA型とは全く異なるので、同じカテゴリーで論ずることはできない。同様にO 型者の多い民族にあっては、O型の自殺が多いということになる。

#### 31 娼妓にはどんな血液型のひとが多かったのですか。

青森県弘前市の鳴海研究所、鳴海顕氏の「私娼と血液型」(第十一回東北医学会青森支 部総会講演の一部)の報告がある(血液型研究二五号二七二~三頁)。

「古川氏の説は数年来多数の学者によって追試験せられ、種々興味ある成績の発表をみるに至ったのであります。

私もまたこのことについて興味をもち、当地方上における私娼の血液型を検定しました所次の様な興味のある成績を得たのであります。

	О	A	В	AB	$\frac{A}{P}$	検査数
日本人	31.0%	38.2%	21.2%	9.6%	1.09	20297 人
私 娼	17.4%	53.2%	22.3%	7.1%	0.66	184 人

上表をみると、積極的である O 型において、私娼にても甚しくその数を減じているのに反し、消極的で感情型である A 型がきわめて多数で、殆んど彼女等の過半数を占

めているのを認めます。

元来A型者は柔順で犠牲的で感情に駆られ易い故に、決断力に乏しく意志の弱い気質の所有者が多いのであります。翻って私娼を考えますに彼女等は卑しい者日陰者と他人からさんざんに侮られ、その上楼主には虐げられながらもこれに対して蹶然として反抗して立つ気魄もなく、唯それらの罵倒讒謗に甘んじて屈従しているのは単に女という弱点のみでなく、彼女等はその血液型の示すように宿命的なものであるためではないでしょうか。さらにまた同じ境遇にあるであろう多くの女の中から特に悪魔に見出されて裏街に住む私娼となった動機も色々で、或は悲惨な一家の犠牲となったもの、或は欺かれたもの等あるでしょうけれども、綺麗な着物とか華やかな生活に惑わされて、つい感情をゆさぶられ迷いに迷って底知れずの泥沼に足を突込んだものも多いのであります。このことは自ら進んでくるものも沢山あるという二、三の楼主の言葉によっても窺い知ることができる。

このようにその動機においても感情にかられやすいとか、或は犠牲的であるとか等のA型的気質が多分に彼女等の上に働いているものと私は考えるのであります。

次に面白い事実は私娼の中でも相当に流行っているものとか、或いは年増の多くは B 型者であることです。このことはまた B 型者の気質を考えるならば当然のことと領 かれることであります。

一般に B 型者は派手で移り気で社交上手な多芸多辯な気質の所有者が多く、尚現在を楽しんで将来を按ずることなく、アイヌとかルンペンにも似た気質をもっているのであります。

さらに物凄い変態性欲者であった私娼はB型でありました。

つぎに団体活動指数即ち $\frac{A}{P}$ についてみますと日本人平均の-〇・九に比して $\bigcirc$ ・六

六できわめて小さい指数でこれによってもまたこの団体はいかに保守的で消極的であるかを知ることができます。

さらに意志型であるO型と感情型である他の三型とを比較致しますと日本人平均では感情型は意志型の約二倍であるのに対して、私娼においては約四倍に達しています。 従って私娼として感情にかられやすい女がいかに沢山寄り集っているかをこの血液型の示す所によってはっきり知ることができます。」

以上は現在廃止された公娼 [原文ママ] についての調査の一つである。今日キャバレーの ホステスの資料でもあれば興味ある比較ができるであろう。

## 32 労働災害と血液型とは関係がありますか。

血液型文献目録によると倉敷労働科学研究所の桐原文学博士の指導の下に住友合資会 社の平松真平衛氏の研究した成果が労働科学研究に掲載されている (巻末 「資料」 参照)。 しかし筆者は未見であるので、三井鉱山病院、医学士石西進氏の「三井山野炭坑漆生第一 坑における全坑夫の血液型検査成績並びにその統計的観察についての一考察」(血液型研 究十一号二四九頁~二五〇頁)を紹介したい。

「本坑における従業員の血液型検査成績。被検者は殆んど全部が坑内において仕事 に従事するものである。総数七五一人(昭和六年五月現在)であって原籍は九州の人 が多く広島県、四国地方から来ているものがこれに次いでいる。

	本 坑	本坑百分率	日本人
Ο型	202 人	27.1%	31.0%
A 型	312 人	42.5%	38.2%
B型	155 人	20.8%	21.2%
AB 型	72 人	9.6%	9.6%

今三井山野第一坑の従業員の血液の百分率と日本人の血液型の百分率とを比較する 時に、O型とB型とが三%の減少を示してA型が四・三%の増加を示している。

次に団体性指数は○・九一であって一・○より少なく日本人の一・○九に比べると 遥かに少数である。従って古川説に従えば消極的な人々が多く本坑の団体気質も温和 で消極的でなければならぬ。事実本坑は近頃非常に多くなった労働争議に関しても一 度も醜き闘争をなしたことがなく本日迄無事太平に過しつつあることはこれを裏書き するものと推察されて団体統制上非常に興味ある問題であると思う。」

「血液型と炭坑における傷害との関係。先ずこの両者の関係を研究する前に血液型 と外傷との関係に関する文献を渉査してみると一九三三年平松が工場における血液型 と災害に関する研究発表あり、同年子沃生で「怪我し易い素質を予知する血液型と災 害」という統計的研究の発表が行なわれている。平松は三年間における無事故者は

O型 24.3% A型 28.3%

B型 28.8% AB型 25.2%

であって、AB 型、O 型に事故者が多いということを示している。尚子沃生はつぎの 如く統計を発表している。しかし炭坑における統計的観察の文献は未だ発表を見ない ようです。 [この段落及び次表の「子沃生」は不明――編者]

## (子沃生)

	0	A	В	AB
無災害者	21.0	24.6	24.9	22.1
一回災害者	23.4	21.4	24.5	10.5
二回 ″	41.8	38.4	36.2	14.4
五回以上	13.7	15.4	14.4	18.6

	<b>左次</b> 期	人員	負傷	平均負
	血液型		回数	傷回数
	AB 型	21 人	106	5.0
採炭夫	A型	99 人	465	4.7
246 人	O型	79 人	326	4.3
	B 型	47 人	145	3.0
	AB 型	12 人	55	4.6
仕繰夫	A型	75 人	330	4.4
196 人	B 型	37 人	154	4.1
	O型	45 人	162	3.6
	AB 型	12 人	47	4.0
建築電気	B 型	22 人	89	4.0
84 人	O型	15 人	53	3.6
	A型	35 人	121	3.5
	AB 型	10 人	47	4.7
雑夫	B 型	15 人	57	3.8
72 人	O型	16人	55	3.4
	A型	17 人	80	2.2
	AB 型	6人	28	4.7
棹取夫	Ο型	25 人	118	4.7
71 人	B型	12 人	54	4.5
	A型	28 人	126	4.5

[「仕繰夫(しくりふ)は坑内大工、棹取夫(さおとりふ)は炭車の操車係――編者]

余は一九三一年よりこの研究に従事して、現在従業員が本炭坑に就職して以来、一 九三二年四月までに受けたる傷害の度数を保険証によって調べて業務別に分類したも のである。以上の表に見たる平均負傷回数を血液型によって集めるとつぎの如くになる。

血液型	採炭夫	仕繰夫	建築電気	雑夫	掉取夫	合 計
AB 型	5.0	4.6	4.0	4.7	4.7	23.0
A 型	4.7	4.4	3.5	2.2	4.5	19.3
O型	4.3	3.6	3.6	3.4	4.7	19.6
B型	3.0	4.0	4.0	3.8	4.5	19.4

今余の示した二表によって考察する時、本坑においては、AB 型が非常に顕著に負傷しそれについで O 型となっている。」

平松が「O型が一番外傷を受け易く、AB型が負傷し易い」という事は、何処にその原因を求むべきか。災害型としてAB型に特有なる素質として葬るべきか、又は他の血液型も同様に負傷するならば、何か他に原因が存在するのではなかろうか。

それに関して最も至当と考えられるのは過激な労働に対する疲労である。即ち AB 型は 疲労し易いためではなかろうか。それに関しては医学的見地から血液型と体質とは密接な 関係があることが色々な方面から研究されている。

即ち田中研次・田上等は AB 型は生殖腺ホルモンの方が甲状腺ホルモンより強く疾病に対する抵抗が弱いことを発表し、「尚体精の小なる者は AB 型に多く Neurotonie の者が AB 型に多い事等より推察して、AB 型は疲労し易くそのために注意力の散漫を来たして負傷するのではないかと推察せられる」とのべている(血液型研究十一号二四九~二五〇頁)。



# 対 話

- **乙** 今回発表される先生の研究は、昭和初期に出た古川竹二氏の研究に端を発している わけですね。
  - 甲そうです。
  - **乙** 古川氏の研究は一度完全に否定されたと聞いていますが。
- 甲 確かに学術的には、根拠なしとして退けられました。しかし、古川氏の研究は全くの誤謬かというと、そうではない。やはり一面では正しいのです。だから学術的には否定されても、巷間では俗説としてかなり広まりましたし、今でも時々、「血液型と気質」の関係について触れる人がいます。ただ古川氏の研究の場合、問題点として、証明のしようがないということが挙げられます。つまり、根拠がとぼしいのです。例えばA型は神経質であるといっても、どういうのを神経質というのか、という点に考慮が払われなかった。だから、A型の気質はこれこれで、B型の気質はこうだなどと言ってみても、当たるも八卦、当たらぬも八卦ということになってしまうわけですね。これが、古川氏の研究の欠点だったのです。
  - **Z** 先生の研究の場合は強弱関係という概念を導入したことが独創的だと思いますが。
- **甲** そういえるでしょう。強弱関係ということについては、今までほとんどだれも研究していません。
  - **乙** 強弱関係ということに気付かれたキッカケはどういうことなのですか。
- 甲 最初は私も、俗説として広まっている「血液型と気質」の関係以上のことは何も知らなかったのです。ただかなり興味を持っていましたから、それについて私なりに追試をしていたわけです。それで、A型の人と面接したり、O型の人と面接したり、ということをやっているうちに、面接する相手の私に対する態度が、血液型によってそれぞれ異なった類型を成しているということに気がついたのです。私はB型ですが、A型の人と面接すると、どうも向うが下手に出る。O型の人と面接すると、どうもこちらが押される感じがする。そういったことに気付いたのが最初のキッカケです。
- Z そういうことから、 $A \rightarrow O \rightarrow B \rightarrow A$  という循環する強弱関係と想定するに至ったわけですね。
- **甲** ええそうです。しかし今ふり返って考えますと、これをはっきりさせるまでかなり 時間がかかりました。
- **Z** 私は先生から強弱関係についてのお話をお聞きしてから、いろいろ友人などについて確かめてみましたが、おもしろいほどよく当てはまりますね。

- **甲** そうでしょう。強弱関係というものは注意して観察さえすれば、かなりはっきりと とらえることができるものです。非常に客観的なものです。古川氏の「血液型と気質」の 関係がかなり主観的なとらえ方によるものであったのと、大いに異なるのです。
- **Z** 今回の先生の研究は、そういう意味では、古川氏の研究より進んでいると思います。 今度は、当たるも八卦、当たらぬも八卦というようなことでは否定し去ることはできない でしょう。
  - **甲** 否定されることはないでしょうが、黙殺ないし、抹殺される恐れは充分あります。
  - **Z** とおっしゃいますと。
- **甲** 黙殺されるというのは新しい学説が最初に受ける当然の扱いで、これはしかたありません。問題は抹殺される場合です。私の研究は単に黙殺しえない大きなものを含んでいますから、学界が恣意的に抹殺するということがあるかもしれません。
  - **乙** それは先生の研究が危険思想として扱われるということですか。
- **甲** そうです。人間は平等であるという、近代的な倫理観からすれば、人間と人間の間に強弱関係があるという考え方は、この上ない危険思想であるといえるでしょう。私もそれは充分認識しています。
  - **乙** 強弱関係が人間支配の手段として悪用されるとこわいですね。
- **甲** 全くその通りです。強弱関係は個人と個人の間に働く関係ですが、ある組織がこれを利用してその成員間の秩序を維持しようとした場合、強弱関係はその組織と個人の間に働くことになります。さらに、権力が強弱関係を利用して個人をしめつければ、全体主義につながることになり、いずれも非常に危険なことです。
- **Z** 今回先生は、そういったいろいろな障害を覚悟した上で、この研究を発表されるわけですが、それについてどうお考えですか。
- 甲 私もこれを発表していいものかどうかについては、ずい分迷いました。本当は四、 五年前に発表するはずだったのですが、それで今まで伸び伸びになっていたのです。しか し今はこう考えて割り切ろうと思っています。第一に、パンドラの箱は開かなくてはなら ないという信念です。中から何が出てくるかわからない。開かなければ何のさしさわりも ないだろう。しかし、それにもかかわらず、開かなくてはならないと感ずるのです。
  - **乙** つまり、知ってしまった以上、隠してはおけないという心理ですね。
- 甲 ええそうです。それから第二に、私の研究が危険思想として扱われそうだということについては、長い目で見ることが必要ではないかと思います。これは我田引水かもしれませんが、新しい真理は常にその時代にとっては危険なものではないでしょうか。ダーウィン、マルクス、フロイト、いずれもそうです。しかし、いくらその時代において抹殺さるべき危険なものと思われても、それが真理ならば、否定し去ることはできないでしょう。

それに長い目で見れば真理は決して危険なものではない。要はそれを扱うわれわれの態度 といえます。パンドラの箱の扱いに苦慮するよりも、積極的に中味を利用することが必要 なのではないでしょうか。

**乙** それはよくわかります。しかし積極的に利用するといっても、権力が悪用するということもあるわけですね。

甲 もちろん、積極的に利用するということの中には、権力による悪用も含まれると思います。しかし、私の研究が権力によって悪用される危険性を持つとしても、当然それを防ぐ方法はあるだろうし、また防ぐだけの力をわれわれは持っているはずです。この問題も結局は、真理を扱うわれわれの態度ということに帰すると思います。そもそも、真理が人間にとって有害であるはずはないという確信がなかったならば、科学などは決して存在しえないではありませんか。この確信が正しいか否かは、行きつくところ、人間を信じられるか否かという問題になってくるでしょう。私はやはり人間を信じたいと思います。

- **乙** 先生のお話をお聞きすると何だか悲壮感みたいなものを感じますね。
- 甲 ええ自分でもやや気負い過ぎだという気がしないではないです。
- **Z** たしかに今おっしゃったようなことについては、充分考えておく必要があると思います。それはそれとして、先生の研究は今後、学術的にも大変な影響を与えるのではないかと思われますが。
- 甲 それは充分予想されます。私がこの研究を発表しようと決心した第三の理由は、その、学術的な意味を重視したからです。今私はパンドラの箱を引き合いに出しましたが、これは本当はいいたとえではない。パンドラの箱というといかにも中味は恐ろしいものだらけのようだが、決してそうではなくて、学術的に貢献するということを考えれば、今述べたような危険性はその一面にすぎないのです。だからもろ刃の剣にたとえた方がよいでしょう。
- **Z** 先生の研究が学術的に貢献をする方面として、第一に対人関係の心理学が考えられると思いますが。
- 甲 ええ、対人関係の解明ということについては、血液型間の強弱関係は非常に有効な役割を果たすでしょう。今の心理学は、認識論的な方向は非常に発達してきていますが、対人関係の問題は非常にたちおくれています。現に、親子の断絶とか、嫁と姑の対立とか、結婚の時の相性とか、交友関係における愛憎の関係とか、職場の人間関係の乱れとかいう問題は、非常に重大であるにもかかわらず、全く、解明されていない。もちろん研究されていないわけではないのですが、対象が人間であるだけに非常に研究がしにくかったわけです。これらの人間関係はほとんど血液型間の強弱関係で解明できます。
  - **乙** しかし、そのような人間関係を強弱関係によって、一元論的に説明するのは無理だ

と思いますが。

**甲** もちろんそうです。人間関係には社会的な背景も大きく作用していると考えなくてはならないでしょう。フロイト説も重要な手がかりです。しかし、やはり根本は血液型間の強弱関係です。これは、動物における順位制に相当する、最も人間の生物的な一面ですから、それだけに、社会的背景を超越した根本的な影響力をもっているということができるわけです。

**Z** 今回の先生の研究は、強弱関係に重点がおかれているわけですけれども、古川竹二 氏以来の「血液型と気質」の関係の研究も、これから見なおされるのではないかと思いま すが。

**甲** それはいえます。しかし前にも言いましたように古川氏の研究はかなりあいまいな 所がありますから、それを克服する必要があります。第一に、A型は神経質であるという ような主観的な評価によって各血液型を特徴づける方法はとらずに、数量化の可能な概念 で特徴づける必要があるでしょう。

**乙** その数量化の可能な概念というのはどういったものでしょうか。

甲 例えば、A型は感情の動きが大きいという特徴を証明する場合、何人か A型の人を スクリーンの前にすわらせて、スクリーンにいろいろな場面を映し出し、その時々の、A 型の人の皮膚電流を調べて、他の血液型の人の場合と比較するといった方法は有効でしょ う。

Z なるほど。

甲 なお、参考までに申し上げておきますと、私は、数量化の可能な特徴のみが有意味で、主観的な評価は無意味だといおうとしているのではありません。主観的評価も充分に大きな意味を持つのです。ただし、その評価が何型によってなされたかということは、考慮する必要があります。例えばB型について、A型は「ずるい」というでしょうし、O型は「人がよすぎる」というでしょう。これらは、A型及びO型の側からのそれぞれの見方であり、いずれも正しいのですが、B型を普遍的に表現してはいない点で、あくまで主観的にとどまるわけです。つまり、これらの主観的評価は、評価される人を表現するというよりも、評価する人と、評価される人の間の強弱関係を間接的に示すわけであり、その意味で大きな意味があるのです。

**乙** よくわかります。

**甲** 話をもとに戻して、古川氏の研究において克服さるべき第二の点について説明しましょう。古川氏の「血液型と気質」の研究では、「気質」という用語を使っていることでもわかるように、血液型によって生得的に「気質」が決定しているという見方をしています。もちろん、そのような「気質」が存在するということは事実なのですが、古川氏の場

合、その「気質」と、後天的に形成されるところの「性格」とを混同してしまっているのです。

**乙** それでは「性格」はどのようにして形成されるのでしょうか。

甲 性格の形成にはかなり複雑な諸要因が働いていると思われますが、その中でも、両親や兄弟とその人との間に働く強弱関係が、非常に大きな要因であると思われます。つまり、その人が成長する過程で、どのような強弱関係の環境におかれるかが、その人の性格を形成する上で大きな影響を与えるだろうということです。例えば、同じ O 型でも、その人の母親が A 型か、B 型か、O 型かということによって、その人と母親との間の強弱関係は異なりますから、その結果その人の性格は、それぞれの場合で著しく異なって形成されるでしょう。だから、古川氏のように気質と性格を混同し、後天的な「性格」を、生得的「気質」の中に含ませてしまうと、当然不正確な点が生じてくるわけです。古川氏の研究の反対者が、古川氏の研究の不正確な点を指摘することは、比較的容易だったのです。

**Z** 気質と性格ということに関してですけれど、われわれの性格は、自分の努力によって作ったものもあるようですね。

甲 ええそれはあります。そのことが古川氏の研究において克服さるべき第三の点であると私は考えています。われわれは誰でも仮面をかぶっています。自分の本当の気質は見られないようにしたい。そのために、自分で自分の性格を作り上げるということをするわけです。だからこの仮面としての「性格」を生得的な「気質」に混同してはならないのです。しかし、この点について、古川氏は殆んど考慮していませんね。たとえば古川氏は、O型の気質として、意志が強くて冷静であるというような点をあげていますが、これなどはむしろ外づらで、気質としてはO型は非常にセンチメンタルなのではないかと私は思っています。なぜ仮面をかぶるのかと申しますと、これもまた、強弱関係によって説明できるのです。つまり、われわれは複雑な対人関係の中で暮らしていますから、常に強弱関係によって圧迫を受けています。そのような中を生きて行くためには、生得的な気質は不都合になることもある。そのために仮面をかぶるわけです。仮面をかぶってどのような外づらを示すか、ということも、およそ血液型によって決まっているのですが、中には仮面をかぶらず純粋に生きて行く人もありますから、その仮面をそれぞれの血液型の特徴とすることはやや早計といえます。

**Z** 以上のお話しを伺いますと、先生の研究の場合、古川氏の研究に強弱関係の概念を 導入することによって、各血液型の気質・性格というものを非常にダイナミックにとらえ ることができるようになったといえるでしょうね。

**甲** そうです。気質と性格をダイナミックにとらえた上ではじめてそれぞれの血液型の 生得的な特徴は何かという問題に進むことができるのです。この場合、生得的な特徴とは 必ずしも気質のみではありません。

- **乙** 具体的にどんなものがありますか。
- 甲 その点については残念ながら研究不足です。しかし、二、三、臆説は持っています。
- **Z** それについて説明して下さい。
- 甲 第一の臆説として、私は、血液型によって感覚の働きに差があるのではないかと考えています。例えば、O型は色彩感覚が発達しているとか、A型は音感が鋭いとか、B型は刺激に対して反応するのが速いといった違いは、いまのところ、経験的に感じるだけですが、おそらくあるでしょう。
  - **乙** それは数量化して検証ができますね。
- 甲 やろうと思えばすぐできます。それから、第二の臆説として、**血液型によって発想 の違いといったものがある**のではないかと私は考えています。
  - **Z** 発想の違いとおっしゃいますと。
- **甲** 私も何と説明していいのか表現に窮するのですけれども、思考方式とか、論理の型といったもののことです。例えば、あの人とはどうも考え方があわないとか、彼と話してもすこしも論理がかみ合わないとかいうでしょう。あれのことです。
- Z そういったことについては漠然と感じることがあります。私は先生と同じく B 型なんですが、今先生と話しているように、同じ B 型同士で話す場合は、意思の疎通がスムースで、話していても非常に楽です。ところが A 型や O 型と話す場合、しばしば意思の疎通をさえぎる壁みたいなものが感じられて、話していても非常に苦痛ですね。特にこみ入った内容のことを話したい時などは、苦労します。
- **甲** ええ、私が言おうとしたのはそういうことです。ただこの問題は非常に難しいですね。認識論、論理学、思考心理学といったことにもかかわってきますからね。ちょっと手がつかないくらいです。
  - Z でもやってみたらおもしろいでしょうね。
- 甲 そう。画期的な研究になるでしょう。それから、これは今言った「発想」の問題から派生してくるのですが、私は第三の臆説として、血液型によって、言語表現に違いがみられるのではないかと考えています。ある事柄について叙述する場合、A型は非常に理路整然と述べる。その叙述は一見客観的に見えるが、相手に何らかの主張をしようとする意図を持つために、感情的な訴えかけ、オーバーな表現、ステレオタイプがはいり込むことが多い。そのかわりアジテイションはうまい。O型はあまり主張性を持たないから、事実を客観的に叙述するのはうまい。何かを強調することもなく、省くこともないが、話しとしては通り一ぺんでおもしろくはない。O型に自分の意見を述べさせると、論理が通っていてつけ入る余地はないが、結論は世間一般の常識を決して越えないから、迫力がなく、

主張としての価値が低い。

**Z** B型の言語表現は非論理的なのではないですか。これは私も自覚しているのですけれども。

甲 そうです。B型は物事について叙述する場合も、自分の意見を述べる場合も非常に非論理的です。しかし、B型には自分の観察や見聞を非常に印象深く話す才能がある。話全体がエピソードの集合になっていて、事実としての価値は低いが話としてはおもしろい。また、自分の意見を述べさせると、論理よりも直観に頼って結論を出す。そしてその見解は一面で独断的であり、一面では独創的です。一般にB型は話し好きで、おしゃべりであり、その特徴は、誇張・例・比喩・くり返し・価値判断・断定が多いということです。

**Z** それを聞いて思いついたんですけれど、東洋と西洋の発想の違いといったものも、 血液型で説明できるのではないですか。

甲 これも難しい問題ですが、これから研究してみる価値はあるでしょう。御承知のように血液型の分布は世界の各地によってそれぞれ特徴があります。そして、大ざっぱにいうならば、東洋はB型とO型が多く、西洋はA型とO型が多いという傾向があります。一方、東洋と西洋の考え方の違いは、前者が直観的、後者が分析的論理的というように要約できるでしょう。そして、これはB型が直観的、A型が論理的というふうに考えると、非常にうまく説明が行くようです。

**乙** 東洋と西洋とでは民族性というものにも違いがあるようですね。

甲 古川氏は民族性も血液型によって説明できると考えていました。東洋と西洋の民族性の違いも血液型によって説明できると思いますが、それに触れる前に、第四の臆説として、各血液型による生活態度の違いという問題を説明しておきましょう。A型は社会に対して適応するのが非常にうまい。そしてA型の生活は社会とを強くうけ[「社会のしがらみを強くうけ」か?——編者]、また自ら社会に対して執着を示す。A型が社会に対して失望したり、また社会から見放されたりすると、A型にとって人生は全く無意味なものになる。O型もやはりA型と同様に社会に対して執着が強いが、A型にくらべて、社会に適応するのに非常に努力を要する。しかし、一度社会に適応すると、A型以上に強い生活力を示す。B型は、社会に対して執着しない。適応能力も乏しい。しかし社会から切り離されても生きてゆく生命力を持っている。

**Z** ルンペンには B 型が多いそうですね。

甲 そういう統計があります。ルンペンは社会的な適応能力はないが、生命力は非常に強い。非常に B 型的です。それから、社会的環境に左右されない生命力を持つ B 型には、社会に対して傍観的態度をとる傾向があります。

**乙** 以上のような血液型と生活態度の問題と、東洋と西洋の民族性の問題はどのように

かかわってくるのでしょうか。

甲 民族性の問題が血液型だけで説明できるとは考えていませんが、かなり多くのことはうまく説明できるでしょう。例えば、パール・バックの描いた中国人の生命力、あれなどは B型の生命力です。それから、今度の戦争における日本人の態度、進んで協力した人もいれば反対した人もいましたが、多くの人は傍観的な態度をとったのではないでしょうか。これも社会問題を主体的に考えることのできない B型的な態度です。日本人には必ずしも B型は多くないのですが、日本人には B型的なところが多分にあります。この日本人の傍観的態度は文学にもあらわれているようですね。古くは方丈記や徒然草、新しいところでは、森鷗外や志賀直哉などには B型的な傍観的態度がみられますね。

**乙** 私は近代文学の作家の血液型を調べてみましたが(**付録参照**)、確かに **B**型が多いようです。

甲 そうでしょう。一般に無常観とか、東洋的諦観とかいう考え方はB型的であるといえます。つまり社会と個人とを切り離して考えているわけです。これに対して、西洋では社会と個人を切り離せないものとして考える習慣が強い。あくまで社会に執着し、社会を改良して行かなくてはならないと考える。だから社会と個人を切り離すということは逃避であるとされるわけです。このような西洋の民族性がA型的であり、O型的であることはおわかりでしょう。

**Z** そうなってきますと、血液型の問題が思想の問題にまで発展してくるわけですね。 **甲** そうです。

Z ところで今先生は日本人の発想は B 型的だとおっしゃいましたが、割合からいえば A 型の方が多いのではないですか。

甲 ええそうです。しかし、日本において A 型的な発想が現われたのは明治以来、ヨーロッパの発想に刺激されてからで、それは常に B 型的な考え型と対決する形で発達してきたといえます。明治・大正文学に対する伊藤整・中村光夫らの批判は、B 型の発想に対する A 型の発想による批判と考えるとよく理解できます。しかし、日本というところは各血液型がそれぞれ大きな割合を占めていますから、思想的には、なかなか一本になりにくいのではないでしょうか。

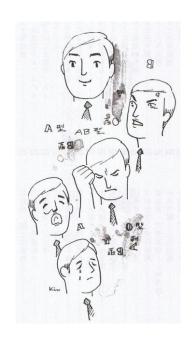
**乙** 最後に、先生の研究に関する一般的注意といったことについて何かありましたら。

甲 まず、血液型と気質の関係を宿命論的に考えられては困るということですね。私は 血液型と気質の関係を論じても、何型の気質はよいとか悪いとかいう、価値判断をした覚 えはないのです。古川氏の研究の場合は、血液型ごとに長所・短所というものを挙げ、最 初から気質に価値判断を加えてしまっているけれども、私はそれには反対です。このこと は先ほど言い落としたのですけれど、古川氏の研究において克服されるべき第四の点です。 それから強弱関係は優劣関係ではないということも特筆大書しておく必要があります。例えば、ある集団において、ほとんどの成員がB型で、中に少数A型がいるというような場合、A型は、強弱関係で圧迫されますから、自分がいくじのない人間であると思いこみ、B型もA型のことを軽くみるというような傾向が生まれるかもしれない。しかし、これは強弱関係と優劣関係をとり違えているのであり、重大な誤りです。それから三番目として、このことと関連してくるのですが、一般にA型はO型について、O型はB型について、B型はA型について、非常に見透かしたようなことを言いますが、このことはつつしまなくてはなりません。もちろんそうしたことが、当たっていないわけではありませんが、所詮は木を見て森を見ない式の一面性をぬぐい切れないものです。人間というのはそれほど簡単ではないということをいつも肝に命じておく必要があります。

**Z** しかし、今先生のおっしゃったような注意を払って、血液型間の強弱関係を、日常の対人関係に応用するなら、誤解とか中傷とかいうわずらわしい対人関係はずいぶん解消されるでしょうね。

甲 ええ、私はなによりもそれを期待しています。

(昭和四十五年四月二十二日の対話による。文責 S)



# 資 料

## 「気質と血液型」文献抄

「血液型の文献集」 古畑種基編 金原商店発行 昭和十年十一月十日

日本語文献一七一九篇・欧文四一五八篇のうち、気質と血液型に関係あるもの文献約四〇〇篇を紹介しましょう。

安部徳恵 血液型と其二三の統計的観察 九大医報八巻六号三一六~三二一頁 昭九年十二月

阿比留直 血液型の教育的考察 単行印刷 昭七年二月

安達政信 受刑者の血液型 行刑衛生会雑誌七巻九号六七八頁 昭七年九月

相機正己 隊兵血液型統計的観察(抄) 軍医団雑誌二〇六号一三五五頁 昭五年八月

相見三郎 血液型と学業成績との関係 民族衛生二巻二号一六一頁 昭七年八月

秋吉良文 所謂主義者(思想犯人)の血液型に就いて 社会医学雑誌五二七号九四九~九五三頁 昭五年十 二月

天野一男 野球選手の血液型に就いて 台湾医学会雑誌三三巻一号七七~八九頁 昭九年一月 青木弐ほか 軍鑑八雲乗員の血液型に就いて(抄) 海軍軍医会雑誌二一巻一号 昭七年一月 浅田一 昔の親子の血液型鑑定 診断と治療一六巻一号 昭四年一月

- 同 個性と個人性と血液型 実地医家と臨床七巻一〇号二二~二七頁 昭五年十月
- 同 血液型を犯罪捜査に応用した実例 自警一二巻二六号三九~四二頁 昭五年二月
- 同 団体の血液型 優生学八巻二号九~一三頁 昭六年二月
- 同 血液型学概論(一~五) 血液型研究一巻四~八号 昭七年一~五月
- 同 封筒や吸殻から気質がわかる 文芸春秋八巻六号九四~一〇〇頁 昭五・六月
- 同 血液型の鑑定法と其応用 通俗医学九巻一号九三頁 昭六年一月
- 同 血液型と気質 診断と治療一八巻一号一二六~一二八頁 昭六年一月
- 同 血液型と気質との関係研究者のために 犯罪学雑誌四巻一号八二~八六頁 昭六年一月
- 同 血液型漫談 治療及処方一五九号七四六頁 昭八年五月

淡路円治郎・岡部弥太郎 向性検査と向性指数 (下) 心理学研究八巻三輯六五~八六頁 昭八年六月 今田泰 歩兵第二一連隊入営兵の血液型 軍医団雑誌二三〇号一二〇八頁 昭七年八月

同 山陰地方島根県出身隊兵の血液型 血液型研究一四号一五三頁 昭七年十一月

井上棟樹 血液型より見たる熊本県南部地方小学校児童の気質及学業成績について 熊本医学会新誌七巻 四号三五五~三六頁 昭六年四月 井上日英 血液型別に観察したる軍隊教育の成果に就いて 軍医団雑誌二五六号一五七一~九一頁 昭九 年九月

石橋無事 犯罪者の血液型 社会医学雑誌五〇九号四六九~四七六頁 昭四年六月

石田忠太郎 血液型と気質 自警一七巻 一八八号三二~三四頁 昭十年四月

石井要 血液と体格気質疾病との関係について 軍医団雑誌二二四号三一七頁 昭七年二月

石川七五三二 血液型にもとづき進歩せる個性型の研究 優生学八巻一一号二~二五頁 昭六年十一月

- 同 血液型に基く個性型の研究 愛知県児童研究所紀要第六輯一~一六〇頁 昭六年
- 同 交友関係と血液型 通俗衛生三九六号二五~二六頁 昭七年五月
- 同 血液型と疲労実験 個性研究一巻一号三〇~四二頁 昭七年六月
- 同 血液型と職業的志望 個性研究一巻二号二一~四〇頁 昭七年七月
- 同 実際的性格診断心理学 個性研究二巻六号四四~五七頁 昭八年六月
- 同 血液型心理学 血液型研究一卷五号四三頁 昭七年二月
- 同 血液型と気質に関する心理学的研究態度 血液型研究一六号一七一~一七二頁 昭八年一月

石丸鎮雄 血液型より見たる学校生徒児童の気質並に学科成績の調査補遺 長崎医科大学法医学教室業報 三巻二号二四一~二四九頁 昭六年九月

石西進 三井山野炭坑漆生第一坑に於ける全坑夫の血液型検査成績並に其統計的観察に就いての一考察 血液型研究二三号二四九~二五〇頁 昭八年八月

石津作次郎ほか 第九回全国選抜中等学校野球選手の血液型 血液型研究七号六九頁昭七年四月 同誌八号 昭七年五月

同 全国中等学校優勝柔道大会出場選手の血液型に就いて 血液型研究一五号一六七~一六九頁 昭七年 十二月

石津作次郎ほか 第十八回全国中等学校優勝野球大会選手の血液型と野球競技に就いて(一~三) 日本医 事週報一八九一~九三号 昭七年十月

同 第十二回庭球選手権大会出場選手の血液型に就いて 血液型研究二二号二四三頁 昭八年七月

伊東政一 血液型より観たる初生児に就いての二三の観察 愛知医学会雑誌三九巻六号九九〇~九九八頁 昭七年六月

岩井勝二郎 血液型に就いて 心理学研究八巻一号一四三頁 昭八年二月

同 血液型と気質――京都に於ける心理学関係者に於いて試みられたる一調査報告 応用心理学研究一巻 二号一七一~一八一頁 昭八年

岩波浩 海軍兵学校生徒の血液型と諸観察 犯罪学雑誌五巻四号三五三~三五八頁 昭七年三月

岩田三史 血液型研究の趨勢 医事公論一〇七〇~七二号 昭八年一・二月

岩田三史・寺島良子 血液型と気質に就いて 東京医事新誌二七三八号一八三一~三五頁 昭六年八月 岩田武 古川氏「血液型と気質」説の批判 血液型研究四巻三号四二〇頁 昭九年十二月 泉山寿次郎 少年犯罪者の血液型 行刑衛生会新誌七巻一○号七六一頁 昭七年十月

内村祐之ほか 日高平取アイヌの血清黴毒反応調査成績(附日高アイヌの血液型) 民族衛生四巻一号四八 ~五五頁 昭九年十二月

内山克己 血液型と気質との関係に就いての一実験 教育思潮研究七巻三輯二一一~二二〇頁 昭八年八月

同 血液型と気質に関する諸家の研究に就いて 血液型研究四巻四号四二四~四二五頁 昭十年一月 宇田川祐三 海軍兵と血液型 血液型研究一巻五号四四~四五頁 昭七年二月

植木貴明 公娼の血液型に就いてに対する追加 皮膚科及泌尿器科雑誌三○巻五号五○三頁 昭六年五月 上道清一 昭和元年度日本人壮丁身長分布と血液型 社会医学雑誌五○五号三四~三五頁 昭四年二月 上道清一ほか 富山県氷見郡下小学校児童の血液型調査報告 犯罪学新報五巻二号一三六頁 昭六年十一月 同 能登半島北端地方住民の血液型分布 治療及処方一○巻一一号一八九三~九五頁 昭四年十二月 浮田勝造 高松市附近に於ける地方人血液型分布並に人種系及び血液型と外科的疾患との関係に就いて

馬木金治 血液型と気質 血液型研究一五号一六一~六三頁 昭七年十二月

犯罪学雑誌八巻二号一二〇~一二六頁 昭九年三月

小川朝吉 運動選手の血液型 民族衛生二巻二号一六九~一二八頁[頁数ママ] 昭七年八月

大橋平治郎ほか 血液型より観たる歯科疾患の統計的考察第一編 日本歯科学会雑誌二七巻三号一八四~ 三二〇頁 昭九年三月。第二編 同誌二七巻四号二八七~三〇二頁 昭九年四月。第三編 同誌二七巻五号三 六三~三六九頁 昭九年五月

大岩博雅 血液型と精神型との関係に就いての研究 海軍軍医会雑誌一九巻五号六一三~六一九頁 昭五 年十月、脳四巻一二号 昭五年十月

岡部弥太郎・内山克己 血液型は気質を示すか 教育二巻一号一二五~四二頁 昭九年一月

岡薗助左衛門・石津作次郎 宮崎県下小学校剣道選手の血液型に就いて 血液型研究一六号一八四〜八五頁 昭八年一月

奥村尚輔・山本奈良一 隊兵血液型の分布状態並に個人の免疫抗体産生能及性格との関係に就いて 軍医団 雑誌二一八号一五八九~九九頁 昭六年八月

奥野重利 血液型から見た我が学級の児童 血液型研究二九号 昭九年二月、同誌三〇号 昭九年三月、同誌三一号 昭九年四月

王丸勇 各種精神疾患に於ける血液型に就いて 神経学雑誌二九巻一号四七~五三頁 昭三年三月

- 同 血液型と体型性格との関係 福岡医科大学雑誌二四巻八号一〇四四頁 昭六年八月
- 同 体質学的方面より観たる血液型 犯罪学雑誌五巻四号三六九~三八二頁 昭七年十一月

王丸勇・河野司馬太 少年受刑者の血清学的体質 福岡医科大学雑誌二五巻一一号二二六九頁 昭七年十一 日

大道直一 岡山地方に於ける人血類並に人種系数に就いて 岡山医学会雑誌四〇巻二号三三三~三三七頁

#### 昭三年二月

大村得三 仕事に対する適不適が判る 通俗医学九巻一号九五頁 昭六年一月

大西永次郎 血液検査による気質研究の要旨 医事公論八三三号 昭三年七月

鬼塚英胤 血液型と児童の耳鼻咽喉科疾患並に学科成績 長崎医科大学法医学教室業報四巻二号二五三~ 五七頁 昭七年十一月

大阪血液型研究所 通信技術者の血液型 血液型研究一巻四号二五頁 昭七年一月

- 同 一太郎やあい母子の血液型 血液型研究一巻五号四一頁 昭七年五月
- 同 慶応野球新人チームの血液型 血液型研究一巻五号四一頁 昭七年五月
- 同 警察官吏の血液型 血液型研究一巻八号八一頁 昭七年五月

大阪血液型研究所 オリンピック水上競技選手の血液型 血液型研究一巻―一号一〇九頁 昭七年八月

- 同 第三回全日本健康優良児童の血液型 血液型研究一二号一二〇頁 昭七年九月
- 同 第四回全日本健康優良児の血液型に就いて 血液型研究二四号二六三~六四頁 昭八年九月

大沢忍婦・辻愛 血液型に関する研究知見補遺(一) 専門学校女学生の血液型 日本微生物学雑誌二七巻 三号三五一頁 昭八年三月

太田外正 富山県北部に於ける血液型調査並に学校教育上より見たる血液型研究報告 犯罪学雑誌四巻一号三三八~五四頁 昭六年七月

同 富山県氷見郡人士の血液型及学校教育上より見たる血液型研究 生理学研究八巻九号六四七頁 昭六 年九月

同 学校教育上より見たる血液型研究報告(第二回報告) 犯罪学雑誌五巻四号三八三〜八九頁 昭七年三 月

- 同 血液型と気質の問題 優生学九巻五号 昭七年五月
- 同 虚弱児童の血液型 血液型研究一四号一六〇頁 昭七年十一月
- 同 虚弱児童の血液型(二) 血液型研究二七号二九二頁 昭八年十二月

大塚協 工場労働者の血液型に就いて 上 日本医事新報六二六号五~六頁 昭九年八月、下 同誌六二七 号五~六頁 昭九年九月

角田真一・永山太郎 血液型と個人気質との関係並に第九師団管下に於ける血液型の分布の概況 軍医団雑誌二〇八号-五三一~五一頁 昭五年十月

同 手掌紋と血液型との関係 軍医団雑誌二一九号一六九三頁 昭六年九月

神部泰英 虚弱児童に関する調査 (二) 学校衛生二〇巻八号五〇三~一七頁 昭七年

金関丈夫 血液型と人種心性との関係 生埋学研究六巻九号 一九~三二頁 昭四年

同 琉球人の人類学的研究(二) 琉球人の血液型 人類学雑誌四七巻八号二八二頁 昭七年八月

金子吉文 人類血液型の意義 満鮮の医具一〇二号二一~三一頁 昭四年九月

神崎保正 昭和八年十二月台湾歩兵第一連隊入営兵に就いての二三の統計 軍医団雑誌二五〇号五七八頁

#### 昭九年四月

片山敏雄 我が学校児童血液型と個性 血液型研究三巻五号三一〇~一一頁 昭九年二月

加藤正雄・中島佐馬之助 壮丁に於ける血液型に就いて 軍医団雑誌二五八号一九五五~六二頁 昭七年十 一月

加藤豊明・中井貫一 金沢医科大学学生の手掌紋と血液型との関係 人類学雑誌四八巻七号四〇〇~一四頁 昭八年七月

香取寛 犯罪者と血液型 満州医学雑誌一七巻一号一八四~八五頁 昭七年七月

勝失信司 血液型により気質は分類せられ得るものなりや 犯罪学雑誌七巻二号一三四〜四六頁 昭八年 三月

同 「血液型と気質」に就いて古川氏の答を読みて 医海時報二〇一九号八五八~六〇頁 昭八年八月 川畑是辰 僧侶の血液型 血液型研究一九号二一〇頁 昭八年四月

同 女学生の血液型と気質智能体質運動等との関係に就いて 血液型研究一七号一九一~九二頁 昭八年 二月

川本辰雄ほか 血液型に関する統計的検索補遺特に気質との関連に就いて 日本微生物学病理学雑誌二七 巻六号六八一〜七〇五頁 昭八年六月

河崎標也・森岡二郎 歩兵第十連隊初年兵に対して実施せし血液型検査成績 軍医団雑誌二二八号八九三頁 昭七年六月

喜田貞吉 学窓日記(血液型による民族的及び団体的研究) 東北文化研究二巻五号 昭五年

木口直二 気質と血液型 血液型研究一六号一七二~七三頁 昭八年一月

木口直二・三木久雄 京都地方住民の血液型 京都府立医科大学雑誌一〇巻一号一八~三〇頁 昭九年一月 菊地三通男 血液型と身体的諸性並に基礎新陳代謝との関係 日本外科学会雑誌臨時号一八頁 昭五年三月

菊地三通男 血液型と体型との関係 関西医事七八号四~五頁 昭六年十一月

同 血清学上より見たる山形地方の人種的考察並に血液型とワ氏反応との関係 日本外科学会雑誌三〇巻 八号六二二~五五頁 昭四年十一月

同 再び山形県下に於ける血液型分布 日本外科学会雑誌三三巻四号五七五頁 昭七年七月

同 体型と血液型 血液型研究四号三〇頁 昭七年一月

木下政市 ルンペンの研究 日本医科大学雑誌三巻二号一二六~三七頁 昭七年二月

桐原真一 朝鮮支那沖縄台湾各地住民に於ける血液型分布の研究 日本学術協会報告四巻六八六~七〇〇 頁 昭三年十一月

同 人血液型の人種学的価値及び其遺伝方面 社会医学雑誌四八七号六二五頁 昭二年八月、同誌四八八号 六七一頁

同 血液型の人類学的価値 人類学雑誌四四巻六号二三~四七頁 昭四年六月

桐原真一・白麟済 日本領土内に於ける各民族の血清学的人種系数の差異 台湾医学会雑誌二四二号五二九 頁 大十年年五月

同 血清属別より見たる日本民族と南洋住民との関係 朝鮮医学会雑誌五八号三八二頁 大十四年十一月 桐原真一・満聊輝 台湾蕃族と南洋諸島種族との血液型関係 愛知医学会雑誌三五巻一一号 大一五年 桐原真一ほか 山西浙江福建広東四川地方に於ける血液型分布と其人種学的考察 愛知医学会雑誌三五巻一号一二〇頁 昭三年一月

岸孝義 樺太土人・アイヌ・ギリヤーク及びオロッコ族の生物化学的人類係数に就いて附樺太土人に対する 人種的卑見 十全会雑誌三〇巻一一号九二二~三九頁 大十四年十一月

同 親子鑑別の史的考証並に日本文学に現れたる親子鑑別に就いて 中外医事新報――四一~――四四号昭三年十一月~昭四年二月。犯罪学雑誌二巻二号―七五~九八頁 昭四年五月

- 同 法医学叢話(単行本) 文友堂 昭七年五月
- 同 血液型雑話 優生学九巻一号二四~三〇頁 昭七年一月
- 同 気質と血液型 血液型研究一六号一七一頁 昭八年一月

岸孝義・上道清一 血液型と気質との関係に就いて 社会医学雑誌五○五号─五頁 昭四年二月

岸孝義・正木信夫 日本人指紋の研究(第六篇) 指紋と血液型との関係 十全会雑誌三三巻一二号一八七 三〜八六頁 昭三年十二月

岸孝義ほか 福井県人に於ける各型血液及び指紋の分布に就いて 東京医事新誌二五九三号二一四〇~四 三頁 昭三年十月

北口喜寿郎 血液型と智能学業操行及び体格との関係に就いて 大阪医事新誌五巻二号三二〜四四頁 昭 九年二月

久保忠夫 血液の個性 治療及び処方八五~九五号 昭二年

同 血液型学より観たる日本民族と四囲民族との関係 北海道医学雑誌七巻一一号一八〇二頁 昭四年十 一月

久保忠夫ほか 「アイヌ人」血液の MN 型及び ABO 型に就いて 北海道医学雑誌一二巻一一号二六五三~ 五八頁 昭九年十一月

久保良英 自己判断による性格と血液型との関係 児童研究所紀要一四巻一五九頁 昭七年二月

同 血液型による気質判断の偶然適中率 応用心理 昭七年四月

久賀俊文 血液型に就いて 生理学研究――巻六号四三五~四一頁 昭九年六月

久能大郎 職業と血液型との関係 血液型研究一八号二〇二頁 昭八年三月

同 千葉県地方に於ける精神神経疾患の血液型分布状態に就いて 千葉医学会雑誌一〇巻一二号一三六三 ~六八頁 昭七年十二月

栗下静雄 沖縄県糸満町人の血液型 長崎医科大学法医学教室業報四巻一号三三頁 昭七年八月 栗下静雄ほか 血液型と月経との関係 長崎大学法医学教室業報四巻一号三三頁 昭七年八月 櫛下町謙吉・浜田健吉 熊本県民の血液型並に血液型と気質及び二三職業との関係 熊本医学会雑誌八巻一 号九一~一〇〇頁 昭七年一月

櫛下町謙吉・浜田健吉 熊本地方専売局従業員の血液型に就いて 熊本医学会雑誌八巻一号一○○~一一八 頁 昭七年一月

桑野稔 自殺者の血液型に就いて 東京医事新誌二九一八号四九二~九五頁 昭十年二月 小林徳三郎 春陽会会員の血液型と作風 血液型研究九号八六頁 昭七年六月 小宮喬介 法医学雑話 臨床と講座四巻一号四三~四四頁 昭五年一月

同 気質と血液型 血液型研究一六号一七一頁 昭八年一月

近藤喜一 台東庁下住民の生物化学的人種系数 台湾医学会雑誌二四八号一〇五八頁 大十四年十一月 河野司馬太 受刑者の血液型に就いて 行刑衛生会雑誌五巻二号四〇~四六頁 昭五年二月

同 血液型と体型との関係 行刑衛生会雑誌九巻一号四七~五四頁 昭九年一月

河野司馬太・王丸勇 少年受刑者の血清学的体質 行刑衛生会雑誌七巻九号六七三頁 昭七年九月

西郷一恵 気質調査の動機並に其経験二三 犯罪学雑誌五巻三号二五三~五六頁 昭七年一月

西郷一恵・宮川頼寿 熊本県人の血液型並に之と気質との関係に就いて 犯罪学雑誌五巻三号二四三〜五二 頁 昭七年一月

西郷一恵ほか 熊本地方在住者血液型の統計的観察 熊本医学会雑誌八巻一号一三三〜三八頁 昭七年一月

榊原賢三 北九州に於ける婦人の血液型検査成績 東京医事雑誌二八三四号一四八三頁 昭八年七月 佐藤武雄ほか 朝鮮人の血液型に就いて(第一報) 社会医学雑誌五三九号八四三〜四四頁 昭六年十二月 同 朝鮮人の血液型に就いて(続報) 犯罪学雑誌八巻三号二四頁 昭九年五月

佐藤金司 犯罪者の血液型に関する知見補遺 行刑衛生会雑誌七巻三号一八八〜九五頁 昭七年三月 重田定正・鶴岡弥 千葉県長生郡下中堅青年の血液型と気質 血液型研究ニー号ニ三ニ〜三四頁 昭八年六 月

四方啓太郎 ダウニーの意志気質検査に依って表れた次男型末子型独り子型に就いて 心理学研究八巻四 輯六四五頁 昭八年八月

島川祐一 体質と気質に就いて 軍医団雑誌二三六号二五六頁 昭八年二月 清水茂松 人の気質と血液型 現代一一巻一二号一六八~七一頁 昭五年十二月 清水岩参郎・梶原友市 馬の血液型 陸軍獣医団報二七四号二六二頁 昭七年四月 同 馬の血液型に就いての研究 臨床獣医学新報八巻八号四六〇頁 昭七年八月 新家憲融 類人猿の血液型に就いて 慶応医学一四巻三号五六一~六六頁 昭九年三月 菅原佐平 第二鑑隊乗員の血液型検査成績 海軍軍医会雑誌二一巻四号三四四頁 昭七年八月 洲崎隆一 三重県津地方に於ける血液型分布の状態 犯罪学雑誌六巻二号一四五~四七頁 昭七年七月 鈴木保 仙台健康乳児の血液種属に関する知見 小児科雑誌四〇六号三九六~九七頁 昭九年三月 鈴木清 正常及び病的条件に対する血液型の態度と個性に就いて 軍医団雑誌二六二号二八九~三二四頁 昭和十年三月

鈴木清・松谷博治 軍隊教育一指針としての血液型と個性に就いて 軍医団雑誌二一七号一二一二頁 昭六 年七月

朱鐘勲 血液型と其応用 朝鮮医報二巻四号一三○頁 昭七年十二月

田中中次ほか 山口県立豊浦中学校生徒に就いて行いたる植物神経緊張型及び血液型の検査成績並に之と 気質及び学業成績との関係 長崎医科大学法医学教室業報四巻一号四六頁 昭七年八月

高原武一 隊兵の血液種属と人種系数及び此等と個性疾病との関係 軍医団雑誌二〇一号二八三~二九六 頁 昭五年三月

高原武一・佐藤征夫 蒙古人の血液型 犯罪学雑誌七巻六号五五六~七一頁 昭八年十一月

嵩原恵典・後藤寿作 沖縄県宮古郡下児童並に一般人の血液型調査附児童の血液型と学業成績並に気質との 関係 台湾医学会雑誌三二巻一〇号一四四七頁 昭八年十月

高良武久・長谷川虎雄 神経質の性格の素質 神経科三巻五号一八五~八六頁 昭七年五月

高崎佐太郎 血液型と民族 優生学九巻一号二~七頁 昭七年一月

高田蒔 腋臭(ワキガ)はO型の人に独占的に多くはないか? 血液型研究一七号一九〇~九一頁 昭八年 二月

高田義一郎 血液の医学的応用に関する本邦の伝説上下 医学及び医政六巻三号二五頁 六巻六号 大八年三・六月

高須正米ほか 山口県下某公衛職員の血液型検査成績並に其健康状態との関係観察 血液型研究一八号二 〇二頁、一九号二一二頁 昭八年三・四月

武田義昌 血液型と学業成績に就いて 血液型研究一六号一七四頁 昭八年一月

同 血液型と学業成績との関係 第三回体育研究会誌三二頁 昭七年四月

竹松進 血液型に関する二三の研究 軍医団雑誌二二六号四七九頁 昭七年四月

竹森啓祐 血液型と輸血及び気質 助産の栞四一七号四一八五頁 昭五年十二月

同 心理的に見た血液型に就いて 医界之進歩三二六号一三~一四頁 昭七年八月

武内文次 陸軍砲兵の血液型 血液型研究十二号一一五頁 昭七年九月、一四号一五六頁 昭七年十一月

田中研一 血液型と気質殊に結婚問題 血液型研究一五号一六三~六四頁 昭七年十二月

同 下関地方の血液型頻度 血液型研究ニー号ニ三三頁 昭八年六月

田中義麿 血液型研究の将釆に嘱望す 血液型研究一六号一七六~七頁 昭八年一月

田中秀雄 血液型学説研究の先決問題 血液型研究一四号一五五頁 昭七年十一月

同 血液型と気質との関係に就いての小実験 心理学研究七巻一輯五五~六五頁 昭七年二月

同 児童の体質と智能との関係に就いての小実験報告 心理学研究八巻一号一四四~五頁 昭八年二月

田中秀雄 諸家の気質分類の根拠に就いて 心理学研究八巻一号一四四頁 昭八年二月

- 同 劣等児の血液型(一) 血液型研究二九号三一七頁 昭九年二月
- 同 精神病者の血液型実験 血液型研究四巻二号四〇六~四〇八頁 昭九年十一月
- 同 B型者に就いて 血液型研究一六号一七七頁 昭八年一月

谷口良太郎 小学校児童の血液型と気質との関係 血液型研究一七号一九二~三頁 昭八年二月、二八号三 ○二頁 昭九年一月

谷口道治 長崎地方血液型分布に就いて 長崎医学会雑誌一三巻三号二八九~三〇六頁 昭十年三月 谷岡寿長・高倉永二 歩兵第三十連隊兵員の血液型と其統計的観察(上信越地方人に於ける血液型分布状態) 犯罪学雑誌六巻三号二一〇頁 昭七年九月

坪倉利 歩兵第十二連隊兵卒の血液型に就いて 軍医団雑誌一六九号八七三頁 昭二年七月

津田政則・相見三郎 精神能力と血液型との関係 脳四巻七号一三~二三頁 昭五年七月

辻明俊・原田千万樹 再び血液型と月経との関係に就いて 臨床産科婦人科九巻三号二一〇~二一三頁 昭 九年三月

寺尾敏行 各型血球の寒冷に対する抵抗力 長崎医科大学法医学教室業報三巻一号六八〜七九頁 昭六年 三月

寺島良子 血液型と智能との関係 東京医事雑誌二八二八号――五九頁 昭八年五月

富野壮子路 血液型と気質 血液型研究一七号一九五頁 昭八年二月

長尾美和 B型血液者の気質 血液型研究一三号一三二頁 昭七年十月

同 第四型血液所有者の気質に就いて 血液型研究一六号一七二頁 昭八年二月

永山太郎・角田真一 指紋と血液型との関係 軍医団雑誌二〇二号四七九頁 昭五年四月

永山千代作 血液型と其二三統計的観察 成医会臨床三巻二号三九~四五頁 昭六年十一月

中原秀介 血液型と其統計的観察 海軍軍医会雑誌十九巻四号四〇六~八頁 昭五年八月

中井範一 台湾歩兵第一連隊兵員血液型調査報告附台湾北部蕃族の血液型 軍医団雑誌二〇二号四七六頁 昭五年四月

中村慶蔵 血液種属と兵卒の個性に就いて 軍医団雑誌一六九号八六八頁 昭二年七月

中西正雄 血液型と気質 名古屋医事雑誌七巻一一号一七~一八頁 昭八年七月

中根太郎・相羽春雄 愛知県下島岐[島嶼か?]及び二三町村に於ける血液型分布状態に就いて 愛知医学会雑 誌四〇巻一〇号一七〇五~一三頁 昭八年十月

中山福富 血液型に関する研究第一編学童に於ける血液型と発育知能等との関係に就いて 犯罪学雑誌七巻二号一四七~七七頁 昭八年三月、第二編成人に於ける血液型と発育及び専門学科目との関係に就いて 犯罪学雑誌七巻二号一七八~八五頁 昭八年三月

- 同 学童に於ける血液型と気質との関係に就いて 学校衛生一三巻二号一七頁、一三巻三号一四〇~一四六 頁 昭和八年
  - 同 血液型と気質に就いて 血液型研究一六号一七七頁 昭八年一月

中山政之 愛媛県出身歩兵第二十二連隊兵員の血液型に就いて 軍医団雑誌二二〇号二〇九〇~二一〇〇 頁 昭六年十月

鳴海頭 私娼と血液型 東京医事雑誌二八四五号二〇四八頁 昭八年九月、血液型研究二五号二七二頁 昭 八年十月、日本医事雑報五八四号二八九八~九九頁 昭八年十月

西弘二 沖縄県人の血液型から見た性質学業成績並に那覇首里在住内地人の血液型 長崎医科大学法医学 教室業報三巻一号四二~五〇頁 昭六年三月

同 血液型と気質 血液型研究一六号一八二~一八三頁 昭八年一月

西弘二ほか 某々小学校児童の血液型、血液型から見たる学業成績に就いて 長崎医科大学法医学教室業報 二巻二号三〇一~七頁 昭五年七月

西川裏 満州に於ける血液型の二三 東京医事雑誌二七七八号一二二四~二五頁 昭七年五月

西岡一義 血液型と気質の相関に就いての実際的研究 教育診断一巻一号二四~三九頁、二号六二~七七頁、三号五五~六三頁、昭八年一・二・三月

西浦小留 本校生徒に就いて行いたる血液型検査の結果概要 (一~三) 血液型研究三巻一〇号三六一~六 二頁、一一号三七四~[欠字]頁、一二号 昭九年七・八・九月

西脇得三 女生徒血液型と体格栄養の関係に就いて 日本学校衛生二一巻二号七五頁 昭八年

野中弥太 優良体型と血液型 海軍軍医会雑誌二一巻五号四七三頁 昭七年十月

野中弥太 帝国海軍に於ける血液型四型比率の種々相と之が団体体力度(又は団体健康度)指標としての意義に就いて 海軍軍医会雑誌二二巻二号七二~七四頁 昭八年四月

萩章・中城真道 精神病者の血液型に就きて 東京医事新誌三九六号二六七五~七七頁 昭六年十一月 浜田宗之助・四熊済夫 特殊児童の血液型に就いて 小児科雑誌三九六号一〇〇二~三頁 昭八年五月 浜中信三 学童に於ける血液型研究 特に気質との関係に就いて 東京医事新誌二八三五号(五二四頁 昭 八年七月 [頁数ママ]

同 学童に於ける血液型研究 特に気質及び体質との関係に就いて 東京医事新報二八三五号六頁 昭八 年七月

浜崎汀 本年度鉄嶺衛戊病院看護卒の血液型に就いて 軍医団雑誌一九四号一二八一頁 昭四年八月 萩章 各種精神疾患と血液型との関係 一 東京医事新誌二七七二号八一一頁 昭七年四月

原田福象 血液型より見たる機関兵の適性海軍軍医会雑誌二二巻一号五九頁 昭八年二月

同 血液型より見たる海軍兵の気質体格羅病学業成績並機関科各種練習生の適性に就いて 優生学――五 号七~―四頁、――六号二頁、――七号五頁 昭八年九・十・十一月

原口一憶 煙草の吸殻又は使用後の爪揚子を以ってする個人性の識別 長崎医科学界雑誌七巻四号六五八 ~七〇頁 昭四年八月 「雑誌名は正しくは「長崎医学会雑誌」か?〕

原口千万樹 顔面指数の研究 長崎医大法医学教室業報五巻一号三八~四七頁 昭八年八月 長谷川虎雄 神経質と血液型 神経質四巻五号一九四頁 昭八年五月 同 気質と血液型 内外治療八巻六号七七六頁 昭八年五月

橋爪恵 血液型と共産党員 中央公論四六巻八号二三五~三九頁 昭六年八月

早川清・山田正次 通信兵の適性的研究 軍医団雑誌二四八号一五三~九二頁 昭九年二月

速水寅一 犯罪者の血液型に就いて 優生学一〇一号二~五頁 昭七年七月

同 血液型と其応用 行刑衛生会雑誌七巻三号一七九~八七頁 昭七年三月

同 血液型研究に対する私の希望 血液型研究一七号一九五頁 昭八年二月

速水寅一ほか 犯罪者の血液型 東京医事新誌二七七九号一二七二頁 昭七年六月

林一治 福井県公娼の [5 文字欠落] 反応並に血液型の統計的考察 日本公衆保健協会雑誌八巻五号二七三 頁 昭七年五月

林髞 血液型と学業成績 優生学七巻六号七~八頁 昭五年六月

同 血液型と精神能力の研究 体性二号一四~一八頁 昭七年二月

林真学 血液型と軍隊成績に就いて 軍医団雑誌二〇二号四八〇頁 昭五年四月

日置陸奥夫・砂山定子 体質に関する研究(第三編) 十全会雑誌三九巻二号四六七〜七〇頁 昭九年二月 樋口栄 血液型と気質の問題に関する異説 優生学八巻九号一六頁、十号一八頁 昭六年九・十月

同 古川氏の血液型と気質の問題に関する実験的批判 京都医学雑誌二八巻一一号七六六〜七三頁 昭六 年十一月

平松真兵衛 工場労働者の血液型に関する研究 労働科学研究九巻一号一二三頁 昭七年一月

- 同 血液型と智能及び学業成績との関係 労働科学研究九巻三号三五九頁 昭七年五月
- 同 工場災害の生物学的研究特に血液型と工場災害並に性向との関係 労働科学研究九巻五号五六五頁 昭七年十一月
  - 同 血液型と意志気質類型に就いて 血液型研究一六号一七八~七九頁 昭八年一月
- 同 自分の血液は果して何型か 血液型で人間の気質が判る 科学画報二一巻二号二六六~六九頁 昭八 年八月

平野専 金沢市歩兵第七連隊兵員の指紋並に血液型に就いて(一) 指紋の遺伝と其人類学的応用並に各型 指紋組合せの出現頻度に就いて 北海道医学雑誌九巻七号一三〇五頁 昭六年七月、(二)指紋と血液型との 関係並に乙種蹄状紋の降線数に関する研究 同誌九巻八号一四七五頁 昭六年八月

平手清忠 娼妓の血液型(会抄) 皮膚科紀要二〇巻一号六一頁 昭七年七月

広田剛 血液型に関する二三の統計的観察 保健一五巻一号一六~一八頁 昭九年一月

藤井綏彦 精神病者の血液型群型 神経学雑誌三三巻九号五六五~七六頁 昭六年十一月

藤沢秀団 犯罪者の血液型 血液型研究一巻五号四七頁、七号六六頁、八号八〇頁、九号八九頁、十一号一 一二頁 昭七年二・四・五・六・八月

古畑種基 血液型研究の最近の趨勢 (涙や唾液でも人の気質が判る) 通俗医学八巻三号七九~八二頁 昭 五年三月

- 同 人の気質は血液型に関係があるか 実験治療一八一~八四号 昭十二年
- 古川竹二 血液型による気質の研究 心理学研究二巻四号二二~四四頁 昭二年八月
- 同 血液型による民族性の研究 教育思潮研究一巻一号 昭二年
- 古川竹二 Die Erforschung der Temperament mittels der experimentellen Blutgruppenuntersuchung. In: Z. f. angewandte Psychologie, Bd.31, Nr.2/4
  - 同 気質の血液による研究 社会医学雑誌五〇四号一~一三頁 昭四年一月
  - 同 血液型による気質の研究第四教導隊に於ける研究に対する吾人の所見 騎兵月報八号 昭四年八月
- 古川竹二 血液型による団体気質の研究附気質の遺伝に就いて 生理学研究六巻――号八五九~八七七頁 昭四年―月
  - 同 気質実験の結果に対する所見 騎兵月報一一号 昭四年一一月
  - 同 血液型と気質との関係に就いて 心理学論文集第二巻 昭四年十二月
- 同 血液型に依る団体的気質の研究(一~三) 優生学七巻七号一一~一五頁、八号七~一二頁、九号 昭 五年七・八・九月
  - 同 A study of temperament and blood groups. In: Journal of Social Psychology, 1, p.494 508, Nov. 1930
  - 同 人の個性附精神現象と血液型 血液型研究一巻一~四号 昭七年一~四月
  - 同 血液型と精神現象との関係並に其応用方面の研究 心理学研究六巻一輯一~四九頁 昭六年一月
- 同 血液型より見たる台湾蕃人と北海道アイヌ人の民族性 犯罪学雑誌四巻二号一三〇~三六頁 昭六年 三月
  - 同 血液型と気質の問題の批評に対して 優生学八巻七号一二~二六頁 昭六年七月
  - 同 血液型と精神現象 民族衛生一巻三号三二四~四〇頁 昭六年八月
  - 同 血液型と気質 三省堂発行 昭七年一月
  - 同 血液型と民族性 共立社発行 昭七年十月
- 古川竹二 血液型と気質の問題に対する勝矢教授の批評に答う 医界時報二〇一四号六一八頁 昭八年四月
  - 同 気質調査上の経験二三 犯罪学雑誌四巻一号七九~八一頁 昭六年一月
  - 同 血液型と情意個性 職業指導四巻一二号九三四~九四〇頁 昭六年十二月
  - 同 気質に現はれた二三 [原文ママ] 血液型研究三巻六号三二〇~二一頁 昭九年三月
  - 北条要 血液型と智能との関係 血液型研究一三号一三六頁 昭七年十月
- 本間正雄・溝測岩夫 邦人血液型の大衆的観察に関する知見追加 犯罪学雑誌五巻三号二七一~七八頁 昭 七年十一月
- 町田三郎 同種血球凝集反応より観たる世界人種分布の統計的観察 中外医事新報ーー三八号三八七〜九 四頁 昭三年八月
  - 牧有義 精神病者の血液群型に就いて 小峰研究所紀要一巻六一~六八頁 昭五年九月

丸山郁雄 熊本刑務所に於ける収容受刑者の血液型と体構型に就いて 行刑衛生会雑誌九巻八号六〇五~ 一四頁 昭九年八月

同 血液型とクレッチュメル氏分類による気質との関係 行刑衛生会雑誌一〇巻三号四三〜五一頁 昭十 年八月

丸山芳登 血液型(血清学的個人型)と気質との相関問題 台湾医学会雑誌二一巻九号八六四〜七二頁 大 十一年九月

丸山芳登 台湾高砂族の血液型に就いて(第二輯) 台湾医学会雑誌三○巻一二号一七二頁 昭六年十一月 同 血液型 単行本 非売品 昭七年二月

- 同 血液型と気質との相関問題 優生学九巻一一号八頁 昭七年十一月
- 同 血液型の人種系研究応用一二の注意 血液型研究一三号一四一頁 昭七年十月
- 同 気質と血液型 血液型研究一六号一七七~七八頁 昭八年一月

丸山芳登·分島俊 台湾高砂族の血液型に就いて(第一報) 台湾医学会雑誌三〇巻五号五〇八〜一九頁 昭 六年五月

- 同 サイセット族の考察(第二輯) 台湾医学会雑誌三一巻四号四五〇~五六頁 昭七年四月
- 同 アミ族の移動経路に就いて(第三報) 台湾医学会雑誌三三巻一二号一七八六〜九三頁 昭九年十二月 正木信夫 古川氏による気質型と血液型との関係に就いて 東京医事新誌二八〇七号二九一五〜二一頁 昭 七年十二月
- 同 血液型と学業成績其他二三の関係 十全会雑誌三八巻一二号三八二八~三四頁 昭八年十一月 正木信夫・越後一雄 血液型と気質型とに関する調査 血液型研究一六号一八八頁 昭八年一月 正木信夫・越後一雄 石川県河北郡五小学校児童の血液型調査成績 十全会雑誌三八巻一二号三八二八~三 四頁 昭八年十一月
- 同 金沢市某高等女学校生徒に就いて行える血液型並に気質と血液型との関係調査成績 十全会雑誌三八 巻五号一四七七~九二頁 昭八年五月
- 同 金沢市新堅町小学校児童の血液型調査並に血液型と気質との関係に就いて 十全会雑誌三八巻五号ー四七七~九二頁 昭八年五月 [掲載号数等は原文ママ(前項と同一)]
- 同 石川県河北郡一小学校児童に於ける血液型の分布並に血液型と気質との関係 十全会雑誌三八巻六号 一八〇〇~六頁 昭八年六月
- 同 金沢市三小学校に於ける血液型並に血液型と気質との関係に就いて 十全会雑誌三八巻八号二四六九 ~八〇頁 昭八年八月
- 同 金沢市一小学校児童に於ける血液型並に血液型と気質との関係に就いて 十全会雑誌三八巻一〇号三〇 ○○~一四頁 昭八年九月

正木信夫ほか 石川県下小学校児童に於ける血液型調査 社会医学雑誌五四五号一三頁 昭七年六月 正木信夫・板緑秀太郎 北陸地方に於ける血液型の分布に就いて 社会医学雑誌五三〇号 昭六年四月 正木信夫・桑島直樹 石川県河北部一小学校児童の血液型調査報告 十全会雑誌三八巻三号八一二~二二頁 昭八年三月

正木信夫・桑島直樹 A型の血型に就いて 犯罪学雑誌八巻三号二五〇頁 昭 [欠字] 年五月 松井三雄 血液型と精神型 優生学八巻八号七~一二頁 昭六年八月

同 血液型と気質との関係に就いての私見 血液型研究一六号一七八頁 昭八年一月

松村楯男・木下政市 ルンペンの血液型に就いて 東京医事新誌二七六二号二八七~八八頁 昭七年二月 美済津得三 ミクロネシアに於けるチアモロ族カナカ族の血液型種族型の分類及び沖縄人血液型との百分 率比較 中外医事新報――二六号四九三~五〇〇頁 昭二年八月

三沢敬義 血液型に就いて 岩波 生物学 昭六年五月

三田定則 人血液型 犯罪学研究一卷三号八四~九四頁、四号七七~八九頁、五号六五~七七頁 昭九年三 ~五月

三谷立郎ほか 馬の血液型に関する研究 陸軍獣医団報二九〇八八五頁 [原文ママ] 昭八年八月

三井文夫・塚田毅 長期拘禁受刑者の血液型について一考察 行刑衛生会雑誌九巻一一号七六九~八〇頁 昭九年十一月

同 所謂思想犯人の血液型を中心とした一考察 行刑衛生会雑誌九巻一二号八二四~三四頁 昭九年十二月

宮路重嗣 血液型の遺伝と民族性に関する総説 治療及び処方―一巻一二一号―一七~二四頁 昭五年四月

同 血液型と気質問題 血液型研究二四号二五九~六〇頁 昭八年九月

宮路重嗣 気質と血液型 血液型研究一六号一七八頁 昭八年一月

三宅益順 囚人血液型に就いて 実地医家と臨床六巻三号二四七~五二頁 昭四年三月

三宅徳三郎 血液型と疾病 血液型研究一六号一七四頁 昭八年一月

同 血液型と体質 血液型研究一六号一七四頁 昭八年一月 [掲載号数等は原文ママ(前項と同一)]

三宅徳三郎・橋本敏雄 スポーツマンの血液型 血液型研究六号五五〜五六頁 昭七年三月、東京医事新誌 二七六四号三八八〜九一頁 昭七年二月

同 所謂劣等児に於ける血液型と気質との関係 東京医事新誌二七九五号二一二二頁 昭七年九月

宮村馨 皮膚疾患と血液型との関係に就いて 皮膚科及び泌尿器科雑誌三〇巻五号四四九〜五九頁 昭五 年五月

宮武恒雄ほか 娼妓の血液型 皮膚科紀要一六巻四号三九六~九八頁 昭五年十月

宮崎捨吉 血液型から見た人血と動物血 血液型研究一巻六号~一五号 昭七年三~十二月

水美登利 人血液型より観察した母と其初生児及び未熟胎児に就いて 犯罪学雑誌四巻三号二二二~六六 頁 昭六年五月

同 胎児の血液型に就いて 民族衛生一巻三号三四一~八頁 昭六年八月

水谷栄夫 結核患者の血液型に就いて 日本医事新報五二六号二四四四~六頁 昭七年九月

村田鳳栄 鉄道職員血液型の一研究 血液型研究一三号一四三頁 昭七年十月

村田鳳栄・田中研二 吃音者の血液型 血液型研究一四号一五九頁 昭七年十一月

室島二三ほか 熊本市内二三中等学校並に熊本医科大学学生に就いて行いたる血液型 ABO 式並に MN 式の調査成績に就いて 熊本医学会雑誌――巻六号六八五~九二頁 昭十年六月

百崎欽一 佐賀県下の血液型分布状態並に気質との関係に就いて 犯罪学雑誌九巻一号三八〜四六頁 昭 五年六月

森繁春 在満邦人(奉天)の血液型と気質との関係 満州医学会雑誌一二巻六号九四五〜四六頁 昭五年六 月

同 在満邦人の血液型に就いて(第一報)奉天在住邦人の血液型 社会医学雑誌五三四号四〇七~二二頁 昭六年七月

同 岡山県牛窓町師楽部落民の血液型に就いて 社会医学雑誌五三四号四二二~三一頁 昭六年七月

同 中国人の血液型に就いて(第一報) 満州医学会雑誌一五巻六号八二七~三四頁 昭六年十二月

森哲朗・小松松夫 日本力士の血液型歯型並に歯牙齲蝕率 京城歯科医学雑誌二巻三〜四号二六五頁 昭八 年十二月

森路寛 近視と血液型 中央眼科医報二六巻十一号一〇四七頁 昭九年十一月

守安直孝 血液型と個性標徴の関係 教育診断一巻一号四〇〜四九頁、二号七八〜八八頁、三号六四〜七八 頁 昭八年一〜三月

同 血液型に因る気質類型説に就いて 犯罪学雑誌七巻四号三六一~七〇頁 昭八年七月

森安直孝 血液型に依る心理学的個性類型説の批判 優生学一〇巻五号二〜八頁、七号一三〜一八頁、八号 一五〜一六頁 昭八年五・七・八月

同 血液型に因る心理学的個性類型説の研究方法に関する考察 犯罪学雑誌八巻一号二九〜三七頁 昭九年 一月

八重津輝勝 血族結婚部落に於ける血液型の研究 個人印刷 昭五年十月

同 非血族結婚部落に於ける血液型の研究 個人印刷 昭五年十月

同 血族結婚に於ける血液型の研究 人類学雑誌四七巻二号六九~七二頁 昭七年二月

八木富一 健康乳児血液型に関する知見補遺 小児科雑誌三八二号四一九~二九頁 昭七年三月

同 再び健康乳児血液型に就いて 臨床小児科雑誌七年七号五九五~六〇〇頁 昭八年七月

山田兵三 石川福井両県下隊兵の血液型に関する研究報告 犯罪学雑誌四巻二号一三七〜五六頁 昭六年 三月

山田実・岡部昇 血液型より見たる隊兵の観察 軍医団雑誌三二九号九三二〜九四二頁 昭七年七月 山田有時 聾啞と血液型 大阪市立聾啞学校教育後援会報一三号一頁 昭八年二月 山本千任ほか 小学校児童の血液型的調査補遺 長崎医科大学法医学教室業報三巻二号一八六〜九一頁 昭六年九月

山本徹雄・天笠師郎 南米より得たる木伊乃三体の血型に就いて 臨床病理学血液学雑誌三巻八号八九三〜 九〇〇頁 昭九年八月

山本徹雄ほか 南米ミイラ三体の血型並にリパーゼ 愛知医学会雑誌三九巻――号一七七〇頁 昭七年十 一月

山本奈良一 京都に於ける隊兵の血液型分布状態及び之と免疫抗体並に性格との関係 軍医団雑誌二〇九 号一七六六頁 昭五年十一月

山本徳行 ダウニーの意志気質検査との血液型 血液型研究一七号一八〇九~九〇頁 昭八年二月 山科清三 血清学上より見たる「アイヌ」民族 有馬教授在職十周年記念論文集二九二~三〇四頁 昭九年 七月

山下千代寿 福岡地方に於ける血液型分布と人種示数に就いて 実地医学と臨床一〇巻八号六〇~六三頁 昭八年三月

山内繁雄 愛媛県(東豫地方)人の血液型並に其の人種係数に就いて 犯罪学雑誌七巻二号一二七~三三頁 昭八年三月

山崎武治 千葉地方に於ける血液型分布に就いて 千葉医学会雑誌七巻八号一〇六六〜八〇頁 昭八年十 一月

矢崎富美人・高松進 血型と体型との関係に就いて 血液型研究二六号二八四~八五頁 昭八年十一月 安井洋 気質の分類に就いて 神経学雑誌三一巻四号 昭四年十二月

同 再び気質の分類に就いて 神経学雑誌三三巻五一六~三七頁 昭六年十月

八谷走馬 昭和三年度徴集と則期 [原文ママ] 入営兵の血液型に就いて 軍医団雑誌一九二号九七五頁 昭 四年六月

遊佐敏彦 職業指導と血液型 血液型研究一巻四号三二頁 昭七年一月

吉田寛一 血液型と気質の相関説を排す 日本学術協会報告九巻四号七五五~六〇頁 昭九年十月 吉田克己 娼妓の血液型及び黴毒血清反応成績 皮膚科泌尿器科雑誌三二巻二号一六〇頁 昭七年二月 吉村捷五郎 精神科領域に於ける血液型に関する二三の観察 地医学雑誌 [原文ママ] 一六巻三一四四冊三 一〇~三三三頁 昭九年三月

吉村利雄 血液属と疾病素質 疾病治療と体質(診断と治療臨時増刊)三九八〜四〇二頁 昭三年二月 吉野中 血液型と気質研究 血液型研究一七号一九五頁 昭八年二月

吉野潤教 船員の血液型 成医会雑誌五一巻九号一二五四頁 昭七年九月

陸軍騎兵学校研究班 血液型による気質の研究 騎兵日報五号 昭四年五月

呂阿昌 阿片中毒患者の血液型に就いて 第二五回台湾医学会大会抄録一四頁 昭五年十一月 同 台湾に於ける阿片痾者の血液型に就いて 台湾医学会雑誌三三巻三号四一三~一六頁 昭九年三月 和田国三郎 鹿児島県人男子の血液型に就いて 血液型研究一五号一六一~六三頁 昭八年一月

# 160 資料

- 同 運動選手の血液型 鹿児島医学雑誌一〇巻一号三頁 昭八年一月
- 同 鹿児島県人の血液型並に血液型と気質智能及び体格との関係 熊本医学会雑誌九巻一号五六頁 昭八 年一月
  - 同 血液型と月経との関係 熊本医学会雑誌一〇巻四号二〇九~一九頁 昭九年四月

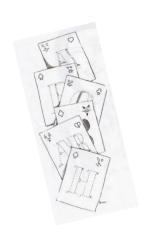
分島整 台湾人(福建系)の血液型並に血液型より見たる公学校児童の学業成績 台湾医学会雑誌三一巻八 号三四頁 昭七年八月

和佐野武雄・田中克己 九州帝国大学学生の血液型並に指紋調査報告 九大医報八巻二号九一~一〇一頁 昭九年四月

血液型を履歴書の一項に追加、新採用者の性格を知る為め各方面に応用の機運 通俗医学九巻一号九四頁 昭六年一月

瑞西人の血液型の大別 日本医事週報三九年一八一三号一七三頁 昭六年二月

古川学士の血液実験、尾崎大竹力石氏等の血液型は何れか 観察協会雑誌三六八号三二頁 昭六年四月





# 現代心理研究会 会則

当分事務所 日野市日野 目黒宏次方 [地番·電話番号省略]

- 一、本会を「現代心理研究会」と称す。
- 二、本会は「気質と血液型」の相関関係の研究調査及び血液型による気質説の伝達をはかるものとする。
- 三、本会は運営のため左の機関をおく。

顧問 会長を指導助言する。

会長 会の運営を行う。

副会長 会長に代って、運営を行う。

特別会員特別の寄附をなす等本会に対する貢献の大なるもの。

会員 会費納入者(会費は別に定める) 本会の趣旨に賛成し、協力するもの。会報の配付をうけ会員としての特典を有する。

準会員 「気質と血液型」購読者とする。

- 四、本会の費用は会費寄附及び事業益金によって賄う。
- 五、本会は左記の事業を行う。
  - 一、調査研究
  - 二、出版(会報を含む)
  - 三、講演会
  - 四、カウンセリング
  - 五、その他必要な事業

一九七〇・六・三〇

# [奥付]

筆者紹介

目黒宏次 東洋大学卒、都立大学大学院修了

現在都立高校教諭

奈良女高師卒、文筆業 目黒澄子

# 気質と血液型

1970年7月30日発行

著者 目黒 宏次 目黒 澄子

発行所 現代心理研究会

東京都日野市日野 [地番・電話番号省略]

印刷所 株式会社スリーライト社

今井澄夫

東京都千代田区外神田 [地番·電話番号省略]

会員版 頒価 3,200 円

#### 「箱の表側の記載]

気質と血液型 『気質と血液型』

> 関係的人間学への試み 現代心理研究会

> > 目黒宏次

目黒澄子 共著

東京女子高等師範学校教授古川竹二氏は昭和二年八月の「心理学研究」(岩波書店)に 「血液型による気質の研究」を発表した。古川竹二氏の血液型による気質説は時代の好尚 に投じたちまち一世を風靡した。昭和七年同氏の「血液型と気質」三省堂発行はその頂点 に立つものであった。今でも中年以上の方は記憶されているであろう。しかし学会の保守 性と次第に深まりゆく、研究の自由に対する弾圧によって、古川竹二氏の気質説は昭和十 年を境として学会より抹殺され姿を消すのである。

筆者らは二十余年心血を注ぎ、古川学説の絶対を克服し関係的にとらえることによって 新しく理論構成すると共に、古川学説を再び、世に問うことを企図した。

# [箱の裏側の記載]

日本人によって発見され、日本人によって理論づけられた気質と血液型との相関関係を 本書によってたしかめられたい。

気質説はしかし鋭利な両刃の剣でもあるので心ある人々によってのみ善用されること を心から願うものである。

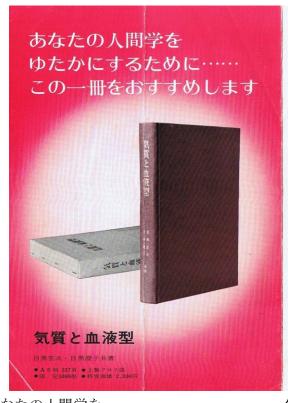
#### 気質は対人関係を決定する!?

心理学者に新しい研究の視点を 教育家に生徒把握の基準を 裁判官に犯罪心理の背景を 外交官に民族気質の理解を 会社員に人とうまくつきあう法を セールス・マンに客を見抜く法を 管理職者に人事関係のコツを 夫婦に正確な人間理解を 恋人に相手を判断する方法を 商取引に相手に勝つ方法を スポーツマンに負けない精神力を

#### どんな人間関係にも応用できる本!!

会員頒布 三、二〇〇円

### 「添付リーフレット(1)表側の写真および内容] \*写真右上の書き込みは編者のもの





あなたの人間学を ゆたかにするために…… この一冊をおすすめします

## 気質と血液型

目黒宏次・目黒澄子共著

•A5 判 317 頁 •上製クロス張

•限定 1000 部 •特別頒価 2,200 円

#### 著者のことば―

東京女子高等師範学校教授古川竹二氏は昭和二年八月の「心理学研究」(岩波書店)に 「血液型による気質の研究」を発表した。古川竹二氏の血液型による気質説は時代の好尚 に投じたちまち一世を風靡した。昭和七年同氏の「血液型と気質」三省堂発行はその頂点 に立つものであった。今でも中年以上の方は記憶されているであろう。しかし学会の保守 性と次第に深まりゆく、研究の自由に対する弾圧によって、古川竹二氏の気質説は昭和十 年を境として学会より抹殺され姿を消すのである。

筆者らは二十余年心血を注ぎ、古川学説の絶対を克服し関係的にとらえることによって 新しく理論構成すると共に、古川学説を再び、世に問うことを企図した。

日本人によって発見され、日本人によって理論づけられた気質と血液型との相関関係を 本書によってたしかめられたい。

気質説はしかし鋭利な両刃の剣でもあるので心ある人々によってのみ善用されること を心から願うものである。

# [添付リーフレット(1) 裏側の写真および内容]



## 気質は対人関係を決定する!?

心理学者に新しい研究の視点を 裁判官に犯罪心理の背景を 会社員に人とうまくつきあう法を 管理職者に人事関係のコツを 恋人に相手を判断する方法を スポーツマンに負けない精神力を 教育家に生徒把握の基準を 外交官に民族気質の理解を セールス・マンに客を見抜く法を 夫婦に正確な人間理解を 商取引に相手に勝つ方法を どんな人間関係にも応用できる本!!

最近フジテレビ「3時のあなた」で放映されたほか、週刊読売他多くの雑誌に取りあげら れています……

# [添付リーフレット(2)(全4頁)1頁目の写真および内容]

### 『気質と血液型』

目黒宏次・目黒澄子 共著

#### この本をお読みになる方々へ

関係的人間学を正しくとらえる為に

わたしたちは、日頃から、A イコール A'、B イコール B'と符牒を合わせるような思考形式に慣らされていますので、この本の基本になっている「相対的なとらえ方」には、なじみにくい方もおられることと思います。事実、難解だとか、最初頭が混乱するとかいう声もありました。

しかし、この「相対的なとらえ方」 こそ、この本の生命であり、気質と血 液型理論のユニークな点なのです。



そこで、この点を中心にして、読者の理解が正しく進行するように、少しばかりのお手 伝いをさせていただきましょう。

### ずばりと言えば

人間の性格や行動の、一番基礎になる気質(生物的、不変的要素)を決定する血液型相互の関係は、次のような図式であらわすことができます。 [右の写真参照——編者]

それは、ご覧のように強弱関係でグルリと一廻りしています。ここには、絶対的に強いものも、絶対的に弱いものもないわけで、ある特定の関係において、弱くも強くもなるという点が、この本の「相対的とらえ方」の新しさなのです。



この本を精読してくださった「週刊読売」の取材記者の方は、今年の二月十九日号で、このポイントのところを要領よくまとめておられますので、少し長くなりますが、引用し

てみましょう。

「……目黒氏の理論、血液型と気質の関係的人間学——というそうな。なにやらムツカ シそうだ。ご本人の説を聞こう。

『基本的原理は、A型の気質はO型に対して強者として立ち、この生物学的な強弱関係 は、循環論となってもとに戻り、A型はO型に強いけれどもB型には弱者として従い、B 型はO型に弱く、O型はA型に弱いというふうに、循環的に完結しているということです。 AB 型は日本では数が少ないので、例証が不充分ですが、だいたい A 型に弱く、O、B 型 には強いというような別な関係があるようです』

図に書けばカンタンなこと。いま A をグー、O をチョキ、B をパーと仮定すればなおわ かりやすい。いうなれば三すくみ。"ジャン・ケン・ポン"理論である。」(以上「週刊 読売」二月十九日号より抜すい)

最近、放送、放映、月・週刊誌に随分紹介されましたが、この記事が一番要領よくまと めています。グー・チョキ・パーとは相対的循環を言い得て妙なる表現といえましょう。

# 「強弱関係」は生物学上のことば

次に問題を先に進めますと、この「強弱」という言い方を人間的な価値観と結びつけな いでください。ここに誤解があると、この本全体が俗説に堕落する危険があります。

強弱関係は、現実には、被保護、支配と服従・奉仕、余裕と反感、傷つきやすさと傷つ きにくさ、能動的と受動的などのような関係として現れますが、純粋には、年令、身分、 性別、国籍、既知・未知などとは別の、もっと根源的な所で働く力関係で、生物体を貫く 自然法則と考えられるものです。A 型が生物学的に O 型に対して強者であるといっても、 A型が筋骨たくましく、O型がやせて小さいということではありません。これを能力、体 力、人格のような人間的な価値と混同すると、科学に値しない俗説となり、関係的人間学 の根本は崩れ去ってしまいます。大切なのは、気質の強弱なのです。

#### さまざまな力関係の中で

この気質の強弱による力関係が、社会的なさまざまの力関係と交錯したとき、例えば上 役と下役の関係、親子の関係などに微妙な特徴を添えてくれるわけです。

日本人の血液型は、だいたい A型 40%、O型 30%、B型 20%、AB型 10%ですが、上役 と下役が、それぞれ A-O である場合、その反対の O-A である場合が最も多い例ですか ら、それらについて、どんなニュアンスが出てくるかを見てみましょう。

上役 A が、仕事も出来、人柄もよければ、下役 O にとっては「頼もしい上役」と感じら れ、喜んで服従・奉仕に力を尽すでしょうし、上役は、よく気のつく、誠実な部下を得た と感じるわけです。しかし、上役 A が保守的であったり、権力型であったりすれば、下役 O は、社会的な上下関係に気質の抑圧まで加わり、相当深刻・苛烈な反感を抱くでしょう。

O型上役が、包容力もあり、人柄もよければ、下役 A はのびのびと力を発揮して仕事に打ち込みますが、上役 O が利己的・打算的な行為をすれば、A の下役はその俗物性を徹底的に軽蔑し、同調を拒みます。[下線部は原文傍点]

このような原理が、兄弟の中でも、親にとって扱いにくい子供が混じっていて手を焼くケース、他人から見ては全く不可解な理由で、決裂する夫婦の存在などの謎を解く手がかりとなるのです。

### 同種の血液型はどうなる?

一人の人間の行動には、血液型と無関係な外的・内的な要因が、さまざまに作用しているのはいうまでもないことですが、同種の血液型における行動のパターンはどんな風にあらわれるのでしょう。

思想や信念は、なによりもその人が「何をするか」を決定づけますが、それを「どんな 風にするか」には、気質的な要因が微妙に作用していることは見逃せません。

例えば「三島事件」の三島由紀夫氏はA型ですが、この事件が報道されたとき、A型の人は、三島氏の行動を否定する人も、それに同感する人も、すべて全身で事件を受け止めていたようです。興奮して夜も眠れなかった人、口がきけないほど複雑な心境になった人、自分が恥をさらしたようで、顔もあげられなかった人等々……。

B型の人は、冷静というか客観的で、個人的な感情は持ち合わせず、余裕たっぷりというところです。O型の人は、とても出来ないと感服したり、反感を感じて軽く<u>イナ</u>す様な態度をとったりするようです。

「仮に自分があの様な思想を持ち、ああいう情況に立ったら、あんな行動を取ったのでは?」という想像力が刺戟される人と、全くそんな刺戟を受けない人との違いは、思想・信念・品性・利害とは関係のない、もっと根柢のところで、気質が作用している証拠です。

同型の夫婦の結びつきにおいては、行動のパターン、情緒の波などが一致しますから、 それらは増幅され、連帯感も強いかわりに、相手に自分自身の欠点をあからさまに見出し て憎悪をかきたてられたりするでしょう。

喧嘩になったら「先手必勝」先に言い出した方が勝ちです。

#### 人間関係をコントロールする知恵を

以上のような基本概念をもとにして、本書をお読みになれば、人間を知る上で汲めども尽きぬ、多彩な興味が湧いて来ますし、次節で述べるような広範囲の応用問題が、自然あ

なたの心の中に展開してくるでしょう。

しかしながら、この血液型相対性理論をあなたが御理解になったとしても、決して早急に周囲の人間にレッテルを貼らないでください。あくまでも人間を愛し、人間性に対する信頼の上に立って、深く、誠実に人間観察を続けることが不可欠の条件となってこそ、この理論は、あなたに高い英知を保証してくれるからです。自他の人間理解を深め、無用の抑圧感や独善を除き、人間関係の正しいコントロールに役立てて下さい。

### 広い応用範囲

この本は"何々に強くなる本"ではありません。あくまで遠く、力強い真理に向って進んで行く、科学研究の一過程で得られた貴重な仮説です。今後、血液学の分野が飛躍的に進み、コンピューターシステムに乗せうる数量的な分析も出来てくれば、心理学、精神医学、教育学、更には、最近ようやく注目され出した日本人の意識構造論などに、どれほど大きな武器を提供するか知れません。

ですから、応用問題を取り上げられる読者の皆様は、一人々々が研究者なのであります。

**◇経営の人事配置について** 職場の人間関係をスムースなものにし、業績を増進させる 為に、血液型理論を適用している会社、経営があちらこちらで見られるようになりました。

管理職者が、一人々々の部下との関係を調整するのに役立てるだけでなく、目的に従った集団の成員に、どれぐらいの比率で各血液型を配分したらよいか。その為の新規採用にはどんな配慮を払ったらよいか。この本を手がかりにすることをおすすめします。又、セールスの為ペアを組む時、この本を参考にされたら、きっと驚異的な結果が出るでしょう。従来の勘と試行錯誤は無用になります。

◇学校集団におけるグループ指導と、カウンセラーについて 編成されたクラス或はクラブにおける生活指導には血液型の比率をぜひ知っておきたいもの。教師と生徒集団、教師と生徒個人との間には、やはり適、不適があるものです。多くの先生方が力強いカウンセリングの力をつける為に、教師集団が、暖か味と進歩性をもってまとまりのある教育活動を行う為に、お手許にお置き下さい。

女 O の相性が良いといっても、男性側の圧力がどうしても強くなります。 ですから男 A の

自覚による、温情的、保護的側面が充分内包されていれば、ほほえましい亭主関白型の家庭が可能です。反対に、男 O で女 A ならば、力関係の均衡がとれやすく、相当近代的な家庭も可能ですが、OA の組合せは外部に対して閉鎖的になりやすい傾向があります。

こんな風に、本当に本人達の現実に則した助言によって感謝されるように、特に、全国 の結婚相談所の皆様に御一読願いたいと思います。

以上は応用問題のほんの一部を取り上げたに過ぎません。皆様のアイデアによって、ど のようにも応用範囲は広がるのです。

最後に最近血液型と気質について、大衆的な読みものが企画されているようです。私達は、多くの人がこの問題に関心を持つのは大変よいことだと考えています。しかし、本書の理論の部分は全々無視し、あまり興味本位に扱われることは、先にも述べたように、性格とか能力とかの問題と混同をおこして、運命論的俗説に堕する危険が多いので、感心したことではありません。

我々はあくまで、抹殺された故古川博士の功績を引き継ぎつつこれを超克発展させ、日本心理学会が世界的に貢献をなしうるよう研究を進めたいと願っております。皆様が積極的に、データ、感想、疑問点などを寄せられ、この研究に参加されるように希望いたします。

連絡先 東京都新宿区下落合 [地番·電話番号省略] 目黒宏次方 現代心理研究会

### [添付正誤表写真]

枚数: 1枚

訂正箇所数: 46 箇所



# [著者写真]

**目黒宏次・澄子夫妻** 1976年3月, 教え子の結婚式で (集合写真から合成)





**目黒宏次** 1976年3月, 教え子の結婚式で

# [編者注]

編者注1 37頁「生化学的人種係数」。biochemical race-index。他に「生化学的民族示数」、「生物化学的人種指数」など様々な訳語があてられている。「血液型人種指数」と呼ばれる場合もある。この用語の意味を松田薫著『「血液型と性格」の社会史――血液型人類学の起源と展開』(改訂第二版・1994 年発行・河出書房新社)の記述(59~60 頁)を要約して引用して説明すると、次のようになる。「ポーランド人医師ヒルシュフェルト夫妻(L. & H. Hirschfeld)は、第一次世界大戦が終わった 1918 年、マケドニアの大平原に集まった16ヶ国の兵隊、約8000人に対して血液型調査を行った。1919年に夫妻が発表した調査結果によれば、イギリス人、フランス人、イタリア人、ドイツ人というヨーロッパ人には、「A型」が多く「B型」が少ないことがわかった。ヒルシュフェルトは「O型」が世界中平均に分布していると考え、「A型」と「B型」の頻度に注目した。「A型+AB型」を「B型+AB型」で割り、これを「生化学的民族示数」と呼び、示数2以上を「ヨーロッパ型」、1以下を「アジア・アフリカ型」と分離した。1~2の中間に位置する、トルコ人、アラビア人、ロシア人、ユダヤ人は中間型とした」。

なお、本電子版 10 頁「血液型と気質との関連の発見者は日本人」で紹介されている九州帝国大学教授深町穂積博士が 1923 年に米国の学会誌 "The Journal of Immunology" に発表した論文の要約部分がインターネットに掲載されている。この部分がまさしくこの用語の簡明・簡潔な説明となっているので、参考までに紹介したい(原文に記載されている文献番号は省略した)。

#### On the Biochemical Race-Index of Koreans Manchus and Japanese

Hozumi Fukamachi

From the Forensic Medical Institute of the Kyushu Imperial University, Fukuoka, Japan

#### **Abstract**

The studies of Landsteiner, Decastello and Sturli, Jansky, Moss, von Dungern and Hirschfeld and others, have established the fact that there are four different groups of human individuals with respect to the isoagglutinating and isoagglutinable blood elements. In 1919, L. Hirschfeld and H. Hirschfeld studied a number of soldiers belonging to the Allied Armies in Macedonia, and found that there was a remarkable difference in the blood grouping in the different races. The proportion of A (in the corpuscles of groups II and IV) to B (in the corpuscles of groups III and IV); i.e.,

 $\frac{A+AB}{B+AB}$  or  $\frac{II+IV}{III+IV}$  was called by them "the biochemical race-index", and the race, in which the

index amounted to more than 2.0 was called "of European type," and that, from 2.0 to 1.0, "of

intermediate type" and that, less than 1.0 "of Asio-African type." (*The Journal of Immunology*, 1923, 8, 291 -294, Copyright © 1923 by The American Association of Immunologists, Inc.)

**編者注 2 108 頁「ひやかしの関係」。**ここで例としてあげられている A-O の漫才コンビは「獅子てんや・瀬戸わんや」である。このコンビの『歯医者』その他の演目をインターネットの YouTube で見ることができる(2020 年 11 月閲覧)。著者がこの 2 人の血液型を事実データとして知っていたのか、それとも単なる推測であるのかが問題であるが、執筆当時高校教師であった著者にはマスメディア、ジャーナリズム、出版界で仕事をしている教え子が大勢いて、知人に芸能人までいたことからみて、確認済みの情報と思われる。

## 編者注3 111頁「古川学説の補遺」。

この「補遺」はやや唐突で奇妙な印象を与えるが、おそらく、仮にこれがなかったとすると、原著では次の「第三部対話編」の前の1頁が丸々空白になってしまうため(原著では「第〇部〇〇編」というタイトルはすべて見開き左頁に配置されている)、印刷所からの注文で著者が埋め草として急きょ書き加えたのだろうと推測される。文中の「B型 校正照合などいやがる」は、



原著の172頁(右側)と173頁

本書の校正の過程で印刷所の今井社長から「目黒さん、もうちょっと早く校正終わらせてくれよ」と催促されて、「でもねえ今井さん、そもそもわたしの理論によれば B 型というものは、……」などと言い訳しながら、印刷所の現場で書いたのではなかろうか。50 年も昔にあったかもしれない、そんなやりとりを想像すると可笑しくなる。

「校正」の話のついでにいえば、原著に添付されている正誤表の訂正箇所数は 46 箇所だが、編者の目にとまっただけでも、原著にはその何倍もの誤植があった。

ただし、原著の誤記・誤植の多さに関連して若干補足しておきたいことがある。第一に、この本の出版年は 1970 年であるから、現在のようなコンピューター組版ではなく、活版印刷である。活版印刷では校正が完了するまでの間、印刷所の手持ちの数に限りある活字を次の仕事に回すことができないため、校了の遅れは中小印刷所にとって売上減少に直結する重大問題であったようである。誤植に目をつぶり、見切り発車の形で印刷に回さなければならなかったのだろう。さらに、この本は専門の校正者の手を経ていない。プロに校正を頼むのは経費的に無理だったのではなかろうか。誤植が多いのは印刷所の責任ではない。

第二に、この本の執筆・校正期間にあたる 1969 年秋から翌年春にかけて、著者が教師を務めていた都立立川高校は一部生徒によるバリケードストライキによって数か月間にわたって未曾有の混乱の中にあり、教師たちは連日連夜その対応と収拾におわれて心身をすり減らしていた。そのような状況の中で、著者が校正に十分な時間をさけなかったのは当然だろう。著者は強度の近眼で、しかも老眼が進みつつあった。疲労困憊の中で、よくぞこれほどの本を完成までもってゆかれたものだと思う。しかも、この本の叙述の進め方からは、そのような背景を感じさせない、何か悠然たる雰囲気さえ感じられないだろうか。

第三に、そのような状況にもかかわらず、出版を急がなければならない事情があった。1971年7月に編者が著者から直接聞いた話を要約すると、著者は以前から血液型理論に関心を持つ教え子らと共同研究を進めていて(編者はその研究会にいっさい関わっていないのでその実態は知らない)、収集した資料のコピーや自身の理論的見解を記した資料を教え子などに配布していた。ところが、研究会の噂を嗅ぎつけ、その資料を集め回り、それを利用して血液型本の出版を計画している人間がいることを人から教えられた。名前は能見正比古という。出版界やマスコミなどでフリーライターとして活動しており、その本は遠からず出版されるらしい。「盗用はやめて欲しいと何度も頼んだが、聞く耳をもたなかった。ああいう人間のことを"出版ゴロ"というのだそうだ。私は教師なので訴訟のための金も時間もない。裁判になっても勝てる見込みはない。日本の法律はこういう研究成果、頭脳労働の成果を守れるようになっていない」(日本で知的財産権の問題が論議され始めたのは、それよりずっと後のことである――編者)。

そのため、自分たちが発見し開拓した理論のプライオリティーを明確にするために、なるべく早い時期に出版物の形で発表する必要があった。「とにかく活字にしておこうと、大急ぎで本にしたんです」と著者は語っていた。

編者は、どんな場面でも声を荒げたことのない温厚な著者が、12年間にわたる付き合いのなかで、この時たった一度だけ、憤りと悲しみを抑えきれぬようにして「出版ゴロ」と、吐き捨てるように発音された時の声と表情、テーブルの上の手の震えを忘れない。

その能見正比古が最初の血液型本を発表したのは先生の本に遅れること1年余り、1971年9月15日のことである。その後、膨大な部数の血液型本を売りまくって血液型ブームを引き起こし、一般にはいまだに血液型理論の大家のごとく受け取られているこの人物について、編者は何も語りたくないし、語る資格も能力もない。また、今となっては目黒宏次の発言がすべて真実であったか否かを判断するすべもない。ただ、1971年前後の時期における目黒と能見の間の関係が目黒側から見ていかなるものであったかということ、すなわち、目黒が能見を盗用者と認識していたという事実を、編者が直接見聞した限りにおいてここに記し、後世に伝えたい。

少なくとも、能見はそれまで、血液型に関する出版物を1点たりとも発表したことはないという事実を知れば、能見がいかなる人物であったかを理解することができよう。

「添付リーフレット(2)」(170頁)には、「最後に最近血液型と気質について、大衆的な読みものが企画されているようです。私達は、多くの人がこの問題に関心を持つのは大変よいことだと考えています。しかし、本書の理論の部分は全々無視し、あまり興味本位に扱われることは、先にも述べたように、性格とか能力とかの問題と混同をおこして、運命論的俗説に堕する危険が多いので、感心したことではありません」と、至極おだやかな筆致で書かれている。その「大衆的な読みもの」が能見正比古の血液型本第一作を指していることは言うまでもない。

「B型 校正照合などいやがる」から話が大きく脱線してしまったが、お許しいただきたい。

**編者注 4 119 頁の問答 17。**編者手持ちの原著では、「ドストエフスキーは何型だったかわかりませんが B 型の世界をよく表現しています(『白痴』のように)」というセンテンスの「B 型」は、編者の書き込みで「AB 型」に訂正されている。1974 年頃、編者との会話の中で『白痴』が話題に上った時、著者が「ムイシュキンは AB 型です」と言ったため、その言葉にしたがって訂正を加えたと記憶する。原著の「B 型」が誤植であったのか、それとも著者が本書の出版後に見方を変えたのかは定かではない。編者の印象によれば、著者はこの本の出版後の数年間に AB 型についての認識をかなり大きく変えたように思われる。

上記との関連で付言すると、本書における著者の AB 型論 (93 頁「4. AB 型」、99 頁「④ AB と O、A、B との組合せ」など) は、他の型と比べて論証不足の感が否めない。

その原因としては、第一に、日本人全体に占める AB 型の割合は 1 割弱にすぎず、観察の機会が絶対的に少ないという客観的な条件があげられる。

第二に、古川学説においても AB 型者は「その活動様式において相反する A 型者と B 型者との混合型」(15 頁)といったように、確かに間違ってはいないとはいえ、曖昧で便宜的なとらえ方しかなされておらず、古川時代からの研究蓄積が少なかったという事情がある。著者が「AB 型気質」の項目(24 頁)で医学博士浅田一「血液型漫談」からの引用の前置きとして、この論文について「AB 型気質については事例が少ないので、貴重なものである」とコメントしているのは、このような事情を反映している。

第三に、これは編者の推測であるが、著者本人が AB 型の気質を深いところから理解し うるような経験をあまりもたなかったからではなかろうか。本人は B 型であり、しかも「筆 者の一人は O 型と B 型の親を持つ B 型である」(103 頁)とのべているように、著者が生 まれ育った家庭は O 型と B 型から構成されていた。著者の妻・澄子は A 型、長男は B 型 であるから、AB 型者を家族の一人として身近に観察する機会はまったくなかった。著者は長年高校の教師として何千人という生徒に接していたわけだが、編者が知る限り、著者が学校で生徒に血液型理論の話をしたことはなく、生徒から血液型を聞き出していたという事実もない。著者は職業倫理に厳しい教師であったから、学校では私的な目的でのそのような調査は行っていなかったはずである。AB 型であることを確認したうえで接した相手は、少なかったのではなかろうか。

それゆえ、著者にとって、AB型とは各型の中で最も識別困難かつ理解困難な存在だったのではないか。編者は、「AB型気質の特徴」の項目冒頭(93頁)の「女子高校生のクラスに思い切った行動をすることで目につく生徒がいた。その生徒は一口でいえば頓狂な子であった」という記述に、著者にとってのAB型の理解しがたさ、あえて言えばAB型に対するとまどいのようなものを感じるのだが、いかがであろうか。実際、著者は2年間学級担任を受け持ち、それなりに接する機会の多かった元生徒である編者(AB型)を、本人の口からそれと聞くまでO型と誤認していた。

目黒学説の観点から見ると、これは生じるべくして生じた誤認と言えるのではなかろうか。目黒学説を適用して推理すれば、B型にとって AB型も O型もいずれも「強者」であるから、AB型に家族として接したことのない B型の著者が「強弱関係」に力点をおいて観察した場合、学校という公の場ではそれにふさわしく冷静沈着にふるまい、時には我の強いところを演じて見せる AB型の生徒を、日本人中3割を占める O型と誤認しても不思議ではない。

やや皮肉な言い方になってしまうが、この誤認は、目黒学説の正しさを逆の面から裏付けていると考えられる。すなわち、目黒学説によれば、観察という方法を用いる限り、ある型の観察者が他者を観察するときには、そこには必ず何らかのバイアスがかかるのである。「各論」の冒頭(86頁)に記されている「この項は、それ自体、相対性をもっている。なぜなら、記述には必然的に記述者の血液型が影響しており、読者の側でも、読者自身の血液型によって受取りかたのニュアンスがちがってくるからである」という注意書きには、そのようなバイアスに対する警告の意味が込められていることに留意しなければならない。われわれが関係的人間学の枠組みの中で他者を観察する際は、自らの認識にかかるバイアスをつねに厳しく自省する必要がある。

著者は「対話」の中で(143 頁)、「一般に A 型は O 型について、O 型は B 型について、B 型は A 型について、非常に見透かしたようなことを言いますが、このことはつつしまなくてはなりません」とのべている。これを敷衍して考えるなら、著者の AB 型理解についての編者による上記の立論自体が、「AB 型が B 型について非常に見透かしたようなことを言っている」ことになるのかもしれない。

# [本書および著者に関するデータ]

#### (1) 本書について

- ◆本書は 1970 年 7 月 30 日に株式会社スリーライトから私家版として 1000 部出版された。
- ◆著者名は「目黒宏次・目黒澄子共著」と表記されているが、「まえがき」に記されてい るように目黒澄子は共同研究者の立場にあり、実際の執筆者は目黒宏次のみである。
- ◆原著はA5判、本文317頁、縦組み、箱入り。
- ◆本体にはリーフレット2枚が添付されている。リーフレット(1)(本電子版 164~165 頁) の本体への添付時期は、その写真に写っている『週刊読売』が「2/19」、すなわち 1971 年2月19日号であるから、1971年2月よりも後、1971年7月(編者が原著一式を著者 から無償譲渡された時)よりも前の時期と推定される。リーフレット(2)(本電子版 166~167頁) では『週刊読売』1971年2月19日号の記事が引用されているので、これも リーフレット(1)と同じ時期に添付されたものと推定される。
- ◆本体に挿入されているイラストは計14点。サインと筆づかいの違いからイラスト執筆者 は2名と推定される。
- ◆「まえがき」に記されている「S君の研究成果」は、原著では「付録—作家の血液型考 察」として収録されているが、本電子版では割愛した。
- ◆本電子版においては、原著の明らかな誤記・誤植箇所の訂正がなされている。

#### (2) 著者について

#### 目黒宏次(めぐろ・こうじ)

- ◆著者は編者の高校時代の恩師である。1967年から1979年まで12年間お付き合いいただ いたなかで編者が知ることができた先生に関するデータを記す。なお、以下においては 著者を先生と表記する。
- ◆先生は 1918 年生まれ。生地は未詳。編者は宮城県、あるいは福島県と聞いた記憶がある が、確かな記憶ではない。
- ◆父親が朝鮮総督府の官吏となり、少年時代の一時期を朝鮮半島で過ごした。それが何歳 から何歳まで、どの地域においてなのか、またいつ「内地」に戻ったかは未詳。
- ◆1943 年、東洋大学卒業。大学での専攻は東洋思想、特に仏教と聞いた記憶があるが、こ れも不確かな記憶である。卒業後、社会科の教師となる(校名は不詳)。
- ◆本書の「O型の人が、敵弾をくぐる時にいかに臆病であるか知っているし」(48 頁)と

いう記述から、太平洋戦争中は徴兵されて兵士として戦闘に参加した経験があると推測 される。

- ◆戦後数年間、宮城県仙台市の女子高校(校名は不詳)で社会科教諭を務めた。この時期 に目黒澄子と知り合って結婚。婚姻届の提出の際に「目黒」に改姓。旧姓は未詳。その 後同校を辞し、澄子とともに上京。
- ◆1951 年または 1952 年に長男誕生(長男は編者と同学年)。
- ◆上京後、都立大学大学院修了。専攻は朝鮮民俗学(編者の記憶による)。
- ◆なお、東京府立第貮中学校・東京都立立川高校同窓会会報『紫芳』 (No.48, 2009 年 12 月刊)に掲載された先生に関する訃報には「1960年、日本でイギリスのメトロポリタン 大学院の文化科学研究コースの修士号を受ける」と書かれている。これが事実かどうか は未詳。
- ◆1955~1979 年、都立立川高校社会科教諭(この勤務期間は上記同窓会の『紫芳会名簿』 (2007年発行)によって確認した)。
- ◆本書が出版された 1970 年当時は倫理社会を担当。
- ◆1979年、同校を定年退職後、夫婦でスコットランドのエジンバラに移住。
- ◆1982年、長男夫婦が研究生活を送っていたカナダへ移住し、1986年以降は同国ヴィクト リアに定住。
- ◆2009 年 4 月 3 日、ヴィクトリアにて逝去。享年 91 歳。

### 目黒澄子(めぐろ・すみこ)

- ◆生年不詳(先生とほぼ同年齢と思われる)。奈良女子高等師範学校卒業。
- ◆本書出版当時は、カトリック・サレジオ修道会のバルバロ神父のもとで、神父がラテン 語から翻訳した日本語訳聖書の訳文のリライトに携わっていた。同書は『バルバロ訳聖 書』(1980年、講談社)として出版された。

#### (3) 目黒学説への言及

目黒学説に言及している文献を編者が知る範囲内で示す。

- ① 『週刊読売』1971 年 2 月 19 日号記事「血液型グー・チョキ・パー 新相性論」(「添 付リーフレット(1)・(2)」参照)。
- ② 能見正比古『血液型でわかる相性』(1971年9月15日第1刷、青春出版社)。これは、 あくまでも編者の記憶によるものであることを予めお断りしておく。編者が 1971 年秋 に先生からお借りして読んだ第1刷の「あとがき」には、「某高校教師が純真な生徒た ちをだまして、云々」という文脈上唐突な口汚い文言があり、事情を知る者には(編者

注 3、173 頁参照)、これが目黒宏次を攻撃し、自分のプライオリティーとオリジナリティーを主張している文章であることがすぐにわかった。その第 1 刷は先生にお返ししたので、今は編者の手元にない。編者はこの項目を執筆するに当たり、上記の文言を確認する目的で 1977 年 6 月 30 日発行の同書第 95 刷(改版の表示はない)を入手して読んでみたが、この文言はなかった。しかし、編者は、第何刷目からか、この文言が削除されたのではないかと推測する。将来、血液型理論学説史を研究される方には、第 1 刷で直接確認されるようお願いしたい。また、能見はその後の著作においても鈴木芳正(本書における「S君」)とセットにした形で「某高校教師」を攻撃しているとのことであるが(下記④の記述による)、編者は 1970 年以降における目黒と鈴木の間の具体的関係についてほとんど知らないため、これ以上この問題について論評することを避ける。

- ③ 次の④によれば、鈴木芳正の『血液型相性学』(1973 年)以降の一連の著作では、自らと目黒夫妻との関係が明記されているとのことである。編者の手元にある鈴木の『AB型人間 血液型による性格診断』(1974 年、産心社)には目黒に対する言及はない。
- ④ 前川輝光著『血液型人間学――運命との対話』(1998 年、松籟社)の第 1 章「古川竹 二と目黒夫妻」。
- ⑤ 大村政男・浮谷秀一・藤田主一「「血液型気質相関説」の史的評論 II ―目黒宏次・澄子と能見正比古の構想を中心にして―」、『応用心理学研究』, 2008, Vol.33, No.2, 59-72。 この論文の 64 頁に次のような記述がある。

目黒夫妻の『気質と血液型』の第 3 部は「対話編」になっている。(中略―編者)鈴木芳正である。この S のことばとして、次のような文章が載せられている。

「古川氏の研究の場合は、血液型ごとに長所・短所というものを挙げ、最初から気質に価値判断を加えてしまっているけれども、私はそれには反対です。(中略)それから、強弱関係は優劣関係ではないということも特筆大書しておく必要があります(注:前掲書 p.226)。」(「前掲書 p.226」は本電子版 142 頁に相当)

上記の引用において「Sのことば」とされている発言は、「対話」の「甲・乙」のうちの「甲」、すなわち目黒の発言であって、鈴木の発言ではない。お粗末なミスである。

- ⑥ 大村政男「第 21 報:埋もれた心理学史を尋ねて 第 2 報 一目黒宏次・澄子の「人間関係学」を評論する」(応用心理学会における発表。発表年月日その他は未詳)
- ⑦ Owada Shozo "ABO FAN Home Page"。インターネットでキーワード「ABO FAN 目

黒宏次」で検索すると、目黒夫妻についてきわめて簡単に言及している部分を2箇所見つけることができる(2020年11月閲覧)。目黒学説に関する独自の観点は示されていない。

#### (4) 著者の関心領域

- ◆先生が最も大きな関心をもっておられた研究領域は日本人論である。これは本人がはっきりそう言いきっておられた。「私が一番関心があるのは、日本人とは何かということ、日本人論です」と。この問題に関心をもつようになったのは、少年時代を朝鮮総督府官吏の子弟として朝鮮半島で過ごし、ある程度大きくなってから帰国したこととおおいに関係があるようである。少年時代に日本人と朝鮮人の双方に接していたことにより、民族によって風習、民俗、意識構造、行動様式がいかに違うものかを、直接の経験によって感得されていたようだ。植民地朝鮮における日本人のふるまいもつぶさに目撃したに違いない。これは編者の独断にすぎないが、このような経験をした人によくあるように、先生には、時折、日本人というものをどこか突き放して客観的に見るような姿勢が感じられた。逆に言えば、自民族について研究する際に必要とされる客観的な視点をもっておられた。他民族について文献だけで知識を得るのと、実際にその民族集団の中で暮らして自他の差異と共通性を体得するのとでは、雲泥の差がある。大学院で朝鮮民俗学を専攻されたのは、少年時代の経験を活かして他民族の研究を行うことにより、自民族の民族性を解明してゆくための手がかりを得ようとされたためであろう。
- ◆編者の手元に、学生時代に読んだ本すべてのリストが残っている。リストには、当時、 先生とご自宅で話をしている時、「これ読んでみたら」と言って奥の書斎から持ってき て貸してくれた本の名前が何冊か記されている。その一部を書き写す。久木幸男著『日 本の宗教・過去と現在<原始から第二次天皇制宗教まで>』(サイマル出版会)、山上 伊豆母著『巫女の歴史──日本宗教の母胎』(雄山閣)、堀一郎著『日本のシャーマニ ズム』(講談社現代新書)。

#### (5) 思い出すままに

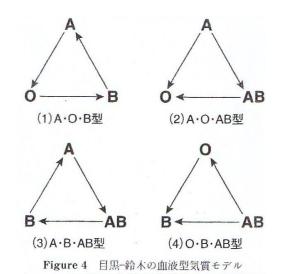
◆先生は生理学その他の自然科学的アプローチによる気質と血液型研究の重要性を強く指摘しておられた。しかし、先生ご自身は、上に述べたように日本人論に最大の関心を持つ、本来文系の人間であり、多忙な高校教師として 60 歳までを過ごされた。まことに失礼な推測だが、心理学については深い学殖を蓄えておられたものの、理系の個別部門の

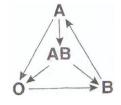
専門的知識はお持ちではなかったようだ。それゆえにこそ、先生は、いまだ仮説にすぎない関係的人間学の立証と発展のための研究作業に、諸分野の専門家が共同して参加することを切望しておられた。本書においても「今後、およばずながら、私どもの研究が開始されるであろうが、それは、多くの生理学者、生化学者、人類学者、心理学者、動物学者、物理学者、コンピューターの協力を得なければ果たし得ないほどの、生命の根源の問題を包括しているのである」(「古川説は常識的規準からの徴表」、49頁)、また、「読者には、周密な観察でもって、確かめ、ともに理論の発展に協力して欲しいものである」(「循環論」、81頁)とのべられている。研究者と思われる数人の人物が血液型理論について論じ合っている場面を描いた第一部冒頭(8頁)のイラストには、先生のそのような願いが込められている。

- ◆1971 年 7 月に本書を読んで初めて血液型理論を知った編者は、その真偽を確かめるため、さっそく周囲の人々の観察を開始した。大学の友人、またその後は職場の同僚などから血液型を聞き出す時は、必ず古川学説と目黒学説について簡単な解説をしたものである。誰でも俗流血液型理論を知っている現在とは違い、1970 年代半ば頃までの時期にこの話を知っている人はほとんどいなかったので、なぜ血液型を知りたいのかと、その理由を尋ねられたからである。そのうち、何十回も同じ説明を繰り返すのが面倒になったので、古川学説の説明をするときは、話を短くはしょって「積極的か、消極的かの分類でいうと、一般的に O型と B型は積極的で外向的、A型と AB型は消極的で内向的ということになっている。それで、集団(例えば家族、学校のサークルや職場など)の「Oプラス B」と「Aプラス AB」の比率を調べれば、その集団の積極性の度合い、活動性が数字でとらえられる」などという説明だけですませ、例の団体活動性指数 AD = OD + OD
  - 頁)の計算式を手元の紙にサラサラっと書いて見せ、相手にその理由を納得してもらった。こうすれば、4つの型の気質についていちいち細かく説明せずにすみ、時間をかけずに相手の血液型を聞き出せたからだ。しかも、この公式を書くと、いかにも科学的な話のような印象を与え(もちろん、この公式が非科学的だと言っているのでは決してない)、相手を感心させることができた。現在の日本ではもうこの聞き出しのテクニックは不要になったが、外国ではまだ利用できそうだ。
- ◆目黒学説について説明するときは、相手が鋭い人間観察眼を持ち、理解力がすぐれた人で、時間をかけて話すに値する人だと判断した場合には目黒学説の核心部分をかなり丁寧に説明したが、多くの場合は次のような簡単な説明方法ですませた。まずソシオグラム(次々頁の右側の図)を書いて、「各血液型の間の関係はこうなる。例えば A 型と O 型が付き合った場合、本来 O 型が積極的で A 型が消極的なはずなのに、どうしたわけか

不思議なことに、A型のほうが積極的に出る。例えば O型の男と A型の女が見合いしたとすると、結婚するかどうかを決めるのは A型の女の方になる」といったように、「積極的・消極的」という当たり障りのない、相手を刺激しない用語をつかって説明した(アメリカのような競争社会では「消極的」という言葉にはネガティブな響きがあるかもしれないが)。決して「生物学上の強弱関係」という言葉はつかわなかった。言葉足らずの下手な説明によって相手に誤解を与えることを危惧したからだが、なにより、AB型男性である編者が目の前の O型、B型の相手、特に男性の相手に向かって「ABは O、Bに対して強者の関係になる」などとは言いにくい。何度かこれを言って相手の顔に怪訝そうな表情、不快な表情さえ浮かんだのを見て(血液型の話に対する相手の反応の血液型別の違いも観察事項の一つだった)、「強弱関係」という用語は絶対つかわないことにしたのである。これが原因で相手との付き合いがまずくなっては当方にとって損になる。

- ◆能見正比古が目黒学説を盗用して大衆向けの血液型本をでっちあげた際、各型間の関係を目黒宏次の用語「生物学上の強弱関係」ではなく、「リード=おもり関係」などというオブラートで包んだ訳のわからない用語で表現したのは、盗用を隠ぺいするために必要な方策であっただけでなく、マーケティング戦略上においても賢明な方策であった。金儲けするためには本を1冊でも多く売りたい、そのためには読者に不快感を与え、その結果、売上減少をもたらすような用語は排除しなければならない、というわけである。
- ◆次頁に示すソシオグラム(ブラッドモデル)は、従来の図に編者が少々工夫を加えたもので、1個の図を描くだけで、矢印同士を重ならせることなく、4つの血液型全部の間の関係をいっぺんに表示できるようにしたものである。まず正三角形を描き、A、O、Bを各頂点に書き込んで矢印を付け、最後に ABを中心に入れ、上の A から AB に、AB から下の O と B に向かって矢印を引く。これは日本人に占める各型の割合に従った順番で、しかもその割合が 4:3:2:1 という数字なので覚えやすい。「目黒-鈴木の血液型気質モデル」(前掲⑤大村論文より引用)も並べて示すので、比べていただきたい。





左の4つの図を1つにまとめたもの

\*\*\*\*\*\*

目黒宏次・目黒澄子共著『気質と血液型 関係的人間学への試み』には、汲めども尽き ぬ不思議な魅力がある。何度読み返しても、その都度新しい発見がある。電子版の編集は 楽しい作業であった。

発行部数わずか 1000 部の私家版として生まれた本書が、50 年の時を経てこうして電子版の装いのもとに再びよみがえり、インターネットを通じて無数の読者のもとへ送り届けられる日が遂にやって来た。

2020年11月 編者記す